

2021年度 シラバス（大学院（通信制））  
 連合国際協力研究科 国際協力専攻

（通信制）連合国際協力研究科 国際協力専攻

科目名	国際協力総論	開講年次	授業形態	単位数
		1年	TS科目	4単位
担当教員	秋葉 敏夫 大下 浩司	末吉 秀二 濱島 敦博	鈴木 剛史 坂山 英治	松葉 隆司 長谷川 光子
テーマ	人間開発および国際協力の現状と課題			
使用するテキスト	(1) 『国際協力学』高木 保興 東京大学出版会 2004年, その他概論書 (適宜) (2) 『人間開発報告書2015 人間開発のための仕事』国連開発計画 (UNDP) UNDP駐日代表事務所のWebsiteなどを参照 (3) 『国際協力研究』国際協力機構 (JICA) 国際協力総合研修所 『国際開発研究』国際開発学会			
講義概要・一般目標	<p>冷戦終結後, 世界のグローバル化が進展する中で, 貧富の格差, 民族/宗教的対立や紛争, 環境破壊, 感染症の蔓延, ジェンダー格差等多数の問題が複雑に絡み合い, 今日の国際社会の課題は新たな様相を呈している。</p> <p>このような状況において国連開発計画 (UNDP) により提示された「人間中心の開発」(1990年)や「人間の安全保障」(1994年)は, 今日の国際協力分野における基本理念となっている。</p> <p>この科目は, スクーリングでの面接授業により, 時代と共に変遷する国際協力の課題, および人間開発と関連するテーマについて具体的事例を紹介しつつ, テキスト教材 (課題レポート) により国際協力の現状と課題について理解を深めることを目的とする。</p>			
到達目標	国際協力, 人間の安全保障, MDGs, SDGsについて理解できるようになる。また, 自分の研究が国際協力のどこに位置づけられるかが分かるようになる。			
評価方法	課題レポート30%, スクーリング参加度30%, 科目修了試験40%により総合評価する。			
オフィスアワー	講義終了後, またはEメールを使用して実施する。土曜日 09:30~18:30			
学修の進め方	多くの本, 論文を読んで, 課題に取り組むこと。レポートには自分の考え, 考察を必ず記述すること。スクーリング講義のテーマにあわせ予習をし, 積極的な参加を期待する。フィードバックとして, 提出された課題レポートにコメントを付し返却する。			
教員メールアドレス	sueyoshi@kiui.ac.jp			

スクーリング学修計画

1. 国際協力と保健 (秋葉 敏夫)
2. 開発とリプロダクティブ・ヘルス/ライツ: 現状と課題 (末吉 秀二)
3. 国際協力における組織マネジメント (鈴木 剛史)
4. 地球規模で考える感染症対策 (松葉 隆司)
5. 地球環境問題と国際社会 (大下 浩司)
6. 経済発展モデルの普遍性と多様性~地域を見る「目」を養う (濱島 敦博)
7. 開発教育とSDGsの取り組み (坂山 英治)
8. 国際協力における研究方法 (長谷川 光子)

## 課 題 内 容

第 1 回	レポ ー ト 課 題	SDGと日本の国際協力の意義
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	テキスト(1)および参考文献をもとに、「日本の国際協力の意義」について論じなさい。とくに現代世界の政治・社会・経済情勢を把握した後、一般的な国際協力の意義や方法とともに、SDG達成に向け、日本が担うべき国際協力について考察すること。以下の参考文献以外の文献を引用しても構わない。(A4 3頁以内)
	参 考 文 献	『ポスト・クライシスの世界』田中 明彦 日本経済新聞出版社 2009年、『国際協力 新版-その新しい潮流』下村 恭民ほか共著 有斐閣 2009年、『グローバル・コモンズ』遠藤乾編集 岩波書店 2015年
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年6月30日(水)
夏期スクーリング		(対面授業) ※講義概要・スクーリング学修計画を参照のこと
第 2 回	レポ ー ト 課 題	21世紀の人間開発の向上と持続性
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	1990年から国連開発計画(UNDP)が発刊している「人間開発報告書」は、世界の人間開発の動向を系時的に理解するには有用な資料である。テキスト(2)および参考文献を読み、世界の多様性にもとづき、これからの人間開発の向上と持続性にとって重要と思うことを論考しなさい。以下の参考文献以外の年に発刊された報告書または他の国際機関が発刊する資料を参考にするのも可。(A4 3頁以内)
	参 考 文 献	『人間開発報告書1994 人間の安全保障』 ( <a href="http://www.undp.or.jp/HDR_J/HDR_light_1994_Japanese_Version.pdf">http://www.undp.or.jp/HDR_J/HDR_light_1994_Japanese_Version.pdf</a> ) 『人間開発報告書1995 ジェンダーと人間開発』 ( <a href="http://www.undp.or.jp/HDR_J/HDR_light_1995_Japanese_Version.pdf">http://www.undp.or.jp/HDR_J/HDR_light_1995_Japanese_Version.pdf</a> ) 『人間開発報告書1999 グローバリゼーションと人間開発人間の安全保障』 ( <a href="http://www.undp.or.jp/HDR_J/HDR_light_1999_Japanese_Version.pdf">http://www.undp.or.jp/HDR_J/HDR_light_1999_Japanese_Version.pdf</a> ) 『人間開発報告書2004 この多様な世界で文化の自由を』 ( <a href="http://www.undp.or.jp/HDR_J/HDR_light_2004_Japanese_Version.pdf">http://www.undp.or.jp/HDR_J/HDR_light_2004_Japanese_Version.pdf</a> ) 『人間開発報告書2007/8 気候変動との戦い-分断された世界で試される人類の団結』( <a href="http://www.undp.or.jp/hdr/pdf/release/2007-2008.pdf">http://www.undp.or.jp/hdr/pdf/release/2007-2008.pdf</a> ) 『人間開発報告書2013 南の台頭-多様な世界における人間開発』 ( <a href="http://www.jp.undp.org/content/tokyo/ja/home/library/human_development/human_development1/hdr_2013.html">http://www.jp.undp.org/content/tokyo/ja/home/library/human_development/human_development1/hdr_2013.html</a> )
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年9月30日(木)
第 3 回	レポ ー ト 課 題	国際協力研究の動向
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	テキスト(3)「国際協力研究」誌(国際協力機構(JICA)国際協力総合研修所)または「国際開発研究」誌(国際開発学会)などから自分の研究分野と関連する論文1編を選び、目的・方法・結果・考察についてまとめる。論文に慣れるとともに、選んだ論文でおもしろいと思ったことや今後の自分の研究に応用できそうなことなどを記述する。(A4 3頁以内)
	参 考 文 献	「国際協力研究」および「国際開発研究」の論文は以下のURLから入手できる。 <a href="https://www.jica.go.jp/jica-ri/IFIC_and_JBICI-Studies/jica-ri/publication/archives/jica/kenkyu/kikan_04.html">https://www.jica.go.jp/jica-ri/IFIC_and_JBICI-Studies/jica-ri/publication/archives/jica/kenkyu/kikan_04.html</a> <a href="http://jasid.org/journal/journal_backnumber/">http://jasid.org/journal/journal_backnumber/</a>
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年12月10日(金)
※レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	国際看護・母子保健学特論	担当教員	柳 生 文 宏	開講年次	授業形態	単位数
				1・2年	T科目	4単位
テ ー マ	国際的な視点に立ち、国際看護や母子保健における実践や研究に役立つよう看護職の果たす役割について考える。					
使用するテキスト	国際看護学：看護の統合と実践：開発途上国への看護実践を踏まえて / 柳澤理子編著 改訂版. PILAR PRESS, 2017.8					
	国際看護学入門 / 国際看護研究会編：医学書院					
講義概要・一般目標	<p>グローバル化により「ヒト・モノ・カネ・情報」が国境を越えて自由に行き来するようになるにつれ、輸入感染症や人々のライフスタイルが変わることによって生活習慣病といった健康課題が世界中で増えてきた。このように大きく変化しつつある複雑な環境の中で、1. 貧困など健康に影響を与えるような格差を解消し、2. 異なる文化を持つ人々へのケアを行う、という2つの視点から国際看護・母子保健学を学ぶ。本講義では、これらの2つの視点で今まで受講生が行ってきた実践や経験を振り返りつつ専門家として必要とされる知識や考えを総括し、今後、どのようにして国際社会に貢献できるかを具体的に考察する。</p>					
到達目標	<p>1)国際看護・母子保健学の基礎を確立し、専門的知識を習得する。 2)自らの実践について整理し、国際看護学の視点から理解する。 3)国際社会への貢献について具体的に考察する。</p>					
評価方法	課題レポート 80%，科目修了試験 20%により総合評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	下書きができた時点でメールで仮提出してください。コメントに従って修正した後、提出期限までに提出してください。 フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教員メールアドレス	fyagyu@gmail.com					

## 課 題 内 容

第 1 回	レポ ー ト 課 題	今まで受講生が行ってきた実践や経験を国際看護学の2つの視点からまとめる。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	指定されたテキストを精読し、2つの視点についてよく理解する。
	参 考 文 献	国際看護学：看護の統合と実践：開発途上国への看護実践を踏まえて / 柳澤理子編著 改訂版. PILAR PRESS, 2017.8 国際看護学入門 / 国際看護研究会編：医学書院
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年6月30日（水）
第 2 回	レポ ー ト 課 題	受講生の興味、これまで行ってきた実践や研究テーマに合わせて、文献等を検索・選定し、それらをまとめ検討する。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	教員と連絡をとり、文献を選定すること。
	参 考 文 献	適宜指示する。
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年9月30日（木）
第 3 回	レポ ー ト 課 題	受講生の興味、これまで行ってきた実践や研究テーマに合わせて、文献等を検索・選定し、それらをまとめ検討する。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	教員と連絡をとり、文献を選定すること。
	参 考 文 献	適宜指示する。
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年12月10日（金）
※レポ ー ト 提 出 方 法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	国際緊急援助論	担当教員	鈴木剛史	開講年次	授業形態	単位数
				1・2年	T科目	4単位
テーマ	NGOを中心とした国際緊急援助の概要を理解する。					
使用するテキスト	① 『国際緊急人道支援』ナカニシヤ出版 内海成治・中村安秀・勝間靖 編 2008 ② 『大災害に立ち向かう世界と日本』「大災害と国際協力」研究会 柳沢香枝(編集)明石康・大島賢三監修 2013 ③ 『人道的介入-正義の武力行使はあるか』岩波新書 最上俊樹 2004 ④ 『入門 人間の安全保障-恐怖と欠乏からの自由を求めて-』中公新書 長有紀枝 2012 ⑤ 『クライシス・キャラバン-紛争地における人道援助の真実-』 東洋経済新報社 リンダ・ポルマン(著) 大平剛(訳) 2012					
講義概要・一般目標	<p>近年の自然災害が及ぼす影響は、国家・地域の社会的・経済的基盤の脆弱性から途上国においてより深刻な被害となっている。こうした中、NGOが紛争地域や独裁的な政権下など、いわゆる被災地現場へのアクセスが容易でない地域における救援活動の実施について体系的に整理し、国際救援活動で求められる NGO の役割について習得する。また、緊急人道支援活動のルール・行動原則等についても触れ、フィールドで必要とされる素養や技術を培うための交渉力・情報収集力の手法についても学修する。</p> <p>レポート作成にあたっては、テキスト・参考資料を熟読することはもちろん、各書籍の文中や最後に示してある参考文献・参考資料についても極力入手し、目を通すように心がける。国際協力に関するフォーラムや研修、セミナーは全国で開催されているので、積極的に参加することをすすめる。</p>					
到達目標	1) 国際緊急援助活動における当事者の理念・活動内容、当事者相互の連携、そしてその中での日本の NGO の活動・役割を現状及び今後の課題も含めて体系的かつ具体的に説明できる。 2) 実際の災害現場や紛争地において、NGO を含む救援組織の一員として、人道支援の現状と課題に配慮した上で組織マネジメントやメディア対応も含め広い視野から選択肢を絞りこみ、総合的にかつ迅速に意思決定と判断を下すことができる。					
評価方法	課題レポート30%、課題レポートへの取り組む姿勢10%、科目修了試験60%により総合評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。					
学修の進め方	国際協力における一般的なNGOの役割・責任・課題について考察すると同時に、国際社会全体を俯瞰しながら、日本のNGOが抱える課題にもどのように取り組むかを常に念頭に置くことを心掛ける。また、少なくともレポート提出期限の1か月前には草案をメールで提出し、その方向性に問題があれば修正を行い、意見交換をしながら学修を進める。 フィードバックとして、提出された課題レポートに総合的なコメントを付し返却する。					
教員メールアドレス	suzuki32@kiui.ac.jp					

## 課 題 内 容

第 1 回	レポ ー ト 課 題	緊急援助活動の当事者
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	テキスト①②より，緊急援助活動のアクター（当事者）を整理し，それぞれの現状から課題を抽出し，我が国のNGOに求められる役割についてまとめなさい。
	参 考 文 献	『NGOとは何か』藤原書店 伊勢崎賢治 1997 本邦NGOの活動レポート等
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年6月30日（水）
第 2 回	レポ ー ト 課 題	緊急援助活動におけるNGOの可能性と限界
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	テキスト③④より，「人間の安全保障」の概念や人道的介入の課題を整理し，緊急援助活動における我が国NGOの可能性と限界についてまとめなさい。
	参 考 文 献	『UNHCR Handbook for Emergencies』Webサイトにて入手可 『The Sphere Project- Humanitarian Charter and Minimum Standards in Disaster Response』Webサイトにて入手可 『スレブレニツァ-あるジェノサイドをめぐる考察-』東信堂 長有紀枝 2009
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年9月30日（木）
第 3 回	レポ ー ト 課 題	ケース・スタディ「緊急人道支援の目的と意義について～カンボジア・東ティモール等～」
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	テキスト⑤より，様々な人道支援の現場での課題について整理した上で，別途配布する事例についてその問題解決策をまとめなさい。（レポート作成については，別途指示）
	参 考 文 献	『開発フィールドワーカー改訂版（国際協力の教科書シリーズ1）』 有限会社人の森 野田直人 2016, Foley, Conor. <i>The Thin Blue Line: How Humanitarianism Went to War.</i> London・New York: Verso, 2008 Polman, Linda. <i>The Crisis Caravan: What's wrong with Humanitarian Aid?</i> New York: Metropolitan Books, 2010
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年12月10日（金）
※レポ ー ト 提 出 方 法		web学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	国際ボランティア特論	担当教員	乾 直 樹	開講年次	授業形態	単位数
				1・2年	T科目	4単位
テ ー マ	国際協力の場面で求められる国際ボランティアの役割、資質を理解し、その上で実践的な課題解決能力を養う					
使用するテキスト	① 『国際ボランティア論 世界の人びとと出会い、学ぶ』 内海成治・中村安秀編著，ナカニシヤ出版，2011年					
	② 『ボランティア論 共生の理念と実践』 田村正勝編著，ミネルヴァ書房，2009年					
	③ 『2018 State of the World's Volunteerism Report The thread that binds - volunteerism and community resilience』 United Nations Volunteers(UNV)， 2018年 ( <a href="https://www.unv.org/publications/swvr2018">https://www.unv.org/publications/swvr2018</a> より入手)					
	④ 『国際ボランティアの世紀』 山田恒夫編著，放送大学教育振興会，2014年					
講義概要・一般目標	<p>国際ボランティアは一般市民が参加する活動であり、市民が国際社会に目を向け、その課題解決に自ら関わることを期待されている。また国際ボランティア活動は、グローバル化した市民社会の形成に大きな役割を果たすと考えられている。本科目では、以下の三つの視点より、国際ボランティアの意義、内容、実態と課題についての理解を深めることを目標に、現代社会における国際ボランティアおよびボランティア運営組織としての在り方を学ぶ。なお以下の(1)～(3)は、レポートの第1回～第3回にそれぞれ対応する。</p> <p>(1) ボランティアの視点からみた動機、意義、実態と活動継続にあたっての課題への理解  (2) 支援先から見た視点 – 関係性についての理解 –  (3) 国際ボランティアに必要なコアコンピテンシーとNGOが抱える実際的課題への対応</p>					
到達目標	<p>(1) ボランティアとはなにか、ボランティアの視点からみた動機、意義を説明できる。またボランティアの活動実態を踏まえ、活動参加の動機と参加継続を阻害する因子を説明できる。  (2) 支援先(支援を受ける側のコミュニティ、住民)からみたボランティアの意義や社会的役割、ボランティアが現地にもたらす変化に配慮し、外部者がコミュニティにもたらす課題を踏まえ、“あるべき支援の姿”と外部者の役割について説明できる。  (3) 国際ボランティアとしての実践的スキルの習得として、国際ボランティアに必要なコアコンピテンシーを整理し、その上でNGOが抱える運営上の実際的課題に対して、ケーススタディーにより実践的な課題解決が実施できる。</p> <p>とりわけ、国際ボランティアを自らのキャリアとのかかわりの中で、その役割と資質及び専門スタッフとの協働のあり方につき、多面的、実践的に考え行動できる能力を習得することを目指す。</p>					
評価方法	課題レポート50%，科目修了試験50%により総合評価(テキストおよび参考文献の理解度と個々の専門分野に携わる国際ボランティアとの協働の現場における実践的な課題解決力の醸成度)					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>1、まずテキストおよび参考文献(図書)を熟読ください。  2、レポート課題は、国際ボランティアを取り巻く環境を踏まえ、多面的な視点への理解を深める意図をもって設定しています。自身の活動している分野、フィールドとの関わりの中で、国際ボランティアが果たすべき役割と課題につき、問題意識を涵養ください。  3、レポート提出につき、必ず個々の提出期限の一か月前までにメールで仮提出し、返送されたコメントを参考に再検討し、提出ください。不明な点あれば、メールにて相談のこと。</p>					
教員メールアドレス	inui.naoki.3n@kyoto-u.ac.jp					

課題内容		
第1回	レポート課題	<p>(1) ボランティア(活動)の要件を3つ以上挙げて説明し、そのうえで国際協力に関わる国際ボランティアに特に特徴的な要件を、あなたが関わる地域(国)あるいは活動分野で活動する国際ボランティアの事例を挙げて論じよ。</p> <p>(2) 「ボランティア活動は善行ではない」という考えがあるがその主張の論点の理由を述べるとともに、国際ボランティアが直面する活動現場での実態をイメージして、この主張に対するあなた自身の考えとその理由を述べよ。</p> <p>(3) ボランティア自身の参加動機の要因解析に関する学術論文を1報挙げて要約すると共に、ボランティアの継続阻害の課題とされる「バーンアウト(燃えつき)」と動機の関連性に関する調査研究の論文を考察し、バーンアウトを防ぐ方策につき、あなたの考えを述べよ(国際ボランティアに限らなくてもよい)。</p>
	レポート作成のポイント	テキスト①及び以下の参考文献を読み、種々の学説を理解した上で、自身の経験も踏まえて、自身の考えを述べよ。
	参考文献	『ボランティアを生みだすもの 利他の計量社会学』三谷はるよ著, 有斐閣, 2016 『人を助ける心 援助行動の社会心理学』高木修著, サイエンス社, 1998
	レポート提出期限	2021年6月30日(水)
第2回	レポート課題	<p>(1) あなたの活動分野や活動地域等において活動している国際ボランティアの活動事例とそのボランティアが現地にもたらした変化(得失)を挙げ、またその活動者が掲げる目標、“あるべき姿”を記述せよ。そのうえでその活動に対してコミュニティの住民より期待されていること、および住民ニーズを踏まえた実際的な課題(あるべき姿と、現状および住民ニーズとのギャップ)を述べよ。</p> <p>(2) (1)の深掘りとして(1)に記載したコミュニティが抱える経済、政治および社会的な諸課題を列記し、その解決のために外部者(支援者)が果たすべき社会的役割、意義、支援のあるべき姿(ボランティアが現地にもたらすべき/もたらさざるべき変化)につき、以下の語句などを引用し、あなたの考えを論じよ。 グローバル化 工業化 都市化 貧困と格差 社会的弱者 環境破壊 小さな政府 共助 エンパワーメント ソーシャル・キャピタル アドボカシー 関係の非対称性 相互理解 内発的発展 外部者の役割</p>
	レポート作成のポイント	テキスト②、③および以下の参考文献の内容を理解した上で、あなた自身の活動地域(分野)において、支援者が果たすべき役割と課題を整理してください。
	参考文献	『開発援助の社会学』佐藤 寛, 世界思想社, 2005 『ボランティア活動の論理 ボランティアリズムとサブシステム(改訂版)』西山志保, 東信堂, 2007
	レポート提出期限	2021年9月30日(木)
第3回	レポート課題	<p>(1) あなたの活動分野(地域)、所属組織がボランティアを受け入れる場合、そのボランティアの役割、業務内容、期間等の具体的なプランを提案し、その上で、そのボランティアの業務遂行に必須のコアコンピテンシーを5つあげ、その能力の水準と、当該水準に未達の場合の能力修養の方法、及びその理由を述べよ。</p> <p>(2) あるNGOに関するケーススタディー: あるNGO所属のボランティアに関する意識調査レポートを別紙に示す。この組織が抱えるボランティアマネージメントの主な課題を三つあげ、あなたがボランティアコーディネーターだとしたら、どのような対策を取るか、具体的なアクションプランにつき、短期(1年以内)と中期(数年)に分け、具体的な計画、目的、目標(期待される効果)およびそれに必要なリソース(人、資金など)を、その理由とともに記述せよ。</p>
	レポート作成のポイント	テキスト④および以下の参考文献の内容を理解した上で、国際協力の組織におけるボランティアマネージメントの実践的な課題解決方法を考えてください。
	参考文献	『ボランティア・NPOの組織論 非営利の経営を考える』田尾雅夫・川野祐二編著, 学陽書房, 2004 『2015 State of the World's Volunteerism Report: Transforming Governance』United Nations Volunteers(UNV), 2015(インターネットよりダウンロード)
	レポート提出期限	2021年12月10日(金)
※レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。



科目名	国際協力特論	担当教員	橋本由紀子	開講年次	授業形態	単位数
				1・2年	T科目	4単位
テーマ	(1) ソーシャル・ビジネスと社会開発 (2) ジェンダーと開発 (3) 内発的発展 (4) 企業の社会貢献CSR					
使用するテキスト	<p>1. ムハマド ユヌス (著), 岡田 昌治 (監修)「ソーシャル・ビジネス革命」早川書房 (2010)</p> <p>2. 開発教育2010 Vol. 57—オルタナティブな経済と開発教育—開発教育協会『開発教育』編集委員会 (編集)明石書店 (2010)</p> <p>3. 江原裕美 (2003)「内発的発展と教育」新評論</p> <p>4. 江原裕美 (2011)「国際移動と教育」明石書店</p> <p>5. 菅野琴 他(2012)「ジェンダーと国際教育開発—課題と挑戦」福村出版</p> <p>6. 『移民の経済学』ベンジャミン・パウエル編／藪下 史郎監訳／佐藤 綾野訳／鈴木 久美訳／中田 勇人訳 東洋経済 2016</p> <p>テキスト以外に独自に資料を収集し、独自の意見を含めた独自性のあるレポートを歓迎します。</p>					
講義概要・一般目標	<p>これまでの開発理論の系譜を理解する。その変遷の経過と背景を再検討し、様々なオルタナティブな開発理論が提唱されるようになった背景から、それらの特徴を理解する。</p> <p>オルタナティブな開発理論を基礎に、開発における人間開発論、住民のエンパワーメント、内発的発展論、住民参加型と連帯、持続可能な発展、企業の社会的責任の社会開発への貢献の特徴を理解し、それぞれの理論における具体的実践方法を習得し、可能性と課題を考える。</p> <p>そのうえで、実践の際にどのような選択肢を選び、運営するかを提案できる能力を習得する。</p>					
到達目標	<p>これまでの開発理論の変遷と背景を理解し、それぞれの理論の特徴、欠点、利点が指摘できるようになる。現在注目を浴びているオルタナティブな開発理論のそれぞれの違いを指摘できる。それら理論が適用できる社会開発上の環境や背景を抽出し、具体的実践の場で、運営実施方法を提案できるようになることを目標とする。</p>					
評価方法	3回のレポート50%, 科目修了試験30%, レポート提出に際しての事前の交信の密度20%					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。					
学修の進め方	<p>レポート提出に関して、事前にメールで仮提出を行い、コメントを参考に修正し提出すること。A4 4枚程度におさめ、節に分けて見出しをつけ、目的、結論を明確に記述すること。</p> <p>参考資料、引用文献はレポートに記載すること。</p> <p>フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを付し返却する。</p>					
教員メールアドレス	橋本由紀子：yhashimt@kiui.ac.jp					

課題内容		
第1回	レポート課題	ソーシャル・ビジネスは途上国の社会開発に貢献できるか、事例を挙げてのべよ。
	レポート作成のポイント	開発途上国におけるソーシャル・ビジネスの事例を2件あげ、成功要因、失敗要因を基に、ソーシャル・ビジネスは発展途上国の貧困問題を解消できるかについて、独自の考えを理論的根拠とともにまとめる。A4 4枚以内に収める。
	参考文献	ムハマド ユヌス (著), 岡田 昌治 (監修) ソーシャル・ビジネス革命 早川書房 (2010) 玉村雅敏「ソーシャルインパクト—価値共創(CSV)が企業・ビジネス・働き方を変える」(2014)産学社 その他独自に文献検索を行い、資料収集すること。
	レポート提出期限	2021年6月30日 (水)
第2回	レポート課題	当事者主体、住民自立の視点から、開発途上国の社会開発における企業の社会的責任 (CSR) の果たす役割と可能性、課題について述べよ。
	レポート作成のポイント	テキストや文献を参考に企業の社会的責任CSRの概念を述べ、事例を2つ以上あげ、CSRが途上国の社会開発に果たす役割と可能性、課題を述べよ。A4 4枚以内に収める。
	参考文献	開発教育2010 Vol. 57—オルタナティブな経済と開発教育—開発教育協会『開発教育』編集委員会 (編集)明石書店 (2010) その他独自に文献検索を行い、資料収集すること。
	レポート提出期限	2021年9月30日 (木)
第3回	レポート課題	オルタナティブな発展としての内発的発展を定義し、内発的発展の目的に合致した成功的取り組み事例を2つ以上上げ、国際社会が学べる点を提案せよ。また、内発的発展との比較として保護主義を定義し、保護主義と内発的発展の違いを述べよ。
	レポート作成のポイント	テキストや文献を参考に内発的発展の視点から、東南アジアやアフリカ、欧米諸国の取り組み例を参考に、出稼ぎ、土着文化の尊重、グローバル化の弊害、教育やジェンダーに焦点を当て成功的取り組みの要因と課題を述べよ。また、保護主義と内発的発展の相違点を挙げよ。A4 4枚以内に収める。
	参考文献	江原裕美 (2003)「内発的発展と教育」新評論 江原裕美 (2011)「国際移動と教育」明石書店 菅野琴 (2012)「ジェンダーと国際教育開発—課題と挑戦」福村出版 『移民の経済学』ベンジャミン・パウエル編/藪下 史郎監訳/佐藤 綾野訳/ 鈴木 久美訳/中田 勇人訳 東洋経済 2016 その他独自に文献検索を行い、資料収集すること。
	レポート提出期限	2021年12月10日 (金)
※レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	国際保健学特論	担当教員	秋葉敏夫	開講年次	授業形態	単位数
				1・2	T科目	4単位
テーマ	世界各国，特に発展途上国が抱える保健衛生上の諸問題の把握，およびその対策の考察					
使用するテキスト	「バッシュ 国際保健学講座」 じほう 梅内拓生監修 PHC開発研究会翻訳 (この本は絶版になっておりますので、教員が受講者希望者には貸与します。講座終了後に返却してもらいます。)					
講義概要・一般目標	<p>国際保健学にはさまざまな切り口があり，この分野の書籍も，識者によってあつかうカテゴリーがかなり異なっている。その中でも権威をもって受け入れられているのが，「バッシュ 国際保健学講座」である。この本はいささか内容が古くなってきているが，単に保健衛生上の項目ばかりでなく，文化，歴史，社会，政治など，幅広い観点から保健にまつわる問題をあつかっており，その視点の広さは瞠目に値する。このテキストを読了することは，国際協力を進めていく上で非常に有用な知識を身につけることにつながる。</p> <p>本講義ではこのテキストを使い，重要と思われる章を選んで読み，理解し，自分の考えをまとめるという形式で進めていく。読み進めるには幅の広い知識が必要とされるが，是非チャレンジしていただきたい。扱う章は以下の通りである。</p> <p>第1章：保健の未来に対する4つの基本的見解  第2章：1900年以前の国際保健  第3章：国際保健に関わる諸機関  第4章：健康に関するデータ  第5章：データから情報へ  第6章：病気と社会的コンテキスト  第7章：危機に立つ保健  第12章：保健セクターの創設  第13章：保健セクターを改革する  第14章：感染症，新興と再興</p> <p>これらの章をカバーすることにより，国際協力の保健医療分野の基本的な知識が修得でき，さらに実践の現場でも対応可能な能力を持てるようになるであろう。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健医療上の問題を考えるときに，様々な視点があることが理解できる。</li> <li>2. 感染症が世界史上に与えた影響を説明できる。</li> <li>3. 保健医療の国際的な支援を行っていくうえで，様々な手法があることが説明できる。</li> <li>4. 保健統計の重要性，扱いの難しさが理解できる。</li> <li>5. 保健情報システムが担うべき役割が説明できる。</li> <li>6. 文化と病気の関係に造詣を深めることができる。</li> <li>7. プライマリーヘルスケアの歴史，概念が説明できる。</li> <li>8. 保健セクターがどのように改革されるべきかについて意見を述べるができる。</li> <li>9. 新興，再興感染症の問題を説明できる。</li> </ol>					
評価方法	課題レポートの評価を60%，口頭試問による科目修了試験の評価を40%として，総合的に評価をする。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。					
学修の進め方	テキストの要約だけでは合格できません。日本や世界の状況，自分の経験も踏まえて，課題ごとに自分の考えを述べる事が要求されます。フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。					
教員メールアドレス	akiba@phoenix.ac.jp					

## 課 題 内 容

第 1 回	レポ ー ト 課 題	第1章課題 保健の未来に関する4つの基本的見解を読み、自分はどれに当てはまると思うか？その理由も述べなさい。 第2章課題 1900年以前に、感染症が人類に与えたインパクトについてまとめなさい。 第3章課題 国際保健を進めていく上で、WHOと二国間援助機関（e. g. USAID, JICAなど）の構造的、手法的違いを述べなさい。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	2章課題に対しては下記の参考文献を読んで考察を深めること。3章課題では、WHOやJICAのホームページを参照すること。あつかう範囲が広いので、なじみのない言葉は辞書や百科事典を用いて調べるように。
	参 考 文 献	「銃, 鉄, 病原菌」(上) ジャレッド・ダイヤモンド著 草思社
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年6月30日 (水)
第 2 回	レポ ー ト 課 題	第4章 保健統計の必要性を論じ、その基になるデータを集める上での問題点をいくつか指摘しなさい。 第5章 保健管理情報管理システムの意義について述べなさい。 第6章 文化と病気の関係について、思うことを述べなさい。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	第6章は国際保健の一つの重要な分野である。下記の参考文献を読み、考察を深めること。
	参 考 文 献	「疫病と世界史」ウィリアム マクニール著 佐々木昭夫訳 中央文庫
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年9月30日 (木)
第 3 回	レポ ー ト 課 題	第7章 「プライマリーヘルスケア」の成立に至る歴史、その意義、および問題点を述べなさい。 第12章, 13章 保健セクターの問題（特に途上国）と、改革の方向について論じなさい。 第14章 新興, 再興感染症の主たる問題を述べなさい。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	今回の課題はかなり漠然とした内容になっている。受講生は各章をよく読み、そこで自分が考えたことを記述すること。第7章の課題では、下記の参考文献を読んで考察を深めること。
	参 考 文 献	「いのち・開発・NGO」ディビット・ワーナー, 新評論
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年12月10日 (金)
※レポ ー ト 提 出 方 法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。 ※提出前に必ず教員に草稿レポートをメールで送り、指導を受けること。

科目名	感染症特論	担当教員	松葉隆司	開講年次	授業形態	単位数
				1・2年	T科目	4単位
テーマ	現代における感染症					
使用するテキスト	わかる！身につく！病原体・感染・免疫（藤本 秀士 編著 目野 郁子・小島 夫美子 著）：南山堂，2020，ISBN 978-4-525-16233-7					
講義概要・一般目標	<p>途上国や先進国を問わず、短時間に人、動植物や物が世界各地を行き来できる現代においては、病原体も容易に拡散してしまうため、地球規模で感染症対策を進めていくことが重要である。国際協力においては、現地への対策が必要なだけでなく、自身への感染防止対策も必要となる。本講では、感染症の基礎理解を深めることで、世界のどこにいても柔軟に対策を実施できるようにすることを目標とする。</p> <p>1) 微生物の種類・特徴と宿主防御反応について説明できる。 感染症を引き起こす病原体の種類や特徴、さらに宿主の防御機構を理解することで予防につなげる。</p> <p>2) 感染症の三大成立要因を理解し、感染症予防対策について説明できる。 感染症発生には、(1) 感染源 (2) 感染経路 (3) 宿主を必要とする。これらを理解することで、感染症発生や拡大への対策を論理的に考えることができるようになる。</p> <p>3) 世界各地域において重要視されている各種感染症を理解し説明できる。 地球規模で感染症対策を行うためには、新興・再興感染症、動物由来感染症、輸入感染症の理解が必要である。</p> <p>4) 各種感染症の情報収集と予防方法について説明できる。 世界のどこに暮らしていても有効な感染症対策を個人レベルでも実施できるように、各地域状況情報を収集し、現地での対策が実施することができる必要がある。</p>					
到達目標	国際協力の場において活用可能な感染症に対する幅広い知識を得て、実地での確に行動できるようにする。1) 感染症の基礎的事項が説明でき、2) 感染予防についての基本的予防策を想起し、3) 各国や地域に応じた感染症対策を実行できるようにする。					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。					
学修の進め方	・テキスト，参考図書やHPでの発生状況を利用し，どのような感染症がこの国や地域でどのような問題をおこしているか，どのような実践的な対策ができるかよく考えること。					
教員メールアドレス	matsubat@phoenix.ac.jp					

課題内容		
第1回	レポート課題	1) 病原体を分類し、各病原体の特徴を述べよ。 2) 感染経路を分類し説明せよ。 3) 宿主の非特異的および特異的感染防御機構にはどのようなものがあるか。 4) 感染と発病の違いについて述べよ。
	レポート作成のポイント	テキスト 1) を利用する。 5000字 (以内)。
	参考文献	「イラストでわかる微生物学超入門 病原微生物の感染のしくみ」齊藤 光正 著, 南山堂, 2018, ISBN 978-4-525-16341-9 「好きになる免疫学 第2版」山本一彦 監修, 萩原清文 著, 講談社, 2020, ISBN 978-4-06-513903-5
	レポート提出期限	2021年6月30日 (水)
第2回	レポート課題	感染症の予防方法について、三大要因である (1) 感染源(侵入と排出を含む), (2) 感染経路、(3) 宿主感受性の対策に分けて述べよ。
	レポート作成のポイント	テキスト 1) を利用する。 5000字 (以内)。
	参考文献	[看護の現場ですぐに役立つ 感染症対策のキホン 第2版] 大口祐矢 著, 秀和システム, 2020, ISBN 978-4-7980-6262-4)
	レポート提出期限	2021年9月30日 (木)
第3回	レポート課題	あなたが活動した国、あるいは今後活動したい国や地域で重要とされる具体的な感染症疾患 (異なる感染経路に由来する疾患) を2つ挙げ、説明せよ。
	レポート作成のポイント	テキスト 1) および参考文献・HPを利用する。 5000字 (以内)。
	参考文献	1) 感染症大全 (堤 寛 著) : 飛鳥新社, 2020, ISBN 978-86410-757-0 2) 海外での感染症情報 : <a href="https://www.forth.go.jp/index.html">https://www.forth.go.jp/index.html</a>
	レポート提出期限	2021年12月10日 (金)
提出方法	web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。	

科目名	地球環境科学特論	担当教員	小田 淳子	開講年次	授業形態	単位数
				1・2年	T科目	4単位
テーマ	地球環境を自然科学と社会科学の両面から理解する。					
使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『改訂新版 地球環境がわかる』西岡秀三・宮崎忠國・村野健太郎，技術評論社，2015年</li> <li>・『地球環境学入門』東樋口護，丸善出版，2015年</li> <li>・『地球・環境・資源－地球と人類の共生をめざして－第2版』内田 悦生・高木 秀雄編，共立出版，2019年</li> </ul>					
講義概要・一般目標	<p>地球環境は，自然環境とそれに影響を与える人間活動の相互作用により形成される。人と環境のつながりを究明するのが，地球環境学である。したがって，地球環境を理解し環境への対処方法を考えるためには，自然科学と人文・社会科学の知識と技能が必要である。</p> <p>本講では，まず，自然科学の立場から地球環境の現状について正しく把握・認識する。その上で，地球環境と人間の関わり方を科学的に捉え，地球環境問題の解決に向けて，どのような考え方で環境と向き合い，行動するべきかを考えることを通して，人類を含むすべての生物の持続可能な生存について考察する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地球の環境について，自然科学的側面から学ぶと共に，人間社会と環境との関わりを社会科学的観点から理解し，説明できる。</li> <li>2) 環境と環境問題に関する知識を身につけ，環境問題の解決における科学技術の使い方，社会・経済システムのあり方について，深く考察できる。</li> <li>3) 環境問題の解決に向けて自ら行動できるようになる。</li> </ol>					
評価方法	提出課題レポート（50%），科目修了試験（50%）により総合的評価を行う。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。					
学修の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題を作成する場合には，まず提示している参考文献（図書）をしっかりと読み込んで下さい。その上で課題に関係のあるその他の参考文献を参照しながら，作成して下さい。</li> <li>・作成に当たっては，レポート作成のポイントを踏まえた上で作成することが重要です。</li> <li>・レポートの骨子ができあがった段階で，担当教員にメールで送って下さい。修正/アドバイス等の添削をするので，指示に従って完成させてから，提出期限までに提出して下さい。</li> <li>・フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</li> </ul>					
教員メールアドレス	junoda618@gmail.com					

## 課題内容

第1回	レポート課題	地球環境問題について歴史的経緯をまとめなさい。
	レポート作成のポイント	地球誕生から人間活動が大きくなる以前の地球環境はどのような状況であったのか、その後人間活動が地球システムにどのような影響を与え、環境問題がどのように顕在化したのかについて、過去から現在までの時間軸でまとめること。 文末に、引用文献リストを付けること。 (A4用紙, 40字×35行, 4枚程度)
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『環境に挑む歴史学』水島司(編), 勉誠出版, 2016年</li> <li>・『地球環境問題概説』逸見謙三, 筑波書房, 2009年</li> <li>・提示されたテキストの他に、関連の研究論文, その他の参考書などの資料。</li> </ul>
	レポート提出期限	2021年6月30日(水)
第2回	レポート課題	地球環境問題と人間活動の関わりについて、自然科学と社会科学の両視点から論じなさい。
	レポート作成のポイント	環境科学を定義した後、地球環境問題を4区分「大気系・水系(河川・海洋)・生態系(生物・森林)・生活系」に分けて、人間活動の関わりを入れながら、問題発生要因、現況と課題、解決のありかたについて、まとめること。 文末に、引用文献リストを付けること。 (A4用紙, 40字×35行, 4枚程度)
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『地球環境テキストブック 環境科学』吉原利一編, オーム社, 2010年</li> <li>・『環境科学入門第2版 地球と人類の未来のために』川合真一郎・張野宏也・山本義和, 化学同人, 2018年</li> <li>・『改訂新版 地球環境がわかる』西岡秀三・宮崎忠國・村野健太郎, 技術評論社, 2015年</li> </ul>
	レポート提出期限	2021年9月30日(木)
第3回	レポート課題	東アジア, ヨーロッパ, 北米等から、地球規模レベルの範囲で拡大する「長距離越境大気汚染の問題」について、レポート作成のポイントを踏まえてまとめなさい。
	レポート作成のポイント	現代の著しい経済活動により大気汚染問題は発生地域に留まらず、国境を越えた越境汚染の問題に拡大している。越境大気汚染の各対象物質(酸性雨, 対流圏オゾン, PM2.5, POPs)について、発生源や発生地域, 健康影響, 汚染の現況, 国際的な影響範囲, 国際間の対策を入れながらまとめること。 (A4用紙, 40字×35行, 4枚程度)
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『環境科学入門第2版 地球と人類の未来のために』川合真一郎・張野宏也・山本義和, 化学同人, 2018年</li> <li>・『越境大気汚染の物理と化学』藤田慎一, 成山堂書店, 2014年</li> <li>・国立環境研究所: 越境大気汚染に関する研究の刊行物</li> </ul>
	レポート提出期限	2021年12月10日(金)
※レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部通信教育事務課へ提出する。



科目名	環境管理学特論	担当教員	大下浩司	開講年次	授業形態	単位数
				1・2年	T科目	4単位
テーマ	環境の捉え方を理解し、持続可能な地球社会の構築方法を考える。					
使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『SDGs時代の教育』北村友人・佐藤真久・佐藤学、学文社、2019年</li> <li>・『地球環境の教科書10講』九里徳泰・左巻健男・平山明彦、東京書籍、2014年</li> <li>・『持続可能な社会論』矢口芳生、農林統計出版、2018年</li> </ul>					
講義概要・一般目標	<p>20世紀の人間活動がもたらした「大量生産・大量消費・大量廃棄社会」が環境に大きな影響を及ぼし、人間社会の持続可能性を危機的な状況にしている現状において、我々は環境負荷の少ない「持続可能な社会」へのパラダイムシフトが求められている。</p> <p>環境問題を解決し持続可能な社会を構築するためには、まずは環境問題の本質を理解する必要がある。環境問題の本質は、自然科学の問題のみならず、人間社会の経済システム、政治システム、人口増加、さらには人の生き方によって引き起こされているところにある。</p> <p>これらの事象が関係している環境問題は、一国のみで解決できるものではなく、全世界の国々が協力して取り組まなければ解決することができない。しかし、この解決には、各国・各地域の文化、歴史、宗教、政治、制度、伝統の多様性を尊重しながら行うことが大切である。</p> <p>本講は、これらのことを理解した上で、持続可能な社会システムを提案することができる能力を身につけることを目標としている。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地球環境問題の本質を理解し、その原因と結果の因果関係を説明できる。</li> <li>2. 持続可能な開発目標（SDGs）に挙げられる環境問題の解決方策を提言できる。</li> <li>3. 気候変動問題とエネルギー利用の関係を論じることができる。</li> <li>4. 環境問題の現状を理解し、持続可能な社会システムづくりの政策を提案できる。</li> </ol>					
評価方法	レポート課題60%、科目修了試験40%により総合的評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用し実施する。					
学修の進め方	<p>レポート課題を作成する場合には、提示している参考文献をしっかりと読み込んでください。そして、課題に関係する事象についても調べましょう。レポートの作成は、参考文献およびそれに関係する事象について十分に理解した上で行うことが大切です。</p> <p>フィードバックとして、提出されたレポート課題にコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	oshita@kiui.ac.jp					

課題内容		
第1回	レポート課題	持続可能な開発目標（SDGs）の達成におけるESDの意義と役割
	レポート作成のポイント	<p>持続可能な開発目標（SDGs）を説明し、SDGsに挙げられる環境問題に関係した目標についても説明しなさい。そして、SDGsの達成におけるESD（Education for Sustainable Development）の意義と役割を考察しなさい。テキストだけでなく他の文献も参考にし、レポートを作成すること。参考または引用した部分の出典を明記し、文末には文献リストを付けること。</p> <p>A4、40字×35行、4枚程度を目安とする。</p>
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『SDGs時代の教育』北村友人・佐藤真久・佐藤学、学文社、2019年</li> <li>・提示したテキストの他に、関連の文献やインターネットを利用して、自ら情報収集すること。</li> </ul>
	レポート提出期限	2021年6月30日（水）
第2回	レポート課題	エネルギーの管理と気候変動問題への対応
	レポート作成のポイント	<p>気候変動の問題は、エネルギーの利用による二酸化炭素の排出が原因の一つとなっている。エネルギーの利用と気候変動問題の関係を述べ、気候変動の問題を解決する方法を論じなさい。テキストだけでなく他の文献も参考にし、レポートを作成すること。参考または引用した部分の出典を明記し、文末には文献リストを付けること。</p> <p>A4、40字×35行、4枚程度を目安とする。</p>
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『地球環境の教科書10講』九里徳泰・左巻健男・平山明彦、東京書籍、2014年</li> <li>・提示したテキストの他に、関連の文献やインターネットを利用して、自ら情報収集すること。</li> </ul>
	レポート提出期限	2021年9月30日（木）
第3回	レポート課題	持続可能な社会構築のために必要な環境問題の解決策
	レポート作成のポイント	<p>持続可能な社会とはどのような社会かを説明し、「持続可能な社会」を作り上げるときにどのような課題があるのかを示し、その課題のうち特に環境に関する課題を解決するためにはどうすればよいと思うかについて、あなたの考えを述べなさい。テキストだけでなく他の文献も参考にし、レポートを作成すること。参考または引用した部分の出典を明記し、文末には文献リストを付けること。</p> <p>A4、40字×35行、4枚程度を目安とする。</p>
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『持続可能な社会論』矢口芳生、農林統計出版、2018年</li> <li>・提示したテキストの他に、関連の文献やインターネットを利用して、自ら情報収集すること。</li> </ul>
	レポート提出期限	2021年12月10日（金）
※レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	循環型社会学特論	担当教員	小田 淳子	開講年次	授業形態	単位数
				1・2年	T科目	4単位
テーマ	人類が大量廃棄の時代を経て残した負の遺産というべき環境への悪影響を反省し、21世紀の循環型社会に改善・改革を促すための基本的かつ応用的な手法を理解する。					
使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境省平成24～令和2年版『環境・循環型社会・生物多様性白書』、環境省編、2012～2020年</li> <li>・『循環型社会評価手法の基礎知識』田中勝編著、松藤敏彦・角田芳忠・石坂薫著、技報堂出版、2007年</li> <li>・『循環型社会をつくる』鷲田豊明編、笹尾俊明編、岩波書店、2015年</li> </ul>					
講義概要・一般目標	<p>大気系、水系、陸生生物に対して地球環境の変化がもたらす負の連鎖が明白になっている。さらに現在では、地球資源の有限性を踏まえながらも、産業と経済社会が著しい活動を進めてきた結果、世界の環境問題は深刻さを増している。</p> <p>地球が今後も持続可能な社会を形成し続けるためには、生活環境、地域環境、地球環境において山積みする課題を解決すべく、喫緊に立ち向かわねばならない状況にある。21世紀社会における「持続可能な循環型社会」の構築を踏まえて、国際・社会・企業・行政・個人がそれぞれの立場で、時には協働しながら、取り組むべき課題を認識し解決の手段を考察する。</p>					
到達目標	<p>21世紀は「環境の世紀」である。土壌・大気・廃棄物・環境政策・環境経済の各分野の視点から、国際社会が直面している資源枯渇化の問題について、事例を挙げて議論する。加えて、国際レベル、国内レベルにおける資源物質のフローの現状を把握し、「環境・資源・経済」のバランスある発展に関する課題を考察する。そのうえで、循環型社会構築に向けて求められる社会的システムとその実践方法を理解し、望ましい創造的社会の在り方を学ぶ。このことを通して、環境リスクマネジメントの分野から社会に貢献するための基礎力を身につけることができる。</p>					
評価方法	課題レポート（50%）、科目修了試験（50%）による総合評価					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。					
学修の進め方	<p>テーマ全般を理解することを目的に、レポート作成のポイントを掲げています。課題作成に取り組みやすすむためのポイントに忠実にまとめを行うよう、学修を進めてください。また、提出前にメールをしっかりと活用してアドバイスを受けましょう。フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	junoda618@gmail.com					

課題内容		
第1回	レポート課題	消費社会（生活）の変遷と循環型社会の到来について説明しなさい。
	レポート作成のポイント	社会の消費システムと環境影響は相互に強い関係があり、現代の快適を求める消費生活は環境負荷の発生そのものである。①昭和（戦前戦後）と平成時代の暮らしの違い、②耐久消費財所有量・家族構成から見た生活の変化、③環境問題発生の背景にある暮らしの変化要因。これら3点を論じながらまとめること。 （A4用紙，40字×35行，4枚程度）
	参考文献	石橋春男編著：環境と消費者，慶應義塾大学出版会，2010年 間々田孝夫：消費社会論，有斐閣コンパクト，2000年 （文献）堀真由美：消費社会の変遷と消費行動の変容，中央大学，2013年
	レポート提出期限	2021年6月30日（水）
第2回	レポート課題	日本全体の資源・エネルギーの流れの変化について，物質フロー（マテリアルフローともいう）を用いて説明しなさい。
	レポート作成のポイント	循環型社会を構築するためには，社会全体がどれだけの資源を採取，消費，廃棄しているか，物質フローを的確に把握することで廃棄物の発生抑制と循環利用促進につながる。マテリアルフローの経年的なデータ解析からまとめること。 （A4用紙，40字×35行，4枚程度）
	参考文献	我が国の物質フロー（環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書，最新版） （社）産業環境管理協会：リサイクルデータブック2020 （財）クリーン・グリーン・センター：日本のマテリアルバランス2009，2012年
	レポート提出期限	2021年9月30日（木）
第3回	レポート課題	資源・エネルギーの効率的利用から廃棄までを考慮した製品とサービスの提供を図るうえで，ライフサイクルアセスメント（LCA）の社会的役割をまとめなさい。
	レポート作成のポイント	環境負荷の少ない経済社会システムの構築には，資源・エネルギーの入口側と汚染物質及び製品等の出口側の管理が不可欠である。ISO14040シリーズに規定するLCAの手法が消費社会にどのように適用されているか，複数の事例から具体的に取り組み内容を説明すること。（A4用紙，40字×35行，4枚程度）
	参考文献	『LCA概論』，伊坪徳宏・成田暢彦・田原聖隆，産業環境管理協会編，2007年 （社）産業環境管理協会・LCA日本フォーラムのwebサイト，企業の関連サイトを参照のこと。
	レポート提出期限	2021年12月10日（金）
※レポート提出方法		web学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	開発経済学特論	担当教員	濱島敦博	開講年次	授業形態	単位数
				1・2年	T科目	4単位
テーマ	開発経済学の基礎的理論を理解した上で、地域の固有の発展論理					
使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・渡辺利夫『開発経済学入門』第3版東洋経済新報社 2012年</li> <li>・原洋之介『開発経済論』第2版 岩波書店 2002年</li> </ul> (参考図書：マイケル・P・トダロ他『トダロとスミスの開発経済学』第10版 ピアンソ桐原 2010年)					
講義概要・一般目標	<p><b>【講義概要】</b></p> <p>開発経済学は、国家や地域が経済的に発展する過程及び要因、構造を分析し、低所得国の発展戦略を明らかにする研究分野である。講義では、多くの国・地域で一般的に観察できる事象を基に構築された経済学上の発展モデルのうち、基礎的なモデルをいくつか学び、更に、普遍的な発展モデルでは解釈することができない事象に対し、各国・地域の多様性や固有性に着目して考察する方法を学習する。</p> <p><b>【一般目標】</b></p> <p>国際協力や開発論の分野の研究を進めるために、開発に関わる諸問題を経済学的に考察するスキルを修得する。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①開発経済学の基礎的なモデル（二重経済論モデル、輸入代替工業化、分益小作制度など）について理解する。</li> <li>②国や地域が辿る経済発展の経路が多様性を持つことに気付き、それぞれの地域の発展論理や固有性について目が向くようになること。</li> </ul>					
評価方法	科目修了試験により評価。レポート：50%、単位認定試験：50%にて評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	テキストの該当箇所を熟読し、疑問等あればメールにて相談すること。					
教員メールアドレス	hamashi@kiui.ac.jp					

## 課 題 内 容

第 1 回	レポ ー ト 課 題	伝統部門（または農業部門）から近代部門（または工業部門）へと労働力が移動することによって経済成長や工業化が引き起こされる過程を説明した「二重経済論モデル」について、その枠組みと含意について説明せよ。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	経済学の専門用語を正確に把握して記述して下さい。
	参 考 文 献	渡辺利夫著『開発経済学入門』第5章，原洋之介著『開発経済論』第5章， （参考：マイケル・P・トダロ他『トダロとスミスの開発経済学』第3章及び第7章）
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年6月30日（水）
第 2 回	レポ ー ト 課 題	農村における土地の契約関係において、分益小作制度の合理性について説明せよ。 ※以下の語句を用いること：「定額小作制」，「賃金労働制」。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	インセンティブ，取引費用，リスク，といった概念を用いながら，定額小作制及び賃金労働制との比較の中で説明して下さい。
	参 考 文 献	原洋之介『開発経済論』第6章， （参考：マイケル・P・トダロ他『トダロとスミスの開発経済学』第9章）
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年9月30日（木）
第 3 回	レポ ー ト 課 題	開発途上国の経済問題について，地域の多様性や各国・地域が持つ固有の発展論理を踏まえて考察することの重要性と，地域研究的手法の有用性の是非について論じなさい。※以下の語句を用いること：歴史制度分析，経路依存性。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	経済システム（または経済制度）が多様化する要因について理解した上で，論じて下さい。
	参 考 文 献	原洋之介『開発経済論』第3章，第10章，第11章
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年12月10日（金）
※レポ ー ト 提 出 方 法		web学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	開発教育学特論	担当教員	坂山英治	開講年次	授業形態	単位数
				1・2年	T科目	4単位
テーマ	開発教育の重要性および方法 SDGsの目標達成の実践力をつける					
使用するテキスト	『開発教育 持続可能な世界のために』 田中治彦等 編 学文社 ISBN978-4-7620-1751-3 SDGsカリキュラムの創造 田中治彦・奈須正裕・藤原孝章 編著 未来を変える目標 SDGsアイデアブック 一般社団法人 Think the Earth					
講義概要・一般目標	<p><b>【講義概要】</b></p> <p>開発教育は南北問題や国際協力を理解するための教育活動として始まったもので、現在では、開発教育は自分と地域と世界とのつながりを認識し、公正で共に生きることのできる地球社会づくりに参加するための教育活動として、学校教育、社会教育、市民活動の中で実践されている。</p> <p>SDGs（持続可能な開発目標）とは国連の持続可能な開発のための国際目標であり、17のグローバル目標と169のターゲットからなる。</p> <p>この講義では、開発教育・SDGsの内容を理解することにより、SDGsの目標達成に主体的に関わっていく態度を育てていきます。</p> <p><b>【一般目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開発教育の基礎を学びその重要性・必要性を理解する。</li> <li>・SDGsを理解し目標達成の実践力をつける。</li> </ul>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発をめぐる問題から、開発教育の理論と意義を理解する。</li> <li>・SDGsの目標と実践方法を修得する。</li> </ul>					
評価方法	課題レポート40%、科目修了試験60%により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発教育とSDGsの基本を学んで実践力をつけていきます。</li> <li>・レポートはテキスト等からまとめる課題と自らの実践や考えからまとめる課題があります。</li> <li>・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。</li> </ul>					
教員メールアドレス	esakayama3342@gmail.com					

課題内容		
第1回	レポート課題	【課題1】開発教育の目標と教育内容を述べよ。 【課題2】SDGs学習に至るまでの開発教育について述べよ。
	レポート作成のポイント	開発教育の基礎知識を参考文献、論文等を参考にしてまとめる。
	参考文献	・SDGsと開発教育（学文社） ・SDGsカリキュラムの創造（学文社）
	レポート提出期限	2021年6月30日（水）
第2回	レポート課題	【課題3】「SDGsと何か」SDGsが国連で採択された経緯や社会背景を述べよ。 【課題4】SDGsの目標達成するために、自分にできること述べよ。
	レポート作成のポイント	・SDGsが国連で採択された経緯や社会背景をまとめる。 ・SDGsの17の目標を示し、その中で自分にできることをまとめる。
	参考文献	・SDGsと開発教育（学文社） ・SDGsカリキュラムの創造（学文社） ・未来を変える目標 SDGsアイデアブック（Think the Earth）
	レポート提出期限	2021年9月30日（木）
第3回	レポート課題	【課題5】開発教育・SDGs学習を展開する活動案を作成する。 ※学校での学習指導案，社会教育等での活動計画どちらでもよい。
	レポート作成のポイント	指導者の立場となって開発教育、SDGsを推進する活動案を考え作成する。 授業の学習計画（学習指導案）、活動計画いずれでもかまわない。
	参考文献	・SDGsと開発教育（学文社） ・SDGsカリキュラムの創造（学文社） ・未来を変える目標 SDGsアイデアブック（Think the Earth）
	レポート提出期限	2021年12月10日（金）
※レポート提出方法		web学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。



科目名	人口学特論	担当教員	末吉 秀二	開講年次	授業形態	単位数
				1・2年	T科目	4単位
テーマ	人口統計の基礎を学修した後、今日の人口問題を環境・社会経済・保健医療などと関連づけながら理解する。					
使用するテキスト	『人類生態学』東京大学出版会 大塚柳太郎・河辺俊雄他 2002年					
	『地球人口100億の世紀－人類はなぜ増え続けるのか－』ウェッジ選書 大塚柳太郎・鬼頭宏著 1999年					
	『人口統計学』古今書院 岡崎陽一著 1999年					
	『人口学への招待 少子・高齢化はどこまで解明されたか』中公新書 河野桐果 2007年					
講義概要・一般目標	<p>人口統計で用いられる各種人口指標について理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 形式人口学と実体人口学</li> <li>2. 人口構造（男女・年齢別構造と高齢化）</li> <li>3. 死亡・疫学的転換</li> <li>4. 生命表・平均余命</li> <li>5. 出生・近接要因</li> <li>6. 移動</li> <li>7. 人口増加</li> <li>8. 人口問題（先進国および開発途上国）</li> </ol> <p>人類生態学（human ecology）の分野から人口問題を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人類史のなかでの人口問題</li> <li>2. 人口支持力（carrying capacity）と人口密度</li> <li>3. 伝統社会における事例</li> <li>4. 人口転換（demographic transition）</li> <li>5. 人口からみた人間</li> <li>6. 現代の人口問題</li> <li>7. 環境問題と人間</li> </ol>					
到達目標	人口統計で用いられる各種人口指標を理解するとともに、先進国と開発途上国における人口問題の違い、環境問題と人口問題との関連、問題解決のための方策を考えることができるようになる。					
評価方法	課題レポート40%，科目修了試験60%により総合評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。					
学修の進め方	まずはテキストを通読すること。レポート課題等で不明な点はEメールで質問すること。フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを付し返却する。					
教員メールアドレス	sueyoshi@kiui.ac.jp					

## 課題内容

第 1 回	レポート課題	アジア諸国の健康・人口・社会経済指標から2指標（3組）を選んで散布図に描き、それぞれの関連について考察しなさい。
	レポート作成のポイント	参考文献に示したデータベースを基にアジア諸国の健康・人口・社会経済指標のうち2指標（3組）を選んだ後散布図を描き、2指標間の関連を考察する。
	参考文献	Population Reference Bureau ( <a href="http://www.prb.org/">http://www.prb.org/</a> ), World Health Organization ( <a href="http://www.who.int/en/">http://www.who.int/en/</a> )から二次データを入手する。
	レポート提出期限	2021年6月30日（水）
第 2 回	レポート課題	開発途上国における人口転換についてJ. ボンガーツの近接要因と関連付けながら考察しなさい。
	レポート作成のポイント	開発途上国の人口爆発を人口転換と関連付けて考察する。その際、避妊／家族計画が出生率の低下に及ぼす影響を理解すること。
	参考文献	Bongaarts, J., Potter, R. G. (1983) Fertility, Biology, and Behavior. Academic Press. 適宜プリントを配布する。
	レポート提出期限	2021年9月30日（木）
第 3 回	レポート課題	人口問題に関する学術論文を要約し、興味深かったことを述べなさい。
	レポート作成のポイント	参考文献に示した学術雑誌などから人口問題に関して興味のある学術論文3編を選定し要約する。その際、研究の背景と方法、問題の所在を理解すること。
	参考文献	Journal of Biosocial Science (Cambridge Univ. Pr.), Studies in Family Planning (Population Council), Population Development Review (Population Council)などの学術雑誌から文献を収集する。本学のデータベースProQuestなどを活用することも可能。
	レポート提出期限	2021年12月10日（金）
※レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	国際文化特論	担当教員	小 谷 真 吾	開講年次	授業形態	単位数
				1・2年	T科目	4単位
テ ー マ	文化の多様性と現代社会					
使用するテキスト	『銃・病原菌・鉄：一万三〇〇〇年にわたる人類史の謎』（上、下） ジャレド・ダイヤモンド著（倉骨彰訳） 草思社 2000年					
講義概要・一般目標	<p>概要：文化の多様性は、グローバル化のすすむ現代世界において、他者を理解するために必ず踏まえておくべき事象である。本講義では、特に環境利用システムの差異によってもたらされる文化の多様性について理解を深めることを目的とする。冒頭にあげたテキスト、講師のかかわってきた研究、あるいは受講者が興味を持つテキストの講読を通じて、文化の多様性の構築過程について、歴史的、および機能的考察を加えていく。</p> <p>目標：本講義を通じて、国際協力の場における他者理解の視野養成を主な目的とする。特に、文化人類学で重視される文化相対主義の概念を紹介することによって、異文化理解における価値判断の相対化を試みる。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文化の多様性にかんする学術的著作物の最新動向把握</li> <li>2. 学術的著作物に対する批判的レビュー</li> <li>3. 文化の多様性と環境利用システムの関係についての理解</li> <li>4. 文化相対主義の概念把握</li> </ol>					
評価方法	レポート課題の提出状況：50%      課題の学術的到達度：50%					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>レポート課題は、現代世界における文化の多様性にかんする理解を深める意図をもって設定しています。課題テキストに加えて、普段の経験やメディア報道から、文化の多様性に関する問題意識を涵養しておくことをお勧めします。</p> <p>フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	odani@faculty.chiba-u.jp					

課題内容		
第1回	レポート課題	文化の多様性と環境利用システム
	レポート作成のポイント	参考文献に挙げたテキストを精読し、プロローグ、1～19章、およびエピローグまで内容を要約しなさい。その上で、テキストであまり触れられていなかった「日本」について、その環境利用システムの特徴と世界史の中での位置を、筆者の主張を批判的あるいは肯定的に取り入れながら論じなさい。要約と議論を合わせて3000字程度でまとめること。
	参考文献	『銃・病原菌・鉄：一万三〇〇〇年にわたる人類史の謎』（上，下） ジャレド・ダイヤモンド著（倉骨彰訳） 草思社 2000年
	レポート提出期限	2021年6月30日（水）
第2回	レポート課題	現代社会と文化の多様性
	レポート作成のポイント	受講者の専門、および研究テーマに応じて講読する文献を指示するので、下記教員メールアドレスまで連絡すること。文献を精読したうえでの3000字程度のレポートを執筆する。
	参考文献	適宜指示する
	レポート提出期限	2021年9月30日（木）
第3回	レポート課題	異文化理解における多様な視点
	レポート作成のポイント	受講者の専門、および研究テーマに応じて講読する文献を指示するので、下記教員メールアドレスまで連絡すること。文献を精読したうえでの3000字程度のレポートを執筆する。
	参考文献	適宜指示する
	レポート提出期限	2021年12月10日（金）
※レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	地域調査法特論	担当教員	末吉 秀二 山本 敦之	開講年次	授業形態	単位数
				1・2年	TS科目	4単位
テーマ	地域調査に必要な基礎知識および統計分析スキルの習得					
使用するテキスト	1) 『フィールドワークの技法－問を育てる，仮説をきたえる』 新曜社 佐藤郁哉 2002年 2) 『バイオサイエンスの統計学－正しく理解するまでの実践理論』 南江堂 市原清志 1990年					
講義概要・一般目標	<p>人間社会のさまざまな現象をある地域に限定し，実証的，科学的に分析する手法に地域調査法がある。本講義では，地域調査の目的，内容，対象，方法などを理解するとともに，データ分析に必要な統計学の基礎知識およびフィールドワークの手法の習得を目的とする。</p> <p>スクーリングにおいては，1) 統計学の数学的な意味を理解した後，実際に以下の項目に関して統計分析を行う。</p> <p>① 基本統計量とグラフ ② 独立（関連）2群間t検定 ③ 一元配置分散分析 ④ 二元配置分散分析 ⑤ 相関と回帰 ⑥ ロジスティック回帰分析 ⑦ 因子分析 ⑧ 判別分析 ⑨ カテゴリ変数の分析</p> <p>2) 兵庫県南あわじ市津井地区を対象地として，各自の専門分野からフィールドワークを行う。フィールドワークを行う前に，招聘する現地の歴史に精通した外部講師から話を聞く。また現地に関する2次資料は調査前に配付する。以下にフィールドワークの流れを示すが，調査方法は各自の調査目的によって適宜変更できる。</p> <p>①南あわじ津井地区の現状と課題（外部講師） ②調査計画の立案 ③調査対象者・方法の決定 ④調査の実施 ⑤データの分析 ⑥結果に対する考察</p>					
到達目標	地域調査に必要とされる基本的な統計分析・フィールドワークが理解できるようになる。					
評価方法	課題レポート30%，スクーリング参加度10%，科目修了試験60%により総合評価する。					
オフィスアワー	講義終了後，またはEメールを使用して実施する。					
学修の進め方	まずはテキストを通読すること。レポート課題等で不明な点はEメールで質問すること。フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを付し返却する。					
教員メールアドレス	sueyoshi@kiui.ac.jp					
<b>スクーリング学修計画</b>						
1. 統計学入門（座学：山本担当）						
2. 統計分析ソフトSPSSの説明（座学：末吉担当）						
3. 統計演習：基本統計量とグラフ 独立・関連2群間t検定 一元配置分散分析（末吉担当）						
4. 統計演習：相関と回帰 ロジスティック回帰分析 因子分析 判別分析 カテゴリ変数の分析（末吉担当）						
5. フィールドワーク：南あわじ市津井地区の現状と課題（外部講師）						
6. フィールドワーク：調査計画の立案 調査対象者・方法の決定（末吉担当）						
7. フィールドワーク：調査の実施（末吉担当）						
8. フィールドワーク：データの分析 結果に対する考察 発表（末吉担当）						

課題内容		
第1回	レポート課題	フィールドワークの目的と方法
	レポート作成のポイント	自分の専門分野と関連した興味のあるテーマについて、だれを対象にどのような調査を行えば何が分かるか（分かりそうか）をより具体的に述べること。
	参考文献	『フィールドワークー書を持って街へ出よう（増訂版）』新曜社 佐藤郁哉 2006年 『生態人類学を学ぶ人のために』世界思想社 秋道智彌・市川光雄・大塚柳太郎編 1999年
	レポート提出期限	2021年6月30日（水）
第2回	レポート課題	レポートの作成（テーマは各自の専門分野を考慮し適宜指定する）
	レポート作成のポイント	フィールドワークで得たデータの分析結果をもとに、レポートを作成する。その際、目的、対象と方法、結果および考察を明確に記すこと。
	参考文献	適宜プリントを配布する。
	レポート提出期限	2021年9月30日（木）
第3回	レポート課題	先行研究の比較検討
	レポート作成のポイント	自分の専門分野と関連する学術論文（調査研究）を3本選び、調査対象者や分析方法などを比較検討する。本学のデータベースProQuestなどから学術論文を入手する。
	参考文献	『生物学を学ぶ人のための統計のはなしーきみにも出せる有意差』文一総合出版 粕谷英一 1998年
	レポート提出期限	2021年12月10日（金）
※レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	地域研究特論 I	担当教員	鈴木 剛 史	開講年次	授業形態	単位数
				1・2年	S科目	2単位
テ ー マ	国内における国際協力活動について、実際に体験，理解する。					
使用するテキスト	特になし。 参考文献・資料については，実習並びに事前指導・事後指導において適宜指示します。					
講義概要・一般目標	<p>公設国際貢献大学校（設置主体：岡山県新見市）との連携協力により，国内でのインターンシップ・プログラムの実施を計画している。具体的には，同大学校の防災シェルターにおいて救援物資の整理・搬出など現場実習，実務処理を体験することで，国際救援のみならず国際協力全般に必須の国内での支援活動や各関連施設，支援団体との連絡・調整の重要性についての理解を深める。また同大学校が「国際貢献も足もとから」として取り組む中山間過疎地域における地域貢献の現場視察や国際社会がその復興に注目する東日本大震災の災害支援活動等について考察する。</p> <p>なお，インターンシップの実施にあたっては，本研究科の担当教員が事前事後の指導を行う。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 国際貢献が地域貢献の拡大版であることを再認識した上で，国内における国際協力活動の現状や課題について学会など公的な場で明瞭かつ具体的に説明することができる。</li> <li>2) 紛争や災害種に応じた臨機応変な対応の重要性や，災害などの発災時からの初動対応、救援物資の搬出・輸送・提供・募集等について把握し，特に，紛争・地震・津波・風評被害等の複合災害について理解した上で，今後コーディネーターや専門家として国内支援活動に従事することができる。</li> </ol>					
評価方法	<p>学生が最終的に提出する報告書30%，スクーリング(事前・事後指導)10%，インターンシップ60%により総合評価する。</p> <p>インターンシップ中は，公設国際貢献大学校の担当者が適宜指導を行い，学生・担当者双方が提出する報告書の内容を基に総合的な評価を行う。</p> <p>大学校の担当者及び担当教員は以下の項目に基づき評価する：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 国内における国際協力活動の条件や問題点を認識したか</li> <li>2) 国内における国際協力活動の進め方について総合的にある程度理解・把握したか</li> <li>3) 与えた課題にある程度応えたか</li> <li>4) 作業や学習に積極的であったか</li> <li>5) 集団活動における問題はなかったか</li> </ol>					
オフィスアワー	講義終了後，またはEメールを使用して実施する。					
学修の進め方	<p>インターンシップ実施まで，常日頃から地域貢献や国際協力の課題や最近の動静についてアンテナを広く張り巡らせ考察し，現状と今後の課題についてメールやスクーリング（事前指導）を通して意見交換を行う。事後には，事前のスクーリングやインターンシップを体験した結果導き出された独自のアイデアや今後の方向性について報告書の発表等を通じて討議し，今後の活動に生かせるよう学修を継続する。最終時限でインターンシップ及び講義に対するフィードバックを行う。</p>					
教員メールアドレス	suzuki32@kiui.ac.jp					

## スクーリング学修計画

1.	<p>事前指導：インターンシップ実施プログラムの説明・諸注意（1コマ）                  インターンシップ実施場所である公設国際貢献大学校（設置主体：岡山県新見市）について、その設立経緯、概要、事業内容、今後の計画等とともに、1泊2日の宿泊に関連する注意事項について説明する。その後質疑応答を行う。</p>
2.	<p>事前指導：国際協力機関の諸活動について（1コマ）                  国際協力、地域貢献においてその現場で活動する際に起こりうる問題についてのケーススタディに取り組む。ケースの問題点、中長期的問題の解決方法、即時必要な対応について各院生が発表し、討議する。また、メディア等のリソースを活用しながら、現在の国際協力の抱える課題について教授し、意見交換を行う。</p>
3.	<p>公設国際貢献大学校におけるインターンシップ（2日間）：                  公設国際貢献大学校（設置主体：岡山県新見市）との連携協力により、国内でのインターンシップ・プログラムの実施を計画している。具体的には、同大学校の防災シェルターにおいて、救援物資の整理・搬出など現場実習、実務処理を体験することで、国際救援のみならず国際協力全般に必須の国内での支援活動や各関連施設、支援団体との連絡・調整の重要性についての理解を深める。また同大学校が「国際貢献も足もとから」として取り組む中山間過疎地域における地域貢献の現場視察や国際社会がその復興に注目する東日本大震災の災害支援活動等について考察する。</p> <p><b>日程：2021年10月14日（木）・10月15日（金）の2日間</b></p> <p>（内容については現在の予定であり、変更される場合がありますので予めご了承ください。）</p>
4.	
5.	
6.	
7.	
8.	
9.	
10.	
11.	
12.	
13.	
14.	<p>事後指導：インターンシップ報告書をもとにした事後指導（1コマ）                  インターンシップ実施後、公設国際貢献大学校の実務担当者による報告書を参考にしながら、事後指導を行う。各院生が、事前指導、インターンシップを通じて学んだ事柄等をまとめた報告書をもとに独自のアイデアや今後の課題への取り組みについて発表し、その後、質疑応答、意見交換を行う。</p>
15.	<p>事後指導：国際協力活動の意義・課題・展望について（1コマ）                  事前指導で取り組んだケーススタディとは違うケースについて再度考察、ケースの問題点、中長期的問題の解決方法、即時必要な対応について各院生が発表し、討議する。また、メディア等のリソースを活用しながら、最新の国際協力の抱える課題について教授し、国際協力活動の意義・課題・展望について意見交換を行う。</p>



科目名	地域研究特論Ⅱ	担当教員	長谷川光子	開講年次	授業形態	単位数
				1・2年	T科目	4単位
テーマ	国境を越えた広域の視点で、地域の開発課題を理解し、その解決方を検討する。					
使用するテキスト	特になし					
講義概要・一般目標	<p>講義概要：グローバル化の進展と共に開発課題が国境を越えたものとなり、これまでの国別、国内セクター別や地域開発の視点のみでは開発支援が対応できない状況が起きている。また、国ごとにプロジェクトやプログラムを企画立案し、相手国政府と合意した上で実施したとしても、その知見が類似の課題を抱える近隣国に共有されず、開発協力の非効率性が発生し得る。本科目では、地域全体を見据えた国際協力プロジェクトや研究が実施されている現場を鑑み、地域の政治、経済、文化、社会などの視点で、地域の開発課題を先行研究やデータをもとに把握し、その中で特定の開発課題の解決方を検討し取りまとめることを学修する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 広域協力の意義を理解する</li> <li>2) 地域の開発課題について、政治、経済、文化、社会など複数の視点でデータを収集できる</li> <li>3) その上で、地域の開発課題を整理できる</li> <li>4) 特定の開発課題に関し、詳細な分析を実施できる</li> <li>5) その分析に基づき、開発課題の解決方を検討できる</li> <li>6) 開発課題の解決方の方向性を提案できる</li> </ol>					
評価方法	提出課題レポート 50%、科目修了試験 50%により総合的評価を行う。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。					
学修の進め方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 多くの論文を読んで、多角的な視点をもつこと</li> <li>2) 国際機関のホームページや論文からデータを入手し、そのデータをベースに開発課題の把握を行い、整理、分析すること</li> <li>3) 複数の開発課題を扱うのは困難であるため、学生の経験や関心に沿った開発課題を選択し、レポート課題にどのように取り組むのか、担当教員と相談すること</li> <li>4) 担当教員の指示に従い、論文を読み込み、レポートの作成を行うこと</li> <li>5) Eメールでのコミュニケーションを基本とするが、Zoomなどを活用し対面指導も可能</li> </ol>					
教員メールアドレス	mitsukohasegawa@gmail.com					

## 課 題 内 容

第 1 回	レポ ー ト 課 題	地域研究のための英語論文講読
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	<p>a. あなたが関心を持っている地域における英語論文（原著論文）を1編精読し、その内容を日本語でまとめなさい（2,000字程度）。なお、論文の選定については事前に担当教員に相談すること。</p> <p>b. 上記で精読した論文を批判的に検討し、あなたの考えを論理的に述べなさい（1,000字程度）。引用文献の表記方法は大学院要覧の『修士学位論文作成要領』「2.文献の表記等に関する注意」を参考にすること（第2回・第3回のレポート作成時と同様）。</p>
	参 考 文 献	論文の入手が困難な場合は担当教員に相談すること。 戸田山和久（2012）『新版論文の教室 レポートから卒論まで』（NHKブックス）
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年6月30日（水）
第 2 回	レポ ー ト 課 題	顧みられない熱帯病の対策における課題を把握し、解決策を検討する
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	<p>a. あなたが関心を持っている地域における顧みられない熱帯病（Neglected Tropical Diseases）に関する論文を3編以上読み、対策の現状と課題をまとめなさい（1,500字程度）。なお、論文は英語で書かれたものを1編以上含むこととする。また、JICAの報告書は論文としては利用しないこと。</p> <p>b. 上記でまとめた課題の中から1つを選択し、解決方策についてあなた自身の考えを論理的に述べなさい（1,500字程度）。</p>
	参 考 文 献	論文の入手が困難な場合は担当教員に相談すること。 顧みられない熱帯病については、次のURLから情報を得られる。 WHOホームページ（ <a href="https://www.who.int">https://www.who.int</a> ） CDCホームページ（ <a href="https://www.cdc.gov">https://www.cdc.gov</a> ）
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年9月30日（木）
第 3 回	レポ ー ト 課 題	地域との連携 フィールドワーク
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	あなたが関心を持っている地域でフィールドワークを実践するとしたら、どのような背景のある状況で、どのような課題に対してフィールドワークを行うかを述べなさい（3,000字程度）。先行研究のレビュー結果、フィールドワークの目的、データ収集方法および分析方法も記述すること。
	参 考 文 献	佐藤 郁哉（2002）『フィールドワークの技法』新曜社
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年12月10日（金）
※レポ ー ト 提 出 方 法		web学修支援システムを利用し、教務部通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	特別研究	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
		1～2年	TS科目	6単位
担 当 教 員	秋 葉 敏 夫                      佐 藤 圭 創                      末 吉 秀 二                      鈴 木 剛 史 大 下 浩 司			
テ ー マ	研究テーマは、受講生各自の研究計画書をもとに担当教員の助言を得て決定します。			
使 用 す る テ キ ス ト	各自の研究テーマ，研究計画，研究の進捗状況に応じて，指導教員が助言・指示します。			
講 義 概 要 ・ 一 般 目 標	<p>指導担当の教員より指示されたテキストを使用して，自学自習を行ってください。</p> <p>スクーリング開催前に，教員から課題設定・研究計画の作成についての指示があります。その指示に基づき，スクーリングに向けての準備を行ってください。</p> <p>スクーリングでは，対面授業による個別およびグループでの研究指導・論文執筆指導を行います。その後は引き続きテキストによる自学自習，課題の作成，メールでの教員とのやりとり，スクーリングを繰り返し，研究レベルを向上させ，最終的には修士論文の作成へと繋げていきます。</p> <p>本科目での主指導担当の教員の主な研究プロフィールの概要は（P. 39～P. 41， P. 43）のとおりです。ただし，国際協力研究そのものが学際的であり，受講生各自の研究テーマやフィールドも多様ですので，担当テーマは上の概要内容だけに限定されません。実際の指導担当の決定においては，受講生ひとりひとりの能力を最大限ひきだせるように十分に配慮します。</p>			
到 達 目 標	研究の目的，方法，分析，考察，および文献の引用など，学術論文の作成に必要な知識が修得できるようになる。			
評 価 方 法	研究へ取り組む姿勢および修士論文の内容で評価する。			
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義終了後，またはEメールを使用して実施します。			
学 修 の 進 め 方	指導教員の指示に従って研究を進めるが，研究は学生が主体的に行うものであることを自覚すること。疑問点などは積極的に調べる。研究ノートなどを活用し，研究プロセスの管理を行うこと。指導教員には定期的に研究の進捗状況を報告し，課題などを相談すること。			
教 員 メー ル ア ド レ ス	sueyoshi@kiui.ac.jp			

## スクーリング学修計画

- |                                  |
|----------------------------------|
| 1. 個別及びグループでの研究指導（1年次：夏期スクーリング）  |
| 2. 個別及びグループでの研究指導（1年次：夏期スクーリング）  |
| 3. 個別及びグループでの研究指導（1年次：夏期スクーリング）  |
| 4. 研究計画一次発表（1年次：夏期スクーリング）        |
| 5. 研究計画一次発表（1年次：夏期スクーリング）        |
| 6. 研究計画一次発表（1年次：夏期スクーリング）        |
| 7. 研究計画一次発表（1年次：夏期スクーリング）        |
| 8. 個別及びグループでの研究指導（1年次：冬期スクーリング）  |
| 9. 個別及びグループでの研究指導（1年次：冬期スクーリング）  |
| 10. 個別及びグループでの研究指導（1年次：冬期スクーリング） |
| 11. 個別及びグループでの研究指導（1年次：冬期スクーリング） |
| 12. 研究計画二次発表（1年次：冬期スクーリング）       |
| 13. 研究計画二次発表（1年次：冬期スクーリング）       |
| 14. 研究計画二次発表（1年次：冬期スクーリング）       |
| 15. 研究計画二次発表（1年次：冬期スクーリング）       |
| 16. 個別及びグループでの研究指導（2年次：夏期スクーリング） |
| 17. 個別及びグループでの研究指導（2年次：夏期スクーリング） |
| 18. 個別及びグループでの研究指導（2年次：夏期スクーリング） |
| 19. 特別研究中間発表（2年次：夏期スクーリング）       |
| 20. 特別研究中間発表（2年次：夏期スクーリング）       |
| 21. 特別研究中間発表（2年次：夏期スクーリング）       |
| 22. 特別研究中間発表（2年次：夏期スクーリング）       |
| 23. 個別及びグループでの研究指導（2年次：冬期スクーリング） |
| 24. 個別及びグループでの研究指導（2年次：冬期スクーリング） |
| 25. 個別及びグループでの研究指導（2年次：冬期スクーリング） |
| 26. 個別及びグループでの研究指導（2年次：冬期スクーリング） |
| 27. 特別研究最終発表（2年次：冬期スクーリング）       |
| 28. 特別研究最終発表（2年次：冬期スクーリング）       |
| 29. 特別研究最終発表（2年次：冬期スクーリング）       |
| 30. 特別研究最終発表（2年次：冬期スクーリング）       |

2021年度 シラバス（大学院（通信制））  
心理学研究科 心理学専攻 博士（後期）課程

科目名	高次脳機能研究	担当教員	田 尻 直 輝	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	4単位
テ ー マ	ヒトのこころはどこから生まれるのか？—脳神経科学から読み解く—					
使用 する テキスト	『高次脳機能障害学 第2版』 石合純夫、医歯薬出版 『JNNブックス 絵でみる脳と神経 第2版』 馬場元毅、医学書院 『ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版』 田崎義昭・斎藤佳雄、南山堂 『神経局在診断 改訂第4版』 半田 肇、文光堂（参考テキスト） 『神経科学—脳の探求—』 加藤宏司・後藤薫、西村書店（参考テキスト） 『解剖生理学 人体の構造と機能① 第10版』 坂井建雄・岡田隆夫、医学書院（参考テキスト） 『生理学テキスト 第8版』 大地陸男、文光堂（参考テキスト）					
講義概要・ 一般目標	外部からの感覚刺激（「五感」=体性感覚・視覚・聴覚・嗅覚・味覚）を認知し、それによって引き起こされる感情・思考・判断に応じて、筋肉を収縮させて運動（行動）を起こす。その基礎に、意識・記憶・知能などがあり、外部からの入力情報を処理し、内部で決定された出力情報を伝達し、統御するのが神経系の基本的な働きである。だが、これらの過程の障害により、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などの高次脳機能障害が出現し、日常生活や社会生活が制限される。 脳とこころは、非常に密接な関係があり、そこから付随する疾患は多岐にわたる。こころの理解を深めていくためには、まず脳の構造や機能を十分に理解する必要がある。はじめに脳・神経系の解剖、特に大脳皮質の機能を中心とした講義を行い、その上で種々の高次脳機能及びその障害を必要に応じて最新の論文をもとに検討する。一般目標は、脳・神経系機能の包括的な理解である。					
到達目標	未だ十分に解明されていない高次脳機能及びその障害に対して、基本的な脳神経科学の知識を身に付け、最新の論文をもとに理解を深める。また、今後研究を推進していく上で必要な研究方法論の習得を目指す。					
評価方法	科目修了試験により評価					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の 進め方	それぞれのレポート課題に対して、できるだけ簡潔に要約し、考察することを強く求める。テキスト（参考テキストも含む）はもちろん、最新の日本語、英語論文を読解し、理解と考察力を深めていってもらいたい。【学修の進め方の第一段階】：それぞれのレポート課題毎に取り組んでもらい、事前に完成させたレポート課題をメールで提出してもらおう。フィードバックとして、レポート課題に対するコメント（修正指示や助言など）をメールにて返信する。【第二段階】：修正したものをメールで提出してもらい、内容が良好であれば、レポート課題を本提出していただく運びとなる。なお、不明な点があれば、随時積極的に質問をしてほしい。					
教 員 メールアドレス	ntajiri@med.nagoya-cu.ac.jp					

課題内容		
第1回	レポート課題	脳の構造と機能について
	レポート作成のポイント	①脳の微細構造－神経細胞の機能、細胞構築、②脳を保護する構造（髄膜、脳脊髄液）、③大脳（大脳基底核を含む）の解剖と機能を理解した上で、レポートは①②はA4 1枚程度、③はA4 2～3枚程度に簡潔にまとめる。③については前頭葉、頭頂葉、側頭葉、後頭葉に分け、左右の機能の違いにも言及すること。
	参考文献	各種の解剖学・神経解剖学・生理学書が多数出版されている。使用するテキスト欄を参考に。何冊か目を通すこと。
	レポート提出期限	令和3年6月1日（火）
第2回	レポート課題	脳の構造と機能（続き）および脳神経について
	レポート作成のポイント	①間脳、②脳幹、③小脳の解剖と機能を理解すること。脳幹（一部は大脳）から12対の脳神経が出る。この機能を評価することは脳・神経系の診断に非常に重要。レポートは①③はA4 1枚程度、②はA4 2枚程度に簡潔にまとめること。
	参考文献	各種の解剖学・神経解剖学・生理学書が多数出版されている。使用するテキスト欄を参考に。何冊か目を通すこと。
	レポート提出期限	令和3年7月21日（水）
第3回	レポート課題	脊髄の構造と伝導路および脳の血管とその支配域について
	レポート作成のポイント	①伝導路は脳から運動の指令を伝えるもの（錐体路・錐体外路）と、脳へ感覚情報を伝えるものがあり、脊髄を経由する。従って、脊髄の構造と伝導路は、合わせて理解する必要がある。②脳の血管支配は、高次脳機能障害と密接に関連する。レポートは①②ともA4 2枚程度に簡潔にまとめること。
	参考文献	各種の解剖学・神経解剖学・生理学書が多数出版されている。使用するテキスト欄を参考に。何冊か目を通すこと。
	レポート提出期限	令和3年9月7日（火）
第4回	レポート課題	意識、記憶、知能とその障害について
	レポート作成のポイント	①意識障害があると、高次脳機能障害は診断できない。その意味で意識をどう捉え、どう評価するかは重要。②記憶には種々の分類があり、その障害は認知に関連する。③脳の発達に関与する知能についての情報を得ることも大切。レポートは①はA4 2枚程度、②③もA4 2枚程度か、両者を一緒にして2～3枚でも良い。
	参考文献	神経内科学、精神医学書その他、高次脳機能に関わるテキストが多数出版されている。使用するテキスト欄も参考に。何冊か目を通すこと。
	レポート提出期限	令和3年10月26日（火）
第5回	レポート課題	失語、失認、失行について
	レポート作成のポイント	①失語には失読、失書も関連する。②失認については空間無視なども含まれる。③失行には、指定のテキストに記載されている以外に、構成失行、着衣失行などもある。これらに言及すること。現在、様々な議論があるので、レポートはだいたいコンセンサスが得られている範囲で良い。①②③各々A4 2～3枚にまとめること。
	参考文献	神経内科学、精神医学書その他、高次脳機能に関わるテキストが多数出版されている。使用するテキスト欄も参考に。何冊か目を通すこと。
	レポート提出期限	令和3年12月7日（日）
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部通信教育事務課へ提出する。

科目名	認知生理心理学研究	担当教員	橋本 翠	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	4単位
テーマ	脳と心を知る					
使用するテキスト	『脳と心』 宮田洋編, 培風館 『脳のはたらきと行動のしくみ』 八田武志著, 医歯薬出版 『顔研究の最前線』 竹原・野村編著, 北大路書房					
講義概要・一般目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実験変数としての心的活動と生理学的反応の関係を理解する。</li> <li>2. 左右大脳半球の機能差を知るための実験法を理解する。</li> <li>3. 事象関連電位 (ERP) を指標として, さまざまな心的活動を認知処理モデルに従って理解する</li> </ol>					
到達目標	<p>行動や心のはたらきを研究対象とする心理学と, 脳・神経系のはたらきを研究する神経生理学は, 互いに密接な関係をもっている。心理学と神経生理学の境界に位置する研究領域が生理心理学である。ここでは, 人の認知活動と神経生理学的事象との関連について学ぶ。</p> <p>心と身体は独立してはたらいっているのではなく, 互いに関連しているという心身一元論的な考え方について理解を深めるとともに, 心と身体のはたらきの具体的な関連性を知ることが目標とする。</p>					
評価方法	レポート作成にあたり, 参考文献を熟読し理解しているか, また関連文献を参考にするなどして, レポート課題に的確に答えているか, などから総合的に評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>認知生理心理学は実証的な実験科学である。そのため, まず研究の方法論を修得し, 客観的な方法論に基づいた研究結果を理解できるようになることが必要である。本科目のレポート課題は, そのような流れを考慮して設定してある。</p> <p>課題をまとめるにあたって, 紹介文献を参考にすることはもちろんであるが, その中に引用されている文献, あるいは紹介されていなくても積極的に文献を収集し参考にする必要がある。</p> <p>フィードバックとして, 提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	m-hashiki@kiui.ac.jp					

## 課題内容

第1回	レポート課題	心と脳との関係についての心理生理学的研究法
	レポート作成のポイント	実験における独立変数, 従属変数の考え方をもとに, どのような心的現象をどのような指標でとらえるか。
	参考文献	「脳と心」宮田洋編 培風館
	レポート提出期限	令和3年6月1日(火)
第2回	レポート課題	大脳のラテラリティとその研究法
	レポート作成のポイント	左右大脳半球機能をどうとらえるか。 左右半球機能をとらえる具体的実験法
	参考文献	「脳のはたらきと行動のしくみ」八田武志著 医歯薬出版
	レポート提出期限	令和3年7月21日(水)
第3回	レポート課題	事象関連脳電位(ERP)を用いた注意メカニズムの研究
	レポート作成のポイント	「注意」を行動指標と生理指標の両面からとらえる。
	参考文献	
	レポート提出期限	令和3年9月7日(火)
第4回	レポート課題	ヒトの顔認識の神経心理学的研究
	レポート作成のポイント	
	参考文献	「顔研究の最前線」竹原・野村編著 北大路書房
	レポート提出期限	令和3年10月26日(火)
第5回	レポート課題	神経学的疾患へのERPによるアプローチ
	レポート作成のポイント	ERPを用いて神経疾患のメカニズムを探る。
	参考文献	
	レポート提出期限	令和3年12月7日(日)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し, 教務部通信教育事務課へ提出する。



科目名	認知行動心理学研究	担当教員	森井 康幸	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	4単位
テーマ	日常行動における記憶の働き エピソード記憶を中心に					
使用するテキスト	『記憶と日常』（現代の認知心理学2） 太田・巖島（編） 北大路書房 2011. 『ふと浮かぶ記憶と思考の心理学』 関口・森田・雨宮（編著） 北大路書房 2014.					
講義概要・一般目標	<p>私たちの日常における記憶の想起には、思い出そうとして思い出す場合だけでなく、ふと心に浮かぶ、突然思い出されるというように、想起しようという意図が伴わない場合も多い。あるいは思い出したという意識がないままに、記憶が情報処理に影響を及ぼしていることも多い。</p> <p>本講義では、最初に過去の記憶研究を概観するとともに、研究方法・実験方法についての理解を深める。次いで日常の記憶の様々な現象をもとに、意図的・無意図的な記憶の認知活動が行動に及ぼす影響を考えることを目標とする。</p>					
到達目標	記憶の不思議さ・重要性について理解を深めるとともに、その研究方法・実験的研究のあり方を修得する。					
評価方法	科目修了試験またはレポートにより評価					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>テキストの該当する箇所だけでなく、その他の関連文献を探して参考にすること。</p> <p>提出された課題レポートに、フィードバックとして、コメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	morii@kiui.ac.jp					

## 課 題 内 容

第1回	レポート課題	記憶の研究の基礎と理論
	レポート作成のポイント	心理学における記憶研究を、キーとなる実験の紹介・解説を含めながら概観する。
	参考文献	『認知心理学』 箱田・都築・川畑・萩原(著) 有斐閣.
	レポート提出期限	令和3年6月1日(火)
第2回	レポート課題	潜在記憶の研究法
	レポート作成のポイント	潜在記憶の具体的な研究方法, 実験例を示しながらまとめてください。
	参考文献	『認知心理学』 箱田・都築・川畑・萩原(著) 有斐閣.
	レポート提出期限	令和3年7月21日(水)
第3回	レポート課題	自伝的記憶の意義と研究法
	レポート作成のポイント	意図的想起と無意図的想起についても触れながら, どういう状況で想起されやすいのかなどについても触れること。
	参考文献	『自伝的記憶の心理学』 佐藤・越智・下島(編著) 北大路書房.
	レポート提出期限	令和3年9月7日(火)
第4回	レポート課題	記憶の変容と偽りの記憶について
	レポート作成のポイント	目撃証言や虚記憶などの具体的研究も踏まえ, 記憶のダイナミズムに触れること。
	参考文献	『法と倫理の心理学—心理学の知識を裁判に活かす 目撃証言, 記憶の回復, 子どもの証言』(心理学の世界 専門編) 仲真紀子(著) 培風館. 『つくられる偽りの記憶:あなたの思い出は本物か?』 越智啓太(著) 化学同人 .
	レポート提出期限	令和3年10月26日(火)
第5回	レポート課題	臨床的問題と記憶
	レポート作成のポイント	トラウマや抑鬱など, 具体的研究をあげながら, ある程度対象を絞ってまとめること。
	参考文献	『記憶心理学と臨床心理学のコラボレーション』 杉山・越智・丹藤(編著) 北大路書房.
	レポート提出期限	令和3年12月7日(日)
提出方法		web学修支援システムを利用し, 教務部通信教育事務課へ提出する。

科目名	臨床行動心理学研究	担当教員	藤吉晴美	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	4単位
テーマ	行動科学としての臨床心理学					
使用するテキスト	動作療法の治療過程 成瀬悟策編 誠信書房 動作のこころ―臨床ケースに学ぶ 成瀬悟策編 誠信書房					
講義概要・一般目標	<p>人間心理や行動を行動科学の観点から研究していく。適応障害としての異常行動，行動医学が対象としている身体表現性障害，非行，犯罪にみられる反社会的行動障害などがあり，その行動病理，発現機序さらにはその心理援助法について研究を行う。心理援助法については，様々なアプローチと臨床動作法の比較を行いながら，援助法の共通原理と特異性について考察を深める。</p>					
到達目標	ひとの生涯にわたる行動の問題について，機序を理解し対処法に関して習熟する。					
評価方法	科目修了試験またはレポートにより評価					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	提出された課題レポートにコメントを返します。 フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。					
教員メールアドレス	fujiyo@kiui.ac.jp					

## 課 題 内 容

第 1 回	レポ ー ト 課 題	乳・幼児期の行動病理について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	母親の精神不安と乳幼児の行動病理との関連性 睡眠・捕食・排泄などの困難 愛着障害 発達障害 コミュニケーション障害（言語発達の遅れ, 吃音, 選択性緘黙, 対人不安など）
	参 考 文 献	特に指定しない。
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和 3 年 6 月 1 日 (火)
第 2 回	レポ ー ト 課 題	児童期の行動病理について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	不登校, 起立性調節障害, 過敏性腸症候群 いじめ, 非行
	参 考 文 献	特に指定しない。
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和 3 年 7 月 2 1 日 (水)
第 3 回	レポ ー ト 課 題	思春期・青年期の行動病理について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	不安障害（恐怖症, パニック障害, 強迫性障害など） 自傷行為 摂食障害 人格障害 社会的引きこもり 依存症（ネット・ゲーム）
	参 考 文 献	特に指定しない。
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和 3 年 9 月 7 日 (火)
第 4 回	レポ ー ト 課 題	成人期・老年期の行動病理について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	気分障害 統合失調症 依存症（アルコール・薬物・ギャンブルなど） 認知症と異常行動 孤独と自殺
	参 考 文 献	特に指定しない。
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和 3 年 1 0 月 2 6 日 (火)
第 5 回	レポ ー ト 課 題	臨床動作学における行動変化の要因について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	臨床動作法による心理援助は, どのようなメカニズムでひとの行動を変容させる のかについてまとめる。自身が主として適用している心理援助技法と対比させて 考察することが望ましい。
	参 考 文 献	藤吉晴美 (2012). 転換性障害への臨床動作法による短期治療. 精神療法, 38 (6), 93-101. 鶴光代・藤吉晴美 (2017) 不安症患者への臨床動作法の適用. 精神科, 31(6), 522-527.
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和 3 年 1 2 月 7 日 (日)
提 出 方 法	web学修支援システムを利用し, 教務部通信教育事務課へ提出する。	

科目名	心理療法学研究	担当教員	津川秀夫	開講年次	授業形態	単位数
				1	T科目	4単位
テーマ	科学scienceとしての心理療法、芸術artとしての心理療法					
使用するテキスト	① 『認知行動療法とブリーフセラピーの接点』 津川秀夫・大野裕史（編著），日本評論社 ② 『ブリーフセラピー入門』日本ブリーフサイコセラピー学会（編），遠見書房 ③ 『ポジティブ認知行動療法：問題志向から解決志向へ』 F. バニンク（著），北大路書房					
講義概要・一般目標	<p>心理療法は科学であるかそれともアートであるか，古くから様々な議論が行われてきた。</p> <p>本科目では，エビデンス重視の認知行動療法（CBT），そして，ミルトン・エリクソンという名人に影響を受けたブリーフセラピーを題材にして，このテーマを考えていく。</p> <p>使用テキストを通して，CBTとブリーフセラピーの基本的なものの見方を理解するとともに，両者の相違点についても検討したい。またこれらを通して，受講者それぞれが自分の臨床的な立ち位置を捉えなおすことを期待する。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CBTとブリーフセラピーについて基本的な視座を理解する</li> <li>・ 両者の実践家のやりとり，そして，両者の統合の試みについて知る</li> </ul>					
評価方法	各回のレポートにより評価する					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する					
学修の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ テキストや参考文献はもちろん，課題に関連する書籍や論文を積極的に読み進めておくこと</li> <li>・ 日本心理学会の「執筆・投稿の手引き」にしたがって，レポートを作成すること</li> </ul> <p>フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	tsugawa@kiui.ac.jp					

## 課題内容

第1回	レポート課題	CBTにおけるアセスメントと介入について、「第1世代」「第2世代」「第3世代」に分けて説明せよ。
	レポート作成のポイント	抽象的な説明だけでなく具体例を交えて分かりやすく説明すること。
	参考文献	テキスト①および『実践家のための認知行動療法テクニックガイド』北大路書房
	レポート提出期限	令和3年6月1日(火)
第2回	レポート課題	ブリーフセラピーにおけるアセスメントと介入について、「解決志向ブリーフセラピー」「エリクソニアン・アプローチ」に分けて説明せよ。
	レポート作成のポイント	抽象的な説明だけでなく具体例を交えて分かりやすく説明すること。
	参考文献	テキスト①②および『ミルトン・エリクソン入門』金剛出版
	レポート提出期限	令和3年7月21日(水)
第3回	レポート課題	テキスト①の第Ⅲ部の事例から興味のあるものを一つ選び、「事例」「コメント」「リコメント」の要点をまとめた上で、自分の考えを述べよ。
	レポート作成のポイント	自分の考えを述べる際には、根拠(筆者らの記述, 先行研究など)を示すように心掛けること
	参考文献	テキスト①②
	レポート提出期限	令和3年9月7日(火)
第4回	レポート課題	ポジティブ心理学の知見のなかで、心理療法を実践する上で役立つと思われるものを一つ選び、分かりやすく説明せよ。
	レポート作成のポイント	概念や実験結果だけでなく、どのように心理療法に役立つかについて説明すること。
	参考文献	テキスト③および『ポジティブなこころの科学』サイエンス社
	レポート提出期限	令和3年10月26日(火)
第5回	レポート課題	ポジティブCBTについて分かりやすく説明せよ。
	レポート作成のポイント	抽象的な説明だけでなく具体例を交えて分かりやすく説明すること。
	参考文献	テキスト③
	レポート提出期限	令和3年12月7日(日)
提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部通信教育事務課へ提出する。

科目名	精神医学研究	担当教員	森 信 繁	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	4単位
テーマ	ストレスの分子脳科学					
使用するテキスト	教員の用意する文献（英文の科学論文が、多く提供される）。					
講義概要・一般目標	<p>精神疾患の発症には発症前の心理社会的ストレスが密接に関与しており、この観点から第一にストレスという心理的反応が生体の脳機能にどのようなメカニズムで変化を引き起こすかを学ぶ。次に代表的なストレス性精神障害である、「うつ病」・「外傷後ストレス障害（PTSD）」・「不安障害」の病態形成メカニズムについて、ストレス科学を前提に脳機能画像学や分子精神医学的な見地からその最先端の報告を学ぶ。その上で養育環境のおよぼすストレス脆弱性やレジリエンスの形成について、ストレスのエピジェネティクス機構も含めメカニズムを学ぶ。</p>					
到達目標	うつ病・PTSDなどの代表的ストレス性精神障害の病態形成メカニズムに対して、脳機能および分子精神医学的な観点からの最先端の知識を修得する。					
評価方法	科目修了試験またはレポートにより評価					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教員メールアドレス	smorinob@kiui.ac.jp					

## 課 題 内 容

第1回	レポート課題	脳科学・神経内分泌学からみたストレス
	レポート作成のポイント	ストレスがなぜ脳機能の変化を導くのか、そのメカニズムについてこれまでの脳科学および神経内分泌学領域の文献を参考に考察する。
	参考文献	教員の用意する文献。
	レポート提出期限	令和3年6月1日(火)
第2回	レポート課題	うつ病の病態形成に関与する分子病態メカニズム
	レポート作成のポイント	うつ病の病態形成の分子機序について、うつ病動物モデルや臨床分子生物学的研究の成果を踏まえ、脳由来神経栄養因子情報系の障害から考察する。
	参考文献	教員の用意する文献。
	レポート提出期限	令和3年7月21日(水)
第3回	レポート課題	外傷後ストレス障害(PTSD)の病態形成に関与する分子病態メカニズム
	レポート作成のポイント	外傷後ストレス障害の病態形成について、特に恐怖記憶の障害という観点からこれまでの動物モデルや臨床研究を踏まえて考察する。
	参考文献	教員の用意する文献。
	レポート提出期限	令和3年9月7日(火)
第4回	レポート課題	不安の脳科学
	レポート作成のポイント	不安という精神症状に対して、脳機能画像学や神経精神薬理学的な研究を参考に、その脳内メカニズムを考える。
	参考文献	教員の用意する文献。
	レポート提出期限	令和3年10月26日(火)
第5回	レポート課題	養育環境の分子精神医学
	レポート作成のポイント	不遇な養育環境のおよぼすストレス脆弱性や、豊かな養育環境のおよぼすレジリエンスの形成についての分子生物学的なメカニズムを考える。
	参考文献	教員の用意する文献。
	レポート提出期限	令和3年12月7日(日)
提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部通信教育事務課へ提出する。



科目名	発達障害学研究	担当教員	日上 耕 司	開講年次	授業形態	単位数
				1	T科目	4単位
テ ー マ	発達障害の基礎的知識と当事者およびその周辺の人々への支援について探究する。					
使用するテキスト	<p>「ケースで学ぶ行動分析による問題解決」          日本行動分析学会:編, 山本淳一・武藤崇・鎌倉やよい:責任編集, 金剛出版          「行動変容法入門」レイモンド・G・ミルテンバーガー・著, 二瓶社          「よくわかる発達障害 第2版」小野次朗・上野一彦・藤田継道:編, ミネルヴァ書房          「行動分析学入門——ヒトの行動の思いがけない理由」杉山尚子・著, 出版社名, 集英社新書          「使える行動分析学——じぶん実験のすすめ」島宗理・著, ちくま新書</p>					
講義概要・一般目標	<p>発達障害とは、中枢神経系の機能不全を背景として乳児期・児童期に発症する障害であり、代表的なものとしては、自閉スペクトラム症 (ASD: Autism Spectrum Disorder), 限局性学習症 (LD: Specific Learning Disorder), 注意欠如・多動症 (AD/HD: Attention-Deficit/Hyper-activity Disorder) などがある。これらの障害の特性と、その障害のある本人および周囲の人々への支援について、心理学的・行動論的な観点から探究する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論文検索システム等を用いて必要な研究論文を自力で入手することができる</li> <li>2. 限局性学習症, 自閉スペクトラム症, および注意欠如・多動症について, その定義や診断基準, およびこれらの共通点と相違点を説明することができる</li> <li>3. 限局性学習症, 自閉スペクトラム症, および注意欠如・多動症について, そのアセスメント方法を説明することができる</li> <li>4. 限局性学習症, 自閉スペクトラム症, および注意欠如・多動症について, その当事者と周囲の人々が直面する困難やその支援方法を説明することができる</li> </ol>					
評価方法	各回のレポートの内容と試験によって評価します。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>* 「使用するテキスト」に示した書籍は発達障害者への支援についての基礎知識として通読すること。          * レポートは日本心理学会の「心理学研究」の「執筆・投稿の手引き」に基づいて作成すること。          * 各会のレポート作成は下記にしたがうこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1回…アメリカ精神医学会によるDSM-IVとDSM-5 (いずれも邦訳版でよい) における各発達障害の分類や診断基準を述べ, その変化やその理由についての考察を述べる。</li> <li>・ 第2～5回…参考文献に挙げた学術雑誌から各回の課題に合致する論文を少なくとも2編以上精読し, 概要をまとめた上で総合的に考察を述べる。</li> </ul> <p>フィードバックとして, 提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	kiu-tsushin@office.jei.ac.jp					

課題内容		
第1回	レポート課題	発達障害の分類と特性
	レポート作成のポイント	自閉スペクトラム症, 限局性学習症, 注意欠如・多動症の共通点と相違点をまとめる。
	参考文献	DSM-IV-TR (American Psychiatric Association, 2002) DSM-5 (American Psychiatric Association, 2013)
	レポート提出期限	令和3年6月1日(火)
第2回	レポート課題	自閉スペクトラム症と心の理論
	レポート作成のポイント	社会性の障害と「心の理論 (Theory of Mind)」の関連を, 実験的事実を踏まえてまとめる。
	参考文献	行動分析学研究/特殊教育学研究/行動療法研究/Journal of Autism and Developmental Disorders/Journal of Applied Behavior Analysis/The Journal of Child Psychology and Psychiatry and Allied Disciplines など
	レポート提出期限	令和3年7月21日(水)
第3回	レポート課題	個人への介入
	レポート作成のポイント	発達障害児者本人の行動変容への介入手続きについてまとめる。適応行動の形成・獲得, 不適応行動の減少等に分けて論じること。
	参考文献	行動分析学研究/特殊教育学研究/行動療法研究/Journal of Applied Behavior Analysis/Journal of Autism and Developmental Disorders/The Journal of Child Psychology and Psychiatry and Allied Disciplines など
	レポート提出期限	令和3年9月7日(火)
第4回	レポート課題	家族支援
	レポート作成のポイント	発達障害児を持つ家族への支援についてまとめる。家族全体への支援, 親支援, きょうだいへの支援などのサブテーマがあろう。
	参考文献	行動分析学研究/特殊教育学研究/行動療法研究/Journal of Applied Behavior Analysis/Journal of Autism and Developmental Disorders/The Journal of Child Psychology and Psychiatry and Allied Disciplines など
	レポート提出期限	令和3年10月26日(火)
第5回	レポート課題	社会参加
	レポート作成のポイント	発達障害児者の社会参加への支援についてまとめる。地域生活, 就労, 余暇, 性などのサブテーマがあろう。
	参考文献	行動分析学研究/特殊教育学研究/行動療法研究/Journal of Applied Behavior Analysis/Journal of Autism and Developmental Disorders/The Journal of Child Psychology and Psychiatry and Allied Disciplines など
	レポート提出期限	令和3年12月7日(日)
提出方法		web学修支援システムを利用し, 教務部通信教育事務課へ提出する。

科目名	研究指導	担当教員	三宅俊治	開講年次	授業形態	単位数						
			森井康幸 森信繁 藤吉晴美 津川秀夫 橋本翠	1～3	TS科目	12単位						
テーマ	ヒトと認知活動と、心身的活動としての生態反応との関連性を理解する。											
使用するテキスト	各々の研究テーマ、研究内容、研究の進捗状況に応じて指導教員が適宜指示											
講義概要・一般目標	<p>基礎領域、応用領域の2領域から構成される専門的研究・教育に基づく研究活動の総括として、研究指導を位置づけ、博士論文作成に係る研究・指導を行う計画である。研究活動に必要な知識や方法論の修得については、院生一人ひとりの研究歴や臨床経験及び教育背景を考慮しながら、問題解決能力を自主的に高めることが出来るように支え、さらに効果的な研究活動に基づく博士論文作成が行われるよう指導する。(各々の研究内容や研究状況を踏まえて左記の教員の中から、指導教員・副指導教員が決定される。)</p> <p>(三宅俊治) 指導可能な専門分野〔生涯発達心理学的視点からみた適応行動, 健常不安, 中高年期の自我の発達, 動機の発達, 等々の分析〕</p> <p>(森井康幸) 指導可能な専門分野〔学習の基礎理論, 記憶の実験的研究〕</p> <p>(森信 繁) 指導可能な専門分野〔精神医学〕</p> <p>(藤吉晴美) 指導可能な専門分野〔臨床心理援助, 精神科心理臨床, 学校心理臨床, 地域精神保健〕</p> <p>(津川秀夫) 指導可能な専門分野〔臨床心理学, 問題行動の予防と介入, ストレングスの査定と活用〕</p> <p>(橋本 翠) 指導可能な専門分野〔音楽認知心理学, 生理心理学〕</p>											
到達目標	神経系の機能や生理反応の測定・記録から、認知、記憶、生涯発達、臨床などの心理学諸領域における斬新な所見と理論を生み出し、創造すること。											
評価方法	研究へ取り組む姿勢および博士論文の内容で評価する。											
オフィスアワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施します。											
学修の進め方	関連領域の論文、著書を、繰り返し、繰り返し、丁寧に読み、理解すると共に、思考と思索を深めていてもらいたい。 スクーリング最終時限で講義(授業)全体に対するフィードバックを行ないます。											
教員メールアドレス	三宅俊治	okmysj@kiui.ac.jp	森井康幸	morii@kiui.ac.jp	森信繁	smorinob@kiui.ac.jp	藤吉晴美	fujiyo@kiui.ac.jp	津川秀夫	tsugawa@kiui.ac.jp	橋本翠	m-hashiki@kiui.ac.jp

## スクーリング学修計画

1～4 (1年次) 夏期スクーリング 論文指導 1日目

5～8 (1年次) 夏期スクーリング 論文指導 2日目

9～12 (1年次) 冬期スクーリング 論文指導 1日目

13～16 (1年次) 冬期スクーリング 論文指導 2日目

17～19 (2年次) 夏期スクーリング 論文指導 1日目

20～23 (2年次) 夏期スクーリング 論文指導 2日目

24 博士論文第1次字中間発表

25～28 (2年次) 冬期スクーリング 論文指導 1日目

29～31 (2年次) 冬期スクーリング 論文指導 2日目

32 博士論文第2次中間発表

33～36 (3年次) 夏期スクーリング 論文指導 1日目

37～39 (3年次) 夏期スクーリング 論文指導 2日目

40 博士論文中間審査

41～44 (3年次) 冬期スクーリング 論文指導 1日目

45～47 (3年次) 冬期スクーリング 論文指導

48 博士論文発表・審査会

2021年度 シラバス（大学院（通信制））  
保健科学研究科 理学療法学専攻

（通信制）保健科学研究科 理学療法学専攻 修士課程

科目名	保健科学研究法	担当教員	齋藤 圭介	開講年次	授業形態	単位数
				1	T科目	2単位
テーマ	保健科学研究における「リサーチマインド・アンド・メソッド」					
使用するテキスト	・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子・木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年					
講義概要・一般目標	<p>我が国における保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障がい者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り込まれる等、多様化・専門分化が進んでいる。同時にEvidence-based medicine (EBM) やEvidence-based health care (EBH) 重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家である理学療法士が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、リサーチマインドを涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていく必要がある。</p> <p>これから諸君は、自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む事となるが、「科学」と呼ぶに相応しい研究を進めていくためには、研究のデザインと測定の方法論について熟知しなければならない。保健科学研究法は、本研究科の理念である「リサーチマインド・アンド・メソッド」を具体化する上で総論的な意味を有しており、保健科学分野の研究全般に共通して必要となる基本的な考え方と知識を修得する。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論文の読み方のポイントを身につけることができる。</li> <li>・保健科学的視座に立った研究デザインの基本的考え方を説明できる。</li> <li>・保健科学分野におけるサンプリングなどの研究手続きや基本的考え方を説明できる。</li> </ul>					
評価方法	科目修了試験により評価。口頭試問により学習内容の理解の深度を評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>レポート課題の出題内容は、理学療法学の研究を進めていく上で、広く保健科学研究の方法論を学修することをねらいにしたものである。また課題の順序性は、研究計画の具体化とリンクするよう設定している。</p> <p>レポート課題をまとめるにあたっての留意点として、レポート課題は、課題に即した自己学修成果をまとめる「学修成果のまとめ」、そして「自身の研究テーマとの関連」の二章で構成すること。効果的な学修の流れとして、上記の構成順に学修を進めること、参考文献に限らず他の書籍や先行研究の論文に広く目を通す姿勢が望ましい。</p> <p>フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	k_saito@kiui.ac.jp					

## 課題内容

第 1 回	レポート課題	保健科学に関連した研究疑問の設定について
	レポート作成のポイント	保健科学における研究は、臨床活動の経験から得られる疑問から取り組み始めることが常ではありますが、疑問点は漠然としていたり、研究テーマにならなかつたりすることは少なくありません。そこで、あなたの疑問点を適切な研究テーマとするために行うべき工夫について調べてください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、理想とする内容をまとめてください。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年 ・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第3版』 内山靖(編) 医学書院 2013年
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第 2 回	レポート課題	保健科学に関連した臨床研究を進めるための倫理的問題と対処手続き
	レポート作成のポイント	保健科学分野の研究に取り組むためには、生化学データの収集、疾病の経過や予後調査、計測や評価、あるいは治療的介入手法を研究対象者に適用していくことが多いですが、その場合には研究対象に対して様々な倫理的配慮を行う必要があります。そこで、あなたの臨床疑問に関係した生化学データの収集、疾病の経過や予後調査、計測や評価、あるいは治療的介入手法に対して、研究を進めていく場合の倫理的要件をまとめてください。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第 3 回	レポート課題	研究デザインを設定する必要性とその種類について
	レポート作成のポイント	保健科学分野の研究においては、適切な研究デザインの設定が求められます。あなたの臨床疑問について研究を進めていくと仮定した場合、なぜ研究デザインを設定する必要があるのか、その理由と意義についてまとめて下さい。また研究デザインの種類を列挙し、それぞれの特徴と位置付け、適用する研究の具体例についてまとめて下さい。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年 ・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第3版』 内山靖(編) 医学書院 2013年
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	保健科学研究法	担当教員	原田 和 宏	開講年次	授業形態	単位数
				1	T科目	2単位
テ ー マ	保健科学分野で求められるリサーチ・クエスチョン					
使用するテキスト	・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子・木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年					
講義概要・一般目標	<p>日本の保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障害者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り込まれる等、多様化・専門分化が進んでいる。同時にEvidence-based medicine (EBM) やEvidence-based health care (EBH) 重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家である理学療法士が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、リサーチマインドを涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかななくてはならない。</p> <p>今後、自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む事となるが、「科学」と呼ぶに相応しい研究を進めていくためには、研究のデザインと測定の方法論について熟知しなければならない。保健科学研究法は、本研究科の理念である「リサーチマインド・アンド・メソッド」を具体化する上で総論的な意味を有しており、保健科学分野の研究全般に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その基本的な考え方と知識について学修するものである。</p> <p>以上により、高度な医学的リハビリテーションに関する科学的知識、保健科学領域の問題解決に向けた論理的思考能力と表現技術を習得する。</p>					
到達目標	臨床現場で抱える問題や疑問を研究に結びつける視点、およびその問題と疑問の解決方法を科学的に具体的に説明できる。					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>レポート課題をまとめるに当たっての留意点：</p> <p>1頁目は表紙とし、課題名、学籍番号、氏名と共に提出日（第1回目、第2回目、最終提出日）を記載下さい。レポート本文では、テキストや文献資料を引用し、課題に関する一般的な知識を整理いただき、次に、自身の研究テーマ（仮）に当てはめて、その課題を考えてみて下さい。フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	k_harada@kiui.ac.jp					

## 課題内容

第 1 回	レポート課題	保健科学に関連した研究疑問の設定について
	レポート作成のポイント	保健科学における研究は、臨床活動の経験から得られる疑問から取り組み始めることが常ではありますが、疑問点は漠然としていたり、研究テーマにならなかったりすることは少なくありません。そこで、あなたの疑問点を適切な研究テーマとするために行うべき工夫について調べてください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、理想とする内容をまとめてください。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第 2 回	レポート課題	保健科学に関連した臨床研究を進めるための倫理的問題と対処手続き
	レポート作成のポイント	保健科学分野の研究に取り組むためには、生化学データの収集、疾病の経過や予後調査、計測や評価、あるいは治療的介入手法を研究対象者に適用していくことが多いですが、その場合には研究対象者に対して様々な倫理的配慮を行う必要があります。そこで、あなたの臨床疑問に関係した生化学データの収集、疾病の経過や予後調査、計測や評価、あるいは治療的介入手法に対して、研究を進めていく場合の倫理的要件をまとめてください。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第 3 回	レポート課題	対照群の設定と研究デザインについて
	レポート作成のポイント	リハビリテーション研究においては、治療の効果検証をはじめ、評価技術や予後の特徴を検討する場合にも対照群(コントロール群)を設定することが多いです。そこで、あなたの臨床疑問点について研究を進めていくと仮定した場合、どのような比較対象を設定する必要があるのか、またどのように募集したり準備したりするべきであるのかまとめてください。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。



科目名	保健科学研究法	担当教員	井上 茂 樹	開講年次	授業形態	単位数
				1	T科目	2単位
テ ー マ	保健科学研究における「リサーチマインド・アンド・メソッド」					
使用するテキスト	・『医学的研究のデザイン 第3版』 木原雅子・木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2009年					
講義概要・一般目標	<p>我が国における保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障害者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り組まれる等、多様化・専門分化が進んでいる。同時にEvidence-based medicine (EBM) やEvidence-based health care (EBH) 重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家である理学療法士が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、リサーチマインドを涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかななくてはならない。</p> <p>これから諸君は、自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む事となるが、「科学」と呼ぶに相応しい研究を進めていくためには、研究のデザインと測定の方法論について熟知しなければならない。保健科学研究法は、本研究科の理念である「リサーチマインド・アンド・メソッド」を具体化する上で総論的な意味を有しており、保健科学分野の研究全般に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その基本的な考え方と知識について学修するものである。</p>					
到達目標	保健科学分野の研究全般に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その基本的な考え方と知識について理解することを目標とする。					
評価方法	科目修了試験により評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>教員が提示する資料、指定したテキスト、参考図書、参考文献等により自ら学修・研究を進めていただきます。研究方法論に関する内容を学修・修得することはインターネット上の学外授業では限界があることから、スクーリングにおける解説・指導を行います。</p> <p>フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	s_inoue@kiui.ac.jp					

## 課題内容

第 1 回	レポート課題	保健科学に関連した研究疑問の設定について
	レポート作成のポイント	保健科学における研究は、臨床活動の経験から得られる疑問から取り組み始めることが常ではありますが、疑問点は漠然としていたり、研究テーマにならなかったりすることは少なくありません。そこで、あなたの疑問点を適切な研究テーマとするために行うべき工夫について調べてください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、理想とする内容をまとめてください。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第3版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2009年 ・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第2版』 内山靖(編) 医学書院 2006年
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第 2 回	レポート課題	保健科学に関連した臨床研究を進めるための倫理的問題と対処手続き
	レポート作成のポイント	保健科学分野の研究に取り組むためには、生化学データの収集、疾病の経過や予後調査、計測や評価、あるいは治療的介入手法を研究対象者に適用していくことが多いですが、その場合には研究対象に対して様々な倫理的配慮を行う必要があります。そこで、あなたの臨床疑問に関係した生化学データの収集、疾病の経過や予後調査、計測や評価、あるいは治療的介入手法に対して、研究を進めていく場合の倫理的要件をまとめてください。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第3版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2009年
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第 3 回	レポート課題	研究デザインを設定する必要性とその種類について
	レポート作成のポイント	保健科学分野の研究においては、適切な研究デザインの設定が求められます。あなたの臨床疑問について研究を進めていくと仮定した場合、なぜ研究デザインを設定する必要があるのか、その理由と意義についてまとめて下さい。また研究デザインの種類を列挙し、それぞれの特徴と位置付け、適用する研究の具体例についてまとめて下さい。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第3版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2009年 ・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第2版』 内山靖(編) 医学書院 2006年
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	保健科学研究法	担当教員	森下元賀	開講年次	授業形態	単位数
				1	T科目	2単位
テーマ	保健科学研究における「リサーチマインド・アンド・メソッド」					
使用するテキスト	・『医学的研究のデザイン 第3版』 木原雅子・木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2009年 ・『理学療法NAVI 臨床研究 first stage』 網本和・高倉保幸編 医学書院 2017年					
講義概要・一般目標	<p>我が国における保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障害者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り込まれる等、多様化・専門分化が進んでいる。同時にEvidence-based medicine (EBM) やEvidence-based health care (EBH) 重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家である理学療法士が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、リサーチマインドを涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかななくてはならない。</p> <p>これから諸君は、自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む事となるが、「科学」と呼ぶに相応しい研究を進めていくためには、研究のデザインと測定の方法論について熟知しなければならない。保健科学研究法は、本研究科の理念である「リサーチマインド・アンド・メソッド」を具体化する上で総論的な意味を有しており、保健科学分野の研究全般に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その基本的な考え方と知識について学修するものである。</p>					
到達目標	<p>保健科学における研究疑問を定式化できる。</p> <p>保健科学の研究における倫理的配慮について列挙できる。</p> <p>保健科学に関する研究デザインについて説明できる。</p> <p>保健科学に関する研究デザインの具体例を挙げる事が出来る。</p>					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>研究疑問の設定やデザインの設定など、大学院で進める研究の基本的な考え方を学習します。</p> <p>自身の研究テーマに関して、いま一度教科書や文献などから内容を整理して考えてみてください。</p> <p>フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	m_mori@kiui.ac.jp					

## 課題内容

第 1 回	レポート課題	保健科学に関連した研究疑問の設定について
	レポート作成のポイント	保健科学における研究は、臨床活動の経験から得られる疑問から取り組み始めることが常ではありますが、疑問点は漠然としていたり、研究テーマにならなかったりすることは少なくありません。そこで、あなたの疑問点を適切な研究テーマとするために行うべき工夫について調べてください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、理想とする内容をまとめてください。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第3版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2009年 ・『理学療法 NAVI 臨床研究 first stage』 網本和・高倉保幸編 医学書院 2017年
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第 2 回	レポート課題	保健科学に関連した臨床研究を進めるための倫理的問題と対処手続き
	レポート作成のポイント	保健科学分野の研究に取り組むためには、生化学データの収集、疾病の経過や予後調査、計測や評価、あるいは治療的介入手法を研究対象者に適用していくことが多いですが、その場合には研究対象に対して様々な倫理的配慮を行う必要があります。そこで、あなたの臨床疑問に関係した生化学データの収集、疾病の経過や予後調査、計測や評価、あるいは治療的介入手法に対して、研究を進めていく場合の倫理的要件をまとめてください。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第3版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2009年 ・『理学療法 NAVI 臨床研究 first stage』 網本和・高倉保幸編 医学書院 2017年
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第 3 回	レポート課題	研究デザインを設定する必要性とその種類について
	レポート作成のポイント	保健科学分野の研究においては、適切な研究デザインの設定が求められます。あなたの臨床疑問について研究を進めていくと仮定した場合、なぜ研究デザインを設定する必要があるのか、その理由と意義についてまとめて下さい。また研究デザインの種類を列挙し、それぞれの特徴と位置付け、適用する研究の具体例についてまとめて下さい。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第3版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2009年 ・『理学療法 NAVI 臨床研究 first stage』 網本和・高倉保幸編 医学書院 2017年
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	保健科学研究法	担当教員	香川 幸次郎	開講年次	授業形態	単位数
				1	T科目	2単位
テーマ	保健科学分野で求められるリサーチ・クエスチョン					
使用するテキスト	・『医学的研究のデザイン 第3版』 木原雅子・木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2009年					
講義概要・一般目標	<p>日本の保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障害者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り込まれる等、多様化・専門分化が進んでいる。同時にEvidence-based medicine (EBM) やEvidence-based health care (EBH) 重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家である理学療法士が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、リサーチマインドを涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかななくてはならない。</p> <p>今後、自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む事となるが、「科学」と呼ぶに相応しい研究を進めていくためには、研究のデザインと測定の方法論について熟知しなければならない。保健科学研究法は、本研究科の理念である「リサーチマインド・アンド・メソッド」を具体化する上で総論的な意味を有しており、保健科学分野の研究全般に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その基本的な考え方と知識について学修するものである。</p> <p>以上により、高度な医学的リハビリテーションに関する科学的知識、保健科学領域の問題解決に向けた論理的思考能力と表現技術を習得する。</p>					
到達目標	臨床現場で抱える問題や疑問を研究に結びつける視点、およびその問題と疑問の解決方法を科学的に具体的に説明できる。					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	事前：研究テーマに沿った領域の文献を読み込む。事後：研究疑問の座標軸（自己の研究の位置づけ）を確かなものにする。フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教員メールアドレス	別途指示					

## 課題内容

第1回	レポート課題	保健科学に関連した研究疑問の設定について
	レポート作成のポイント	保健科学における研究は、臨床活動の経験から得られる疑問から取り組み始めることが常ではありますが、疑問点は漠然としていたり、研究テーマにならなかったりすることは少なくありません。そこで、あなたの疑問点を適切な研究テーマとするために行うべき工夫について調べてください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、理想とする内容をまとめてください。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第3版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2009年
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第2回	レポート課題	保健科学に関連した臨床研究を進めるための倫理的問題と対処手続き
	レポート作成のポイント	保健科学分野の研究に取り組むためには、生化学データの収集、疾病の経過や予後調査、計測や評価、あるいは治療的介入手法を研究対象者に適用していくことが多いですが、その場合には研究対象に対して様々な倫理的配慮を行う必要があります。そこで、あなたの臨床疑問に関係した生化学データの収集、疾病の経過や予後調査、計測や評価、あるいは治療的介入手法に対して、研究を進めていく場合の倫理的要件をまとめてください。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第3版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2009年
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第3回	レポート課題	対照群の設定と研究デザインについて
	レポート作成のポイント	リハビリテーション研究においては、治療の効果検証をはじめ、評価技術や予後の特徴を検討する場合にも対照群(コントロール群)を設定することが多いです。そこで、あなたの臨床疑問点について研究を進めていくと仮定した場合、どのような比較対象を設定する必要があるのか、またどのように募集したり準備したりするべきであるのかまとめてください。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第3版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2009年
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	理学療法学研究法	担当教員	齋藤 圭介	開講年次	授業形態	単位数
				1	T科目	2単位
テーマ	理学療法学分野の研究における「リサーチマインド・アンド・メソッド」					
使用するテキスト	<p>・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第3版』 内山靖・島田裕之（編） 医学書院 2013年</p> <p>・『医療専門職のための研究論文の読み方ー批判的吟味がわかるポケットガイド』 クロンビー， イアン・K著， 津富宏訳 金剛出版 2007年</p> <p>・『あなたもできるデータの処理と解析』 岩淵千明（編著） 福村出版 1997年</p>					
講義概要・一般目標	<p>臨床の科学である理学療法は，人間を身体的，精神・心理的そして社会的諸側面から複合的に捉え，治療し，支援していくものである。それ故，「理学療法学」の学術的発展と，科学的視座に立った評価と支援方法を確立するためには，臨床上の問題や疑問を研究に結びつける思考や技術を養い，科学的エビデンスの蓄積を進めなくてはならない。</p> <p>理学療法学研究法は，保健科学研究法に引き続き，本研究科の理念である「リサーチマインド・アンド・メソッド」を具体化する必修科目として設定し，理学療法分野の研究を遂行する上で必要となる基本的な考え方と知識について学修を行うものである。具体的には，理学療法における実践能力の向上をめざすとともに，修士課程で自らの研究計画を設計していくための研究デザインや測定方法論の基礎知識を修得する。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法学分野における，症例研究や介入方法論をも含めた各種研究における研究デザインの基本的位置づけや考え方を説明できる。</li> <li>・理学療法学分野の研究における測定と評価の基本的考え方を説明できる。</li> <li>・研究成果を公表する上で必要となる統計処理の一般的方法論を説明できる。</li> </ul>					
評価方法	科目修了試験により評価。口頭試問により学習内容の理解の深度を評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>レポート課題の出題内容は，「保健科学研究法」の課題と共に，理学療法学の研究を進めていく上で必要な研究方法論について学修することをねらいにしたものである。課題の順序性は，研究計画の具体化とリンクするよう設定している。</p> <p>レポート課題をまとめるにあたっての留意点として，レポート課題は，課題に即した自己学修成果をまとめる「学修成果のまとめ」，そして「自身の研究テーマとの関連」の二章で構成すること。効果的な学修の流れとして，上記の構成順に学修を進めること，参考文献に限らず他の書籍や先行研究の論文に広く目を通す姿勢が望ましい。フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	k_saito@kiui.ac.jp					

## 課題内容

第 1 回	レポート課題	理学療法学研究における文献レビューと対象の選定
	レポート作成のポイント	研究デザインを設計するためには、文献レビューは不可避です。文献検索などによって収集した論文について、どういった視点からどんな情報を読みとっていくべきなのかについてまとめてください。また、あなたの臨床上の疑問や研究疑問を実証するための対象の選定について、適格条件（組み入れ／除外基準）について検討してください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、現時点で想定される望ましい内容について述べてください。
	参考文献	・『医療専門職のための研究論文の読み方－批判的吟味がわかるポケットガイド』 クロンビー， イアン・K著， 津富宏訳 金剛出版 2007年
	レポート提出期限	令和3年6月30日（水）
第 2 回	レポート課題	理学療法学研究における relevance（関連性）
	レポート作成のポイント	一般的に研究は、得られた成果が何らかの事象に貢献する事が必要であり、理学療法学の発展や対象者の利益につながる必要があります。そこで、あなたの臨床上の疑問や研究疑問を実証した場合にどのような利益（臨床的な意義や学術的な意義）がもたらされることになるのかまとめてください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、現時点で想定される内容について述べてください。
	参考文献	・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第3版』 内山靖・島田裕之（編） 医学書院 2013年 ・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子， 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年
	レポート提出期限	令和3年9月30日（木）
第 3 回	レポート課題	理学療法学研究において必要となる基本的な統計手法の整理
	レポート作成のポイント	測定によって得られたデータは、そのままの状態ではデータでしかありません。何らかの事象を証明するためには統計処理が不可欠であり、研究目的やデータの種類に即し適切な手法を選択し実証しなければなりません。ここでは、代表的な統計手法である「差の検定（群間比較，前後比較，変化パターンの比較）」ならびに「相関分析」について種類を列挙し、それぞれの特徴と位置付け，適用する研究の具体例についてまとめて下さい。またデータの種類（尺度）とパラメトリック検定・ノンパラメトリック検定との関係について考察してください。
	参考文献	・『あなたもできるデータの処理と解析』岩淵千明（編著） 福村出版 1997年
	レポート提出期限	令和3年12月10日（金）
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。



科目名	理学療法学研究法	担当教員	原田 和 宏	開講年次	授業形態	単位数
				1	T科目	2単位
テ ー マ	理学療法学分野で求められる研究デザインの設計					
使用するテキスト	<p>・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第3版』 内山靖・島田裕之（編） 医学書院 2013年</p> <p>・『医療専門職のための研究論文の読み方－批判的吟味がわかるポケットガイド』 クロンビー， イアン・K著， 津富宏訳金剛出版 2007年</p>					
講義概要・一般目標	<p>臨床の科学である理学療法は，人間を身体的，精神・心理的そして社会的諸側面から複合的に捉え，治療し，支援していくものである。それ故，「理学療法学」の学術的発展と，科学的視座に立った評価と支援方法を確立するためには，臨床上の問題や疑問を研究に結びつける思考や技術を養い，科学的エビデンスの蓄積を進めなくてはならない。</p> <p>理学療法学研究法は，保健科学研究法に引き続き，本研究科の理念である「リサーチマインド・アンド・メソッド」を具体化する必修科目として設定し，理学療法分野の研究を遂行する上で必要となる基本的な考え方と知識について学修を行うものである。具体的には，理学療法における実践能力の向上をめざすとともに，修士課程で自らの研究計画を設計していくための研究デザインや測定方法論の基礎知識について学修を進め，研究デザインの設計，症例研究法，測定・評価法，介入方法論，研究成果を公表する方法等について習得する。</p>					
到達目標	臨床現場で抱える問題や疑問を研究に結びつける視点，およびその問題と疑問の解決方法を理学療法的でかつ具体的に説明できる。					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>レポート課題をまとめるに当たっての留意点：</p> <p>1頁目は表紙とし，課題名，学籍番号，氏名と共に提出日（第1回目，第2回目，最終提出日）を記載下さい。レポート本文では，テキストや文献資料を引用し，課題に関する一般的な知識を整理いただき，次に，自身の研究テーマ（仮）に当てはめて，その課題を考えてみて下さい。</p> <p>フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教 員 メールアドレス	k_harada@kiui.ac.jp					

## 課題内容

第 1 回	レポート課題	理学療法学研究における文献レビューと対象の選定
	レポート作成のポイント	研究デザインを設計するためには、文献レビューは不可欠です。文献検索などによって収集した論文について、どういった視点からどんな情報を読みとっていくべきなのかについてまとめてください。また、あなたの臨床上の疑問や研究疑問を実証するための対象の選定について、適格条件（組み入れ／除外基準）について検討してください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、現時点で想定される望ましい内容について述べてください。
	参考文献	・『医療専門職のための研究論文の読み方－批判的吟味がわかるポケットガイド』 クロンビー，イアン・K著，津富宏訳金剛出版 2007年 ・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子，木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年
	レポート提出期限	令和3年6月30日（水）
第 2 回	レポート課題	理学療法学研究における relevance（関連性）
	レポート作成のポイント	一般的に研究は、得られた成果が何らかの事象に貢献する事が必要であり、理学療法学の発展や対象者の利益につながる必要があります。そこで、あなたの臨床上の疑問や研究疑問を実証した場合にどのような利益（臨床的な意義や学術的な意義）がもたらされることになるのかまとめてください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、現時点で想定される内容について述べてください。
	参考文献	・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第3版』 内山靖・島田裕之（編） 医学書院 2013年 ・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子，木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年
	レポート提出期限	令和3年9月30日（木）
第 3 回	レポート課題	理学療法学研究における比較のための統計的配慮
	レポート作成のポイント	研究はその知見の一般化，さらには科学的発展を遂げるために、信憑性のある成果の公表を図っていかなければいけません。理学療法学研究についても同様ですが、その前提として信憑性のある成果を得るために統計処理を行うことが多いです。ここでは、理学療法学で多用される「比較」の手法（群間比較，前後比較，変化パターンの比較）について、あなたの研究テーマに照らしながら、データのタイプ，統計手法，結果の解釈をまとめてください。
	参考文献	・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第3版』 内山靖・島田裕之（編） 医学書院 2013年 ・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子，木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年
	レポート提出期限	令和3年12月10日（金）
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	理学療法学研究法	担当教員	井上 茂 樹	開講年次	授業形態	単位数
				1	T科目	2単位
テ ー マ	理学療法学分野の研究における「リサーチマインド・アンド・メソッド」					
使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第3版』 内山靖・島田裕之（編） 医学書院 2013年</li> <li>・『医療専門職のための研究論文の読み方－批判的吟味がわかるポケットガイド』 クロンビー， イアン・K著，津富宏訳 金剛出版 2007年</li> <li>・『あなたもできるデータの処理と解析』 岩淵千明（編著） 福村出版 1997年</li> </ul>					
講義概要・一般目標	<p>臨床の科学である理学療法は，人間を身体的，精神・心理的そして社会的諸側面から複合的に捉え，治療し，支援していくものである。それ故，「理学療法学」の学術的発展と，科学的視座に立った評価と支援方法を確立するためには，臨床上の問題や疑問を研究に結びつける思考や技術を養い，科学的エビデンスの蓄積を進めなくてはならない。</p> <p>理学療法学研究法は，保健科学研究法に引き続き，本研究科の理念である「リサーチマインド・アンド・メソッド」を具体化する必修科目として設定し，理学療法分野の研究を遂行する上で必要となる基本的な考え方と知識について学修を行うものである。具体的には，理学療法における実践能力の向上をめざすとともに，修士課程で自らの研究計画を設計していくための研究デザインや測定方法論の基礎知識について学修を進め，研究デザインの設計，症例研究法，測定・評価法，介入方法論，研究成果を公表する方法等について習得することを目標とする。</p>					
到達目標	修士課程で自らの研究計画を設計していくための研究デザインや測定方法論の基礎知識について学修を進め，研究デザインの設計，症例研究法，測定・評価法，介入方法論，研究成果を公表する方法等が説明できる。					
評価方法	科目修了試験により評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	教員が提示する資料，指定したテキスト，参考図書，参考文献等により自ら学修・研究を進めていただきます。研究方法論に関する内容を学修・修得することはインターネット上の学外授業では限界があることから，スクーリングにおける解説・指導を行います。フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。					
教員メールアドレス	s_inoue@kiui.ac.jp					

## 課題内容

第 1 回	レポート課題	理学療法学研究における文献レビューと対象の選定
	レポート作成のポイント	研究デザインを設計するためには、文献レビューは不可避です。文献検索などによって収集した論文について、どういった視点からどんな情報を読みとっていくべきなのかについてまとめてください。また、あなたの臨床上の疑問や研究疑問を実証するための対象の選定について、適格条件（組み入れ／除外基準）について検討してください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、現時点で想定される望ましい内容について述べてください。
	参考文献	・『医療専門職のための研究論文の読み方－批判的吟味がわかるポケットガイド』 クロンビー， イアン・K 著， 津富宏訳 金剛出版 2007 年
	レポート提出期限	令和3年6月30日（水）
第 2 回	レポート課題	理学療法学研究における relevance（関連性）
	レポート作成のポイント	一般的に研究は、得られた成果が何らかの事象に貢献する事が必要であり、理学療法学の発展や対象者の利益につながる必要があります。そこで、あなたの臨床上の疑問や研究疑問を実証した場合にどのような利益（臨床的な意義や学術的な意義）がもたらされることになるのかまとめてください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、現時点で想定される内容について述べてください。
	参考文献	・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第3版』 内山靖・島田裕之（編） 医学書院 2013 年 ・『医学的研究のデザイン 第3版』 木原雅子， 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2009 年
	レポート提出期限	令和3年9月30日（木）
第 3 回	レポート課題	理学療法学研究において必要となる基本的な統計手法の整理
	レポート作成のポイント	測定によって得られたデータは、そのままの状態ではデータでしかありません。何らかの事象を証明するためには統計処理が不可欠であり、研究目的やデータの種類の即し適切な手法を選択し実証しなければなりません。ここでは、代表的な統計手法である「差の検定（群間比較，前後比較，変化パターンの比較）」ならびに「相関分析」について種類を列挙し、それぞれの特徴と位置付け，適用する研究の具体例についてまとめて下さい。またデータの種類（尺度）とパラメトリック検定・ノンパラメトリック検定との関係について考察してください。
	参考文献	・『あなたもできるデータの処理と解析』岩淵千明（編著） 福村出版 1997 年
	レポート提出期限	令和3年12月10日（金）
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	理学療法学研究法	担当教員	森下元賀	開講年次	授業形態	単位数
				1	T科目	2単位
テーマ	理学療法学分野の研究における「リサーチマインド・アンド・メソッド」					
使用するテキスト	<p>・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第3版』 内山靖・島田裕之（編） 医学書院 2013年</p> <p>・『医療専門職のための研究論文の読み方－批判的吟味がわかるポケットガイド』 クロンビー， イアン・K著， 津富宏訳 金剛出版 2007年</p> <p>・『医療系研究論文の読み方・まとめ方——論文のPECOから正しい統計的判断まで』 対馬栄輝著 東京図書 2010年</p>					
講義概要・一般目標	<p>臨床の科学である理学療法は、人間を身体的、精神・心理的そして社会的諸側面から複合的に捉え、治療し、支援していくものである。それ故、「理学療法学」の学術的発展と、科学的視座に立った評価と支援方法を確立するためには、臨床上の問題や疑問を研究に結びつける思考や技術を養い、科学的エビデンスの蓄積を進めなくてはならない。</p> <p>理学療法学研究法は、保健科学研究法に引き続き、本研究科の理念である「リサーチマインド・アンド・メソッド」を具体化する必修科目として設定し、理学療法分野の研究を遂行する上で必要となる基本的な考え方と知識について学修を行うものである。具体的には、理学療法における実践能力の向上をめざすとともに、修士課程で自らの研究計画を設計していくための研究デザインや測定方法論の基礎知識について学修を進め、研究デザインの設計、症例研究法、測定・評価法、介入方法論、研究成果を公表する方法等について習得することを目標とする。</p>					
到達目標	<p>理学療法学に関する文献の批判的吟味を行うことが出来る。</p> <p>理学療法学の研究の対象の基準について説明できる。</p> <p>理学療法学の研究意義に関して説明できる。</p> <p>理学療法学研究に関する統計学的手法をそれぞれ説明することが出来る。</p>					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>大学院の研究を進めるにあたっての意義や解析の方法を学んでいきます。自身の研究を振り返り、教科書や文献からいま一度意義や予定する解析の方法を整理してください。</p> <p>フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	m_mori@kiui.ac.jp					

## 課題内容

第 1 回	レポート課題	理学療法学研究における文献レビューと対象の選定
	レポート作成のポイント	研究デザインを設計するためには、文献レビューは不可避です。文献検索などによって収集した論文について、どういった視点からどんな情報を読みとっていくべきなのかについてまとめてください。また、あなたの臨床上の疑問や研究疑問を実証するための対象の選定について、適格条件（組み入れ／除外基準）について検討してください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、現時点で想定される望ましい内容について述べてください。
	参考文献	・『医療専門職のための研究論文の読み方－批判的吟味がわかるポケットガイド』クロンビー， イアン・K著，津富宏訳 金剛出版 2007年
	レポート提出期限	令和3年6月30日（水）
第 2 回	レポート課題	理学療法学研究における relevance（関連性）
	レポート作成のポイント	一般的に研究は、得られた成果が何らかの事象に貢献する事が必要であり、理学療法学の発展や対象者の利益につながる必要があります。そこで、あなたの臨床上の疑問や研究疑問を実証した場合にどのような利益（臨床的な意義や学術的な意義）がもたらされることになるのかまとめてください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、現時点で想定される内容について述べてください。
	参考文献	・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第3版』 内山靖・島田裕之（編） 医学書院 2013年 ・『理学療法 NAVI 臨床研究 first stage』 網本和・高倉保幸編 医学書院 2017年
	レポート提出期限	令和3年9月30日（木）
第 3 回	レポート課題	理学療法学研究において必要となる基本的な統計手法の整理
	レポート作成のポイント	測定によって得られたデータは、そのままの状態ではデータでしかありません。何らかの事象を証明するためには統計処理が不可欠であり、研究目的やデータの種類に即し適切な手法を選択し実証しなければなりません。ここでは、代表的な統計手法である「差の検定（群間比較，前後比較，変化パターンの比較）」ならびに「相関分析」について種類を列挙し、それぞれの特徴と位置付け、適用する研究の具体例についてまとめて下さい。またデータの種類（尺度）とパラメトリック検定・ノンパラメトリック検定との関係について考察してください。
	参考文献	・『医療系研究論文の読み方・まとめ方——論文のPEC0から正しい統計的判断まで』 対馬栄輝著 東京図書 2010年
	レポート提出期限	令和3年12月10日（金）
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	理学療法学研究法	担当教員	香川 幸次郎	開講年次	授業形態	単位数
				1	T科目	2単位
テーマ	理学療法学分野の研究で求められる「リサーチマインド・アンド・メソッド」について					
使用するテキスト	<p>・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第3版』 内山靖・島田裕之（編） 医学書院 2013年</p> <p>・『医療専門職のための研究論文の読み方－批判的吟味がわかるポケットガイド』 クロンビー， イアン・K著，津富宏訳 金剛出版 2007年</p> <p>・『あなたもできるデータの処理と解析』 岩淵千明（編著） 福村出版 1997年</p>					
講義概要・一般目標	<p>臨床の科学である理学療法は、人間を身体的、精神・心理的そして社会的諸側面から複合的に捉え、治療し、支援していくものである。それ故、「理学療法学」の学術的発展と、科学的視座に立った評価と支援方法を確立するためには、臨床上の問題や疑問を研究に結びつける思考や技術を養い、科学的エビデンスの蓄積を進めなくてはならない。</p> <p>理学療法学研究法は、保健科学研究法に引き続き、本研究科の理念である「リサーチマインド・アンド・メソッド」を具体化する必修科目として設定し、理学療法分野の研究を遂行する上で必要となる基本的な考え方と知識について学修を行うものである。具体的には、理学療法における実践能力の向上をめざすとともに、修士課程で自らの研究計画を設計していくための研究デザインや測定方法論の基礎知識について学修を進め、研究デザインの設計、症例研究法、測定・評価法、介入方法論、研究成果を公表する方法等について習得することを目標とする。</p>					
到達目標	臨床現場で抱える問題や疑問を研究に結びつける視点、およびその問題と疑問の解決方法を理学療法的でかつ具体的に説明できる。					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	事前：研究方法や具体的な研究の進め方を学習する。事後：自己の研究手順のイメージ化を図れるようにする。フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教員メールアドレス	別途指示					

## 課題内容

第 1 回	レポート課題	理学療法学研究における文献レビューと対象の選定
	レポート作成のポイント	研究デザインを設計するためには、文献レビューは不可避です。文献検索などによって収集した論文について、どういった視点からどんな情報を読みとっていくべきなのかについてまとめてください。また、あなたの臨床上の疑問や研究疑問を実証するための対象の選定について、適格条件（組み入れ／除外基準）について検討してください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、現時点で想定される望ましい内容について述べてください。
	参考文献	・『医療専門職のための研究論文の読み方－批判的吟味がわかるポケットガイド』 クロンビー， イアン・K著， 津富宏訳 金剛出版 2007年
	レポート提出期限	令和3年6月30日（水）
第 2 回	レポート課題	理学療法学研究における relevance（関連性）
	レポート作成のポイント	一般的に研究は、得られた成果が何らかの事象に貢献する事が必要であり、理学療法学の発展や対象者の利益につながる必要があります。そこで、あなたの臨床上の疑問や研究疑問を実証した場合にどのような利益（臨床的な意義や学術的な意義）がもたらされることになるのかまとめてください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、現時点で想定される内容について述べてください。
	参考文献	・『標準理学療法学専門分野 理学療法研究法 第3版』 内山靖・島田裕之（編） 医学書院 2013年 ・『医学的研究のデザイン 第3版』 木原雅子， 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2009年
	レポート提出期限	令和3年9月30日（木）
第 3 回	レポート課題	理学療法学研究において必要となる基本的な統計手法の整理
	レポート作成のポイント	測定によって得られたデータは、そのままの状態ではデータでしかありません。何らかの事象を証明するためには統計処理が不可欠であり、研究目的やデータの種類の即し適切な手法を選択し実証しなければなりません。ここでは、代表的な統計手法である「差の検定（群間比較，前後比較，変化パターンの比較）」ならびに「相関分析」について種類を列挙し、それぞれの特徴と位置付け，適用する研究の具体例についてまとめて下さい。またデータの種類（尺度）とパラメトリック検定・ノンパラメトリック検定との関係について考察してください。
	参考文献	・『あなたもできるデータの処理と解析』岩淵千明（編著）福村出版 1997年
	レポート提出期限	令和3年12月10日（金）
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。



科目名	理学療法学研究法演習	担当教員	齋藤圭介 原田和宏 香川幸次郎	開講年次	授業形態	単位数
				1年	S科目	2単位
テーマ	この講義は、理学療法分野の研究を遂行する上で必要となる基本的な考え方と知識について学修を行うものである。					
使用するテキスト	適宜、資料を配布する。					
講義概要・一般目標	臨床の科学である理学療法は、人間を身体的、精神・心理的そして社会的諸側面から複合的に捉え、治療し、支援していくものである。それ故、「理学療法学」の学術的発展と、科学的視座に立った評価と支援方法を確立するためには、臨床上の問題や疑問を研究に結びつける思考や技術を養い、科学的エビデンスの蓄積を進めなくてはならない。本演習では、本研究科の理念である「リサーチマインド・アンド・メソッド」を修得する。					
到達目標	理学療法における実践能力の向上をめざすとともに、修士課程で自らの研究計画を設計していくための研究デザインや測定方法論の基礎知識について学修を進め、研究デザインの設計、症例研究法、測定・評価法、介入方法論、研究成果を公表する方法等について習得を目標とする。					
評価方法	スクーリングの際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>「スクーリングまでの事前学修事項」</p> <p>研究計画案の発表用のスライドと事前配布資料を準備しましょう。事前配付資料の内容は別途連絡をいたします。入学後から夏期スクーリングまでに作業してきたことを振り返り、スムーズに取り組めたこと、難しかったこと、時間がかかったこと、全く手が付けられなかったことを整理しましょう。</p> <p>「スクーリング終了後の学修事項」</p> <p>3日間のスクーリングの内容を基に、秋期スクーリングまでの作業の内容と優先順位を考えて取り組んでいきます。</p> <p>スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行いません。</p>					
教員メールアドレス	k_saito@kiui.ac.jp（齋藤）、 k_harada@kiui.ac.jp（原田）、別途指示（香川）					

## スクーリング学修計画

1. リサーチマインド入門編（香川）
2. 研究計画の発表（齋藤・原田）
3. 研究計画への質疑応答（齋藤・原田）
4. 研究デザインの修正（齋藤・原田）
5. 修論中間発表会の聴講（齋藤・原田）
6. 修論中間発表内容への質疑（齋藤・原田）
7. 理学療法学研究の基礎（齋藤）
8. 研究結果の信憑性（原田）
9. 測定・関連と因果（齋藤）
10. 文献レビュー法（原田）
11. 統計解析の考え方（齋藤）
12. 研究エッセイの考え方，倫理事項（原田）
13. リサーチマインド① 研究計画の課題の発表（香川・齋藤・原田）
14. リサーチマインド② 研究計画の課題解決のための議論（香川・齋藤・原田）
15. リサーチマインド③ 研究計画の課題解決法の考え方（香川・齋藤・原田）

科目名	基礎保健科学特論	担当教員	森 芳史 中 嶋 正 明 井 上 茂 樹	開講年次	授業形態	単位数
				1・2	T科目	4単位
テ ー マ	分子生物学的、細胞組織学および生理機能学的な視点からみた生体の機能の制御について					
使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『基礎分子生物学 第4版』田村隆明・村松正實 著 東京化学同人 2007年</li> <li>・『ジュンケイラ 組織学 第5版』坂井建雄他(監訳) 丸善 2018年</li> <li>・『生体電気信号とはなにか』杉晴夫著 ブルーバックス 2006年</li> <li>・『筋肉はふしぎ』杉晴夫著 ブルーバックス 2003年</li> </ul>					
講義概要・一般目標	<p>日々の臨床で遭遇する障害のメカニズムをより深く掘り下げて探求していこうとすると必ずそこには基礎医学の知識と技術が必要となる。基礎医学は決して、理学療法と無関係ではなく、基礎医学が臨床医学をはじめ理学療法などの医療科学を支え、また、日々の医療が基礎医学を発展させている。本特論では 細胞や分子のレベルから機能障害レベルにおけるさまざまな問題点を検索し障害構造の理解を深めることが重要である。本講義では次の3つの各論から構成される。</p> <p>オムニバス方式 分子生物学(井上茂樹) 生命プログラムの青写真である遺伝子の構造から、遺伝子の発現、即ち、RNAの合成のメカニズムについて教授する。さらに、DNAの遺伝情報に従って合成される蛋白質が実際に機能を発現するまでの各段階について分子レベルで解説し、理解を深める。〈第1回レポート課題〉</p> <p>細胞組織学(中嶋正明) 日々の臨床で直面している筋萎縮、関節拘縮などのメカニズムについて皮膚、筋、骨、関節、神経、血管といった組織レベルから理解を深め、その病態の組織学的特徴を修得する。〈第2回レポート課題〉</p> <p>生理機能学(森芳史) 関節軟骨の発生、正常な機能、及び病理について、分子レベル・細胞レベルから理解する。臨床上の疑問を分子生物学的な視点に還元して捉え、文献検索によって現在までに明らかになっていること、不明なことを把握する。その上で、疑問を解決するための研究計画を立案できるようにする。〈第3回レポート課題〉</p>					
到達目標	問題解決能力の基礎となる医学的、リハビリテーション科学的知識や、対象となる人々の問題を具体的に解決していくための運動機能障害や生活機能障害に関する基礎知識を身につけ、病態の説明や臨床治療への適応実施を自ら考えることができる。					
評価方法	科目修了試験は口頭試問により到達目標が達成できているかどうかにより評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が提示する資料、指定したテキスト、参考図書、参考文献等により自ら学修・研究を進めていただきます。研究方法論に関する内容を学修・修得することはインターネット上の学外授業では限界があることから、スクーリングにおける解説・指導を行います。(井上)</li> <li>・褥瘡や廃用性症候群を組織学的な知見より捉え、患者に起こる臨床症状を踏まえながら現象を理解することが大切。また課題では当該事項について記載されている成書(参考書等)や先行研究論文の情報を収集、分類、まとめを行ったものをレポートに記載すること。また、情報や他者の意見・見解の羅列だけを行うことなく、課題に対する自分の見解・意見を入れることが大切。(中嶋)</li> <li>・指定されたレポート課題についてテキストや資料を参考にしてレポートを作成し、提出前に必ず担当教員に指導を受けて下さい。(森)</li> </ul> <p>フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	s_inoue@kiui.ac.jp (第1回/井上), apollo@kiui.ac.jp (第2回/中嶋), ymori@kiui.ac.jp (第3回/森)					

## 課題内容

第 1 回	レポート課題	遺伝子の構造と機能について考える。
	レポート作成のポイント	まずは生命プログラムの青写真である遺伝子の構造と染色体の基本構造について調べて下さい。次に遺伝情報の維持と生物進化に関係の深い遺伝子の複製とDNA修復それに遺伝子組み換えについて考えて下さい。さらに遺伝子が生命現象として発現するメカニズムである遺伝子の転写とスプライシングそれに蛋白質の生合成について考え、合わせて疾患の原因、機能回復の分子メカニズムについても考察して下さい。
	参考文献	・THE CELL, Alberts et al, Garland Science, 2002
	レポート提出期限	令和3年6月30日（水）
第 2 回	レポート課題	褥創，廃用性筋萎縮および関節拘縮につての組織学的変化と病態による特徴を考察しなさい。
	レポート作成のポイント	日々の臨床で直面している褥創，廃用性筋萎縮，あるいは関節拘縮のメカニズムについて皮膚，筋，骨，関節，神経，血管といった組織学的な変化と特徴を臨床症状と関連付けて考える。
	参考文献	・特に指定しないので，テキストを含めて各自で参考資料を検索（登校による文献検索も可能）。
	レポート提出期限	令和3年9月30日（木）
第 3 回	レポート課題	関節軟骨の発生・維持機構について概説しなさい。
	レポート作成のポイント	Review 論文や教科書で、まずは概要を把握してください。その上で、PubMedで最新の論文や重要な論文をしらべ、特に興味のある分子メカニズムや細胞機能（例えば、関節軟骨の組織幹細胞について、Superficial zone の機能について、あるいは関節軟骨から軟骨下骨への移行の詳細について、など）について、詳細に記載してください。
	参考文献	・特に指定しないので，テキストを含めて各自で参考資料を検索（登校による文献検索も可能）。
	レポート提出期限	令和3年12月10日（金）
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	臨床保健科学特論	担当教員	高橋 淳 森 芳史 中嶋 正明 横井 輝夫	開講年次	授業形態	単位数
				1・2	T科目	4単位
テーマ	多様な疾患の病態生理を学び、障害の多様性についての理解を深める。					
使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>『なるほどなっとく！内科学 第2版』 浅野嘉延（編集）南山堂 2020年</li> <li>『痛み学 臨床のためのテキスト』 ジェニー・ストロング 編，熊澤孝朗 監訳 名古屋大学出版会 2012</li> <li>『ボウルビィ 母子関係入門』 ジョン・ボウルビィ 著，作田 勉 監訳 星和書店 1981年</li> </ul>					
講義概要・一般目標	<p>臨床保健学は年齢を問わず、子どもから高齢者まで、全ての人に共通して求められるものである。本特論では治療医学の視点に止まらず、リハビリテーション医学の視点からも人間の障害の多様性について理解を深めることを目的に以下の3つの各論から構成される。</p> <p>オムニバス方式</p> <p>内科学（高橋 淳） 内科学全般の臨床保健領域における代表的疾患につき、その病態生理、最新の診断法、そして、治療法の理論についての理解を深める。（第1回レポート課題）</p> <p>整形外科・スポーツ医学（森 芳史・中嶋正明） 整形外科・スポーツ医学において痛みは深刻な問題であり、その病態生理、特に心理的側面や運動連鎖破綻の影響、最新の診断・評価方法、治療法の知識を深めることにより、運動器疾患全体に共通する問題点である『痛み』について適切に対応できる力を習得する。（第2回レポート課題）</p> <p>小児神経発達学（横井輝夫） 愛着形成は、障害の有無にかかわらず、神経系や内分泌系、免疫系に作用し、子どもの心身の健全な発達に重要です。愛着理論の理解を深めることにより、障害をもつ児と母との相互関係について考える力を修得できる。（第3回レポート課題）</p>					
到達目標	内科疾患の病態，痛み，小児の発達特性について，論理的に記述できる。					
評価方法	科目修了試験により評価。 試験は提出されたレポートに関する口頭試問にて行い，到達目標の達成度に応じて評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。Eメールでの問い合わせや相談は随時行ないます。					
学修の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定のテキストと参考文献を熟読し，その中からレポートの課題に関する内容を選別し，1. 表題（所属，学籍，氏名，担当教員名などを含む）2. 病態，3. 考察，4. まとめ，5. 引用（参考）文献（ページも含む）の順に記載していく。なお，本文では引用，参考箇所を明確にしておくこと。（高橋）</li> <li>参考資料を読み与えられた課題を達成する過程を通して，自分自身で考え，それをまとめる力をつける。そして，その事柄について討論が出来るようにすること。（森・中嶋）</li> <li>健全なパーソナリティの発達に対する愛着形成の重要性を読み解く視点から熟読して下さい。</li> <li>フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。（横井）</li> </ul>					
教員メールアドレス	atakah7@gmail.com（第1回／高橋 淳） yoshimori-tky@umin.net（第2回／森 芳史），apollo@kiui.ac.jp（第2回／中嶋正明） joy_yokoi@yahoo.co.jp（第3回／横井輝夫）					

課題内容		
第1回	レポート課題	大腸癌，過敏性腸症候群，アルコール性肝障害，肝細胞癌，糖尿病，甲状腺機能低下症，肺癌，肺炎，気管支喘息のうちから2つの疾患を選び，それらが日常生活に及ぼす影響を考察せよ。
	レポート作成のポイント	慢性疾患の病態を簡潔にまとめ，日常生活への影響を考察し，自らが将来患者さん達にどのように貢献できるか想定して記載する。(4000字程度)
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『病気がみえる vol.1 消化器 (第5版)』 医療情報科学研究所 (編集) メディックメディア 2016年</li> <li>・『病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 (第4版)』 医療情報科学研究所 (編集) メディックメディア 2014年</li> <li>・『病気がみえる vol.4 呼吸器 (第2版)』 医療情報科学研究所 (編集) メディックメディア 2013年</li> </ul>
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第2回	レポート課題	運動器慢性痛の病態(最も興味のある運動器疾患について)
	レポート作成のポイント	心理的問題，運動器の廃用，アライメント異常，運動連鎖，神経系機能変化などについて考察
	参考文献	運動器慢性痛診療の手引き(日本整形外科学会運動器疼痛対策委員会) 『痛み学-臨床のためのテキスト』 熊澤孝明 監訳 名古屋大学出版会
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第3回	レポート課題	健全なパーソナリティの発達と愛着との関係について論述して下さい。(2000字程度)
	レポート作成のポイント	親と子どもの立場に相互に立ちながらテキストを熟読し，論じて下さい。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『ボウルビィ 母と子のアタッチメント 心の安全基地』ジョン・ボウルビィ 著 二木 武 監訳 医歯薬出版 1993</li> <li>・初塚真喜子『アタッチメント(愛着)理論から考える保育所保育のあり方』相愛大学人間発達学研究 2010年、pp. 1-16.</li> </ul>
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	地域保健科学特論	担当教員	河村 顕治 佐藤 三元 森下 元賀	開講年次	授業形態	単位数
				1・2	T科目	4単位
テーマ	リハビリテーション科学の視点からのQOLとヘルスプロモーション					
使用するテキスト	・『リハビリテーション医療の評価 QOLを高める科学性の追究』 マーカス・J. フーラー／編集 加倉井周一， 清水 和彦／訳 医学書院 2003年					
講義概要・ 一般目標	<p>地域リハビリテーションは、健常者や障害者、あるいは高齢者およびその家族がみ慣れたところで、そこに住む人々とともに、いきいきとした生活が送れるよう、医療や保健、福祉および生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織が協力し合って行う活動のすべてを指す。本特論では、リハビリテーション科学と理学療法学の視点から、地域保健科学について理解を深めることを目的に以下の3つの各論から構成される（オムニバス方式）。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーション科学（河村顕治） リハビリテーションの基本理念が「全人間的復権」とされることから、障害を有する者の生活を考えた場合、ただ単に障害者だけに目を向けたのでは不十分であり、障害者が社会の中で生活できるようにしていくこと、即ち、他の人間との共生を実現していくことが不可欠となる。そのため、障害者だけでなく、障害者を取り巻く周囲の環境要因を含めた包括的な支援体制について理解を深める。（第1回レポート課題）</li> <li>2. QOL科学（佐藤三矢） 近年の保健科学研究において関心事である生活の質（Quality of life; QOL）について、評価、規定要因の解明、その因果モデルの構築、および研究方法論等について考える。ここでは特に、「人々が疾患や障害を持ちながら身体的・精神的・社会的によりよい生活を送るということ」について、「QOL向上のための科学的な支援の方法論と適切な効果判定」について理解を深める。（第2回レポート課題）</li> <li>3. ヘルスプロモーション（森下元賀） 世界に類を見ないスピードで超高齢化社会が進展している本邦において、国民一人一人が自らの健康をコントロールしながら維持改善に努め、高いQOLを維持することは重要である。ここでは特に、疾患に対するリハビリテーションだけではなく予防医学にも焦点を当て、「介護予防事業の現状と課題、適切な効果判定」について理解を深める。（第3回レポート課題）</li> </ol>					
到達目標	理学療法や研究における対象者の「QOL: Quality of life」向上への寄与について深く考える機会を通じ、対象者における全人間的なヘルスプロモーションに視座した思考を行うことが出来るようになる。					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。講義概要とレポート課題の番号が同一の教員の担当です。					
学修の 進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定されたレポート課題についてテキストや資料を参考にしてレポートを作成し、提出前に必ず担当教員に指導を受けて下さい。（河村）</li> <li>・参考資料を熟読し、与えられた課題を達成する過程を通じて自分自身で考え、それをまとめる力をつける。そして、その事柄について討論が出来るようにすること。（佐藤）</li> <li>・地域包括ケアの制度の運用が開始され、これからの理学療法士は地域で活動することが必須になってきています。地域での保健医療をとりまく環境や実践例に関して、自分なりに調べ、自身がどのように活動するべきかの考えを整理してください。（森下）</li> </ul> <p>フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員 メールアドレス	kawamura@kiui.ac.jp（第1回／河村）， sato38@kiui.ac.jp（第2回／佐藤）， m_mori@kiui.ac.jp（第3回／森下）					

## 課題内容

第1回	レポート課題	障害者が地域社会の中で生活できるようにしていくこと、即ち、他の人間との共生を実現していくにはどのような方策があるのかを考察してください。
	レポート作成のポイント	「全人間的復権」という言葉の意味を十分に鑑み、障害者を取りまく環境要因を含めた包括的な支援体制について、実例をふまえながら問題点や課題点を考察してください。
	参考文献	・『リハビリテーション医療の評価 QOL を高める科学性の追究』 マクス・J. フーラー／編集 加倉井周一、清水 和彦／訳 医学書院 2003年
	レポート提出期限	令和3年6月30日（水）
第2回	レポート課題	地域社会で生活する障害者のQOLを高めるための基本的な戦略と戦術について考察してください。
	レポート作成のポイント	地域在住の人々（障害者・健常者・高齢者など）において、QOLを高めるための実践例やQOL評価尺度について、先行研究もふくめて考察してください。なお、テーマとなる疾患については、教員と相談して決定してください。
	参考文献	・『リハビリテーション医療の評価 QOL を高める科学性の追究』 マクス・J. フーラー／編集 加倉井周一、清水 和彦／訳 医学書院 2003年 ・配布資料
	レポート提出期限	令和3年9月30日（木）
第3回	レポート課題	地域社会における行政、施設の介護予防事業の現状と課題、効果判定について考察してください。
	レポート作成のポイント	日本における実例および地域格差に関しても調べ、それぞれ比較しながら介護予防事業の現状と課題、適切な効果判定、望ましい介護予防事業の方法を考察してください。
	参考文献	・『完全版 介護予防マニュアル』 大淵修一 監修 法研 2015年 ・配布資料
	レポート提出期限	令和3年12月10日（金）
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。



科目名	運動機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	河村 顕治	開講年次	1～2	授業形態	T科目	単位数	8単位
	テーマ		Closed Kinetic Chain のバイオメカニクス						
使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『臨床歩行計測入門』江原義弘・山本澄子 医歯薬出版 2008年</li> <li>・『新ボディダイナミクス入門 立ち上がりと歩行の分析』江原義弘・山本澄子 医歯薬出版 2018年</li> <li>・『二関節筋』熊本水頼 医学書院 2008年</li> </ul>								
講義概要・一般目標	<p>有病者や高齢者，ならびに外傷等による運動機能障害に対する理学療法において，適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が強く求められている。この課題達成のためには運動機能について理解を深めることが必須であり，身体運動における骨や筋肉の動きを，運動学はもとより解剖学，生理学，物理学等あらゆる見地から探求していく必要がある。</p> <p>本講では，運動機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため，1) 細胞・組織・器官レベルの基礎医学的な視点から運動機能障害について考察を深め，対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を学修する。併せて，2) ボディダイナミクスを統合・解釈し，対象者に即した運動・動作・活動を遂行するための効果的な介入方法について学修する。</p> <p>以上の学修を踏まえ，本講では特に Closed Kinetic Chain の特性に焦点をあて，3次元動作分析や動作筋電図のデータをふまえて研究テーマに関連する知識や技術を深めるための学修を進める。</p>								
到達目標	Closed Kinetic Chain運動の最も基本となる歩行の計測法について一般的な方法論を理解し，CKC運動の特性を理解し，基本的動作の立ち上がり動作について特に二関節筋の特性に着目して論述することができる。								
評価方法	科目修了試験により評価。								
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。								
学修の進め方	指定されたレポート課題についてテキストや資料を参考にしてレポートを作成し，提出前に必ず担当教員に指導を受けて下さい。 フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。								
教員メールアドレス	kawamura@kiui.ac.jp								

## 課題内容(1年次)

第 1 回	レポート課題	歩行計測の方法論について
	レポート作成のポイント	人におけるCKC運動の最も基本となるのは歩行です。実際に3次元動作解析を行わないとしても、参考文献として動作解析の論文を読みこなすためには歩行計測の方法論が理解できていなければなりません。そこで、歩行計測の方法論について、下記参考文献を利用しながらまとめてください。
	参考文献	・『臨床歩行計測入門』江原義弘・山本澄子 医歯薬出版 2008年
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第 2 回	レポート課題	Closed Kinetic Chainについて
	レポート作成のポイント	Closed Kinetic Chain (以下CKC) については前十字靭帯術後リハビリテーションにおいて再建靭帯にかかる負荷がOpen Kinetic Chainよりも少ないということに注目が集まっていますが、二関節筋が抑制されたり、関節軟骨に適度な刺激が加わることなどは意外と知られていません。CKCの特性について、自ら収集した参考文献を利用しながらまとめてください。
	参考文献	適宜、資料を配布する。
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第 3 回	レポート課題	立ち上がり動作のボディダイナミクス
	レポート作成のポイント	下記の参考文献を中心に立ち上がり動作のボディダイナミクスについて考察を行って下さい。さらに、CKC動作の特性について考察し、その臨床応用についてまとめてください。
	参考文献	・『新ボディダイナミクス入門 立ち上がりと歩行の分析』江原義弘・山本澄子 医歯薬出版 2018年 ・『二関節筋』熊本水頼 医学書院 2008年
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	運動機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	河 村 顕 治	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	Closed Kinetic Chain のバイオメカニクス					
使 用 する テ キ ス ト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『臨床歩行計測入門』江原義弘・山本澄子 医歯薬出版 2008年</li> <li>・『新ボディダイナミクス入門 立ち上がりと歩行の分析』江原義弘・山本澄子 医歯薬出版 2018年</li> <li>・『二関節筋』熊本水頼 医学書院 2008年</li> </ul>					
講義概要・ 一 般 目 標	<p>有病者や高齢者，ならびに外傷等による運動機能障害に対する理学療法において，適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が強く求められている。この課題達成のためには運動機能について理解を深めることが必須であり，身体運動における骨や筋肉の動きを，運動学はもとより解剖学，生理学，物理学等あらゆる見地から探求していく必要がある。</p> <p>本講では，運動機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため，1) 細胞・組織・器官レベルの基礎医学的な視点から運動機能障害について考察を深め，対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を学修する。併せて，2) ボディダイナミクスを統合・解釈し，対象者に即した運動・動作・活動を遂行するための効果的な介入方法について学修する。</p> <p>以上の学修を踏まえ，本講では特に Closed Kinetic Chain の特性に焦点をあて，3次元動作分析や動作筋電図のデータをふまえて研究テーマに関連する知識や技術を深めるための学修を進める。</p>					
到 達 目 標	Closed Kinetic Chain運動の最も基本となる歩行動作の筋張力について理解し，CKC運動における二関節筋が果たす役割について考察し，単関節筋と二関節筋の協調について論述することができる。					
評 価 方 法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	指定されたレポート課題についてテキストや資料を参考にしてレポートを作成し，提出前に必ず担当教員に指導を受けて下さい。 フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。					
教 員 メールアドレス	kawamura@kiui.ac.jp					

課題内容(2年次)		
第4回	レポート課題	歩行のボディダイナミクス
	レポート作成のポイント	下記の参考文献を中心に歩行のボディダイナミクスについて考察を行って下さい。さらに、CKC動作の特性について考察し、その臨床応用についてまとめてください。
	参考文献	・『臨床歩行計測入門』江原義弘・山本澄子 医歯薬出版 2008年 ・『新ボディダイナミクス入門 立ち上がりと歩行の分析』江原義弘・山本澄子 医歯薬出版 2018年
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第5回	レポート課題	CKC運動における二関節筋の作用
	レポート作成のポイント	CKC運動においては二関節筋が特異な働きをすることが分かっています。パワートランスファーとしての作用や外乱に対しての四肢末端の安定化作用などです。CKC運動における二関節筋が果たす役割について、下記参考文献及び教員から配布される資料を利用しながらまとめてください。
	参考文献	・『二関節筋』熊本水頼 医学書院 2008年
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第6回	レポート課題	CKC運動における単関節筋と二関節筋の協調について
	レポート作成のポイント	CKC運動を考察する場合に、筋収縮と出力との関係を理解していると様々な応用が可能となります。下肢の股関節屈筋・伸筋、膝関節屈筋・伸筋のペア、股関節と膝関節にまたがる二関節筋のペアの合計3つのペアについて筋収縮と出力の関係を下記参考文献及び教員から配布される資料を利用しながらまとめてください。
	参考文献	・『二関節筋』熊本水頼 医学書院 2008年
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	運動機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	森 芳 史	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	運動機能障害に対する定量的評価と科学的介入方法の確立をめざして					
使用する テキスト	・配布資料					
講義概要・ 一般目標	<p>有病者や高齢者，ならびに外傷により身体に障害を負った方に対する理学療法においては，適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が強く求められている。この課題達成のためには運動機能について理解を深めることが必須であり，身体運動における骨や筋肉の働きを，運動学はもとより解剖学，生理学，物理学等あらゆる見地より研究を進めていく必要がある。</p> <p>本講では，運動機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため，1) 細胞・組織・器官レベルの基礎医学的な視点から運動機能障害について考察を深め，対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を修得する。併せて，2) 研究データの結果を統合・解釈し，対象者に即した運動・動作・活動を遂行するための効果的な介入方法を考案する。</p> <p>以上の研究・学修を踏まえ，本講では特に関節障害に焦点をあて，研究テーマに関連する知識や技術を深め研究者としての考え方，技能を修得する。</p>					
到達目標	運動機能障害に対する現在の理学療法の問題点とその改良点を説明でき，その研究疑問を解き明かすための具体的な研究法を提示できる。また，その研究法に必要な評価法の科学的信頼性・妥当性を説明することができる。さらに，研究を進めるにあたって倫理的配慮をすることができる。					
評価方法	科目修了試験により評価。 試験は提出されたレポートに関する口頭試問にて行い，到達目標の達成度に応じて評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	<p>研究を進めるにあたって最も重要なのは研究計画である。研究計画が出来上がればこの研究は半ば過ぎと言え，研究計画がいい加減では信頼の置ける結果が得られるはずもない。従って，研究疑問を解くためにどのような計画書にするのか，参考文献に従って，こつこつと地道に，あらゆる事を考えながら，多くの文献を読み，作り上げることが重要であり，メールでやりとりしながら，時には直接話をしながら進めていきたいと思えます。</p> <p>フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教 員 メールアドレス	yoshimori-tky@umin.net					

課題内容(1年次)		
第1回	レポート課題	研究デザインについて
	レポート作成のポイント	科学的研究において、最も重要な最初のステップは研究テーマを決め、綿密な研究計画を立てることです。そこで、あなたの現在考えている研究テーマを実証するために必要な理想的研究方法を調べて下さい。
	参考文献	『医学的研究デザイン 第4版』 木原雅子・木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年 『医学的介入の研究デザインと統計:ランダム化/非ランダム化研究から傾向スコア、操作変数法まで』 -木原雅子・木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2013年
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第2回	レポート課題	あなたの研究テーマに即した評価方法について
	レポート作成のポイント	あなたの研究テーマに即した評価方法を挙げ、その計測法と精度、信頼性、その意義についてまとめてください。
	参考文献	・PubMedなどを活用して、抽出した論文
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第3回	レポート課題	第1, 2回レポート課題により形作られた研究テーマをもとに研究計画を作成
	レポート作成のポイント	あなたの選んだ研究テーマ、そしてその評価方法について、内外の文献を参考とし、研究の問題点、新規性、臨床面における意義を述べ、改良点があればそれについても考察し、研究計画書を作成して下さい。
	参考文献	・PubMedなどを活用して、抽出した論文
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	運動機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	森 芳 史	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テーマ	運動機能障害に対する定量的評価と科学的介入方法の確立をめざして					
使用するテキスト	・配布資料					
講義概要・一般目標	<p>有病者や高齢者，ならびに外傷により身体に障害を負った方に対する理学療法においては，適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が強く求められている。この課題達成のためには運動機能について理解を深めることが必須であり，身体運動における骨や筋肉の働きを，運動学はもとより解剖学，生理学，物理学等あらゆる見地より研究を進めていく必要がある。</p> <p>本講では，運動機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため，1) 細胞・組織・器官レベルの基礎医学的な視点から運動機能障害について考察を深め，対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を修得する。併せて，2) 研究データの結果を統合・解釈し，対象者に即した運動・動作・活動を遂行するための効果的な介入方法を考案する。</p> <p>以上の研究・学修を踏まえ，本講では特に関節障害に焦点をあて，研究テーマに関連する知識や技術を深め研究者としての考え方，技能を修得する。</p>					
到達目標	1年次に立てた研究計画にしたがいデータを収集するとともに，データの統計的処理が具体的にできるようにする。また，その結果について先行研究を基に考察できるようにする。					
評価方法	科目修了試験により評価。 試験は提出されたレポートに関する口頭試問にて行い，到達目標の達成度に依じて評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>研究を進めるにあたって最も重要なのは研究計画である。研究計画が出来上がればこの研究は半ば過ぎと言え，研究計画がいい加減では信頼の置ける結果が得られるはずもない。従って，研究疑問を解くためにどのような計画書にするのか，参考文献に従って，こつこつと地道に，あらゆる事を考えながら，多くの文献を読み，作り上げることが重要であり，メールでやりとりしながら，時には直接話をしながら進めていきたいとお思います。</p> <p>フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	yoshimori-tky@umin.net					

課題内容(2年次)		
第4回	レポート課題	課題3においてできあがった研究計画書により収集されたデータの処理
	レポート作成のポイント	配付資料や参考文献を基に、データを処理し、方法と結果を報告して下さい。
	参考文献	・PubMedなどを活用して、抽出した論文
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第5回	レポート課題	課題4で得られた結果を基に『考察』としてまとめて下さい。
	レポート作成のポイント	あなたの研究テーマに関連した内外の論文を参考にしながら、解剖、生理、疾患の病態、計測方法の特徴を考慮しつつ課題4にて得られた結果を考察して下さい。
	参考文献	・PubMedなどを活用して、抽出した論文
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第6回	レポート課題	これまでの課題の集大成としてあなたの研究論文の『序論』を作成して下さい。
	レポート作成のポイント	参考文献、配付資料をもとにこれまでの課題の集大成として研究を総括し『序論』としてまとめて下さい。
	参考文献	・PubMedなどを活用して、抽出した論文
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。



科 目 名	運動機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	井上 茂 樹	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	運動器疾患に対する物理療法の再考					
使用する テキスト	・『計測法入門 計り方・計る意味』内山靖・他 協同医書出版 2001年					
講義概要・ 一般目標	<p>有病者や高齢者，ならびに外傷により身体に障害を負った方に対する理学療法においては，適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が強く求められている。この課題達成のためには運動機能について理解を深めることが必須であり，身体運動における骨や筋肉の働きを，運動学はもとより解剖学，生理学，物理学等あらゆる見地より研究を進めていく必要がある。</p> <p>本講では，運動機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため，1) 細胞・組織・器官レベルの基礎医学的な視点から運動機能障害について考察を深め，対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を学修する。併せて，2) 模擬データの結果を統合・解釈し，対象者に即した運動・動作・活動を遂行するための効果的な介入方法について学修する。</p> <p>以上の学修を踏まえ，本講では特に運動器疾患に対する物理療法に焦点をあて，研究テーマに関連する知識や技術を深めるための学修を進め，基本的な研究方法論を説明できるようになる。</p>					
到達目標	院生の身近な事象と関連付けながら運動機能の基本的な研究方法論について理解し，今後の研究や実践に生かす。					
評価方法	科目修了試験により評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	<p>教員が提示する資料，指定したテキスト，参考図書、参考文献等により自ら学修・研究を進めていただきます。研究方法論に関する内容を学修・修得することはインターネット上の学外授業では限界があることから，スクーリングにおける解説・指導を行います。</p> <p>フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教 員 メールアドレス	s_inoue@kiui.ac.jp					

## 課題内容(1年次)

第 1 回	レポート課題	生体现象を計測する意味について
	レポート作成のポイント	計測とは「特定の目的を持って、物事を量的に捉えるための手法・手段を考察し、実施し、その結果を用いて所期の目的を達成させること」である。そこで生体现象を計測する真の意味をより深く理解するため、まず、臨床現場で実施する計測①目的、②生体計測の難しさ、③生体計測を実施するための臨床的思考過程について、下記参考文献を利用しながらまとめてください。
	参考文献	『計測法入門 計り方・計る意味』内山靖・他 協同医書出版 2001年
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第 2 回	レポート課題	運動器疾患に対する物理療法の現状と課題について
	レポート作成のポイント	物理療法は、主に運動器疾患の羅漢部位に外部からの物理的エネルギーを加えることで治療を行うものである。運動器疾患に対する物理療法は、臨床で広く用いられていることから有効性を科学的に探究することは重要である。そこで、運動器疾患に対する物理療法の現状と課題についてまとめてください。 ※データベース医学中央雑誌, MEDLINE, PubMed, PEDroなどを活用してください。
	参考文献	参考文献は各自で検索・入手のこと(本学登校での検索も可能)
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第 3 回	レポート課題	運動器疾患に対する物理療法の治療効果の検証について
	レポート作成のポイント	運動器疾患に対する物理療法の効果をあげるためには、薬物療法と同様にその適用、禁忌、副作用を把握したうえで、適用量(時間、頻度、強度)、適用法を確立しなければならない。介入手段(物理的エネルギー)は限定して運動器疾患に対する物理療法の治療効果について文献考察を行ってください。 ※データベース医学中央雑誌, MEDLINE, PubMed, PEDroなどを活用してください。
	参考文献	参考文献は各自で検索・入手のこと(本学登校での検索も可能)
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	運動機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	井 上 茂 樹	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	運動器疾患に対する物理療法の再考					
使用 する テ キ ス ト	・適宜資料を配付する。					
講義概要・ 一 般 目 標	<p>有病者や高齢者，ならびに外傷により身体に障害を負った方に対する理学療法においては，適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が強く求められている。この課題達成のためには運動機能について理解を深めることが必須であり，身体運動における骨や筋肉の働きを，運動学はもとより解剖学，生理学，物理学等あらゆる見地より研究を進めていく必要がある。</p> <p>本講では，運動機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため，1) 細胞・組織・器官レベルの基礎医学的な視点から運動機能障害について考察を深め，対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を学修する。併せて，2) 模擬データの結果を統合・解釈し，対象者に即した運動・動作・活動を遂行するための効果的な介入方法について学修する。</p> <p>以上の学修を踏まえ，本講では特に運動器疾患に対する物理療法に焦点をあて，研究テーマに関連する知識や技術を深めるための学修を進める。</p> <p>フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
到 達 目 標	自らが立案した研究テーマに基づいた研究計画にしたがい，結果の解釈をもとに考察をまとめることで論理的な思考能力を身につける。					
評 価 方 法	科目修了試験により評価する。					
オ フィ ス ア ワ ー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	教員が提示する資料，指定したテキスト，参考図書，参考文献等により自ら学修・研究を進めていただきます。研究方法論に関する内容を学修・修得することはインターネット上の学外授業では限界があることから，スクーリングにおける解説・指導を行います。					
教 員 メ ー ル ア ド レ ス	s_inoue@kiui.ac.jp					

## 課題内容(2年次)

第 4 回	レポート課題	研究計画書に基づいた方法・結果を整理しデータ分析する。
	レポート作成のポイント	研究計画書の方法全体の精度，再現性，妥当性を確認したうえでの，得られたデータを整理して，傾向の有無，差の有無，変化の有無，関係の有無，程度，定量的・定性的な結果の吟味，統計学的な意味を配付資料や参考文献をもとにデータを処理し，方法と結果をまとめてください。
	参考文献	・配付資料
	レポート提出期限	令和3年6月30日（水）
第 5 回	レポート課題	結果の解釈をもとに考察をまとめる。
	レポート作成のポイント	参考文献をもとに得られた結果から考察をまとめてください。考察をまとめるうえでは，研究で得られたデータに沿う，得られたデータと関係のない考察をしていないか，自身の主張と類似研究との区別について構成を練る必要がある。
	参考文献	・配付資料
	レポート提出期限	令和3年9月30日（木）
第 6 回	レポート課題	諸言を作成する。
	レポート作成のポイント	自身の研究目的，意図するもの，ねらいをまとめ，文献レビュー，配布資料，参考資料をもとに，これまで得られた結果および考察を踏まえて諸言を作成する。
	参考文献	・配付資料
	レポート提出期限	令和3年12月10日（金）
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	運動機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	中嶋 正明	開講年次	1～2	授業形態	T科目	単位数	8単位
	テーマ		基礎医学から運動器疾患に対する保存的療法を再考する						
使用するテキスト	・適宜資料を配付する。								
講義概要・一般目標	<p>有病者や高齢者，ならびに外傷等による運動機能障害に対する理学療法において，適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が強く求められている。この課題達成のためには運動器疾患について理解を深めることが必須であり，その上で，運動学はもとより解剖学，生理学，物理学等あらゆる見地から探求していく必要がある。</p> <p>本講では，特に細胞・組織・器官レベルの基礎医学的な視点から運動器疾患の理解を深め，症状および障害に対する保存的療法を再考し，その作用機序を説明できる力を習得する。</p>								
到達目標	関節軟骨のホメオスタシスについて説明できる。								
評価方法	変形性関節症における関節軟骨の変性について説明できる。								
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。また，スクーリング講義時間外に適宜対応します。								
学修の進め方	参考資料を読み与えられた課題を達成する過程を通して，自分自身で考え，それをまとめる力をつける。そして，その事柄について討論が出来るようにすること。 フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。								
教員メールアドレス	apollo@kiui.ac.jp								

課題内容(1年次)		
第1回	レポート課題	関節軟骨の解剖とホメオスタシスについて
	レポート作成のポイント	関節軟骨の構造と軟骨細胞の新陳代謝について調べる。軟骨細胞はどのような経路を介して新陳代謝を行っているか。関節軟骨の新陳代謝を良好に保つためにはどうすればよいか。
	参考文献	・『骨と軟骨のバイオロジー』藤井克之・井上一(編集) 金原出版 2002年 (絶版になっているが、本学図書館に蔵書あり)
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第2回	レポート課題	変形性関節症における関節軟骨の変性と破壊について
	レポート作成のポイント	変形性関節症において関節軟骨にどのような変性と破壊が起きているか。
	参考文献	・『骨と軟骨のバイオロジー』藤井克之・井上一編集 金原出版 2002年 (絶版になっているが、本学図書館に蔵書あり)
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第3回	レポート課題	関節軟骨と力学的ストレス
	レポート作成のポイント	関節軟骨に対する力学的ストレスは軟骨細胞の新陳代謝を促進する。しかし、条件によっては有害にも働く。変形性関節症において関節軟骨に対してどのような力学的ストレスを避け、どのような力学的ストレスを負荷すれば良いのか。
	参考文献	・『関節軟骨とストレス』久保秀一・高橋謙治 理学療法 16巻4号 p298-301
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	運動機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	中 嶋 正 明	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	基礎医学から運動器疾患に対する保存的療法を再考する					
使 用 す る テ キ ス ト	・適宜資料を配付する。					
講義概要・ 一般目標	<p>有病者や高齢者，ならびに外傷等による運動機能障害に対する理学療法において，適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が強く求められている。この課題達成のためには運動器疾患について理解を深めることが必須であり，その上で，運動学はもとより解剖学，生理学，物理学等あらゆる見地から探求していく必要がある。</p> <p>本講では，特に細胞・組織・器官レベルの基礎医学的な視点から運動器疾患の考察を深め，症状および障害に対する保存的療法を再考し，その作用機序を説明できる力を習得する。</p>					
到 達 目 標	<p>変形性関節症における疼痛について説明できる。</p> <p>変形性関節症における関節拘縮の病態と発生機序を説明できる。</p> <p>変形性関節症に対する効果的な保存療法について基礎医学的見地から説明できる。</p>					
評 価 方 法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	<p>参考資料を読み与えられた課題を達成する過程を通して，自分自身で考え，それをまとめる力をつける。そして，その事柄について討論が出来るようにすること。</p> <p>フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教 員 メールアドレス	apollo@kiui.ac.jp					

課題内容(2年次)

第4回	レポート課題	変形性関節症における疼痛について
	レポート作成のポイント	変形性関節症に対する理学療法の主目的として疼痛の軽減が挙げられる。この疼痛の発生機序はどのようにかんがえられているのか、そしてこの疼痛に対してどのような理学療法が推奨されているのかについて調べて下さい。
	参考文献	適宜, 資料を配付する。
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第5回	レポート課題	変形性関節症における関節拘縮(関節可動域制限)について
	レポート作成のポイント	変形性関節症において疼痛とともに関節拘縮(関節可動域制限)の発生が大きな問題となる。関節拘縮の病態と発生機序について調べてください。
	参考文献	適宜, 資料を配付する。
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第6回	レポート課題	変形性関節症の保存的療法について
	レポート作成のポイント	これまでの課題を通して, 変形性関節症の保存的治療を考えてみてください。
	参考文献	適宜, 資料を配付する。
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し, 教務部 通信教育事務課へ提出する。



科目名	運動機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	森下元賀	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テーマ	脳卒中患者の歩行障害に対する有効な理学療法的アプローチの確立を目指して					
使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>『計測法入門計り方・計る意味』内山靖・他 協同医書出版 2001年</li> <li>『臨床歩行計測入門』江原義弘・山本澄子 医歯薬出版 2008年</li> </ul>					
講義概要・一般目標	<p>有病者や高齢者の障害予防，ならびに生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも，適切な評価と科学的な視座に立った支援方法の確立が強く求められている。この課題達成に向け，今後諸君が研究を進めるためには，生活機能障害に関する基本的な研究方法論や考え方を理解した上で，自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。</p> <p>本講では，生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため，1) 各種障害の相互関係に関する理論モデル（ICF；WHO国際生活機能分類など）を援用し，複雑かつ疾患ごとに大きく様態が異なる障害構造やその変動傾向について，実証的に解明していく研究方法について学修する。併せて，2) 対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探求し，その効果について適切な検証を加え科学的支援を確立するための研究方法について学修する。</p> <p>以上の学修を踏まえ，本講では特に理学療法士の立場から「歩行障害に対する有効なアプローチ」に焦点をあて，研究テーマに関連する知識や技術を深めるための学修を進める。</p>					
到達目標	<p>生体现象を解明する上での研究デザインの種類を説明できる。</p> <p>量的研究を進める上での研究疑問を説明できる。</p> <p>脳卒中患者の歩行障害の量的評価方法に関して列挙できる。</p> <p>脳卒中患者の歩行障害の評価方法の信頼性について説明できる。</p> <p>脳卒中患者の歩行障害の治療方法の種類についてエビデンスレベルが高いものを説明できる。</p> <p>脳卒中患者の歩行障害の治療方法に関して客観性のある先行研究を提示することができる。</p>					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>研究をする意味から，大学院生の研究テーマに合わせた領域をとりまく現状，最新のトピックスを学んでいきます。自身の研究テーマに関わる領域に関して，常に最新の論文を読む習慣をつけておいてください。</p> <p>フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	m_mori@kiui.ac.jp					

## 課題内容(1年次)

第 1 回	レポート課題	生体现象を計測する意味について
	レポート作成のポイント	計測とは「特定の目的を持って、物事を量的にとらえるための手法・手段を考案し、実施し、その結果を用いて所定の目的を達成すること」です。そこで生体现象を計測する真の意味をより深く理解するため、まず、臨床現場で実施する計測の①目的、②生体計測の難しさ、③生体計測を実施するための臨床的思考過程について、下記参考文献を利用しながらまとめてください。
	参考文献	・『計測法入門計り方・計る意味』内山靖・他 協同医書出版 2001年
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第 2 回	レポート課題	脳卒中患者の歩行障害を評価する手法の信頼性について
	レポート作成のポイント	脳卒中患者においては、運動学的、運動力学的因子、時間距離因子などの多くの歩行に関する問題が存在します。しかし、臨床における歩行障害の評価は理学療法士自身の主観に頼っている部分が多くあります。歩行分析の結果を量的かつ客観的に示す指標の妥当性と信頼性が求められます。そこで、あなたの研究テーマに関連した変数について、測定方法、指標・尺度を調べた上で、先行研究を踏まえて信頼性と妥当性がどのように検討されてきたかをまとめてください。
	参考文献	・『臨床歩行計測入門』江原義弘・山本澄子 医歯薬出版 2008年 ・その他必要と思われる先行研究の文献を検索してください
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第 3 回	レポート課題	脳卒中患者の歩行障害の治療効果の検証に関して
	レポート作成のポイント	脳卒中患者の歩行練習に関しては、多くの研究で効果のあるとされる治療法が提唱されつつあります。しかし、部分荷重トレッドミル歩行やロボットを使用した歩行練習などの機械を使用した練習方法がエビデンスを構築されやすい現状にあります。そこで、あなたの関心のあるテーマに関して、どのような手法で介入結果を客観性、再現性のあるものにしていくかをまとめてください。・『脳卒中治療ガイドライン』脳卒中合同ガイドライン委員会作成 2009年 <a href="http://www.jsts.gr.jp/jss08.html">http://www.jsts.gr.jp/jss08.html</a> ・その他必要と思われる先行研究の文献を検索してください
	参考文献	・『脳卒中治療ガイドライン 2015』脳卒中合同ガイドライン委員会作成 株式会社協和企画 2017年 ・その他必要と思われる先行研究の文献を検索してください
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	運動機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	森下元賀	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テーマ	脳卒中患者の歩行障害に対する有効な理学療法的アプローチの確立を目指して					
使用するテキスト	・『計測法入門計り方・計る意味』内山靖・他 協同医書出版 2001年 ・『臨床歩行計測入門』江原義弘・山本澄子 医歯薬出版 2008年					
講義概要・一般目標	<p>有病者や高齢者の障害予防，ならびに生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも，適切な評価と科学的な視座に立った支援方法の確立が強く求められている。この課題達成に向け，今後諸君が研究を進めるためには，生活機能障害に関する基本的な研究方法論や考え方を理解した上で，自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。</p> <p>本講では，生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため，1) 各種障害の相互関係に関する理論モデル（ICF；WHO国際生活機能分類など）を援用し，複雑かつ疾患ごとに大きく様態が異なる障害構造やその変動傾向について，実証的に解明していく研究方法について学修する。併せて，2) 対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探求し，その効果について適切な検証を加え科学的支援を確立するための研究方法について学修する。</p> <p>以上の学修を踏まえ，本講では特に理学療法士の立場から「歩行障害に対する有効なアプローチ」に焦点をあて，研究テーマに関連する知識や技術を深めるための学修を進める。</p>					
到達目標	<p>脳卒中患者の歩行障害への介入方法に関して，客観的な方法を列挙できる。</p> <p>脳卒中患者の歩行障害の治療方法の種類についてエビデンスレベルが高いものを説明できる。</p> <p>脳卒中患者の移動能力に与える因子に関して説明できる。</p> <p>理学療法によって獲得した移動機能を実用化するための工夫を説明できる。</p> <p>脳卒中患者の最近の理学療法のトピックを列挙し，今後理学療法士が担う役割について考察できる。</p>					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>研究をする意味から，大学院生の研究テーマに合わせた領域をとりまく現状，最新のトピックスを学んでいきます。自身の研究テーマに関わる領域に関して，常に最新の論文を読む習慣をつけておいてください。</p> <p>フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	m_mori@kiui.ac.jp					

課題内容(2年次)		
第4回	レポート課題	脳卒中患者の歩行障害への介入方法について
	レポート作成のポイント	脳卒中患者の歩行障害への介入に関しては、ロボットスーツや部分荷重トレッドミルなどが多く研究されていますが、設備、費用の面から実際に導入している施設はまだ少数です。そこで、あなたの職場で行いうる介入方法について、客観的な効果を得るための方法や効果判定についてまとめてください。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『脳卒中治療ガイドライン 2015』脳卒中合同ガイドライン委員会作成 株式会社協和企画 2017年</li> <li>・その他必要と思われる先行研究の文献を検索してください</li> </ul>
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第5回	レポート課題	脳卒中患者の移動能力に与える因子について
	レポート作成のポイント	脳卒中患者においては、運動機能の問題だけでなく、感覚障害、高次脳機能障害などによって移動能力に影響を与えることがあります。また、それらの問題により、移動能力として獲得できても実用化が難しいことがあります。そこで、移動能力に影響を与える因子についてまとめ、理学療法によって獲得した移動能力を実用化するための試みについて考察してください。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『脳卒中治療ガイドライン 2015』脳卒中合同ガイドライン委員会作成 株式会社協和企画 2017年</li> <li>・その他必要と思われる先行研究の文献を検索してください</li> </ul>
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第6回	レポート課題	脳卒中患者に対する理学療法のトピックについて
	レポート作成のポイント	脳卒中患者に対しての理学療法は医療技術の進歩や脳科学、学習理論、行動分析学の視点から新たなアプローチが提唱されています。その中で、歩行障害を改善し得る方法に関して、最近のトピックを調べ、今後理学療法士はどのような役割を担っていくのかを考察してください。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『脳卒中治療ガイドライン 2015』脳卒中合同ガイドライン委員会作成 株式会社協和企画 2017年</li> <li>・その他必要と思われる先行研究の文献を検索してください</li> </ul>
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	運動機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	横 山 茂 樹	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	脊柱・胸郭障害に対する定量的評価と科学的介入方法の確立を目指して					
使用 する テ キ ス ト	・『計測法入門 計り方・計る意味』内山靖・他 協同医書出版 2001年					
講義概要・ 一 般 目 標	<p>有病者や高齢者，ならびに外傷等による運動機能障害に対する理学療法において，適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が強く求められている。この課題達成のためには運動機能について理解を深めることが必須であり，身体運動における骨や筋肉の働きを，運動学はもとより解剖学，生理学，物理学等あらゆる見地から探求していく必要がある。</p> <p>本講では，運動機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため，1) 細胞・組織・器官レベルの基礎医学的な視点から運動機能障害について考察を深め，対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を学修する。併せて，2) 模擬データの結果を統合・解釈し，対象者に即した運動・動作・活動を遂行するための効果的な介入方法について学修する。</p> <p>以上の学修を踏まえて，本稿では特に脊柱・胸郭機能障害に焦点をあて，研究テーマに関連する知識や技術を深めるために学修を進める。</p>					
到 達 目 標	脊柱・胸郭機能に係わる骨・筋・軟部組織の構造や呼吸運動を客観的に捉える手法について文献的考察も踏まえて説明できる。さらに胸郭を含む体幹機能障害の要因や二次的障害に対する理学療法の有効性・有用性に関する検証を実施できる。					
評 価 方 法	学習期間内の課題レポートを60%，講義終了後の科目修了試験を40%の重みづけにより評価。					
オ フィ ス ア ワ ー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	テキストを中心に，定期的に内容について課題の提出とインターネットを利用した討論会を実施します。フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。					
教 員 メ ー ル ア ド レ ス	別途指示					

## 課題内容(1年次)

第 1 回	レポート課題	生体现象を計測する意味について
	レポート作成のポイント	計測とは「特定の目的を持って、物事を量的に捉えるための手法・手段を考案し、実施し、その結果を用いて所期の目的を達成させること」です。そこで生体现象を計測する真の意味をより深く理解するため、まず、臨床現場で実施する計測の①目的、②生体計測の難しさ、③生体計測を実施するための臨床的思考過程について、下記の参考文献を中心にまとめてください。
	参考文献	・『計測法入門計り方・計る意味』内山靖・他 協同医書出版 2001年
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第 2 回	レポート課題	脊柱・胸郭機能障害を評価する尺度の妥当性と信頼性について
	レポート作成のポイント	脊柱・胸郭機能の評価では、脊柱および胸郭のアライメントや柔軟性といった機能に関与する測定項目があります。しかし、これらの評価項目の妥当性と信頼性が問われます。そこで、あなたの研究テーマに関連した変数について、測定方法や指標・尺度を調べた上で、先行研究を踏まえて信頼性と妥当性がどのように検討されてきたかをまとめてください。
	参考文献	・『計測法入門計り方・計る意味』内山靖・他 協同医書出版 2001年 ・PubMedなどを活用して、抽出した文献
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第 3 回	レポート課題	脊柱・胸郭機能障害に対する理学療法技術に関する科学的証拠
	レポート作成のポイント	脊柱・胸郭機能障害に対する理学療法技術に関する効果について様々な報告がなされている。そこでこれまでの先行研究から、理学療法技術に関する生理学的作用や臨床的効果についてまとめてください。
	参考文献	・PubMedなどを活用して、抽出した文献
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		レポート〆切前(2週間を目安)に、事前提出してください。 web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	運動機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	横 山 茂 樹	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	脊柱・胸郭機能障害に対する科学的介入の実証を目指して					
使 用 す る テ キ ス ト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内山靖・他 『計測法入門 計り方・計る意味』協同医書出版 2001年</li> <li>・福井 次矢(編集)『臨床研究マスターブック』医学書院, 2008年</li> </ul>					
講義概要・ 一般目標	<p>有病者や高齢者, ならびに外傷等による運動機能障害に対する理学療法において, 適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が強く求められている。この課題達成のため, これまでに運動機能や身体運動における基礎的知識の整理とその理解を深めてきた。今後は自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。</p> <p>本講では, 運動機能障害に関する臨床的な研究方法論について理解を深めるため, 1) 運動機能障害に対する介入方法の効果判定について具体的かつ定量的に捉える手法を学修する。 併せて, 2) 抽出されたデータを統合・解釈し, 対象者に即した運動・動作・活動を遂行するための効果的な介入方法について学修する。</p> <p>以上のことを踏まえて, 本稿では特に「脊柱・胸郭機能障害」を対象とした臨床的介入方法や効果判定に用いる評価指標, および効果判定に焦点をあて, 研究テーマに関連する知識や技術を深めるための学修を進める。</p>					
到 達 目 標	<p>脊柱・胸郭機能に係わる骨・筋・軟部組織の機能や呼吸に寄与する能力を客観的に捉える手法について文献的考察も踏まえて学ぶ。さらに脊柱・胸郭機能障害の要因や二次的障害に対する理学療法の有効性・有用性について検証できることを目指す。</p>					
評 価 方 法	科目修了試験により評価。					
オ フィ ス ア ワ ー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	<p>テキストを中心に, 定期的に内容について課題の提出とインターネットを利用した討論会を実施します。 フィードバックとして, 提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教 員 メ ー ル ア ド レ ス	別途指示					

課 題 内 容 (2年次)		
第 4 回	レポ ー ト 課 題	脊柱・胸郭機能障害に対する理学療法の効果判定に活用される評価尺度の計測方法とその意義について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	脊柱・胸郭機能障害に対する全般的な評価尺度の妥当性や信頼性についてこれまでの学修の中で学んできた。その中でも特に、本邦の研究と関連する評価尺度に関して、具体的な測定方法についてまとめてください。またその評価尺度をどのように解釈できるかといった持つ意義についても説明してください。
	参 考 文 献	・『計測法入門計り方・計る意味』内山靖・他 協同医書出版 2001年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和3年6月30日(水)
第 5 回	レポ ー ト 課 題	脊柱・胸郭機能障害に対する理学療法の臨床的な効果判定について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	脊柱・胸郭機能障害に対する理学療法の効果に関する報告が多くなされている。これらの先行研究をもとに脊柱・胸郭機能障害に対する理学療法に関する臨床研究において、これまでどのような研究デザインでどのような効果が報告されているか?という点について批判的吟味も加えながら、論述してください。
	参 考 文 献	・福井 次矢(編集)『臨床研究マスターブック』医学書院, 2008年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和3年9月30日(木)
第 6 回	レポ ー ト 課 題	理学療法全般における本邦の研究の臨床的位置づけとその意義について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	あなたの研究テーマが、理学療法全般においてどのような位置づけにある研究であるかを説明し、理学療法の発展への寄与する点について、これまでの先行研究を踏まえながら論述してください。
	参 考 文 献	特に指定なし。
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和3年12月10日(金)
レポ ー ト 提 出 方 法		レポートは切前(2週間を目安)に、事前提出してください。 web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。



科目名	運動機能障害理学療法学特論演習	担当教員	河村 顕治	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テーマ	本講では特に Closed Kinetic Chain の特性に焦点をあて、3次元動作分析や動作筋電図のデータをふまえて研究テーマに関連する知識や技術を深めるための学修を進める。					
使用するテキスト	適宜、資料を配布する。					
講義概要・一般目標	運動機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるために、対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を学修する。あわせて、個々の大学院生が得たデータの結果についての統合・解釈を学修していく。特に二関節筋の特性や単関節筋と二関節筋の協調について学修する。					
到達目標	個々の大学院生の研究テーマに沿って研究で得られた結果の統計学的検討を踏まえた解釈、先行研究をもとにした考察が出来ることを目標とする。					
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施します。					
学修の進め方	講義の前には必ず予習を行い、疑問点はあらかじめEメールで指導教員に連絡をしてください。スクーリング最終時限で講義(授業)全体に対するフィードバックを行いません。					
教員メールアドレス	kawamura@kiui.ac.jp					

## スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理、先行研究の紹介、批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 統計学的解析の種類と方法(1年冬期スクーリング)
6. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年冬期スクーリング)
7. 研究の中間結果の整理(1年冬期スクーリング)
8. これまでに得られている研究結果の考察(1年冬期スクーリング)
9. 修士論文作成に向けての研究結果の報告、整理(2年秋期スクーリング)
10. 研究結果の統計学的検討(2年秋期スクーリング)
11. 研究結果の考察1(2年秋期スクーリング)
12. 研究結果の考察2(2年秋期スクーリング)
13. 修士論文作成の方法1(2年秋期スクーリング)
14. 修士論文作成の方法2(2年秋期スクーリング)
15. 第一次発表会の資料作成(2年秋期スクーリング)

科目名	運動機能障害理学療法学特論演習	担当教員	森 芳 史	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テ ー マ	この講義では、上・下肢関節障害やスポーツを中心とする筋・腱障害、筋肉疲労への評価、介入をテーマに生体现象を解明するための研究疑問の整理、研究計画の立案が出来ることを目標とする。					
使用するテキスト	適宜、資料を配布する。					
講義概要・一般目標	運動機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるために、対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を学修する。あわせて、個々の大学院生が得たデータの結果についての統合・解釈を学修していく。特に医師の立場から、筋電計、画像を駆使し、運動機能障害の病態を考えた有効なアプローチに焦点をあてていく。					
到達目標	個々の大学院生の研究テーマに沿って研究で得られた結果の統計学的検討を踏まえた解釈、先行研究をもとにした考察が出来ることを目標とする。					
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施する。					
学修の進め方	1年秋期スクリーニングまでに研究疑問を整理し、『医学的研究デザイン 第4版』『医学的介入の研究デザインと統計:ランダム化/非ランダム化研究から傾向スコア、操作変数法まで』等の参考書に従い、研究計画書を作成する。その後、研究計画書に従ってプレ実験を開始し、問題点を洗い出し、研究計画書を修正する過程を繰り返しながら、実験による過誤がなくなるまで、研究手技の習熟と研究計画書の修正を行う。2年秋までには実験を終え、統計解析を始め、その結果に対し、文献を参考としながら考察を加え、修士論文を仕上げていく。その間、メールのやりとりやスクリーニング時の直接討論にて学修をすすめていく。スクーリング最終時限で講義(授業)全体に対するフィードバックを行う。					
教員メールアドレス	yoshimori-tky@umin.net					

## スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理、先行研究の紹介、批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 統計学的解析の種類と方法(1年冬期スクーリング)
6. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年冬期スクーリング)
7. 研究の中間結果の整理(1年冬期スクーリング)
8. これまでに得られている研究結果の考察(1年冬期スクーリング)
9. 修士論文作成に向けての研究結果の報告、整理(2年秋期スクーリング)
10. 研究結果の統計学的検討(2年秋期スクーリング)
11. 研究結果の考察1(2年秋期スクーリング)
12. 研究結果の考察2(2年秋期スクーリング)
13. 修士論文作成の方法1(2年秋期スクーリング)
14. 修士論文作成の方法2(2年秋期スクーリング)
15. 第一次発表会の資料作成(2年秋期スクーリング)

科目名	運動機能障害理学療法学特論演習	担当教員	井上茂樹	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テーマ	この講義では、特に運動力学的分析に焦点をあて、床反力、歩行周期、動作筋電図のデータをふまえて研究テーマに関連する知識や技術を深めるための学修を進める。					
使用するテキスト	適宜、資料を配布する。					
講義概要・一般目標	運動機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるために、対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を学修する。あわせて、個々の大学院生が得たデータの結果についての統合・解釈を学修していく。特に疾患別歩行周期の特性から歩行に対する有効なアプローチに焦点をあてていく。					
到達目標	個々の大学院生の研究テーマに沿って研究で得られた結果の統計学的検討を踏まえた解釈、先行研究をもとにした考察が出来ることを目標とする。					
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施する。					
学修の進め方	教員が提示する資料、指定したテキスト、参考図書、参考文献等により自ら学修・研究を進めていただきます。研究方法論に関する内容を学修・修得することはインターネット上の学外授業では限界があることから、スクーリングにおける解説・指導を行います。スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行いません。					
教員メールアドレス	s_inoue@kiui.ac.jp					

## スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理、先行研究の紹介、批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 統計学的解析の種類と方法(1年冬期スクーリング)
6. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年冬期スクーリング)
7. 研究の中間結果の整理(1年冬期スクーリング)
8. これまでに得られている研究結果の考察(1年冬期スクーリング)
9. 修士論文作成に向けての研究結果の報告、整理(2年秋期スクーリング)
10. 研究結果の統計学的検討(2年秋期スクーリング)
11. 研究結果の考察1(2年秋期スクーリング)
12. 研究結果の考察2(2年秋期スクーリング)
13. 修士論文作成の方法1(2年秋期スクーリング)
14. 修士論文作成の方法2(2年秋期スクーリング)
15. 第一次発表会の資料作成(2年秋期スクーリング)

科目名	運動機能障害理学療法学特論演習	担当教員	中嶋正明	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テーマ	この講義では、運動器疾患に対する保存的療法を再考し、研究テーマの整理、立案が出来ることを目標に学修を進める。					
使用するテキスト	適宜、資料を配布する。					
講義概要・一般目標	運動機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるために、対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を学修する。あわせて、個々の大学院生が得たデータの結果についての統合・解釈を学修していく。研究テーマを先行研究をもとにしっかりとしたストーリーで説明できる力を習得する。					
到達目標	個々の大学院生の研究テーマに沿って研究で得られた結果の統計学的検討を踏まえた解釈、先行研究をもとにした考察を実施できる。					
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。また、スクーリング講義時間外に適宜対応します。					
学修の進め方	関連する文献を読み自己学習を進める。その間、Eメールのやりとりにより討論を行いながら学修をすすめていく。 スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行なう。					
教員メールアドレス	apollo@kiui.ac.jp					

## スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理、先行研究の紹介, 批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 統計学的解析の種類と方法(1年冬期スクーリング)
6. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年冬期スクーリング)
7. 研究の中間結果の整理(1年冬期スクーリング)
8. これまでに得られている研究結果の考察(1年冬期スクーリング)
9. 修士論文作成に向けての研究結果の報告, 整理(2年秋期スクーリング)
10. 研究結果の統計学的検討(2年秋期スクーリング)
11. 研究結果の考察1(2年秋期スクーリング)
12. 研究結果の考察2(2年秋期スクーリング)
13. 修士論文作成の方法1(2年秋期スクーリング)
14. 修士論文作成の方法2(2年秋期スクーリング)
15. 第一次発表会の資料作成(2年秋期スクーリング)



科目名	運動機能障害理学療法学特論演習	担当教員	森下元賀	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テーマ	この講義では、脳卒中患者の歩行障害への評価、介入をテーマに生体现象を解明するための研究疑問の整理、研究計画の立案が出来ることを目標とする。					
使用するテキスト	適宜、資料を配布する。					
講義概要・一般目標	運動機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるために、対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を学修する。あわせて、個々の大学院生が得たデータの結果についての統合・解釈を学修していく。特に理学療法士の立場から歩行障害に対する有効なアプローチに焦点をあて、最新の知見を学んでいく。					
到達目標	個々の大学院生の研究テーマに沿って研究で得られた結果の統計学的検討を踏まえた解釈、先行研究をもとにした考察が出来ることを目標とする。					
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施する。					
学修の進め方	研究の考え方や論文の読み方は講義の中で学びますが、それを踏まえて自身の研究に関連した先行研究をしっかりとレビューすることが何よりも大事になります。スクーリングで一から学ぶという姿勢ではなく、計画書の作成や研究結果に対する考察にあたって先行研究をきちんと調べ、自分なりに考えを持った上で講義に臨んでください。また、講義後は学んだことを速やかに反映させて、教員に連絡を取るようにしてください。スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行いません。					
教員メールアドレス	m_mori@kiui.ac.jp					

## スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理、先行研究の紹介、批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 統計学的解析の種類と方法(1年冬期スクーリング)
6. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年冬期スクーリング)
7. 研究の中間結果の整理(1年冬期スクーリング)
8. これまでに得られている研究結果の考察(1年冬期スクーリング)
9. 修士論文作成に向けての研究結果の報告、整理(2年秋期スクーリング)
10. 研究結果の統計学的検討(2年秋期スクーリング)
11. 研究結果の考察1(2年秋期スクーリング)
12. 研究結果の考察2(2年秋期スクーリング)
13. 修士論文作成の方法1(2年秋期スクーリング)
14. 修士論文作成の方法2(2年秋期スクーリング)
15. 第一次発表会の資料作成(2年秋期スクーリング)

科目名	運動機能障害理学療法学特論演習	担当教員	横山 茂樹	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テーマ	この講義では脊柱・胸郭機能障害に対する臨床的介入をテーマに生体现象を解明するための研究疑問の整理，研究計画の立案が出来ることを目標とする。					
使用するテキスト	適宜，資料を配布する。					
講義概要・一般目標	<p>運動機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるために，対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を学修する。あわせて，個々の大学院生が得たデータの結果についての統合・解釈を学修していく。</p> <p>特に脊柱・胸郭機能障害に焦点をあて，脊柱および胸郭の機能障害の要因や二次的障害に対する理学療法の有効性について検証する手法を修得する。</p>					
到達目標	研究テーマに沿った研究方法論を説明できる。さらに得られた結果の統計学的検討を踏まえた解釈と，先行研究をもとにした考察をおこなうことができる。					
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言，受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	講義終了後，またはEメールを使用して実施する。					
学修の進め方	レポート課題を中心に，定期的にインターネットを利用したビデオ討論会を実施します。スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行ないます。					
教員メールアドレス	別途指示					

## スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理、先行研究の紹介、批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 統計学的解析の種類と方法(1年冬期スクーリング)
6. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年冬期スクーリング)
7. 研究の中間結果の整理(1年冬期スクーリング)
8. これまでに得られている研究結果の考察(1年冬期スクーリング)
9. 修士論文作成に向けての研究結果の報告、整理(2年秋期スクーリング)
10. 研究結果の統計学的検討(2年秋期スクーリング)
11. 研究結果の考察1(2年秋期スクーリング)
12. 研究結果の考察2(2年秋期スクーリング)
13. 修士論文作成の方法1(2年秋期スクーリング)
14. 修士論文作成の方法2(2年秋期スクーリング)
15. 第一次発表会の資料作成(2年秋期スクーリング)

科 目 名	生活機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	齋藤 圭介	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	高齢者における障害の回復や予防に向けた評価と支援方法の確立を指向した研究方法論について					
使用 する テキスト	<p>・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野亘・長田久雄 ワールドプランニング 1992年</p> <p>・『ヘルスアセスメントマニュアル－生活習慣病・要介護状態予防のために』 ヘルスアセスメント検討委員会・監修 厚生科学研究所 2000年</p>					
講義概要・ 一般目標	<p>有病者や高齢者の障害予防，ならびに生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも，適切な評価と科学的な視座に立った支援方法の確立が強く求められている。この課題達成に向け，今後諸君が研究を進めるためには，生活機能障害に関する基本的な研究方法論や考え方を理解した上で，自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。</p> <p>本講では，生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため，1) 各種障害の相互関係に関する理論モデル（ICF；WHO国際生活機能分類など）を援用し，複雑かつ疾患ごとに大きく様態が異なる障害構造やその変動傾向について，実証的に解明していく研究方法について修得する。併せて，2) 対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探索し，その効果について適切な検証を加え科学的支援を確立するための研究方法について修得する。</p>					
到達目標	<p>特に高齢者の障害回復や予防に向けた「評価」「支援方法」に焦点を置いた上で，以下の目標を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記研究の遂行に必要な知識と学習の仕方を修得し，それを説明できる。</li> <li>・測定方法に関する基本的考え方と知識を習得し，実施へと具体化できる。</li> </ul>					
評価方法	科目修了試験により評価。口頭試問により学習内容の理解の深度を評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	<p>レポート課題の出題内容は，自身の研究テーマを具体化させる上で必要な，生活機能障害に関する研究方法論を学修することをねらいにしたものである。課題の順序性は研究計画の具体化とリンクするよう設定している。</p> <p>レポート課題をまとめるにあたっての留意点として，レポート課題は，課題に即した自己学修成果をまとめる「学修成果のまとめ」，そして「自身の研究テーマとの関連」の二章で構成すること。効果的な学修の流れとして，上記の構成順に学修を進めること，参考文献に限らず他の書籍や先行研究の論文に広く目を通す姿勢が望ましい。</p> <p>フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教 員 メールアドレス	k_saito@kiui.ac.jp					

## 課題内容(1年次)

第 1 回	レポート課題	臨床疫学(clinical epidemiology)的な研究方法について
	レポート作成のポイント	理学療法分野の研究では、得られた研究結果をより信憑性の高いものとするため、疫学的な研究手法を応用しさらに証明水準の高い研究に取り組むことで、エビデンスが蓄積されています。そこで、あなたの研究テーマを実証するために必要な理想的研究方法を調べてください。ここでは、実際の研究フィールドは度外視し、できるだけ普遍的な結論が得られるような視点で調べて、手順や対象数などを詳細にまとめてください。
	参考文献	・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野巨・長田久雄 ワールドプランニング 1992年 ・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子・木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第 2 回	レポート課題	高齢者の機能的状態や健康を評価する尺度の妥当性と信頼性について
	レポート作成のポイント	理学療法における評価は、実験器具を用いる場合であれ、アンケートで心理社会的な構成概念をとらえる場合であれ、妥当性と信頼性が問われます。そこで、あなたの研究テーマに関係した変数についてその測定のための指標や尺度を調べた上で、先行研究を検索して信頼性と妥当性がどのように検討されてきたかをまとめてください。
	参考文献	・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野巨・長田久雄 ワールドプランニング 1992年 ・『あなたもできるデータの処理と解析』 岩淵千明(編著) 福村出版 1997年
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第 3 回	レポート課題	高齢者における障害の回復や予防を目的とする科学的介入を前提とした先行研究のレビュー
	レポート作成のポイント	高齢者における理学療法において、適切な評価や科学的介入を行うためには、研究の進め方として先ず集団の法則性を解明する必要があります。高齢者に対する科学的な知見に裏打ちされた理学療法支援を行うために、何が明らかにされ、これから解明していかなければならない研究課題は何かについてまとめてください。
	参考文献	・『ヘルスアセスメントマニュアル－生活習慣病・要介護状態予防のために』 ヘルスアセスメント検討委員会・監修 厚生科学研究所 2000年 ※その他必要と考える文献は各自で検索し、参考にすること。
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	生活機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	齋藤 圭介	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	高齢者における障害の回復や予防に向けた評価と科学的な支援方法の確立をめざして					
使用 する テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『EBM医学英語論文の書き方・発表の仕方』 ウォーレン・S. ブラウナー (著), 折笠 秀樹 (翻訳) 医学書院 2001年</li> <li>・『臨床疫学 第2版 EBM実践のための必須知識』 ロバート H. フレッチャー, スーザン W. フレッチャー (著), 福井次矢 (監訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル 2006年</li> </ul>					
講義概要・ 一般目標	<p>有病者や高齢者の障害予防, ならびに生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも, 適切な評価と科学的な視座に立った支援方法の確立が強く求められている。この課題達成に向け, 今後諸君が研究を進めるためには, 生活機能障害に関する基本的な研究方法論や考え方を理解した上で, 自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。</p> <p>本講では, 生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため, 1) 各種障害の相互関係に関する理論モデル (ICF; WHO国際生活機能分類など) を援用し, 複雑かつ疾患ごとに大きく様態が異なる障害構造やその変動傾向について, 実証的に解明していく研究方法について修得する。併せて, 2) 対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探求し, その効果について適切な検証を加え科学的支援を確立するための研究方法について修得する。</p> <p>以上の学修を踏まえ, 本講では特に高齢者における障害の回復や予防に向けた「評価」と「支援方法」に焦点をあてながら, 自身の修士論文を具体化していく上で必要な知識や技術を修得する。</p>					
到達目標	<p>修士論文作成に資すると共に, 研究の具現化に必要な知識と方法論を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・測定尺度の選定方法と使用する根拠を説明出来る。</li> <li>・先行研究レビューと整理の仕方のポイントを修得し, 説明できる。</li> <li>・「考察」の基本的構成を理解し, 先行研究に基づく結果の解釈と意義づけをすることができる。</li> </ul>					
評価方法	科目修了試験により評価。口頭試問により学習内容の理解の深度を評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の 進め方	<p>レポート課題の出題内容は, 自身の研究テーマを具体化させる上で必要な, 生活機能障害に関する研究方法論を学修することをねらいにしたものである。課題の順序性は, 研究の具体化と論文執筆上必要となる基本的知識について修得するよう設定している。</p> <p>レポート課題をまとめるにあたっての留意点として, レポート課題は, 課題に即した自己学修成果をまとめる「学修成果のまとめ」, そして「自身の研究テーマとの関連」の二章で構成すること。効果的な学修の流れとして, 上記の構成順に学修を進めること, 参考文献に限らず他の書籍や先行研究の論文に広く目を通す姿勢が望ましい。</p> <p>フィードバックとして, 提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教 員 メールアドレス	k_saito@kiui.ac.jp					

## 課題内容(2年次)

第 4 回	レポート課題	海外で開発された測定尺度を本邦の研究で用いることについて
	レポート作成のポイント	理学療法研究を進める上で、測定すべき現象を絞り込み、その測定方法を探すと、欧米の研究論文で尺度開発がすでになされていることがほとんどであろう。 さて、あなたの研究計画で扱う概念のひとつについて、英語圏で尺度開発され、妥当性と信頼性が十分に支持されたものを見つけたとする。あなたの調査票に日本語化して載せたい、となったときに必要となる手順を説明してください。実際にあなたが使う尺度を示して説明しても良いものとします。
	参考文献	・『臨床疫学 第2版 EBM 実践のための必須知識』 □バート H. フレッチャー, スーザン W. フレッチャー (著), 福井次矢 (監訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル 2006年
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第 5 回	レポート課題	先行研究の整理と批判的吟味について
	レポート作成のポイント	収集した論文を読んでみると、あなたの研究関心に似た知見はすでに得られていると気づくことが多いであろう。研究テーマの適切性を裏付けるためには、研究関心を基に収集した先行研究を批判的に読み取ることが不可欠である。そこで、あなたがこれまでの研究活動で収集した論文はそれぞれ、何を発見して、同時に発見の際に何が不十分・曖昧であったり、問題点であったりするのかが、「アブストラクトテーブル」を作って論述してください。
	参考文献	・『臨床疫学 第2版 EBM 実践のための必須知識』 □バート H. フレッチャー, スーザン W. フレッチャー (著), 福井次矢 (監訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル 2006年
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第 6 回	レポート課題	研究論文において「考察」をどのように構成するか
	レポート作成のポイント	例えば、“高齢者の障害予防”に関する論文を想定し、その考察の書き方について調べてください。 書き方とは「考察」に係る構成要素のことであり、自由な発想を織りまぜて構わないので、しっかりと論述してください。なお、あなたの研究計画で扱う内容を例として示しても良いものとします。
	参考文献	・『EBM 医学英語論文の書き方・発表の仕方』 ウォーレン・S. ブラウナー (著), 折笠 秀樹 (翻訳) 医学書院 2001年 ・『臨床疫学 第2版 EBM 実践のための必須知識』 □バート H. フレッチャー, スーザン W. フレッチャー (著), 福井次矢 (監訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル 2006年
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。



科 目 名	生活機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	高 橋 淳	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	生活障害に対する評価や科学的な支援方法の確立をめざして					
使用する テキスト	・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野亘・長田久雄 ワールドプランニング 1992年					
講義概要・ 一般目標	<p>有病者や高齢者の障害予防、ならびに生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも、適切な評価と科学的な視座に立った支援方法の確立が強く求められている。この課題達成に向け、今後諸君が研究を進めるためには、生活機能障害に関する基本的な研究方法論や考え方を理解した上で、自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。</p> <p>本特論においては、生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため、1) 各種障害の相互関係に関する理論モデル（ICF；WHO国際生活機能分類など）を援用し、複雑かつ疾患ごとに大きく様態が異なる障害構造やその変動傾向について、実証的に解明していく研究方法について学修する。併せて、2) 対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探求し、その効果について適切な検証を加え科学的支援を確立するための研究方法について学修する。</p> <p>以上の学修を踏まえ、本特論では特に「内科慢性疾患患者を対象とした『臨床疫学的研究方法』、『評価指標・尺度の信頼性と妥当性』、および『理学療法効果に関する良質な証拠』」を習得する。</p>					
到達目標	臨床現場で抱える問題や疑問を研究に結びつけることができ、解決のために研究計画を作成できる。					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	レポート課題をまとめるに当たっての留意点：1頁目は表紙とし、課題名、学籍番号、氏名と共に提出日（第1回目、第2回目、最終提出日）を記載下さい。レポート本文では、テキストや文献資料を引用し、課題に関する一般的な知識を整理いただき、次に、自身の研究テーマ（仮）に当てはめて、その課題を考えてみて下さい。フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教 員 メールアドレス	atakah7@kiui.ac.jp					

課 題 内 容 (1年次)		
第 1 回	レポ ー ト 課 題	臨床疫学(clinical epidemiology)的な研究方法について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	理学療法分野の研究では、得られた研究結果をより信憑性の高いものとするため、疫学的な研究手法を応用しさらに証明水準の高い研究に取り組むことで、エビデンスが蓄積されています。そこで、あなたの研究テーマを実証するために必要な理想的研究方法を調べてください。ここでは、実際の研究フィールドは度外視し、できるだけ普遍的な結論が得られるような視点で調べて、手順や対象数などを詳細にまとめてください。
	参 考 文 献	・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野亘・長田久雄 ワールドプランニング 1992年 ・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子・木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年
	レポ ー ト 提 出 期 限	<del>令和3年6月30日(水)</del> <del>令和2年6月30日(火)</del>
第 2 回	レポ ー ト 課 題	内科慢性疾患の機能的重症度を評価する尺度の妥当性と信頼性について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	理学療法における評価は、実験器具を用いる場合であれ、アンケートで心理社会的な構成概念をとらえる場合であれ、妥当性と信頼性が問われます。そこで、あなたの研究テーマに関係した変数についてその測定のための指標や尺度を調べた上で、先行研究を検索して信頼性と妥当性がどのように検討されてきたかをまとめてください。
	参 考 文 献	・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野亘・長田久雄 ワールドプランニング 1992年
	レポ ー ト 提 出 期 限	<del>令和3年9月30日(木)</del> <del>令和2年9月30日(水)</del>
第 3 回	レポ ー ト 課 題	内科慢性疾患に対する理学療法効果に関する良質な科学的証拠
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	あなたの関心の疾病における病期あるいは障害レベルからみて、科学的な知見に裏打ちされた理学療法支援を行うために、何が明らかにされ、これから解明していかなければならない研究領域は何かについてまとめてください。
	参 考 文 献	必要と考えられる文献は、次の URL にて各自で検索して Abstract 等を用いること： <a href="http://www.pedro.fhs.usyd.edu.au/index.html">http://www.pedro.fhs.usyd.edu.au/index.html</a> 【学術書誌情報データベース The Physiotherapy Evidence Database (通称 PEDro)】
	レポ ー ト 提 出 期 限	<del>令和3年12月10日(金)</del> <del>令和2年12月10日(木)</del>
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	生活機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	高橋 淳	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テーマ	生活障害に対する評価や科学的な支援方法の確立をめざして					
使用するテキスト	<p>・『成功する科学論文 構成・プレゼン編』 Janice R. Matthews (著)、Robert W. Matthews (著)、畠山 雄二 (翻訳)、秋田 カオリ (翻訳) 丸善 2009年</p> <p>・『成功する科学論文 ライティング・投稿編』 Janice R. Matthews (著)、Robert W. Matthews (著)、畠山 雄二 (翻訳)、秋田 カオリ (翻訳) 丸善 2009年</p> <p>・『臨床疫学 第2版 EBM実践のための必須知識』 ロバート H. フレッチャー、スーザン W. フレッチャー (著)、福井次矢 (監訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル 2006年</p>					
講義概要・一般目標	<p>有病者や高齢者の障害予防、ならびに生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも、適切な評価と科学的な視座に立った支援方法の確立が強く求められている。この課題達成に向け、今後諸君が研究を進めるためには、生活機能障害に関する基本的な研究方法論や考え方を理解した上で、自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。</p> <p>本特論においては、生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため、1) 各種障害の相互関係に関する理論モデル (ICF; WHO国際生活機能分類など) を援用し、複雑かつ疾患ごとに大きく様態が異なる障害構造やその変動傾向について、実証的に解明していく研究方法について学修する。併せて、2) 対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探求し、その効果について適切な検証を加え科学的支援を確立するための研究方法について学修する。</p> <p>以上の学修を踏まえ、本特論では特に「内科慢性疾患患者を対象とした『臨床疫学的研究方法』、『評価指標・尺度の信頼性と妥当性』、および『理学療法効果に関する良質な証拠』」に焦点をあて、研究テーマに関連する知識や技術を習得する。</p>					
到達目標	臨床現場で抱える問題や疑問の解決のための研究計画を実行し、その結果の正確な記述や比較、考察内容の構成ができる。					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	レポート課題をまとめるに当たっての留意点：1頁目は表紙とし、課題名、学籍番号、氏名と共に提出日 (第1回目、第2回目、最終提出日) を記載下さい。レポート本文では、テキストや文献資料を引用し、課題に関する一般的な知識を整理いただき、次に、自身の研究テーマ (仮) に当てはめて、その課題を考えてみて下さい。フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教員メールアドレス	atakah7@kiui.ac.jp					

課題内容(2年次)		
第4回	レポート課題	海外で開発された測定尺度を本邦の研究で用いることについて
	レポート作成のポイント	理学療法研究を進める上で、測定すべき現象を絞り込み、その測定方法を探すと、欧米の研究論文で尺度開発がすでになされていることがほとんどであろう。さて、あなたの研究計画で扱う概念のひとつについて、英語圏で尺度開発され、妥当性と信頼性が十分に支持されたものを見つけたとする。あなたの調査票に日本語化して載せたい、となったときに必要となる手順を説明してください。実際にあなたが使う尺度を示して説明しても良い。
	参考文献	・『臨床疫学 第2版 EBM 実践のための必須知識』 ロバート H. フレッチャー、スーザン W. フレッチャー (著)、福井次矢 (監訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル 2006年
	レポート提出期限	<u>令和3年6月30日(水)</u> <del>令和2年6月30日(火)</del>
第5回	レポート課題	先行研究の整理と批判的吟味について
	レポート作成のポイント	収集した論文を読んでみると、あなたの研究関心に似た知見はすでに得られていると気づくことが多いであろう。研究テーマの適切性を裏付けるためには、研究関心を基に収集した先行研究を批判的に読み取ることが不可欠である。そこで、あなたがこれまでの研究活動で収集した論文はそれぞれ、何を発見して、同時に発見の際に何が不十分・曖昧であったり、問題点であったりするのかが、「アブストラクトテーブル」を作って論述してください。
	参考文献	・『臨床疫学 第2版 EBM 実践のための必須知識』 ロバート H. フレッチャー、スーザン W. フレッチャー (著)、福井次矢 (監訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル 2006年
	レポート提出期限	<u>令和3年9月30日(木)</u> <del>令和2年9月30日(水)</del>
第6回	レポート課題	研究論文において「考察」をどのように構成するか
	レポート作成のポイント	例えば、“内科慢性疾患(自分で適宜選択)の理学療法”に関する自然科学系の論文を想定し、その考察の書き方について調べてください。書き方とは「考察」に係る構成要素のことであり、自由な発想を織りまぜて構わないので、しっかりと論述してください。なお、あなたの研究計画で扱う内容を例として示しても良い。
	参考文献	・『成功する科学論文 構成・プレゼン編』 Janice R. Matthews (著)、Robert W. Matthews (著)、 畠山 雄二 (翻訳)、 秋田 カオリ (翻訳) 丸善 2009年 ・『成功する科学論文 ライティング・投稿編』 Janice R. Matthews (著)、Robert W. Matthews (著)、 畠山 雄二 (翻訳)、 秋田 カオリ (翻訳) 丸善 2009年
	レポート提出期限	<u>令和3年12月10日(金)</u> <del>令和2年12月10日(木)</del>
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	生活機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	原 田 和 宏	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	生活障害に対する評価や科学的な支援方法の確立をめざして					
使 用 する テ キ ス ト	・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野亘・長田久雄 ワールドプランニング 1992年					
講義概要・ 一般目標	<p>有病者や高齢者の障害予防，ならびに生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも，適切な評価と科学的な視座に立った支援方法の確立が強く求められている。この課題達成に向け，今後諸君が研究を進めるためには，生活機能障害に関する基本的な研究方法論や考え方を理解した上で，自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。</p> <p>本講では，生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため，1) 各種障害の相互関係に関する理論モデル（ICF；WHO国際生活機能分類など）を援用し，複雑かつ疾患ごとに大きく様態が異なる障害構造やその変動傾向について，実証的に解明していく研究方法について学修する。併せて，2) 対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探索し，その効果について適切な検証を加え科学的支援を確立するための研究方法について学修する。</p> <p>以上の学修を踏まえ，本講では特に「脳血管障害患者を対象とした『臨床疫学的研究方法』、『評価指標・尺度の信頼性と妥当性』，および『理学療法効果に関する良質な証拠』」を習得する。</p>					
到 達 目 標	臨床現場で抱える問題や疑問を研究に結びつけることができ，解決のために研究計画を作成できる。					
評 価 方 法	科目修了試験により評価。					
オ フィ ス ア ワ ー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	<p>レポート課題をまとめるに当たっての留意点：</p> <p>1頁目は表紙とし，課題名，学籍番号，氏名と共に提出日（第1回目，第2回目，最終提出日）を記載下さい。レポート本文では，テキストや文献資料を引用し，課題に関する一般的な知識を整理いただき，次に，自身の研究テーマ（仮）に当てはめて，その課題を考えてみて下さい。フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教 員 メ ー ル ア ド レ ス	k_harada@kiui.ac.jp					

課題内容(1年次)		
第1回	レポート課題	臨床疫学(clinical epidemiology)的な研究方法について
	レポート作成のポイント	理学療法における観察研究は、得られる研究結果をより信憑性のあるものとするために、疫学的研究に応用して日々発展しています。そこで、あなたの研究テーマを実証するために必要な理想的研究方法を調べてください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、できるだけ普遍的な結論が得られるような視点で調べて、手順や対象数などを詳細にまとめてください。
	参考文献	・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野巨・長田久雄 ワールドプランニング 1992年 ・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子, 木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第2回	レポート課題	脳血管障害の機能的重症度を評価する尺度の妥当性と信頼性について
	レポート作成のポイント	理学療法における評価は、実験器具を用いる場合であれ、アンケートで心理社会的な構成概念をとらえる場合であれ、妥当性と信頼性が問われます。そこで、あなたの研究テーマに関係した変数についてその測定のための指標や尺度を調べた上で、先行研究を検索して信頼性と妥当性がどのように検討されてきたかをまとめてください。
	参考文献	・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野巨・長田久雄 ワールドプランニング 1992年
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第3回	レポート課題	脳血管障害に対する理学療法効果に関する良質な科学的証拠
	レポート作成のポイント	たとえば、脳血管障害に対する理学療法の効果は、ランダム化比較試験による研究成果を基に再考されつつありますが、未だ成果は多くはありません。そこで、あなたの関心の疾病における病期あるいは障害レベルからみて、科学的な知見に裏打ちされた理学療法支援を行うために、何が明らかにされ、これから解明していかなければならない研究領域は何かについてまとめてください。
	参考文献	・『脳卒中治療ガイドライン2015〔追補2019〕』脳卒中学会 2019年 <a href="https://www.jsts.gr.jp/img/guideline2015_tuiho2019_10.pdf">https://www.jsts.gr.jp/img/guideline2015_tuiho2019_10.pdf</a> にて閲覧する。 ※その他必要と考えられる文献は、次のURLにて各自で検索してAbstract等を用いること <a href="http://www.pedro.fhs.usyd.edu.au/index.html">http://www.pedro.fhs.usyd.edu.au/index.html</a> 【学術書誌情報データベース The Physiotherapy Evidence Database (通称 PEDro)】
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	生活機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	原田 和 宏	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テーマ	生活障害に対する評価や科学的な支援方法の確立をめざして					
使用するテキスト	・『臨床疫学 第2版 EBM実践のための必須知識』 ロバート H. フレッチャー, スーザン W. フレッチャー (著), 福井次矢 (監訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル 2006年 ・『EBM医学英語論文の書き方・発表の仕方』 ウォーレン・S. ブラウナー (著), 折笠 秀樹 (翻訳) 医学書院 2001年					
講義概要・一般目標	<p>有病者や高齢者の障害予防, ならびに生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも, 適切な評価と科学的な視座に立った支援方法の確立が強く求められている。この課題達成に向け, 今後諸君が研究を進めるためには, 生活機能障害に関する基本的な研究方法論や考え方を理解した上で, 自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。</p> <p>本講では, 生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため, 1) 各種障害の相互関係に関する理論モデル (ICF; WHO国際生活機能分類など) を援用し, 複雑かつ疾患ごとに大きく様態が異なる障害構造やその変動傾向について, 実証的に解明していく研究方法について学修する。併せて, 2) 対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探求し, その効果について適切な検証を加え科学的支援を確立するための研究方法について学修する。</p> <p>以上の学修を踏まえ, 本講では特に「脳血管障害患者を対象とした『臨床疫学的研究方法』, 『評価指標・尺度の信頼性と妥当性』, および『理学療法効果に関する良質な証拠』」に焦点をあて, 研究テーマに関連する知識や技術を習得する。</p>					
到達目標	臨床現場で抱える問題や疑問の解決のための研究計画を実行し, その結果の正確な記述や比較, 考察内容の構成ができる。					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>レポート課題をまとめるに当たっての留意点:</p> <p>1頁目は表紙とし, 課題名, 学籍番号, 氏名と共に提出日 (第1回目, 第2回目, 最終提出日) を記載下さい。レポート本文では, テキストや文献資料を引用し, 課題に関する一般的な知識を整理いただき, 次に, 自身の研究テーマ (仮) に当てはめて, その課題を考えてみて下さい。フィードバックとして, 提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	k_harada@kiui.ac.jp					

課 題 内 容 (2年次)		
第 4 回	レポ ー ト 課 題	海外で開発された測定尺度を本邦の研究で用いることについて
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	理学療法研究を進める上で、測定すべき現象を絞り込み、その測定方法を探すと、欧米の研究論文で尺度開発がすでになされていることがほとんどであろう。 さて、あなたの研究計画で扱う概念のひとつについて、英語圏で尺度開発され、妥当性と信頼性が十分に支持されたものを見つけたとする。あなたの調査票に日本語化して載せたい、となったときに必要となる手順を説明してください。実際にあなたが使う尺度を示して説明しても良い。
	参 考 文 献	・『臨床疫学 第2版 EBM実践のための必須知識』 ロバート H. フレッチャー, スーザン W. フレッチャー (著), 福井次矢 (監訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル 2006年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和3年6月30日(水)
第 5 回	レポ ー ト 課 題	先行研究の批判的吟味の実際
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	収集した論文を読んでみると、あなたの研究関心に似た知見はすでに得られていると気づくことが多いであろう。研究テーマの適切性を裏付けるためには、研究関心を基に収集した先行研究を批判的に読み取ることが不可欠である。そこで、あなたがこれまでの研究活動で収集した論文はそれぞれ、何を発見して、同時に発見の際に何が不十分・曖昧であったり、問題点であったりするのかが、アブストラクトテーブルを作って論述してください。
	参 考 文 献	・『臨床疫学 第2版 EBM実践のための必須知識』 ロバート H. フレッチャー, スーザン W. フレッチャー (著), 福井次矢 (監訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル 2006年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和3年9月30日(木)
第 6 回	レポ ー ト 課 題	自然科学系の研究論文で、あなたは考察をどのように構成するか
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	例えば、“脳血管障害の理学療法”に関する自然科学系の論文を想定し、その考察の書き方について調べてください。 書き方とは「考察」に係る構成要素のことであり、自由な発想を織りまぜて構わないので、しっかりと論述してください。なお、あなたの研究計画で扱う内容を例として示しても良い。
	参 考 文 献	・『EBM 医学英語論文の書き方・発表の仕方』 ウォーレン・S. ブラウナー (著), 折笠 秀樹 (翻訳) 医学書院 2001年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和3年12月10日(金)
レポ ー ト 提 出 方 法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。



科 目 名	生活機能障害理学療法特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	佐藤 三 矢	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	本講義では、特に高齢者における障害の回復や予防に向けた評価と支援方法の確立を指向した研究方法論について展開する。					
使用 する テキスト	・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』古谷野亘・長田久雄 ワールドプランニング 1992年					
講義概要・ 一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有病者や高齢者における障害予防ならびに生活モデルに立脚した自立支援を行うためには、適切な評価と科学的視点に立った支援方法の確立が強く求められている。この課題達成に向けて今後の研究を進めるためには、生活機能障害に関する基本的な研究方法論や考え方を理解した上で自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。</li> <li>・そこで本講では、生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため、まずは各種障害の相互関係に関する理論モデル（ICF；WHO国際生活機能分類など）を援用し、複雑かつ疾患ごとに大きく様態が異なる障害構造やその変動傾向について実証的に解明していく研究方法について学修する。</li> <li>・また併せて、対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探索し、その効果について適切な検証を加え科学的支援を確立するための研究方法について学修する。</li> </ul> <p>以上の学修を踏まえ、本講では特に高齢者における障害の回復と予防に向けた評価と支援方法に焦点をあて、研究テーマに関連する知識や技術を深めるための学修を進める。</p>					
到達目標	<p>① 履修者が修士論文における研究テーマとしている対象者について文献レビューを通じて障害構造の特徴や傾向について文献的考察を実施することができる（レポート提出にて到達度を確認）。</p> <p>② ①の課題内容をふまえた上で、学生自身の研究テーマや研究方法について考察を行うことができる（レポート提出にて到達度を確認）。</p>					
評価方法	科目修了試験（特に口頭試問）により、本科目における学習によって得られた知識・理解度について評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考資料を熟読し、与えられた課題を達成する過程を通じて自分自身で考え、それをまとめる力をつける。そして、その事柄について討論が出来るようにすること。</li> <li>・フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。</li> </ul>					
教 員 メールアドレス	sato38@kiui.ac.jp					

## 課題内容(1年次)

第 1 回	レポート課題	臨床疫学(clinical epidemiology)的な研究方法について
	レポート作成のポイント	理学療法における観察研究は、得られる研究結果をより信憑性のあるものとするために、疫学的研究に応用して日々発展しています。そこで、あなたの研究テーマを実証するために必要な理想的研究方法を調べてください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、できるだけ普遍的な結論が得られるような視点で調べて、手順や対象数などを詳細にまとめてください。
	参考文献	・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野亘・長田久雄 ワールドプランニング 1992年
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第 2 回	レポート課題	高齢者の「身体面と精神面(認知症やQOL)」における機能的状態や健康を評価するための尺度について
	レポート作成のポイント	理学療法における評価は、実験器具を用いる場合であれ、アンケートで心理社会的な構成概念をとらえる場合であれ、妥当性と信頼性が問われます。そこで、あなたの研究テーマに関係した変数についてその測定のための指標や尺度を調べた上で、先行研究を検索して信頼性と妥当性がどのように検討されてきたかをまとめてください。
	参考文献	・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野亘・長田久雄 ワールドプランニング 1992年
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第 3 回	レポート課題	高齢者の「身体面と精神面(認知症やQOL)」における障害の回復や予防を目的とする科学的介入を前提とした先行研究のレビュー
	レポート作成のポイント	高齢者に対する科学的な知見にもとづいた理学療法支援を行うために、これまでに何が明らかにされ、これから解明していかなければならない研究領域は何かについて、「国内と海外の先行研究」をレビューし、まとめてください。
	参考文献	・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野亘・長田久雄 ワールドプランニング 1992年 ※その他必要と考える文献は各自で検索し、参考にすること。
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	生活機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	佐藤 三 矢	開講年次	1～2	授業形態	T科目	単位数	8単位
	テ ー マ		生活障害に対する評価や科学的な支援方法の確立をめざして						
使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『臨床研究マスターブック』福井 次矢（編集） 医学書院 2008年</li> <li>・『医学・自然科学研究者のための学術論文・電子投稿マニュアル—ネット投稿の準備・実際の投稿プロセス・改稿まで』 Federico DiRocco（著），大井 静雄（著） メジカルビュー社 2006年</li> </ul>								
講義概要・一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有病者や高齢者の障害予防，ならびに生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも，適切な評価と科学的な視座に立った支援方法の確立が強く求められている。この課題達成に向け，今後諸君が研究を進めるためには，生活機能障害に関する基本的な研究方法論や考え方を理解した上で，自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。</li> <li>・そこで本講では，生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため，各種障害の相互関係に関する理論モデル（ICF；WHO国際生活機能分類など）を援用し，複雑かつ疾患ごとに大きく様態が異なる障害構造やその変動傾向について，実証的に解明していく研究方法について学修する。</li> <li>・併せて，対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探求し，その効果について適切な検証を加え科学的支援を確立するための研究方法について学修する。</li> </ul> <p>以上の学修を踏まえ，本講では特に「脳血管障害患者を対象とした『臨床疫学的研究方法』、『評価指標・尺度の信頼性と妥当性』，および『理学療法効果に関する良質な証拠』」に焦点をあて，研究テーマに関連する知識や技術を深めるための学修を進める。</p>								
到達目標	<p>①学生がテーマとしている研究対象者について，障害構造の特徴や傾向における哲学的なまでに考察を行うことができる（レポート提出にて到達度を確認）。</p> <p>②①の課題内容をふまえた上で，学生自身の研究テーマや研究方法について多角的に考察を行うことができる（レポート提出にて到達度を確認）。</p>								
評価方法	科目修了試験（特に口頭試問）により，本科目における学習によって得られた知識・理解度について評価する。								
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。								
学修の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考資料等を熟読し，与えられた課題を達成する過程を通じて自分自身で考え，それをまとめる力をつける。そして，その事柄について討論が出来るようにすること。</li> <li>・フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</li> </ul>								
教員メールアドレス	sato38@kiui.ac.jp								

課題内容(2年次)		
第4回	レポート課題	海外で開発された測定尺度を本邦の研究で用いることについて
	レポート作成のポイント	理学療法研究を進める上で、測定すべき現象を絞り込み、その測定方法を探すと、欧米の研究論文で尺度開発がすでになされていることがほとんどであろう。 さて、あなたの研究計画で扱う概念のひとつについて、英語圏で尺度開発され、妥当性と信頼性が十分に支持されたものを見つけたとする。あなたの調査票に日本語化して載せたい、となったときに必要となる手順を説明してください。実際にあなたが使う尺度を示して説明しても良い。
	参考文献	・『臨床研究マスターブック』福井 次矢(編集) 医学書院 2008年
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第5回	レポート課題	先行研究の批判的吟味の実際
	レポート作成のポイント	収集した論文を読んでもみると、あなたの研究関心に似た知見はすでに得られていると気づくことが多いであろう。研究テーマの適切性を裏付けるためには、研究関心を基に収集した先行研究を批判的に読み取ることが不可欠である。そこで、あなたがこれまでの研究活動で収集した論文はそれぞれ、何を発見して、同時に発見の際に何が不十分・曖昧であったり、問題点であったりするのかが、アブストラクトテーブルを作って論述してください。
	参考文献	・『臨床研究マスターブック』福井 次矢(編集) 医学書院 2008年
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第6回	レポート課題	自然科学系の研究論文で、あなたは考察をどのように構成するか
	レポート作成のポイント	例えば、“脳血管障害の理学療法”に関する自然科学系の論文を想定し、その考察の書き方について調べてください。 書き方とは「考察」に係る構成要素のことであり、自由な発想を織りまぜて構わないので、しっかりと論述してください。なお、あなたの研究計画で扱う内容を例として示しても良い。
	参考文献	・『医学・自然科学研究者のための学術論文・電子投稿マニュアルーネット投稿の準備・実際の投稿プロセス・改稿まで』Federico DiRocco(著), 大井 静雄(著) メジカルビュー社 2006年
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	生活機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	日高正巳	開講年次	1～2	授業形態	T科目	単位数	8単位
	テーマ		生活障害に対峙する理学療法学の確立と継承を目指した理学療法指導者の育成について						
使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『ポートフォリオ評価とコーチング手法』鈴木敏恵 医学書院 2006年</li> <li>・『Q&amp;Aでよくわかる！見方・考え方を育てるパフォーマンス評価』西岡加名恵, 石井英真著：明治図書, 2018年</li> <li>・『セラピスト教育のためのクリニカル・クラークシップのすすめ第3版』中川法一編, 三輪書店, 2019年</li> </ul>								
講義概要・一般目標	<p>有病者や高齢者の障害予防, ならびに生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも, 適切な評価と科学的な視座に立った支援方法の確立が強く求められている。この課題達成に向け, 今後諸君が研究を進めるためには, 生活機能障害に関する基本的な研究方法論や考え方を理解した上で, 自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。</p> <p>本講では, 生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため, 1) 各種障害の相互関係に関する理論モデル (ICF; WHO国際生活機能分類など) を援用し, 複雑かつ疾患ごとに大きく様態が異なる障害構造やその変動傾向について, 実証的に解明していく研究方法について学修する。併せて, 2) 対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探究し, その効果について適切な検証を加え科学的支援を確立するための研究方法について学修する。</p> <p>本稿では特に「質の高い理学療法士の育成」に焦点をあてた学修を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大学・専門学校での養成教育ならびに臨床実習施設での臨床実習教育が抱える課題について理解する。</li> <li>○ 養成の質的向上に必要な教育手法について理解する。</li> </ul>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 質の高い理学療法士を輩出するための教育プログラムを立案する</li> <li>2) クリニカル・クラークシップによる臨床実習指導モデルを提示できる。</li> <li>3) Outcome Based Educationとしての到達目標を設定できる。</li> </ol>								
評価方法	科目修了試験により評価。								
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。								
学修の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題出題の意図, 及び課題の進め方 臨床実習教育をはじめとして, 臨床力向上を目指す中で臨床教育は大きな変革の時を迎えている。同時に, 良質な臨床教育の展開がなされなければ, 時間の浪費にもなりかねない。そのため, 学修者の到達点を明確にした上で, 効果的な臨床教育の方法について, 考察していくことを意図した課題としている。</li> <li>・レポート課題をまとめるにあたっての留意点 医学生, 看護学生等, 他職種の教育制度の歴史等を参考にし, 他職種が取り組んでいる戦略の中からいいものは取り入れるという視点で, 批判的吟味を加えながらまとめていくとよい。また, 対象者視点を大切に, 常に, 対象者にとってもよい方法とは何かということを念頭において考えていくことを求める。</li> <li>・効果的な学修の流れ 従来の方で問題がなかったというのではなく, 現在の社会情勢の中で, 社会的要請としてどのようなことが求められているのかという立場にたち, 常に, コンプライアンスを意識した上で, 学びの計画を立てていくことが効果的な学修につながるものである。 フィードバックとして, 提出された課題レポートにコメントを返します。</li> </ul>								
教員メールアドレス	pt-hidaka@umin.ac.jp								

課題内容(2年次)		
第4回	レポート課題	臨床実習指導における対象者の到達度評価について
	レポート作成のポイント	臨床実習を通して実習生がどのような学びをしたのかを明確にするためには、どのような評価方法が適切なのか についてまとめて下さい。
	参考文献	・『ポートフォリオ評価とコーチング手法』鈴木敏恵 医学書院 2006年 ・『教育目標をデザインする』RJ マルザーノ他 北大路書房 2013年
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第5回	レポート課題	効果的な臨床実習指導の展開に求められる指導者の能力について
	レポート作成のポイント	臨床実習指導を効果的に展開するためには、指導者の指導スキルが求められる。しかし、そのスキルとは単なる臨床能力だけではなく、自らの臨床活動を通して、実習生に働きかける技量とも言えよう。どのような指導的役割を果たすことが指導者に求められるのかについてまとめて下さい。
	参考文献	・『Q&Aでよくわかる！見方・考え方を育てるパフォーマンス評価』西岡加名恵,石井英真著:明治図書,2018年 ・『「学びの責任」は誰にあるのか、「責任の移行モデル」で授業が変わる』ダグラス・フィッシャー&ナンシー・フレイ著、吉田新一郎訳、新評論、2017年
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第6回	レポート課題	提唱したい臨床実習モデルにおける学修展開とは
	レポート作成のポイント	理想とする臨床実習モデルを多くの施設で展開できるようにしていくためには、具体的なイメージを形成してもらうことが必要である。実習生の学びの段階においてどのような実習シナリオが展開されるかについて、実習シミュレーションとしてのシナリオを作成して下さい。
	参考文献	・『見習いドクター、患者に学ぶ』林大地 集英社新書,2008年 ・『セラピスト教育のためのクリニカル・クラークシップのすすめ第3版』中川法一編,三輪書店,2019年
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	生活機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	横井輝夫	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テーマ	認知症を有する人に対する評価と科学的な支援方法の確立をめざして —特に理学療法士の視点から—					
使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『EBMのための臨床疫学』 縣 俊彦 中外医学社 2003年</li> <li>・『実証研究の手引き—調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野亘・長田久雄 ワールドプランニング 1992年</li> <li>・『私は誰になっていくの—アルツハイマー病者からみた世界』 クリスティーン・ブライデン (著), 檜垣陽子 (訳) クリエイツかもがわ 2003年</li> <li>・『私は私になっていく』 クリスティーン・ブライデン (著), 馬籠久美子・檜垣陽子 (訳) クリエイツかもがわ 2004年</li> </ul>					
講義概要・一般目標	<p>有病者や高齢者の障害予防, ならびに生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも, 適切な評価と科学的な視座に立った支援方法の確立が強く求められている。この課題達成に向け, 今後諸君が研究を進めるためには, 生活機能障害に関する基本的な研究方法論や考え方を理解した上で, 自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。</p> <p>本講では, 生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため, 1) 各種障害の相互関係に関する理論モデル (ICF; WHO国際生活機能分類など) を援用し, 複雑かつ疾患ごとに大きく様態が異なる障害構造やその変動傾向について, 実証的に解明していく研究方法について学修する。併せて, 2) 対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探索し, その効果について適切な検証を加え科学的支援を確立するための研究方法について学修する。</p> <p>以上の学修を踏まえ, 本講では特に認知症を有する人に対して理学療法士が取り組むべきことに焦点をあて, 認知症を有する人を診る視点と評価方法を修得する。</p>					
到達目標	認知症を有する人の生活機能障害に対し, 理学療法の視点に立った研究方法と評価方法を説明できる。					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。Eメールでの問い合わせや相談は随時行ないます。					
学修の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の留意点：まず先入観を排除し, 当事者の言葉から理解すること。</li> <li>・課題の進め方：院生とメールを用いた討論で進める。</li> <li>・フィードバックとして, 提出された課題レポートにコメントを返します。</li> </ul>					
教員メールアドレス	joy_yokoi@yahoo.co.jp					

## 課題内容(1年次)

第 1 回	レポート課題	臨床疫学(clinical epidemiology)的な研究方法について
	レポート作成のポイント	理学療法における観察研究は、得られる研究結果をより信憑性のあるものとするために、疫学的研究に応用して日々発展しています。そこで、あなたの研究テーマを実証するために必要な理想的研究方法を調べてください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、できるだけ普遍的な結論が得られるような視点で調べて、手順や対象数などを詳細にまとめてください。
	参考文献	・『EBMのための臨床疫学』 縣 俊彦 中外医学社 2003年 ・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野亘・長田久雄 ワールドプランニング 1992年
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第 2 回	レポート課題	評価尺度の妥当性と信頼性について
	レポート作成のポイント	理学療法における評価は、実験器具を用いる場合であれ、アンケートで心理社会的な構成概念をとらえる場合であれ、妥当性と信頼性が問われます。そこで、あなたの研究テーマに関係した変数についてその測定のための指標や尺度を調べた上で、先行研究を検索して信頼性と妥当性がどのように検討されてきたかをまとめてください。
	参考文献	・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野亘・長田久雄 ワールドプランニング 1992年
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第 3 回	レポート課題	認知症に対して理学療法士として取り組むべき視点からの先行研究のレビュー
	レポート作成のポイント	認知症を有する人に対して理学療法士として何ができるか、何をすべきかを、先行研究のレビューとあなたの臨床経験から整理して下さい。
	参考文献	・『認知症の正しい理解と包括的ケアのポイント 第3版』 山口晴保・他(著)、協同医書出版社 2016年 ・『認知症』横井輝夫(著)、理学療法士のための在宅療養者の診かた、杉元雅晴(編)、文光堂、pp103-113、2015年、
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。



科目名	生活機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	横井輝夫	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テーマ	認知症を有する人に対する評価と科学的な支援方法の確立をめざして —特に理学療法士の視点から—					
使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『臨床研究マスターブック』 福井 次矢 (編集) 医学書院 2008年</li> <li>・『医歯薬英語の訳し方・書き方』 大井 毅 (著) 朝日出版社 2005年</li> <li>・『EBM医学英語論文の書き方・発表の仕方』 ウォーレン・S. ブラウナー (著), 折笠 秀樹 (翻訳) 医学書院 2001年</li> <li>・『医学・自然科学研究者のための学術論文・電子投稿マニュアル—ネット投稿の準備・実際の投稿プロセス・改稿まで』 Federico DiRocco (著), 大井 静雄 (著) メジカルビュー社 2006年</li> </ul>					
講義概要・ 一般目標	<p>有病者や高齢者の障害予防, ならびに生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも, 適切な評価と科学的な視座に立った支援方法の確立が強く求められている。この課題達成に向け, 今後諸君が研究を進めるためには, 生活機能障害に関する基本的な研究方法論や考え方を理解した上で, 自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。</p> <p>本講では, 生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため, 1) 各種障害の相互関係に関する理論モデル (ICF; WHO国際生活機能分類など) を援用し, 複雑かつ疾患ごとに大きく様態が異なる障害構造やその変動傾向について, 実証的に解明していく研究方法について学修する。併せて, 2) 対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探索し, その効果について適切な検証を加え科学的支援を確立するための研究方法について学修する。</p> <p>以上の学修を踏まえ, 本講では特に認知症を有する人に対して理学療法士が取り組むべきことに焦点をあて, 科学的な支援方法を修得する。</p>					
到達目標	認知症を有する人の生活機能障害に対し, 理学療法の視点に立った科学的な支援方法を説明できる。					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。Eメールでの問い合わせや相談は随時行ないます。					
学修の 進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留意点: ご自身の臨床経験に基づき, 文献に振り回されないようにして下さい。</li> <li>・効果的な学修: 臨床経験に基づいて納得できる文献から芋づる式に先行研究を調べる。</li> <li>・フィードバックとして, 提出された課題レポートにコメントを返します。</li> </ul>					
教員 メールアドレス	joy_yokoi@yahoo.co.jp					

課題内容(2年次)

第4回	レポート課題	英語の key 論文の翻訳
	レポート作成のポイント	認知症において、あなたの研究テーマのキーになる英語論文1編を日本語に訳して下さい。英語論文と日本語訳を同時に提出して下さい。
	参考文献	・『医歯薬英語の訳し方・書き方』大井 毅(著) 朝日出版社 2005年
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第5回	レポート課題	先行研究の整理
	レポート作成のポイント	あなたの研究テーマに関連する国内外の先行研究を整理して下さい。そして、あなたの研究テーマの重要性と独自性を明確に述べて下さい。
	参考文献	・『臨床研究マスターブック』福井 次矢(編集) 医学書院 2008年
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第6回	レポート課題	論文の構成について
	レポート作成のポイント	論文には「緒言」「対象」「方法」「結果」「考察」「結語」など記述すべき内容と順序が決められています。それぞれの項目は、何を記述するのかを明確に述べて下さい。
	参考文献	・『EBM 医学英語論文の書き方・発表の仕方』 ウォーレン・S. ブラウナー(著), 折笠 秀樹(翻訳) 医学書院 2001年 ・『医学・自然科学研究者のための学術論文・電子投稿マニュアルーネット投稿の準備・実際の投稿プロセス・改稿まで』 Federico DiRocco(著), 大井 静雄(著) メジカルビュー社 2006年
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	生活機能障害理学療法学特論演習	担当教員	齋藤 圭介	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テーマ	高齢者の自立支援や障害予防を指向した研究方法論上の知識と技術の修得をめざして					
使用するテキスト	適宜，資料を配布する。					
講義概要・一般目標	生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるために，各種障害の相互関係に関する理論モデルを援用し，疾患ごとの障害構造や変動傾向を解明するための研究方法について学修する。あわせて，個々の大学院生が得たデータの結果についての統合・解釈を学修していく。特に高齢者の自立支援と障害予防に焦点をあてていく。					
到達目標	個々の大学院生の研究テーマに沿って研究で得られた結果の統計学的検討を踏まえた解釈，先行研究をもとにした考察が出来ることを目標とする。					
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言，受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	講義終了後，またはEメールを使用して実施する。					
学修の進め方	<p>本科目は，テキスト科目で修得される研究方法論に関する基本的知識，ならびに平素取り組んでいる研究課題を基盤に，直接的指導に基づく研究方法論の実践的知識の学修をねらいにしたものである。</p> <p>スクーリングまでの事前学修事項として，事前にスクーリング学修課題に関連したテーマで具体的課題を指示する。スクーリング修了後についても，生活機能障害に関する研究理解と自身の研究テーマに即した課題を指示するため，積極的姿勢で取り組むことを期待する。</p> <p>スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行なう。</p>					
教員メールアドレス	k_saito@kiui.ac.jp					

## スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理, 先行研究の紹介, 批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 統計学的解析の種類と方法(1年冬期スクーリング)
6. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年冬期スクーリング)
7. 研究の中間結果の整理(1年冬期スクーリング)
8. これまでに得られている研究結果の考察(1年冬期スクーリング)
9. 修士論文作成に向けての研究結果の報告, 整理(2年秋期スクーリング)
10. 研究結果の統計学的検討(2年秋期スクーリング)
11. 研究結果の考察1(2年秋期スクーリング)
12. 研究結果の考察2(2年秋期スクーリング)
13. 修士論文作成の方法1(2年秋期スクーリング)
14. 修士論文作成の方法2(2年秋期スクーリング)
15. 第一次発表会の資料作成(2年秋期スクーリング)

科目名	生活機能障害理学療法学特論演習	担当教員	高橋 淳	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テーマ	高齢者の自立支援や障害予防を指向した研究方法論上の知識と技術の修得をめざして					
使用するテキスト	適宜，資料を配布する。					
講義概要・一般目標	生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるために，各種障害の相互関係に関する理論モデルを援用し，疾患ごとの障害構造や変動傾向を解明するための研究方法について学修する。あわせて，個々の大学院生が得たデータの結果についての統合・解釈を学修していく。特に高齢者の自立支援と障害予防に焦点をあてていく。					
到達目標	個々の大学院生の研究テーマに沿って研究で得られた結果の統計学的検討を踏まえた解釈，先行研究をもとにした考察が出来ることを目標とする。					
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言，受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	講義終了後，またはEメールを使用して実施する。					
学修の進め方	<p>本科目は，テキスト科目で修得される研究方法論に関する基本的知識，ならびに平素取り組んでいる研究課題を基盤に，直接的指導に基づく研究方法論の実践的知識の学修をねらいにしたものである。</p> <p>スクーリングまでの事前学修事項として，事前にスクーリング学修課題に関連したテーマで具体的課題を指示する。スクーリング修了後についても，生活機能障害に関する研究理解と自身の研究テーマに即した課題を指示するため，積極的姿勢で取り組むことを期待する。</p> <p>スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行なう。スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行なう。</p>					
教員メールアドレス	atakah7@kiui.ac.jp					

## スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理, 先行研究の紹介, 批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 統計学的解析の種類と方法(1年冬期スクーリング)
6. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年冬期スクーリング)
7. 研究の中間結果の整理(1年冬期スクーリング)
8. これまでに得られている研究結果の考察(1年冬期スクーリング)
9. 修士論文作成に向けての研究結果の報告, 整理(2年秋期スクーリング)
10. 研究結果の統計学的検討(2年秋期スクーリング)
11. 研究結果の考察1(2年秋期スクーリング)
12. 研究結果の考察2(2年秋期スクーリング)
13. 修士論文作成の方法1(2年秋期スクーリング)
14. 修士論文作成の方法2(2年秋期スクーリング)
15. 第一次発表会の資料作成(2年秋期スクーリング)

科目名	生活機能障害理学療法学特論演習	担当教員	原田 和 宏	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テ ー マ	この講義では、脳血管障害患者を対象とした『臨床疫学的研究方法』、『評価指標・尺度の信頼性と妥当性』、および『理学療法効果に関する良質な証拠』の修得を目標とする。					
使用するテキスト	適宜、資料を配布する。					
講義概要・一般目標	生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるために、各種障害の相互関係に関する理論モデルを援用し、疾患ごとの障害構造や変動傾向を解明するための研究方法について学修する。あわせて、個々の大学院生が得たデータの結果についての統合・解釈を学修していく。特に理学療法士の立場から、臨床現場で抱える問題や疑問を研究に結びつけ解決のために研究計画を作成することに焦点をあてていく。					
到達目標	個々の大学院生の研究テーマに沿って研究で得られた結果の統計学的検討を踏まえた解釈、先行研究をもとにした考察が出来ることを目標とする。					
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施する。					
学修の進め方	<p>「スクーリングまでの事前学修事項」</p> <p>修士論文研究計画の進捗状況を配付資料として作成して下さい。1年次では計画をワードファイルやエクセルファイルに、2年次では研究実施内容をプレゼンテーション用のパワーポイントファイルで作成しましょう。</p> <p>「スクーリング終了後の学修事項」</p> <p>ゼミ形式での議論の内容を十分に反芻して、修士論文の課題解決法を考えましょう。スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行ないます。</p>					
教員メールアドレス	k_harada@kiui.ac.jp					

## スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理, 先行研究の紹介, 批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 統計学的解析の種類と方法(1年冬期スクーリング)
6. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年冬期スクーリング)
7. 研究の中間結果の整理(1年冬期スクーリング)
8. これまでに得られている研究結果の考察(1年冬期スクーリング)
9. 修士論文作成に向けての研究結果の報告, 整理(2年秋期スクーリング)
10. 研究結果の統計学的検討(2年秋期スクーリング)
11. 研究結果の考察1(2年秋期スクーリング)
12. 研究結果の考察2(2年秋期スクーリング)
13. 修士論文作成の方法1(2年秋期スクーリング)
14. 修士論文作成の方法2(2年秋期スクーリング)
15. 第一次発表会の資料作成(2年秋期スクーリング)



科目名	生活機能障害理学療法学特論演習	担当教員	佐藤 三矢	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テーマ	本講義では「地域在住高齢者のための介護予防」や「施設入所者（認知主高齢者も含む）におけるQOL」に関連する評価・介入をテーマとして研究疑問の整理、研究計画立案が出来るようになることを目指して展開する。					
使用するテキスト	適宜に資料を配布する。					
講義概要・一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生は、生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるために各種障害の相互関係に関する理論モデルを援用しながら、疾患ごとの障害構造や変動傾向を解明するための研究方法について学び、これを修得する。</li> <li>・ あわせて個々の大学院生が得たデータの結果についての統合・解釈を学修していく。</li> <li>・ 特に現場で働く理学療法士の立場から本講義のテーマに沿った有効なアプローチを探索できる能力を修得する。</li> </ul>					
到達目標	個々の大学院生における研究テーマに沿って、学生自身の研究活動によって得られた結果の統計学的検討を踏まえた解釈、先行研究をもとにした考察を実施できるようになることを目標とする。					
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施する。					
学修の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 配布資料等を熟読して与えられた課題を達成する過程を通じて自分自身で考え、それをまとめる力をつけ、その事柄について討論が出来るようにすること。</li> <li>・ スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行なう。</li> </ul>					
教員メールアドレス	sato38@kiui.ac.jp					

## スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理, 先行研究の紹介, 批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 統計学的解析の種類と方法(1年冬期スクーリング)
6. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年冬期スクーリング)
7. 研究の中間結果の整理(1年冬期スクーリング)
8. これまでに得られている研究結果の考察(1年冬期スクーリング)
9. 修士論文作成に向けての研究結果の報告, 整理(2年秋期スクーリング)
10. 研究結果の統計学的検討(2年秋期スクーリング)
11. 研究結果の考察1(2年秋期スクーリング)
12. 研究結果の考察2(2年秋期スクーリング)
13. 修士論文作成の方法1(2年秋期スクーリング)
14. 修士論文作成の方法2(2年秋期スクーリング)
15. 第一次発表会の資料作成(2年秋期スクーリング)

科目名	生活機能障害理学療法学特論演習	担当教員	日高 正巳	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テーマ	この演習では、理学療法士の育成の養成教育における研究疑問の整理、研究計画を立案し、教育プランが作成できる能力の修得を目標とする。					
使用するテキスト	適宜、資料を配布する。					
講義概要・一般目標	<p>生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるために、各種障害の相互関係に関する理論モデルを援用し、疾患ごとの障害構造や変動傾向を解明するための研究方法について学修する。特に、理学療法士養成教育に焦点をあて、個々の大学院生が得たデータの結果についての統合・解釈を学修していく。</p> <p>理学療法教育が取り巻く課題解決を図るため、適切な教育プランの作成能力を修得する。</p>					
到達目標	<p>個々の大学院生の研究テーマに沿って研究で得られた結果について、文献的考察を加え、自らの考えを説明できる。</p> <p>立案した教育プランのポイントについて、その必要性、目的等を説明できる。</p>					
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施する。					
学修の進め方	<p>「スクーリングまでの事前学修事項」 スクーリングでは、臨床教育が抱えている問題点と解決方法について議論をすることからも、日ごろの学生教育、職場教育の中で、どのような問題が発生しているのか、それに対して、どのような議論が現場ではなされているのかについて考えて臨むことが求められる。</p> <p>「スクーリング終了後の学修事項」 スクーリングでの議論を踏まえて、臨床現場で起きている臨床的課題に対して向き合い、その上で、意図的な変化を試みることで、臨床課題の変化を注意深く観察することが求められる。スクーリングでの学びを日々の臨床活動の中に活かしてみようととりくむことが必要であり、適用の可否を含めて、理論的に考えを整理していく事後活動が求められる。 スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行いません。</p>					
教員メールアドレス	pt-hidaka@umin.ac.jp					

## スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理, 先行研究の紹介, 批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年冬期スクーリング)
6. 研究の中間結果の整理(1年冬期スクーリング)
7. 教育プランの骨子検討(1年冬期スクーリング)
8. これまでに得られている研究結果の考察(1年冬期スクーリング)
9. 修士論文作成に向けての研究結果の報告, 整理(2年秋期スクーリング)
10. 研究結果の解析(2年秋期スクーリング)
11. 研究結果の考察(2年秋期スクーリング)
12. 教育プランのブラッシュアップ(2年秋期スクーリング)
13. 修士論文作成の方法1(2年秋期スクーリング)
14. 修士論文作成の方法2(2年秋期スクーリング)
15. 第一次発表会の資料作成(2年秋期スクーリング)

科目名	生活機能障害理学療法学特論演習	担当教員	横井輝夫	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テーマ	この講義では、認知症を有する人の生活機能障害に対し、理学療法の視点に立った研究方法と評価方法が説明できることを目標とする。					
使用するテキスト	適宜、資料を配布する。					
講義概要・一般目標	生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるために、各種障害の相互関係に関する理論モデルを援用し、疾患ごとの障害構造や変動傾向を解明するための研究方法について学修する。あわせて、個々の大学院生が得たデータの結果についての統合・解釈を学修していく。特に認知症を有する人に対して理学療法士が取り組むべきことに焦点をあてていく。					
到達目標	個々の大学院生の研究テーマに沿って研究で得られた結果の統計学的検討を踏まえた解釈、先行研究をもとにした考察が出来ることを目標とする。					
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施する。Eメールでの問い合わせや相談は随時行なう。					
学修の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の留意点：まず先入観を排除し、当事者の言葉から理解する。</li> <li>・課題の進め方：院生とメールを用いた討論で進める。</li> <li>・スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行なう。</li> </ul>					
教員メールアドレス	joy_yokoi@yahoo.co.jp					

## スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理、先行研究の紹介、批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 統計学的解析の種類と方法(1年冬期スクーリング)
6. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年冬期スクーリング)
7. 研究の中間結果の整理(1年冬期スクーリング)
8. これまでに得られている研究結果の考察(1年冬期スクーリング)
9. 修士論文作成に向けての研究結果の報告、整理(2年秋期スクーリング)
10. 研究結果の統計学的検討(2年秋期スクーリング)
11. 研究結果の考察1(2年秋期スクーリング)
12. 研究結果の考察2(2年秋期スクーリング)
13. 修士論文作成の方法1(2年秋期スクーリング)
14. 修士論文作成の方法2(2年秋期スクーリング)
15. 第一次発表会の資料作成(2年秋期スクーリング)

科目名	特別研究	開講年次	授業形態	単位数
		1～2	TS科目	10単位
担当教員	掛谷益子・河村顕治・齋藤圭介・高橋 淳・田中富子・長町榮子・原田和宏・森 芳史・井上茂樹・佐藤三矢・中嶋正明・森下元賀			
テーマ	「臨床における疑問を研究で解く」の理念に基づく修士論文の具体化を行う			
使用するテキスト	各々の研究内容・テーマ，学修・研究の進捗状況に応じて，指導教員が適宜指示します。			
講義概要・一般目標	<p>講義概要： 各々が設定した研究疑問から，疑問の定式化，先行研究の批判的吟味，研究デザインの設定，客観的な効果判定の検討を通して研究計画の立案と検討を行う。研究計画立案後は実際のデータ収集，得られたデータの分析，解釈，考察を通じて中間発表，修士論文の執筆，最終発表につなげる。スクーリングでは，個別・グループでの対面指導を行ない，研究発表会でのプレゼンテーションやグループ・ディスカッションによって，多角的に研究の進展を支援する。</p> <p>一般目標： 修士論文としてまとめるための基本（研究テーマの設定，文献検索，研究方法の理解，研究倫理の遵守，論文の章立て・構成，引用・注の記載方法，論文・要旨の書き方など）を修得する。</p>			
到達目標	<p>各自が選定した理学療法における研究疑問について，先行研究の批判的吟味，研究デザインの検討を通して，具体的な研究計画の立案を行い，研究計画書を作成できる。</p> <p>研究計画書に基づき，研究を実施し，得られたデータの分析，解釈を通して修士論文を完成できる。</p> <p>修士論文の完成を通じて得られた研究の方法論に関して，大学院修了後も継続して実践が行える。</p>			
評価方法	論文執筆への取り組み姿勢（積極性），修士論文の完成度から評価する。			
オフィスアワー	講義終了後，またはEメールを使用して実施する。			
学修の進め方	修士論文の作成にあたっての指導を講義で行いますが，事前準備として研究の意義や結果の考察などは自分なりの考えを持って講義に臨むようにしてください。また，講義終了後は指導された内容に関して，速やかに修正した内容を教員に報告してください。			
教員メールアドレス	masuko@kiui.ac.jp（掛谷），kawamura@kiui.ac.jp（河村），k_saito@kiui.ac.jp（齋藤），atakah7@kiui.ac.jp（高橋），tomiko@kiui.ac.jp（田中），eiko@kiui.ac.jp（長町），k_harada@kiui.ac.jp（原田），ymori@kiui.ac.jp（森），s_inoue@kiui.ac.jp（井上），sato38@kiui.ac.jp（佐藤），apollo@kiui.ac.jp（中嶋），m_mori@kiui.ac.jp（森下）			

## スクーリング学修計画

- |                                      |
|--------------------------------------|
| 1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)     |
| 2. 研究疑問の整理、先行研究の紹介、批判的吟味(1年秋期スクーリング) |
| 3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)            |
| 4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)              |
| 5. 統計学的解析の種類と方法(1年秋期スクーリング)          |
| 6. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年秋期スクーリング)   |
| 7. 2年次修士論文第一次発表会参加(1年秋期スクーリング)       |
| 8. 2年次修士論文第一次発表会参加(1年秋期スクーリング)       |
| 9. これまでの研究結果(プレ実験含む)の分析(1年秋期スクーリング)  |
| 10. 今後の研究方針の決定(1年秋期スクーリング)           |
| 11. 統計解析ソフトの使用方法(1年冬期スクーリング)         |
| 12. 2年次修士論文第二次発表会参加(1年冬期スクーリング)      |
| 13. 2年次修士論文第二次発表会参加(1年冬期スクーリング)      |
| 14. これまでの研究結果の分析(1年冬期スクーリング)         |
| 15. 今後の研究方針の決定(1年冬期スクーリング)           |
| 16. 1年次研究計画発表会参加(2年夏期スクーリング)         |
| 17. 1年次研究計画発表会参加(2年夏期スクーリング)         |
| 18. 修士論文中間発表会(2年夏期スクーリング)            |
| 19. 修士論文中間発表会(2年夏期スクーリング)            |
| 20. 修士論文中間発表会(2年夏期スクーリング)            |
| 21. 修士論文第一次発表会の準備1(2年秋期スクーリング)       |
| 22. 修士論文第一次発表会の準備2(2年秋期スクーリング)       |
| 23. 修士論文第一次発表会の準備3(2年秋期スクーリング)       |
| 24. 修士論文第一次発表会(2年秋期スクーリング)           |
| 25. 修士論文第一次発表会(2年秋期スクーリング)           |
| 26. 修士論文第二次発表会の準備1(2年冬期スクーリング)       |
| 27. 修士論文第二次発表会の準備1(2年冬期スクーリング)       |
| 28. 修士論文第二次発表会の準備1(2年冬期スクーリング)       |
| 29. 修士論文第二次発表会(2年冬期スクーリング)           |
| 30. 修士論文第二次発表会(2年冬期スクーリング)           |



科目名	生活機能障害理学療法学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	日高正巳	開講年次	1～2	授業形態	T科目	単位数	8単位
	テーマ		生活障害に対峙する理学療法学の確立と継承を目指した理学療法指導者の育成について						
使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『EBMのための臨床疫学』 縣 俊彦 中外医学社 2003年</li> <li>・『実証研究の手引き－調査と実験の進め方・まとめ方』 古谷野亘・長田久雄 ワールドプランニング 1992年</li> <li>・『セラピスト教育のためのクリニカル・クラークシップのすすめ 第3版』 中川法一編 三輪書店 2019年</li> </ul>								
講義概要・一般目標	<p>有病者や高齢者の障害予防，ならびに生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも，適切な評価と科学的な視座に立った支援方法の確立が強く求められている。この課題達成に向け，今後諸君が研究を進めるためには，生活機能障害に関する基本的な研究方法論や考え方を理解した上で，自らが取り組む研究テーマに関連する知識や技術を深めていく必要がある。</p> <p>本講では，生活機能障害に関する基本的な研究方法論について理解を深めるため，1) 各種障害の相互関係に関する理論モデル（ICF；WHO国際生活機能分類など）を援用し，複雑かつ疾患ごとに大きく様態が異なる障害構造やその変動傾向について，実証的に解明していく研究方法について学修する。併せて，2) 対象者が主体的な生活を営む力を獲得するための手立てを探索し，その効果について適切な検証を加え科学的支援を確立するための研究方法を修得する。</p> <p>本稿では特に「質の高い理学療法士の育成」についての理解を深めるため、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大学・専門学校での養成教育ならびに臨床実習施設での臨床実習教育が抱える課題を捉える力を修得する。</li> <li>○ 養成の質的向上に必要な教育手法を修得する。</li> </ul>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 理学療法士養成教育が抱える課題を列挙できる。</li> <li>2) 養成教育の教育手法について説明できる。</li> <li>3) クリニカル・クラークシップによる臨床実習について説明できる。</li> <li>4) Outcome Based Educationとしての到達目標について説明できる。</li> </ol>								
評価方法	科目修了試験により評価。								
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。								
学修の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題出題の意図，及び課題の進め方 臨床研究の方法について学修した後，学修の主たるテーマである「学修者の評価」に焦点を充て，どのような評価を用いることで，学びを捉え，そして，どのような教育プログラムにつながるのかをまとめて行くと言う構成を意図した課題設定となっています。</li> <li>・レポート課題をまとめるにあたっての留意点 レポート課題をまとめに際して，各参考文献の内容の要約に留まることなく，実際の研究テーマとの関連性を意識して作成することが必要です。特に，教育プログラムは，上手く絞ってまとめていかなければ，漫然とした論述になってしまいますので，養成教育か臨床教育かというポイントを絞った上でまとめることが必要です。</li> <li>・効果的な学修の流れ 文献を読むことはもとより，教育環境等の社会情勢の影響を受けるテーマでもあるため，高等教育全般の流れという大局的な見地を含めて考えていくと，目のポイントだけに留まることなく，幅広い学びを展開することが可能です。</li> </ul> <p>フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>								
教員メールアドレス	pt-hidaka@umin.ac.jp								

## 課題内容(1年次)

第 1 回	レポート課題	理学療法教育の見直しの観点から求められる研究方法について
	レポート作成のポイント	理学療法における観察研究は、得られる研究結果をより信憑性のあるものとするために、疫学的研究に応用して日々発展しています。そこで、あなたの研究テーマを実証するために必要な理想的研究方法を調べてください。ここでは、実際の研究フィールドのことは度外視し、できるだけ普遍的な結論が得られるような視点で調べて、手順や対象数などを詳細にまとめてください。
	参考文献	・『EBMのための臨床疫学』 縣 俊彦 中外医学社 2003年
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第 2 回	レポート課題	対象者の主観的な状況を評価する手法について
	レポート作成のポイント	理学療法における評価は、実験器具を用いる場合であれ、アンケートで心理社会的な構成概念をとらえる場合であれ、妥当性と信頼性が問われる一方、主観的な要因については、数値で測りきれないことも多くあります。そこで、あなたの研究テーマに関係した要因についてその評価手法を調べた上で、先行研究を検索して信頼性等の裏付けがどのように検討されてきたかをまとめてください。
	参考文献	・『21世紀型スキル：学びと評価の新たなかたち』 三宅なほみ監訳 北大路書房、2014年
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第 3 回	レポート課題	質の高い理学療法士の養成プログラム開発
	レポート作成のポイント	幅広い領域を対象とする中で、質の高い理学療法士の育成を目指していくためには、十分に検討された教育プログラムが準備されなければなりません。養成教育の最大の目的は、どのような臨床スキルを有した有資格者を輩出するかという Outcome を意識した教育の展開です。養成教育あるいは臨床実習教育のいずれかの立場にたってまとめて下さい。
	参考文献	・『セラピスト教育のためのクリニカル・クラークシップのすすめ 第3版』 中川法一編 三輪書店 2019年 ・日本理学療法士協会編：『臨床実習の手引き』ならびに『理学療法教育モデル・コア・カリキュラム』
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

## （通信制）保健科学研究科 作業療法学専攻 修士課程

科目名	保健科学研究法	担当教員	寺岡 睦 三宅 優紀 山本 倫子	開講年次	授業形態	単位数
				1	T科目	2単位
テーマ	保健科学分野で求められる研究方法論の理解（量的研究を中心に）					
使用するテキスト	特に指定しないので、自分で様々な文献にあたって学修を進めてください。参考文献は文献を探す手がかりになると思います。					
講義概要・一般目標	<p>1. 対象者のサンプリング方法と研究倫理（寺岡 睦） 保健科学領域では研究遂行の段階で、対象者の特性を探索するためにデータ収集を行います。質的研究では該当者へインタビューを行い、量的研究では質問紙を用いデータを収集します。特に量的研究は、既存の尺度を使うもしくは自作した尺度でデータ収集をすることで、疫学調査などの大規模な情報が短期間で得られること、母集団に対して仮説の検証や予測が行えること、データを分析し統計的に妥当な検証や解釈が行えることなどのメリットがあります。研究遂行をするうえで妥当な結果を得るために、対象者の適切なサンプリングを行う必要があります。さらに、対象者に対しては倫理的な配慮が必要であり、これを厳守しなければ個人情報の保護ができず対象者に不利益を及ぼしかねません。ここでは、量的研究に必要な対象者のサンプリング方法と研究倫理を学びます。これにより、研究目的に応じて対象者を適切に選定でき、倫理的配慮について遵守できるような知識を得ることができます。</p> <p>2. 臨床介入研究と観察的研究のデザインについて（三宅優紀） 我が国における保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障害者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り込まれる等、多様化・専門分化が進んでいます。同時にEvidence-based medicine (EBM) やEvidence-based health care (EBH) 重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られています。こうした状況の下、保健科学分野の専門家が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、リサーチマインドを涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかなくてはなりません。 これからみなさんは、自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む事となりますが、保健「科学」と呼ぶに相応しい研究を進めていくためには、研究のデザインと測定の方法論について熟知しなければなりません。</p> <p>3. 研究論文の批判的吟味について（山本倫子） 学術誌に掲載された論文のすべてが信用できるものであるとは限りません。そのため得られた論文の結果を鵜呑みにするのではなく、研究実施の手順や目的に沿った結果の示し方などを確認し、バイアスが掛かっているかどうか等を吟味する必要があります。ここでは、保健科学分野の国際誌に掲載された論文を批判的吟味できることを目標とします。</p>					
到達目標	日々の臨床の中で遭遇する素朴な疑問をいかに具体的に研究可能なテーマとして導き出すか。その流れを意識化しプロトコル作成につなげる思考が身に付く。					
評価方法	レポートの内容および科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。					
学修の進め方	自身の研究テーマと関連づけてレポート課題をまとめること。 各課題において教務部 通信教育事務課へ提出前に1回以上のレポート指導を仰ぐようにしてください。フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教員メールアドレス	teraokam@kiui.ac.jp（第1回／寺岡）、 miyake-y@kiui.ac.jp（第2回／三宅） tmomoko@kiui.ac.jp（第3回／山本）					

課題内容		
第1回	レポート課題	対象者のサンプリング方法と研究倫理
	レポート作成のポイント	研究を遂行する上で対象者のサンプリング方法がいくつかあります。それに関してまとめてください。また、研究実施する上で対象者に対して遵守すべき倫理的配慮や注意点について簡潔にまとめてください。
	参考文献	作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた（友利幸之介・京極真・竹林崇、医学書院）
	レポート提出期限	令和3年6月30日（水）
第2回	レポート課題	臨床介入研究と観察的研究のデザインについて
	レポート作成のポイント	1. 介入研究のデザインについてまとめてください。その中で、バイアスとは何で、バイアスを少なくするために介入研究ではどのような工夫がなされるのか合わせて論じてください。 2. 保健科学分野で頻用される観察的研究デザインである、横断研究、ケース・コントロール研究、コホート研究について考察してください。その中で、観察的研究の限界と一般化可能性について合わせて論じてください。
	参考文献	作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた（友利幸之介・京極真・竹林崇、医学書院）
	レポート提出期限	令和3年9月30日（木）
第3回	レポート課題	研究論文の批判的吟味について
	レポート作成のポイント	American Journal of Occupational Therapy, British Journal of Occupational Therapy, Canadian Journal of Occupational Therapy, Journal of Rehabilitation Medicine のいずれかに掲載されている実験的研究と観察的研究それぞれ1編の論文について批判的吟味してください。
	参考文献	・『医学的研究のデザイン 第4版』 木原雅子，木原正博訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2014年 ・作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた（友利幸之介・京極真・竹林崇、医学書院）
	レポート提出期限	令和3年12月10日（金）
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	作業療法学研究法	担当教員	狩長 弘親 三宅 優紀 山本 倫子	開講年次	授業形態	単位数
				1	T科目	2単位
テーマ	作業療法学分野で求められる研究方法論の理解					
使用するテキスト	特に指定しないので、自分で様々な文献にあたって学修を進めてください。参考文献は文献を探す手がかりになると思います。					
講義概要・一般目標	<p>この科目を学修するみなさんには、作業療法研究を包括的に理解するために、量的研究と質的研究のどちらのエッセンスも吸収していく姿勢が求められています。そのためには、作業療法学の時代背景や分野別研究、研究に関する流れを理解し、研究者としての視点を持つことが必要となります。</p> <p>作業療法研究には、「サイエンス」としての側面と「アート」としての側面があります。特に、この科目では「アート」の側面を中心に学びます。</p> <p>アートとしての作業療法研究は、個人によって語られたものや記述されたテキストを手がかりに、人の作業遂行に含まれている様々な「意味」を明らかにしていくものです。この質的研究とよばれる手法によって構築された説明やモデルは、作業と人間の新しい見方を提供し、作業療法がクライアントにとって意味のある物語を紡ぎだすのを助けます(NBP: Narrative-Based Practice)。</p> <p>課題を通して、作業療法研究の「アート」としての側面について、長所と短所を学んでください。</p> <p>オムニバス方式</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法実践における量的研究と質的研究（山本倫子） 学問として作業療法が発展するための、時代背景と研究手法の流れを理解し、作業療法実践における量的研究と質的研究について理解する。</li> <li>2. シングルシステムデザインについて（狩長弘親） 目の前の対象者だけに限れば、最も質の高いエビデンスを提供する研究は、シングルシステムデザインであるといわれている。その概要について理解を深める。</li> <li>3. 質的研究の質を評価する視点について（三宅優紀） 近年、作業療法領域でも質的研究の報告が増えてきました。その研究の質を評価する判断基準について理解することを目標とする。</li> </ol>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法実践における量的研究と質的研究について説明することができる。</li> <li>・シングルシステムデザインについて説明することができる。</li> <li>・質的研究の質を評価する視点について説明することができる。</li> </ul>					
評価方法	科目終了試験と提出課題により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	各課題において教務部 通信教育事務課へ提出前に1回以上のレポート指導を仰ぐようにしてください。フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教員メールアドレス	tmomoko@kiui.ac.jp（第1回／山本）、karinaga@kiui.ac.jp（第2回／狩長） miyake-y@kiui.ac.jp（第3回／三宅）					

## 課題内容

第 1 回	レポート課題	学問としての作業療法の発展について
	レポート作成のポイント	学問として作業療法が発展するための、時代背景と研究手法の流れを理解し、作業療法実践における量的研究と質的研究、それらの長所と短所を指摘してください。
	参考文献	・『作業療法研究法 第2版』山田孝（編）医学書院 2012年
	レポート提出期限	令和3年6月30日（水）
第 2 回	レポート課題	シングルシステムデザインの概要について
	レポート作成のポイント	目の前の対象者だけに限れば、最も質の高いエビデンスを提供する研究は、シングルシステムデザインであるといわれます。シングルシステムデザインの概要をまとめるとともに、その長所と短所を指摘してください。
	参考文献	・『作業療法研究法 第2版』山田孝（編）医学書院 2012年
	レポート提出期限	令和3年9月30日（木）
第 3 回	レポート課題	質的研究の質を評価する視点について
	レポート作成のポイント	質的研究の意義と基本的特徴、質的研究の基礎づけと評価基準について、端的にまとめてください。また COREQ 声明も参考に、質的研究の質を高める包括的な視点をまとめてください。
	参考文献	・『質的研究入門-“人間の科学”のための方法論』ウヴェ・フリック（著）春秋社、2011年 ・ COREQ: <a href="http://dx.doi.org/10.1093/intqhc/mzm042">http://dx.doi.org/10.1093/intqhc/mzm042</a>
	レポート提出期限	令和3年12月10日（金）
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	作業療法学研究法演習	担当教員	京極真 岩田美幸 狩長弘 寺岡隆 小林隆司	開講年次	授業形態	単位数
				1年	S科目	2単位
テーマ	修士論文の作成に取り組む上で、必要な研究法について学修する。					
使用するテキスト	作業で創るエビデンスー作業療法士のための研究法の学びかたー 友利幸之助 京極真 竹林 崇 医学書院					
講義概要・一般目標	作業療法学研究の潮流は、人間の作業に焦点化したものに重点が置かれつつある。人間の作業は複雑な現象であり、その探求には幅広い研究法の理解が必要である。本科目では、作業中心の研究を実現するために、研究入門から研究倫理、研究計画立案の基本、理論的研究、質的研究、量的研究、介入研究、観察研究まで幅広く学習する。					
到達目標	① 研究概要，研究倫理，研究過程，主な方法論について説明できる。 ② 自己の研究課題を絞り込み，それに関連する研究法を説明できる。					
評価方法	・講義時における口頭試問（30%），課題（30%），研究課題と研究計画（40%）で評価する。 なお，評価のために実施した課題等は，授業でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。					
オフィスアワー	講義終了後，またはEメールを使用して実施します。					
学修の進め方	スクーリングまでに自身の研究テーマを明確に整理し，指定されたテキストを読み込んでおくこと。スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行なう。スクーリング修了後は必ず復習すること。					
教員メールアドレス	kyougoku@kiui.ac.jp（京極），m_oda@kiui.ac.jp（岩田），karinaga@kiui.ac.jp（狩長），teraokam@kiui.ac.jp（寺岡），ryukoba@tmu.ac.jp（小林）					

## スクーリング学修計画

1. 臨床研究と量的研究1（研究概要、方法の整理）
2. 臨床研究と量的研究2（データ解析）
3. 無作為化比較試験の基礎と実際
4. 質的研究1（研究概要、方法の整理）
5. 質的研究2（GTA、KJ など）
6. 質的研究3（データ解析）
7. 研究計画書作成演習1（研究課題の整理）
8. 研究計画書作成演習2（研究計画の立案と作成）
9. 研究倫理
10. 研究倫理審査申請書作成
11. 理論的研究1（研究概要，原理的思考，論証の技術 など）
12. 理論的研究2（理論統合法，理論修正法，理論各課報 など）
13. 研究計画立案のヒント
14. 発表と議論1
15. 発表と議論2
16. 口頭試問



科目名	基礎保健科学特論	担当教員	中角 祐治 狩長 弘親 山本 倫子	開講年次	授業形態	単位数
				1・2	T科目	4単位
テーマ	分子生物学的, 細胞組織学および神経生理学的な視点からみた生体機能について					
使用するテキスト	・『NIRS-基礎と臨床』酒谷薫 監修 新興医学出版 2012年 ・『神経伝導検査テキスト』栢森良二 著 医歯薬出版 2012年					
講義概要・一般目標	<p>日々の臨床で遭遇する障害のメカニズムをより深く掘り下げて探求していこうとすると必ずそこには基礎医学的な知識と技術が必要となる。基礎科学は決して、作業療法などの保健科学と無関係ではなく、基礎科学が保健科学を支え、また、日々の作業療法活動が基礎科学を発展させている。本特論では、細胞・分子・生物のレベルからヒトについての理解を深めることを主眼とする。本講義では次の3つの各論から構成される。</p> <p>オムニバス方式</p> <p>1. 神経心理学 (狩長弘親) 若年者から高齢者まで、誰もが経験するもの忘れについて、心理学から脳科学まで多角的にとらえていくことを目標とする。 &lt;第1回レポート課題&gt;</p> <p>2. 精神神経科学 (山本倫子) 精神疾患の多くは脳を原因として生じることが知られている。そのため、脳機能を計測・評価することは重要である。脳機能を計測・評価する代表格としては機能的核磁気共鳴断層画像法 (fMRI) が挙げられる。しかし、fMRIは時間分解能や身体拘束の問題がある。近赤外分光法 (NIRS) は、空間分解能の問題があるものの自然な状態で脳機能を測定でき、精神疾患の客観的な生物学的指標として注目されている。ここでは、NIRSの測定原理、計測の基礎生理、ピットフォールについて学習する。&lt;第2回レポート課題&gt;</p> <p>3. 神経生理学 (中角祐治) ヒトの運動は、神経系によって制御されている。そして、作業療法では、さまざまな運動障害を対象にしている。神経・筋の活動電位を記録することは、病態を把握し、治療効果を客観的に確認することにつながる。まず、正常な神経系の機能についての理解を深め、病的な状態で観察される活動電位についても学習する。&lt;第3回レポート課題&gt;</p>					
到達目標	日々の臨床で遭遇する障害のメカニズムについて、基礎科学的な視点から捉えることができるようになる。					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。					
学修の進め方	レポートにまとめることで、ヒトの生体機能を学ぶことを目的としている。レポート課題は、推奨図書を元に文章をまとめた後、担当教員からEメールにて添削を受けて、完成とすること。フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教員メールアドレス	karinaga@kiui.ac.jp (第1回/狩長) tmomoko@kiui.ac.jp (第2回/山本) nakazumi@kiui.ac.jp (第3回/中角)					

課題内容		
第1回	レポート課題	もの忘れについて考察しなさい。
	レポート作成のポイント	もの忘れの種類や実験課題、対処法について論じてください。
	参考文献	・『「あっ、忘れてた」はなぜ起こる』梅田聡 著 岩波書店 2007年
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第2回	レポート課題	NIRSの仕組みと限界および精神疾患の鑑別診断補助
	レポート作成のポイント	NIRSの測定原理、測定方法および限界についてまとめて下さい。そのうえで、精神疾患(e.g. 統合失調症、うつ病など)で観察される前頭前皮質の活動について考察し、精神疾患におけるNIRS測定の作業療法への応用について論じて下さい。
	参考文献	・『NIRS-基礎と臨床』酒谷薫 監修 新興医学出版 2012年
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第3回	レポート課題	正常な神経伝導の仕組みと手根管症候群の電気診断
	レポート作成のポイント	臨床検査として行われている神経伝導検査法をまとめて下さい。その上で、手根管症候群で観察される正中神経や短母指外転筋の活動電位について、重症度別に解釈のしかたを記載して下さい。そして、神経生理学の作業療法への応用について論じて下さい。
	参考文献	・『神経伝導検査テキスト』栢森良二 著 医歯薬出版 2012年
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	臨床保健科学特論	担当教員	岩田美幸 寺岡睦子 山本倫子	開講年次	授業形態	単位数
				1・2	T科目	4単位
テーマ	多様な疾患の医学・心理・社会的な側面を学び、高度専門作業療法士にふさわしい周辺領域に関する知識を獲得するのがねらいである。					
使用するテキスト	特に指定しないので、自分で様々な文献にあたって学修を進めてください。参考文献は文献を探す手がかりになると思います。					
講義概要・一般目標	<p>臨床保健学の知見は年齢を問わず、子どもから高齢者まで、全ての人に共通して求められるものである。本特論では治療医学の視点にとどまらず、リハビリテーション医学や心理学の視点からも人間の障害の多様性について理解を深めることを目的に、以下の3つの各論から構成される。</p> <p>オムニバス方式</p> <p><u>1. 感情社会学（山本倫子）</u> 自分の感情を制御し相手の感情に合わせて対応することで対価を得る労働として感情労働が着目されてきている。ここでは、感情労働について理解を深めることを目標とする。〈第1回レポート課題〉</p> <p><u>2. 作業科学（寺岡 睦）</u> 現代の作業療法で着目されているOBP, OCP, OFPは依然として科学的根拠を求められる。ここでは、OBPに関連するエビデンスについてまとめ、説明出来ることを目標とする〈第2回レポート課題〉</p> <p><u>3. 保健科学（岩田美幸）</u> 保健科学の観点から、作業療法における人間の健康と幸福を保つための現状の取り組みについて説明できることを目標とする。〈第3回レポート課題〉</p>					
到達目標	<p>到達目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>感情労働について説明できる。</li> <li>OBPに関連するエビデンス（RCT, メタ分析, システマティックレビュー）について説明できる。</li> <li>学習者の専門分野における歴史と先行研究について簡潔に説明できる。</li> </ul>					
評価方法	科目終了試験と提出課題により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。					
学修の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定の文献を読み、レポート作成のポイントをもとに内容をまとめてください。また、最後に学んだこと等を考察してください。</li> <li>レポート提出前に担当教員にメールで連絡し、レポート内容についての指導を受けてください。</li> <li>フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。</li> </ul>					
教員メールアドレス	tmomoko@kiui.ac.jp（第1回／山本） teraokam@kiui.ac.jp（第2回／寺岡） m_oda@kiui.ac.jp（第3回／岩田）					

課題内容		
第1回	レポート課題	感情労働について考察しなさい。
	レポート作成のポイント	感情労働の特徴と感情労働におけるリスクについて（第1,2,3章）を中心にまとめるとよいと思います。
	参考文献	『ひと相手の仕事はなぜ疲れるのか 感情労働の時代』 武井麻子 著 大和書房 2011年
	レポート提出期限	令和3年6月30日（水）
第2回	レポート課題	OBP, OCP, OFP に関連するエビデンス（RCT, メタ分析, システマティックレビュー）について1つ文献を読み考察しなさい。
	レポート作成のポイント	インターネット上の研究論文サイトから OBP, OCP, OFP に関するエビデンスの高い研究論文（RCT, メタ分析, システマティックレビュー）を1つ以上検索し、興味がある論文の概要を報告して下さい。また、自身の研究とのつながりも併せて考察してください。
	参考文献	<a href="https://www.cochranelibrary.com/">https://www.cochranelibrary.com/</a>
	レポート提出期限	令和3年9月30日（木）
第3回	レポート課題	学習者の専門分野における健康と幸福について、歴史理解と先行研究について考察しなさい。
	レポート作成のポイント	インターネット上の研究論文サイトから、学習者の専門分野に関するエビデンスの高い研究論文（RCT, メタ分析, システマティックレビュー）を1つ以上検索し、興味がある論文の概要を報告して下さい。また、自身の研究とのつながりも併せて考察してください
	参考文献	作業で創るエビデンスー作業療法士のための研究法の学びかたー 友利幸之助 京極真 竹林 崇 医学書院
	レポート提出期限	令和3年12月10日（金）
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	地域保健科学特論	担当教員	岩田美幸 狩長弘親 三宅優紀	開講年次	1・2	授業形態	T科目	単位数	4単位
テ ー マ	作業療法の視点から地域保健科学を探究する								
使用するテキスト	全ての課題に共通したテキストはありません。課題で指定した参考文献以外にも、自分で様々な文献にあたって学修を進めてください。								
講義概要・一般目標	<p>地域保健科学では、個々の物語（ナラティブ）に代表されるような近視眼的なものから、疫学に代表されるような鳥瞰図的なものまで多岐に渡る。さらに、地域では、健常者や障害者、あるいは高齢者およびその家族が住み慣れたところで、そこに住む人々とともに、いきいきとした生活が送れるよう、医療や保健、福祉および生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織に、連携という視点が必要となってくる。その中で作業療法がその専門性を発揮できるかが現在の大きな課題である。</p> <p>本科目は、作業療法の視点から地域保健科学について探究することを目的に、以下の各論から構成される（オムニバス方式）</p> <p>1. 健康増進と作業機能障害（三宅優紀）  作業機能障害は、障害者だけでなく健常者も陥る可能性がある。一般健常人における作業機能障害の存在率は約40%といわれている。この数字は、厚生労働省の調査の生活習慣病の割合と比較しても決して少なくない。また心理的問題とも関連性も示されており、国民の健康問題を考える上で見逃してはならない問題である。今回は作業機能障害について理解し、健康増進との関係について理解を深め、作業療法学と疫学の関係性について修得する。〈第1回レポート課題〉</p> <p>2. リハビリテーション連携科学（岩田美幸）  医療、保健、福祉の分野において「連携」の重要性は明らかであり、地域リハシステムを確立するために、各関係機関の「横」の連携、利用者のライフステージにわたる「縦」の連携、そして、専門職のサービスとサービス利用者との対等な関係（パートナーシップ）の樹立と利用者の協働が求められている。今回は、利用者の視点に立った地域リハ連携のあり方について理解を深め、関連する理論を修得する。〈第2回レポート課題〉</p> <p>3. 家族支援と作業療法（狩長弘親）  障害を持って、一人ひとりが住み慣れた地域で生き生きと生活していくためには、クライアントへの支援だけでなく、共に生活する家族への支援も不可欠である。今回は、作業療法における家族支援とその方法について理解を深め、関連する知識を修得する。〈第3回レポート課題〉</p>								
到達目標	<p>1. 作業機能障害は生活習慣病と同等な重要事項であることを示した上で、今までの研究を振り返りながら対策の必要性を説明できる（三宅）</p> <p>2. 利用者の視点に立った地域リハ連携の具体的方法について説明できる（岩田）</p> <p>3. 家族支援における作業療法士の役割について説明できる（狩長）</p>								
評価方法	レポート課題各20%（計60%）、科目修了試験40%により評価する。								
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。								
学修の進め方	各課題において、通信教育事務課への提出前に、担当教員へ1回以上のレポート指導を仰ぐようにしてください。レポート指導は、作成途中の内容で結構です。その場合は、教員へ質問事項や不明点を明記し、連絡するようにしてください。 フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。								
教員メールアドレス	miyake-y@kiui.ac.jp（第1回／三宅） m_oda@kiui.ac.jp（第2回／岩田） karinaga@kiui.ac.jp（第3回／狩長）								

## 課 題 内 容

第 1 回	レポ ー ト 課 題	健康増進と作業機能障害の関係
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	作業機能障害とはなにか。健康増進の対象を国民全体とすると、現時点での作業機能障害関連の研究の状況と、今後どんな対象にどのような研究が必要になってくるのかを作業療法学と疫学の方法論の違いを考えながら考察してください。
	参 考 文 献	・『国民の福祉の動向』 財団法人厚生労働統計協会 ・『「作業」って何だろう 第2版』吉川ひろみ 2017年 医歯薬出版 など
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和3年6月30日（水）
第 2 回	レポ ー ト 課 題	地域リハ連携の問題点と解決方法
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	臨床経験の中で地域リハ連携の必要性を感じた事例について、利用者からみた地域リハシステムの問題点について述べてください。その中で、専門機関間の連携、地域社会との連携、地域住民との連携などを視野に入れ、連携のあり方について論述してください。
	参 考 文 献	・『リハビリテーション連携論』 日本リハビリテーション連携科学学会／編集 三輪書店 2009年 など
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和3年9月30日（木）
第 3 回	レポ ー ト 課 題	家族支援における作業療法士の役割
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	身障・精神・老年期・小児等、関心の高い領域に絞り込み、クライアントの社会生活を支援するうえで必要な家族への支援について述べてください。また、家族支援における作業療法士の役割について検討してください。
	参 考 文 献	・『考える作業療法』 澤田雄二編集 文光堂 2008年 ・『作業療法ジャーナル 45巻 11号 特集／家族を理解すること 支えること』 三輪書店 2011年 など
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和3年12月10日（金）
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	作業機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	京 極 真	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	作業機能障害および関連する研究法を理解できる。					
使用する テキスト	・『作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた』 友利幸之介・京極真・竹林崇（著）医学書院 2019年					
講義概要・ 一般目標	<p>【講義概要】</p> <p>作業機能障害は、日々の作業（仕事、遊び、レジャー、ADL、IADL、休息、睡眠、教育、社会参加、健康管理）を適切にやり遂げられない状態である。作業機能障害研究に取り組むためには、作業機能障害を的確に理解したうえで、関連する研究法に精通していくことが期待される。</p> <p>【一般目標】</p> <p>作業機能障害の理解を深めることができる。</p> <p>作業機能障害に関連する研究法を理解することができる。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院生自身が好きな映画を視聴し、主人公が体験する作業機能障害について、作業不均衡、作業剥奪、作業疎外、作業周縁化を記述することができる。</li> <li>・構造方程式モデリングを理解し、作業機能障害研究に関連した研究テーマへの適応例を説明できる。</li> <li>・質的研究を理解し、作業機能障害研究に関連した研究テーマへの適応例を説明できる。</li> </ul>					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	レポート課題をまとめるにあたっては、自身の研究テーマにどう活かしていけるかという視点を持つこと。フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返すため、今後の学習に役立てること。					
教 員 メールアドレス	kyougoku@kiui.ac.jp					

## 課題内容(1年次)

第 1 回	レポート課題	作業機能障害について理解できる。
	レポート作成のポイント	自身が好きな映画を選び、視聴したうえで、主人公の作業機能障害について作業不均衡、作業剥奪、作業疎外、作業周縁化の観点から記述してください。また、主人公は作業機能障害を通して人生、健康、幸福にどのような影響を受けているかを考察してください。
	参考文献	・寺岡睦，京極真：作業に根ざした実践と信念対立解明アプローチを統合した「作業に根ざした実践2.0」の提案．作業療法33(2)，249-258，2014
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第 2 回	レポート課題	構造方程式モデリングを理解し、作業機能障害研究に関連した研究テーマへの適応例を説明できる。
	レポート作成のポイント	構造方程式モデリングの目的と代表的な解析方法(確認的因子分析、回帰分析、パス解析、多母集団分析など)を端的にまとめてください。そして、どのような作業機能障害研究の研究テーマに適用できるかを述べ、適用の仕方を説明してください。なお、適用はあくまでも「案」ですから、完璧な内容にする必要はありません。
	参考文献	・『作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた』 友利幸之介・京極真・竹林崇(著) 医学書院 2019年
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第 3 回	レポート課題	質的研究を理解し、作業機能障害研究に関連した研究テーマへの適応例を説明できる。
	レポート作成のポイント	質的研究の目的と代表的な分析方法(グラウンデッドセオリーアプローチ、解釈学的アプローチなど)を端的にまとめてください。そして、どのような作業機能障害研究の研究テーマに適用できるかを述べ、適用の仕方を説明してください。なお、適用はあくまでも「案」ですから、完璧な内容にする必要はありません。
	参考文献	・『作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた』 友利幸之介・京極真・竹林崇(著) 医学書院 2019年
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。



科 目 名	作業機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	京 極 真	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	作業機能障害研究に関連する研究計画を立案できる。					
使用する テキスト	・『作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた』 友利幸之介・京極真・竹林崇(著) 医学書院 2019年					
講義概要・ 一般目標	<p>【講義概要】</p> <p>作業機能障害は、日々の作業(仕事、遊び、レジャー、ADL、IADL、休息、睡眠、教育、社会参加、健康管理)を適切にやり遂げられない状態である。作業機能障害研究に取り組むためには、作業機能障害を的確に理解したうえで、関連する研究法に精通していくことが期待される。作業機能障害支援学特論では、2年次に作業機能障害に関する概念生成、評価開発、介入研究について研究計画を考察してもらう。</p> <p>【一般目標】</p> <p>作業機能障害支援学に貢献できる論理的思考と研究法を習得するために、作業機能障害に関する概念の生成、評価尺度の開発、介入研究について一貫して考えることができる。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業機能障害に関する概念の作り方を理解できる。</li> <li>・作業機能障害に関する評価尺度の作り方を理解できる。</li> <li>・作業機能障害に関する介入研究の方法を理解できる。</li> </ul>					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	レポート課題をまとめるにあたっては、自身の研究テーマにどう活かしていけるかという視点を持つこと。フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教 員 メールアドレス	kyougoku@kiui.ac.jp					

## 課題内容(2年次)

第 4 回	レポート課題	作業機能障害に関する概念の生成を考えて説明する。
	レポート作成のポイント	この課題では、質的研究法を使って、作業機能障害に関する概念を生成する方法を説明してください。レポートは、背景、目的、方法、予想される結果と意義にわけて記載してください。
	参考文献	・『作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた』 友利幸之介・京極真・竹林崇（著）医学書院 2019年
	レポート提出期限	令和3年6月30日（水）
第 5 回	レポート課題	作業機能障害に関する評価尺度を考えて説明する。
	レポート作成のポイント	この課題では、尺度開発法を使って、作業機能障害に関する評価尺度を開発する方法を説明して下さい。レポートは、背景、目的、方法、予想される結果と意義にわけて記載してください。
	参考文献	・『作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた』 友利幸之介・京極真・竹林崇（著）医学書院 2019年
	レポート提出期限	令和3年9月30日（木）
第 6 回	レポート課題	作業機能障害に関する介入研究を考えて説明する。
	レポート作成のポイント	この課題では、ランダム化比較試験を使って、作業機能障害に関する介入研究の方法を説明して下さい。レポートは、背景、目的、方法、予想される結果と意義にわけて記載してください。
	参考文献	・『作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた』 友利幸之介・京極真・竹林崇（著）医学書院 2019年
	レポート提出期限	令和3年12月10日（金）
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	作業機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	岩 田 美 幸	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	作業機能障害の知識と関連する研究法を理解できる。					
使 用 する テ キ ス ト	・『作業療法の理論 原書第4版』 Kielhofner G (山田孝・監訳) 医学書院2014年 ・『作業療法研究法』 竹田徳則 (医歯薬出版会社) 2017年					
講義概要・ 一般目標	<p>【一般目標】          学問として作業療法が発展するための時代背景と作業機能を学び、作業療法実践における作業機能障害を理解する</p> <p>【講義の概要】          作業に根ざした実践 (occupation-based practice, 以下OBP) は、Reillyの作業行動の発案に直接の起源を持つ。作業行動は、道徳療法 (18～19世紀頃)、作業パラダイム (1900年から1940年頃) の基本原則として考えられる。</p> <p>Reillyは、1962年のEleanor Clarke Slagle記念講演において「人間は、自分の精神と意志によって活力を与えられる両手の使用を通して、自らの健康状態に影響を及ぼすことができる」と述べた。これは、当時の還元主義パラダイムのまっただ中もあつたアメリカの作業療法を「作業」に根ざしたパラダイムへ転換するように臨床家や教育者へ求めたもので、その後、アメリカの作業療法士たちは自らのアイデンティティをとりもどしたのである。</p> <p>OBPとは、クライアントの人生の中で作業機能障害を評価し、介入する方法の総称である。作業機能障害とは、生活行為 (仕事、遊び、日課、休息) を適切にやり遂げられない問題と考えられている。最近では、寺岡らにより、作業機能障害には複数の種類があり、共通するものとして、作業剥奪、作業疎外、作業不均衡、作業周縁化の4つがあると報告されている (2013年)。</p> <p>そこで作業機能障害支援学特論 (1年次) では、OBPを行なうために作業機能障害の理解を深め、それをを用いた事例検討を行なう。また、先行研究を通して自己の研究テーマの妥当性を学ぶものとする。</p>					
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業機能の基礎と作業機能障害の種類を説明できる</li> <li>2. 作業機能障害の評価と支援を理解することができる</li> <li>3. 作業機能障害の先行研究を通して、自身の研究テーマと方法の妥当性を述べることができる</li> </ol>					
評 価 方 法	科目修了試験により評価。					
オフィスパワー	Eメールを使用して実施する。					
学 修 の 進 め 方	<p>各課題において、教務課への提出前に、担当教員へ1回以上のレポート指導を仰ぐようにしてください。レポート指導は、作成途中の内容で結構です。その場合は、教員へ質問事項や不明点を明記し、連絡するようにしてください。</p> <p>フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教 員 メールアドレス	m_oda@kiui.ac.jp					

課題内容(1年次)		
第1回	レポート課題	作業行動論と人間作業モデルの特徴から作業機能と作業機能障害の種類について説明してください。
	レポート作成のポイント	作業に根ざした実践を行なうために、作業行動パラダイムや人間作業モデルを表す開放システムの考えを通して、作業機能は何であるかを述べてください。また、最近の研究では、作業機能障害が4種類に分類されると言われています。その種類について説明しなさい。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『作用療法実践のための6つの理論-理論の形成と発展』 岩崎テル子(監訳) 協同医書出版 1998年</li> <li>・作業機能障害の種類と評価の試作版作成 寺岡睦 総合リハビリテーション 41巻5号 2013年5月 など</li> </ul>
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第2回	レポート課題	作業機能障害の種類と評価を適応した事例検討
	レポート作成のポイント	この課題では、前回までに学習した作業機能障害の理解を深めるために、学生自身の臨床・研究フィールドのクライアントに作業機能障害の評価と支援方法について、事例検討を実施します。レポートの様式はとくに指定しませんが、可能な限り日本作業療法士協会の事例報告登録制度の形式に準拠してください。
	参考文献	特に指定しない
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第3回	レポート課題	作業機能障害の先行研究と比較して、自身の研究テーマと方法の妥当性を述べるができる。
	レポート作成のポイント	この課題では、自己の研究テーマと方法について、前回までに学習した作業機能障害の先行研究と比較検討を行う。具体的には、先行研究のテーマ、方法を整理し、自己の研究テーマと方法の比較を行い、自己の研究のテーマと方法の妥当性を述べてください。
	参考文献	特に指定しない
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	作業機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	岩田 美幸	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テーマ	作業療法の理論について学び、作業療法の研究に関する知識と技術を深める					
使用するテキスト	・『作業で創るエビデンス（作業療法士のための研究法の学びかた）』 友利幸之助 京極真 竹林 崇 医学書院 2019年					
講義概要・ 一般目標	<p>【一般目標】 本特論では、作業療法において、現場で抱える問題と研究疑問を結びつける論理的思考、研究に関する知識と技術を身につけることができる。</p> <p>【講義の概要】 作業療法教育は、作業療法の理論の発展とともに変化している。世界と日本の作業療法の発展について理論の視点から整理し、現在の作業療法教育について必要な知識を学ぶ。 作業に根ざした実践（occupation-based practice, 以下OBP）は、Reillyの作業行動の発案に直接の起源を持つ。Reillyは、1962年のEleanor Clarke Slagle記念講演において「人間は、自分の精神と意志によって活力を与えられる両手の使用を通して、自らの健康状態に影響を及ぼすことができる」と述べた。これは、当時の還元主義パラダイムのまっただ中であつたアメリカの作業療法を「作業」に根ざしたパラダイムへ転換するように臨床家や教育者へ求めたもので、その後、アメリカの作業療法士たちは自らのアイデンティティをとりもどした。 しかし、日本においては、いまだに海外の理論を用いた教育が多くなされている。加えて、日本の作業療法教育は、大学教育が行なわれるようになったが、戦後の教育基準のままで行なわれ、十分な教育内容の改善に至っていない。そのため、高等教育についても教育方法や評価、制度について体系的に理解し、現在の作業療法教育の課題を示す必要がある。 そこで、応用作業療法学特論では、作業療法教育に必要な知識として、作業療法理論の歴史的発展を基に、高等教育での課題を示す対策を提案することを目標とする。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理論に基づいたデータ収集の方法を理解できる</li> <li>2. 理論に基づいたデータ結果の分析方法を理解できる</li> <li>3. 理論に基づいた作業療法実践と自身の研究テーマの関係を述べるができる</li> </ol>					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。					
学修の 進め方	各課題において、教務課への提出前に、担当教員へ1回以上のレポート指導を仰ぐようにしてください。レポート指導は、作成途中の内容で結構です。その場合は、教員へ質問事項や不明点を明記し、連絡するようにしてください。 フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教員 メールアドレス	m_oda@kiui.ac.jp					

## 課題内容(2年次)

第 4 回	レポート課題	理論に基づいたデータ収集の方法を理解できる。
	レポート作成のポイント	理論に基づいた作業療法において、自身の研究テーマに関連するデータ収集をどのように行えばよいのか考えて、データ収集の方法をまとめてください。また、修正する必要がある場合は、その理由と方法を述べてください。
	参考文献	・『作業で創るエビデンス（作業療法士のための研究法の学びかた）』 友利幸之助 京極真 竹林 崇 医学書院 2019年
	レポート提出期限	令和3年6月30日（水）
第 5 回	レポート課題	理論に基づいた結果の分析を理解できる
	レポート作成のポイント	自己の研究データを証明するために、どのように分析を行えばよいのか？あるいは、修正するにはどのような方法で行えばよいのか、データ分析方をまとめてください。
	参考文献	・『作業で創るエビデンス（作業療法士のための研究法の学びかた）』 友利幸之助 京極真 竹林 崇 医学書院 2019年
	レポート提出期限	令和3年9月30日（木）
第 6 回	レポート課題	理論に基づいた作業療法実践と自身の研究テーマの関係を述べるができる
	レポート作成のポイント	これまでの課題で学んだ理論に基づき作業療法実践と自己の研究テーマの関係を整理し、説得的に論じてください。
	参考文献	・『作業で創るエビデンス（作業療法士のための研究法の学びかた）』 友利幸之助 京極真 竹林 崇 医学書院 2019年
	レポート提出期限	令和3年12月10日（金）
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	作業機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	狩 長 弘 親	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	脳損傷者における生活障害の理解と実践への適応					
使 用 す る テ キ ス ト	・『高次脳機能障害の作業療法』 鎌倉矩子・本多留美著 三輪書店 2010年					
講義概要・ 一般目標	<p>高次脳機能障害は「見えない障害」として知られ、運動麻痺や感覚障害等の神経症状をきたさなければ、病院での保護的な環境においては問題がみられず、在宅での生活や職場・学校等で気づかれることが多い。高次脳機能障害のリハビリテーションの歴史はまだ浅く、確固たる方法論が十分とはいえない。本邦で平成13年度からの高次脳機能障害機能障害支援モデル事業（平成18年度より高次脳機能障害支援普及事業）の実施により、「高次脳機能障害」という用語が医療関係者のみならず一般の人々へも知られることとなった。このような変換の中、社会では高次脳機能障害者への支援に多くの職種、人々が関わるシステムが構築され、その中で専門職として作業療法士が位置づけられ、ますます高次脳機能障害の知識と実践が求められている。</p> <p>本特論（1年次）では、リハビリテーションにおいて基礎となる神経学的側面や高次脳機能障害の各症状の障害特性を学び、高次脳機能障害者の支援における作業療法士のあり方について理解を深めることを目的とする。</p>					
到 達 目 標	高次脳機能障害の各症状の障害特性や作業療法の役割を説明できる。					
評 価 方 法	レポート課題および科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。					
学 修 の 進 め 方	<p>指定の文献を読み、レポート作成のポイントをもとに内容をまとめてください。</p> <p>また、最後に学んだこと等を考察してください。</p> <p>レポート提出前に担当教員にメールで連絡し、レポート内容についての指導を受けてください。</p> <p>フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教 員 メールアドレス	karinaga@kiui.ac.jp					

課題内容(1年次)		
第1回	レポート課題	脳損傷後の機能回復のメカニズム
	レポート作成のポイント	テキストの第3章を参考に、回復の基盤から影響を与える因子まで含め考察してください。
	参考文献	・『高次脳機能障害の作業療法』鎌倉矩子・本多留美著 三輪書店 2010年 ・『よくわかる失語症セラピーと認知リハビリテーション』鹿島晴雄・大東祥孝・種村純編集 永井書店 2008年
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第2回	レポート課題	高次脳機能障害 各論
	レポート作成のポイント	テキストの第4章～第13章のうち興味のあるものを一つ選択し、症状の特性、評価、治療について考察してください。
	参考文献	・『高次脳機能障害の作業療法』鎌倉矩子・本多留美著 三輪書店 2010年
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第3回	レポート課題	高次脳機能障害の作業療法
	レポート作成のポイント	テキストの第14章～第17章を参考に、高次脳機能障害の作業療法の特徴、作業療法士の役割について考察してください。
	参考文献	・『高次脳機能障害の作業療法』鎌倉矩子・本多留美著 三輪書店 2010年
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。



科 目 名	作業機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	狩 長 弘 親	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	脳損傷者における生活障害の理解と実践への適応					
使 用 す る テ キ ス ト	・『事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版』日本作業療法士協会監修 医歯薬出版 2021年					
講義概要・ 一般目標	<p>高次脳機能障害は「見えない障害」として知られ、運動麻痺や感覚障害等の神経症状をきたさなければ、病院での保護的な環境においては問題がみられず、在宅での生活や職場・学校等で気づかれることが多い。高次脳機能障害のリハビリテーションの歴史はまだ浅く、確固たる方法論が十分とはいえない。本邦で平成13年度からの高次脳機能障害機能障害支援モデル事業（平成18年度より高次脳機能障害支援普及事業）の実施により、「高次脳機能障害」という用語が医療関係者のみならず一般の人々へも知られることとなった。このような変換の中、社会では高次脳機能障害者への支援に多くの職種、人々が関わるシステムが構築され、その中で専門職として作業療法士が位置づけられ、ますます高次脳機能障害の知識と実践が求められている。</p> <p>本特論（2年次）では、1年次に学んだ内容を基盤に、脳損傷者における生活障害の捉え方や支援法について理解を深め、かつ自身の研究テーマとの関係について検討することを目的とする。</p>					
到 達 目 標	脳損傷者における生活障害の捉え方や支援法についてその動向や問題を理解でき、自身の実践と研究の関連性を説明できる。					
評 価 方 法	レポート課題および科目修了試験により評価。					
オ フィ ス ア ワ ー	Eメールを使用して実施する。					
学 修 の 進 め 方	<p>指定の文献を読み、レポート作成のポイントをもとに内容をまとめてください。</p> <p>また、最後に学んだこと等を考察してください。</p> <p>レポート提出前に担当教員にメールで連絡し、レポート内容についての指導を受けてください。</p> <p>フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教 員 メ ー ル ア ド レ ス	karinaga@kiui.ac.jp					

課題内容(2年次)		
第4回	レポート課題	生活障害とその捉え方について
	レポート作成のポイント	脳損傷者における生活障害について問題を焦点化し、それを捉えるためのツール、理論的基盤についてまとめてください。
	参考文献	・『事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版』日本作業療法士協会監修 医歯薬出版 2021年
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第5回	レポート課題	生活障害への支援法について
	レポート作成のポイント	脳損傷者に対する生活障害への支援の方略について、環境的な側面など、自らの研究の観点からまとめてください。
	参考文献	・『事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版』日本作業療法士協会監修 医歯薬出版 2021年
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第6回	レポート課題	生活障害への支援の実践事例
	レポート作成のポイント	前回までに学修した生活障害への支援の理解を深めるため、事例検討を実施します。レポートの様式は特に指定しませんが、日本作業療法士協会の事例報告登録制度の形式を参考にしても良いです。
	参考文献	特に指定しない
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	作業機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	寺岡 睦	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テーマ	作業機能障害に関する知識を整理できる。					
使用するテキスト	『作業って何だろう？ 作業科学入門第2版』 吉川ひろみ 医歯薬出版 2017年 『作業に根ざした実践と信念対立説明アプローチを統合した「作業に根ざした実践 2.0」の提案』 寺岡睦, 他 作業療法 33(3), 249-258, 2014 『人間作業モデル 改訂第4版』 Gary Kielhofner編著・山田孝監訳 協同医書出版社 2012年 『続・作業療法の視点-作業を通しての健康と公正-』 カナダ作業療法士協会編著・吉川ひろみ監訳 大学教育出版 2011年					
講義概要・一般目標	<p>【講義概要】</p> <p>作業療法士は作業を通して健康と幸福を促進する専門職である。1970年代にマリーライリーが作業行動パラダイムを提唱して現在に至るまで、作業の問題である作業機能障害という概念が注目されている。作業機能障害は生活行為が適切に行えていない状態であり、様々な分類がある。その中でも作業不均衡、作業剥奪、作業疎外、作業周縁化は作業機能障害そのものの特徴を捉える利点がある。他にも意志、習慣化、遂行能力、環境で作業機能障害を捉える考え方もあり、様々な視点で作業機能障害の理解が促進されている。作業機能障害は作業の問題全般を指すものであり、作業遂行障害、作業適応の困難さ、作業遂行上の問題、作業的問題、作業的不公正など様々な呼び方がある。これらの概念は広義の意味で作業機能障害を示しており、作業上の問題を説明する概念は作業機能障害と理解することができる。本講では作業機能障害に関する知識を深め学習をすることを目標とする。学習を通して作業療法専攻の主要概念が理解できることが期待される。</p> <p>【一般目標】</p> <p>作業療法の実践上で問題となる作業機能障害に関して理解でき、概念間の関係性を適切に把握できる。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業機能障害に関して理解でき説明できる</li> <li>・自身の研究と作業機能障害の関連を整理できる</li> <li>・作業機能障害の分類と既存の諸概念の関係性について説明できる</li> </ul>					
評価方法	科目修了試験により評価する。					
オフィスアワー	e-メールを使用して実施する。					
学修の進め方	<p>指定の文献を読み、レポート作成のポイントをもとに内容をまとめて下さい。</p> <p>レポート課題をまとめるにあたっては、自身の研究テーマにどう活かしていけるかという視点を持つこと。</p> <p>提出されたレポートはコメントを返すため今後の学習に役立てること。</p>					
教員メールアドレス	teraokam@kiui.ac.jp					

## 課題内容(1年次)

第 1 回	レポート課題	作業機能障害について説明できる
	レポート作成のポイント	作業機能障害という概念を理解し、その特徴を整理してください。そして大学院生の研究にどのような点で役立ちうるかを簡潔に考察してください。
	参考文献	『作業って何だろう？ 作業科学入門第2版』 吉川ひろみ 医歯薬出版 2017年
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第 2 回	レポート課題	作業機能障害の分類について説明できる
	レポート作成のポイント	作業機能障害には様々な分類があります。作業機能障害の様々な視点(不均衡, 剥奪, 疎外, 周縁化, 意志, 習慣化, 遂行能力, 環境など)の特徴をまとめてください。そして大学院生の研究にどのような点で役立ちうるかを考察してください。
	参考文献	『作業に根ざした実践と信念対立説明アプローチを統合した「作業に根ざした実践2.0」の提案』 寺岡睦, 他 作業療法 33(3), 249-258, 2014 『人間作業モデル 改訂第4版』 Gary Kielhofner 編著・山田孝監訳 協同医書出版社 2012年
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第 3 回	レポート課題	作業機能障害と既存の概念との関連性について説明できる
	レポート作成のポイント	作業上の問題を説明する概念は作業機能障害と捉えることができます。作業機能障害に関連する概念(作業遂行障害, 作業適応の困難さ, 作業遂行上の問題, 作業的問題, 作業的不公正などを簡潔に整理して説明してください。これらの概念はごく一部であり, 他の概念との関連でも構いません。
	参考文献	『続・作業療法の視点-作業を通しての健康と公正-』 カナダ作業療法士協会 編著・吉川ひろみ監訳 大学教育出版 2011年
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し, 教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	作業機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	寺 岡 睦	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	作業機能障害に関する研究法を理解できる。					
使用する テキスト	『作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた』 友利幸之介・京極真・竹林崇(著) 医学書院 2019年					
講義概要・ 一般目標	<p><b>【講義概要】</b>  作業療法士は作業を通して健康と幸福を促進する専門職である。作業療法の誕生は18世紀ごろの道徳療法に系譜があり、19世紀ごろに医師、看護師、建築士、ソーシャルワーカーなどが創始者となり作業パラダイムの流れができはじめた。しかし作業療法は作業パラダイム当時からその専門性の理解の難解さゆえ「非科学的である」と批判され、機械論パラダイムへの転換が起こった。1970年代にマリーライリーが作業行動パラダイムを提唱し、機械論パラダイムと作業パラダイムの統合を図ると同時に、作業療法の科学的知見の蓄積を試みて現在に至る。現在では作業科学などの学問の発展により作業療法にエビデンスの高い知見が蓄積されつつある。本講では作業機能障害に関する研究法を理解するよう学習していただく。学習を通して、大学院生の皆さんに作業機能障害のエビデンスを高めるような研究遂行の知識が養われることを期待している。</p> <p><b>【一般目標】</b>  作業機能障害を解明するような研究法が理解でき、量的研究、質的研究、介入研究について一貫して考える事ができる。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業機能障害に関する量的研究の方法を理解できる。</li> <li>・作業機能障害に関する質的研究の方法を理解できる。</li> <li>・作業機能障害に関する介入研究の方法を理解できる。</li> </ul>					
評価方法	科目修了試験により評価する。					
オフィスアワー	e-メールを使用して実施する。					
学 修 の 進 め 方	指定の文献を読み、レポート作成のポイントをもとに内容をまとめて下さい。 レポート課題をまとめるにあたっては、自身の研究テーマにどう活かしていけるかという視点を持つこと。 提出されたレポートはコメントを返すため今後の学習に役立てること。					
教 員 メールアドレス	teraokam@kiui.ac.jp					

## 課 題 内 容 (2年次)

第 4 回	レポ ー ト 課 題	作業機能障害に関する量的研究の方法を考えて説明する。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	この課題では、調査用紙を使った作業機能障害に関する量的研究を自身で立案して説明して下さい。レポートは、背景、目的、方法、予測される結果にわけて記載してください。
	参 考 文 献	『作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた』 友利幸之介・京極真・竹林崇（著）医学書院 2019年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和3年6月30日（水）
第 5 回	レポ ー ト 課 題	作業機能障害に関する質的研究の方法を考えて説明する。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	この課題では、インタビュー調査を用いた作業機能障害に関する質的研究を自身で立案して説明して下さい。レポートは、背景、目的、方法、予測される結果にわけて記載してください。
	参 考 文 献	『作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた』 友利幸之介・京極真・竹林崇（著）医学書院 2019年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和3年9月30日（木）
第 6 回	レポ ー ト 課 題	作業機能障害に関する介入研究の方法を考えて説明する。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	この課題では、ランダム化比較試験を用いて作業機能障害に関する介入研究を自身で立案して説明して下さい。レポートは、背景、目的、方法、予測される結果にわけて記載してください。
	参 考 文 献	『作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた』 友利幸之介・京極真・竹林崇（著）医学書院 2019年
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和3年12月10日（金）
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	作業機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	三宅優紀	開講年次	1～2	授業形態	T科目	単位数	8単位
	テーマ		臨床疫学について学ぶ 作業機能障害の知識と関連する研究法を理解できる						
使用するテキスト	作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた (友利幸之介・京極真・竹林崇、医学書院) 『臨床疫学 EBM実践のための必須知識』監訳：福井次矢 メディカル・サイエンス・インターナショナル								
講義概要・一般目標	<p>【講義概要】</p> <p>作業に根ざした実践(OBP)とは、クライアントの人生の中で作業機能障害を評価し、介入する方法の総称である。作業機能障害とは、生活行為(仕事、遊び、日課、休息)を適切にやり遂げられない問題と考えられている。最近では、作業剥奪、作業疎外、作業不均衡、作業周縁化の4つがあると報告されている(2013年)。作業機能障害を有する者を対象とする作業療法において、適切な理論や研究方法の選択とその利用、科学的視座に立った介入方法が求められている。そのために、研究方法論について学ぶ必要があると考える。</p> <p>【一般目標】</p> <p>この科目では、臨床疫学について学びつつ、作業機能障害を有する人に対して作業療法士として取り組むべき課題について考えることを目標とする。</p>								
到達目標	<p>1) 研究方法について説明できる</p> <p>2) 作業機能障害の評価指標について説明できる</p> <p>3) 作業機能障害を理解できる。それを有する人に対して作業療法士として取り組むべき課題について述べるができる</p>								
評価方法	レポート課題，科目修了試験により評価する。								
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。								
学修の進め方	レポート課題の作成にあたっては、単なるテキストの要約にならないように留意すべきである。フィードバックとして提出された課題レポートにコメントを返し、必要な指導を行う。								
教員メールアドレス	miyake-y@kiui.ac.jp								

課題内容(1年次)		
第1回	レポート課題	臨床疫学研究の方法について
	レポート作成のポイント	臨床疫学研究についてテキストを元に調べてください。あなたのテーマを実証するために必要な研究方法を調べてください。
	参考文献	作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた(友利幸之介・京極真・竹林崇、医学書院) 『臨床疫学 EBM実践のための必須知識』監訳：福井次矢 メディカル・サイエンス・インターナショナル など
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第2回	レポート課題	対象者の状況を評価するための手法について
	レポート作成のポイント	作業療法士の多くは、アンケート調査、インタビュー調査を実施すると思います。アンケート調査をする場合、特に妥当性と信頼性が問われます。作業機能障害について述べ、どのような評価尺度があるか調べてください。その中で最近作成されたCAODIについて詳しく述べてください。さらにあなたの研究テーマで用いようとしている尺度を調べ、信頼性や妥当性がどのように検討されてきたのか、述べてください。
	参考文献	『臨床疫学 EBM実践のための必須知識』監訳：福井次矢 メディカル・サイエンス・インターナショナル 寺岡睦 他：予防的作業療法のための作業機能障害の種類と評価の予備尺度の開発(2013) など文献を調べてください
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第3回	レポート課題	作業機能障害を有する人に対して作業療法士として取り組むべき課題についての文献レビュー
	レポート作成のポイント	作業機能障害について最新の知見をレビューしてください。作業療法士として取り組むべき課題を整理してください。
	参考文献	Mustumi Teraoka et al: Causal relationship between occupational dysfunction and depression in healthcare workers: A study using structural equation model 三宅優紀 他：病院勤務のリハビリテーションスタッフにおける作業機能障害の種類の実態と職業性ストレスとの関連(2014) など
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。



科 目 名	作業機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	三宅 優紀	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	研究に関する知識と技術をさらに深める					
使用 する テ キ ス ト	『アクセプトされる英語医学論文を書こう』 ネル・L・ケネディ 著 MEDICAL VIEW 2008 作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた (友利幸之介・京極真・竹林崇、 医学書院)					
講義概要・ 一般目標	<p>【講義概要】</p> <p>作業に根ざした実践(OBP)とは、クライアントの人生の中で作業機能障害を評価し、介入する方法の総称である。作業機能障害とは、生活行為(仕事、遊び、日課、休息)を適切にやり遂げられない問題と考えられている。最近では、作業剥奪、作業疎外、作業不均衡、作業周縁化の4種類に分類されると報告されている(2013年)。作業機能障害を有する者を対象とする作業療法において、適切な理論や研究方法の選択とその利用、科学的視座に立った介入方法が求められている。そのために、研究方法論について学ぶ必要があると考える(1年次)。</p> <p>そして、2年次では臨床現場からの疑問を鮮明にし、研究疑問にしていく。そして研究目的を明確にすることから、その研究方法を選択し、さらに必要とされる対象者の選択等を行っていく。また、必要な文献の収集、その読み込みを重ね、論文作成に取りかかる。目次を作成し、全体の流れを作り、修士論文を執筆する。</p> <p>【目標】</p> <p>修士論文を作成するために、目的、意義、方法などの書き方を習得することを目標とする。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) データ収集の方法と分析について説明できる</li> <li>2) 先行研究をまとめることができる</li> <li>3) 修士論文を完成させる</li> </ol>					
評価方法	レポート課題、科目修了試験により評価する。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。					
学 修 の 進 め 方	レポート課題の作成にあたっては、学生の関心テーマや研究の進捗状況に応じて記載内容が変わるため、事前に担当教員へ確認する必要がある。先行研究を確認し、学術的な文章構成、図表や文献リストの作成方法まで十分に理解したうえで、作成することが求められる。フィードバックとして提出された課題レポートにコメントを返し、必要な指導を行う。					
教 員 メールアドレス	miyake-y@kiui.ac.jp					

課 題 内 容 (2年次)		
第 4 回	レポ ー ト 課 題	データ収集の方法と分析について
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	自身の研究テーマは、どのような方法でデータ収集・分析を行えばよいか考えてまとめてください。もし、データ収集を終えている場合は、どのように集めたのか、結果はどのように書けば良いのかについて参考文献をもとにまとめてください。
	参 考 文 献	授業テキスト（研究法で使用したテキストも含む） 作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた（友利幸之介・京極真・竹林崇、医学書院）
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和3年6月30日（水）
第 5 回	レポ ー ト 課 題	先行研究の整理をする
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	国内外の文献の整理をし、あなたの研究の独自性や重要性を考えてください。
	参 考 文 献	授業テキスト（研究法で使用したテキストも含む） 『アクセプトされる英語医学論文を書こう』 ネル・L・ケネディ 著 MEDICAL VIEW 2008 作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた（友利幸之介・京極真・竹林崇、医学書院）
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和3年9月30日（木）
第 6 回	レポ ー ト 課 題	論文を構成する
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	序論は最も大切なところであり、科学の広い世界から課題を受け取り自身のテーマへと絞り込んでいく必要があります。そして、対象・方法・結果・考察・結論と続きます。
	参 考 文 献	授業テキスト 『アクセプトされる英語医学論文を書こう』 ネル・L・ケネディ 著 MEDICAL VIEW 2008 作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた（友利幸之介・京極真・竹林崇、医学書院）
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和3年12月10日（金）
	レポ ー ト 提 出 方 法	web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	作業機能障害支援学特論演習 (1～2年次通年科目)	担当教員	京 極 真	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テ ー マ	作業機能障害とその支援に関連する研究課題を設定し、研究計画を理解できる。					
使用 する テ キ ス ト	作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた (友利幸之介・京極真・竹林崇、医学書院)					
講義概要・ 一 般 目 標	修士学位論文の作成に必要な研究の技術の習得を行う。大学院生には自身の作業機能障害とその支援に関する研究テーマの明確化を行い、その意義と独創を明瞭にしてもらう。また大学院生の研究テーマにそった研究法を中心に理解を促し、精緻な研究計画の立案を行っていく。					
到 達 目 標	院生が先行研究のレビューが行えること、量的・質的な研究法を理解できること、研究計画を立案できること。					
評 価 方 法	課題(50%)と発表(50%)で総合評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までに見直ししておくこと。					
オフィスアワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	スクーリングまでに自身の研究テーマを明確にし、テキストを通読しておくこと。スクーリング修了後は必ず復習すること。スクーリング最終時限で講義(授業)全体に対するフィードバックを行なうため、今後の研究の発展に役立てること。					
教 員 メー ル ア ド レ ス	kyougoku@kiui.ac.jp					

## スクーリング学修計画

1. 作業機能障害とその種類(1年秋期スクーリング)
2. 作業機能障害者に対する支援(1年秋期スクーリング)
3. 院生の研究課題の整理(1年秋期スクーリング)
4. 院生の研究課題の発表(1年秋期スクーリング)
5. 院生の研究課題と作業機能障害の関係(1年冬期スクーリング)
6. 院生の研究課題と作業機能障害支援の関係(1年冬期スクーリング)
7. 作業機能障害支援に対する自身の研究課題の意義(1年冬期スクーリング)
8. 量的研究と作業機能障害とその支援1(1年冬期スクーリング)
9. 量的研究と作業機能障害とその支援2(2年秋期スクーリング)
10. 質的研究と作業機能障害とその支援1(2年秋期スクーリング)
11. 質的研究と作業機能障害とその支援2(2年秋期スクーリング)
12. 理論的研究と作業機能障害とその支援1(2年秋期スクーリング)
13. 理論的研究と作業機能障害とその支援2(2年秋期スクーリング)
14. 混合研究と作業機能障害とその支援1(2年秋期スクーリング)
15. 混合研究と作業機能障害とその支援2(2年秋期スクーリング)

科 目 名	作業機能障害支援学特論演習 (1～2年次通年科目)	担当教員	岩 田 美 幸	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1～2	S科目	2単位
テ ー マ	作業機能の知識を学び、自己の研究課題を明確にする					
使 用 す る テ キ ス ト	・作業で創るエビデンスー作業療法士のための研究法の学びかたー 友利幸之助 京極真 竹林 崇 (医学書院)					
講義概要・ 一般目標	作業機能障害援助特論と平行して、作業療法の現場にてデータを取って解析し、その知見を報告する。1年次秋期は、量的なデータ収集・解析、冬期は質的なデータ収集・モデルの構築を目標とする。2次秋期は、これ迄の作業機能障害援助特論の科目を総括となる科目である。研究テーマにそって研究を実施し、修士論文作成の指導を行なう。					
到 達 目 標	修士論文を作成する過程において、先ず研究計画、研究方針を策定する第一の科目である。1年次は、先行研究より、自己の研究課題の現状について知識を深め、研究テーマを明確にする。予備的調査として、実際に作業療法の現場においてデータを収集と解析、その知見を深めることを到達目標とする。2年次秋は、修士論文を作成する過程において、自身の研究に必要な現状について知識を深め、研究テーマをそった修士論文の作成を到達目標とする。					
評 価 方 法	文献や研究論文などによる内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況(30%)、研究進捗状況に応じた提出物の内容(40%)から、総合的に評価する。					
オ フィ ス ア ワ ー	講義終了後、またはEメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	月に3～4回のテレビ電話での指導を行う。指導日前日までに、研究進行状況、必要書類をメールにて提出すること。日にちは、指導終了後に決定する。 スクーリング最終時限で講義(授業)全体に対するフィードバックを行なう。					
教 員 メー ル ア ド レ ス	m_oda@kiui.ac.jp					

## スクーリング学修計画

1. 作業療法研究の量的研究・質的研究の概要（1年次秋期スクーリング）
2. 研究テーマの策定（1年次秋期スクーリング）
3. 研究テーマに沿った先行研究の調査（1年次秋期スクーリング）
4. 研究テーマに関する予備的研究の計画（1年次秋期スクーリング）
5. 研究テーマに関する予備的研究の概要発表（1年次冬期スクーリング）
6. 概要発表の講評（1年次冬期スクーリング）
7. 現在までの資料点検と不備の確認（2年次夏期スクーリング）
8. 上記実験／調査結果の実施（2年次夏期スクーリング）
9. 上記研究の進捗状況報告1（2年秋期スクーリング）
10. 上記研究の進捗状況報告と講評（2年秋期スクーリング）
11. 上記実験／調査結果の収集（2年秋期スクーリング）
12. 上記実験／調査結果の整理（2年秋期スクーリング）
13. 上記実験の発表準備（2年秋期スクーリング）
14. 上記実験の発表（2年冬期スクーリング）
15. 発表の講評（2年冬期スクーリング）

科目名	作業機能障害支援学特論演習 (1～2年次通年科目)	担当教員	狩長弘親	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テーマ	高次脳機能障害作業療法分野を主体とした各自の関心テーマに関する国内外の先行研究のレビューを行い、研究仮説を証明する具体的な方法を習得する。					
使用するテキスト	作業で創るエビデンスー作業療法士のための研究法の学びかたー 友利幸之助 京極真 竹林 崇 医学書院					
講義概要・一般目標	本演習では高次脳機能障害作業療法分野を主体とした研究についてテーマの具体化を行い、実施するうえで必要な実験・調査や解析方法を学習する。また、各自の修士論文テーマをふまえた発表を通して演習内容の理解を深めるものとする。					
到達目標	研究実施やデータ分析のための方法について理解し、文献レビュー結果をふまえ、当該領域で修士論文を作成する上での科学的思考を身につける事を目標とする。					
評価方法	課題（40%）、科目修了試験（40%）、受講態度（20%） なお、実施した課題等は講義でフィードバックする。					
オフィスアワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施します。					
学修の進め方	定期的に文献レビューの結果や研究の進捗状況について報告すること。スクーリングまでに指定のテキストを読み込むこと。スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行なう。					
教員メールアドレス	karinaga@kiui.ac.jp					

## スクーリング学修計画

1. オリエンテーション(1年秋期スクーリング)
2. 研究テーマの策定(1年秋期スクーリング)
3. 研究課題の整理(1年秋期スクーリング)
4. 研究課題の発表(1年秋期スクーリング)
5. 統計解析の方法(1年冬期スクーリング)
6. 統計解析の実際1(1年冬期スクーリング)
7. 統計解析の実際2(1年冬期スクーリング)
8. 研究デザインの総括(1年冬期スクーリング)
9. 実験・調査結果の整理1(2年秋期スクーリング)
10. 実験・調査結果の整理2(2年秋期スクーリング)
11. 実験・調査結果の分析1(2年秋期スクーリング)
12. 実験・調査結果の分析2(2年秋期スクーリング)
13. 分析結果の解釈1(2年秋期スクーリング)
14. 分析結果の解釈2(2年秋期スクーリング)
15. まとめ(2年秋期スクーリング)



科目名	作業機能障害支援学特論演習 (1～2年次通年科目)	担当教員	寺岡 睦	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テーマ	作業機能障害とその支援に関連する研究課題を設定し、研究計画を立てることができる。					
使用するテキスト	作業で創るエビデンス, 作業療法士のための研究法の学びかた (友利幸之介・京極真・竹林崇、医学書院)					
講義概要・一般目標	本演習では修士学位論文の作成に必要な研究のテーマの具体化を行い、実施する技術を習得できるよう学習する。大学院生には自身の作業機能障害とその支援に関する研究テーマの明確化を行い、その意義と独創を明確にしてもらう。また自身の研究目的を達成できる研究方法を中心に学習し、研究計画の立案と実施を行っていく。					
到達目標	大学院生が自身の研究テーマに関連する文献のレビューが行えること、基本的な研究方法(量的・質的・介入・理論など)を理解できること、研究目的を達成できるような計画を立案、実施できること。					
評価方法	課題(50%)と発表(50%)で評価する。 実施した課題はコメントをつけてフィードバックする。					
オフィスアワー	講義終了後、またはeメールを使用して実施します。					
学修の進め方	自身の研究に関連のある文献レビューを行い、研究テーマを明確にすること。スクーリング開始までには自身の研究を適宜遂行させておくこと、スクーリング修了後は必ず復習すること。スクーリング最終時限で講義(授業)全体に対するフィードバックを行うため、その後の研究遂行に役立てること。					
教員メールアドレス	teraokam@kiui.ac.jp					

## スクーリング学修計画

1. 作業機能障害とその種類(1年秋期スクーリング)
2. 作業機能障害者に対する支援(1年秋期スクーリング)
3. 院生の研究課題の整理(1年秋期スクーリング)
4. 院生の研究課題の発表(1年秋期スクーリング)
5. 院生の研究課題と作業機能障害の関係(1年冬期スクーリング)
6. 院生の研究課題と作業機能障害支援の関係(1年冬期スクーリング)
7. 作業機能障害支援に対する自身の研究課題の意義(1年冬期スクーリング)
8. 量的研究と作業機能障害とその支援1(1年冬期スクーリング)
9. 量的研究と作業機能障害とその支援2(2年秋期スクーリング)
10. 質的研究と作業機能障害とその支援1(2年秋期スクーリング)
11. 質的研究と作業機能障害とその支援2(2年秋期スクーリング)
12. 理論的研究と作業機能障害とその支援1(2年秋期スクーリング)
13. 理論的研究と作業機能障害とその支援2(2年秋期スクーリング)
14. 混合研究と作業機能障害とその支援1(2年秋期スクーリング)
15. 混合研究と作業機能障害とその支援2(2年秋期スクーリング)

科 目 名	作業機能障害支援学特論演習 (1～2年次通年科目)	担当教員	三宅優紀	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テ ー マ	作業機能障害とその支援に関連する研究課題を設定し、研究計画を立案できる。					
使用する テキスト	作業療法研究法 第二版 山田孝・編 (医学書院) 作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた (友利幸之介・京極真・竹林崇、医学書院)					
講義概要・ 一般目標	修士学位論文の作成に必要な研究の技術の習得を行う。院生には自身の作業機能障害とその支援に関する研究テーマの明確化を行い、その意義と独創を明瞭にしてもらう。また院生の研究テーマにそった研究法を中心に理解を促し、研究計画の立案を行っていく。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先行研究のレビューが行えること</li> <li>・量的・質的な研究法を理解できること</li> <li>・研究計画を立案できること</li> </ul>					
評価方法	課題(50%)と発表(50%)で総合評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。					
オフィスアワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	スクーリングまでに自身の研究テーマを明確にし、テキストを通読しておくこと。スクーリング修了後は必ず復習すること。スクーリング最終時限で講義(授業)全体に対するフィードバックを行なうため、今後の研究の発展に役立てること。					
教 員 メールアドレス	miyake-y@kiui.ac.jp					

## スクーリング学修計画

1. 作業機能障害とその種類, 評価(1年秋期スクーリング)
2. 作業機能障害者に対する支援(1年秋期スクーリング)
3. 研究課題の整理(1年秋期スクーリング)
4. 研究課題の発表とフィードバック(1年秋期スクーリング)
5. 院生の研究課題と作業機能障害の関係(1年冬期スクーリング)
6. 院生の研究課題と作業機能障害支援の関係(1年冬期スクーリング)
7. 作業機能障害支援に対する自身の研究課題の意義(1年冬期スクーリング)
8. 量的研究と作業機能障害1(1年冬期スクーリング)
9. 量的研究と作業機能障害2(2年秋期スクーリング)
10. 質的研究と作業機能障害1(2年秋期スクーリング)
11. 質的研究と作業機能障害と2(2年秋期スクーリング)
12. データの分析法1(2年秋期スクーリング)
13. データの分析法2(2年秋期スクーリング)
14. データの分析法3(2年秋期スクーリング)
15. まとめ(2年秋期スクーリング)

科目名	心身機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	中角 祐治	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テーマ	手の外科の要点と盲点					
使用するテキスト	手の外科の要点と盲点 金谷文則 編集 文光堂 2007年					
講義概要・一般目標	<p>テキストに従って進める。</p> <p>1；手の外科に必要な解剖 2；診断の基本 3；保存療法 4；外傷</p> <p>手の外科の要点を理解し，ハンドセラピーの技能を高める。</p>					
到達目標	<p>手の機能解剖を再学習し，知識が深まる。</p> <p>そして，手の外科における疾病・外傷の診断と治療の流れが理解できる。</p> <p>また，陥りやすい盲点とその対策を知り，作業療法に生かせるようになる。</p>					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	教科書に沿って進めます。 フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。					
教員メールアドレス	nakazumi@kiui.ac.jp					

課 題 内 容 (1年次)		
第 1 回	レポ ー ト 課 題	手の外科に必要な解剖診断の基本
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	テキストに従って，上記の要点をまとめて下さい。
	参 考 文 献	授業テキスト 1～25 ページ
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和3年6月30日（水）
第 2 回	レポ ー ト 課 題	診断の基本
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	テキストに従って，上記の要点をまとめて下さい。
	参 考 文 献	授業テキスト 26～87 ページ診断の基本
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和3年9月30日（木）
第 3 回	レポ ー ト 課 題	保存療法，外傷
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	テキストに従って，上記の要点をまとめて下さい。
	参 考 文 献	授業テキスト 88～147 ページ
	レポ ー ト 提 出 期 限	令和3年12月10日（金）
レポ ー ト 提 出 方 法		web 学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	心身機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	中 角 祐 治	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	手の外科の要点と盲点					
使 用 す る テ キ ス ト	手の外科の要点と盲点 金谷文則 編集 文光堂 2007年					
講義概要・ 一 般 目 標	<p>テキストに従って進める。</p> <p>5；障害 6；腫瘍 7；リウマチ 8；先天異常</p> <p>手の外科の要点を理解し、ハンドセラピーの技能を高める。</p>					
到 達 目 標	<p>手の機能解剖を再学習し、知識が深まる。</p> <p>そして、手の外科における疾病・外傷の診断と治療の流れが理解できる。</p> <p>また、陥りやすい盲点とその対策を知り、作業療法に生かせるようになる。</p>					
評 価 方 法	科目修了試験により評価。					
オ フィ ス ア ワ ー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	教科書に沿って進めます。 フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教 員 メー ル ア ド レ ス	nakazumi@kiui.ac.jp					

課題内容(2年次)

第4回	レポート課題	骨折, 脱臼, 腱損傷
	レポート作成のポイント	テキストに従って, 上記の要点をまとめて下さい。
	参考文献	授業テキスト 148~229 ページ
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第5回	レポート課題	神経損傷, 切断指, 皮弁
	レポート作成のポイント	テキストに従って, 上記の要点をまとめて下さい。
	参考文献	授業テキスト 230~299 ページ
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第6回	レポート課題	障がい
	レポート作成のポイント	テキストに従って, 上記の要点をまとめて下さい。
	参考文献	授業テキスト 300~404 ページ
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し, 教務部 通信教育事務課へ提出する。



科 目 名	心身機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	狩 長 弘 親	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	脳損傷者における生活障害の理解と実践への適応					
使 用 す る テ キ ス ト	・『高次脳機能障害の作業療法』 鎌倉矩子・本多留美著 三輪書店 2010年					
講義概要・ 一般目標	<p>高次脳機能障害は「見えない障害」として知られ、運動麻痺や感覚障害等の神経症状をきたさなければ、病院での保護的な環境においては問題がみられず、在宅での生活や職場・学校等で気づかれることが多い。高次脳機能障害のリハビリテーションの歴史はまだ浅く、確固たる方法論が十分とはいえない。本邦で平成13年度からの高次脳機能障害機能障害支援モデル事業（平成18年度より高次脳機能障害支援普及事業）の実施により、「高次脳機能障害」という用語が医療関係者のみならず一般の人々へも知られることとなった。このような変換の中、社会では高次脳機能障害者への支援に多くの職種、人々が関わるシステムが構築され、その中で専門職として作業療法士が位置づけられ、ますます高次脳機能障害の知識と実践が求められている。</p> <p>本特論（1年次）では、リハビリテーションにおいて基礎となる神経学的側面や高次脳機能障害の各症状の障害特性を学び、高次脳機能障害者の支援における作業療法士のあり方について理解を深めることを目的とする。</p>					
到 達 目 標	高次脳機能障害の各症状の障害特性や作業療法の役割を説明できる。					
評 価 方 法	レポート課題および科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。					
学 修 の 進 め 方	<p>指定の文献を読み、レポート作成のポイントをもとに内容をまとめてください。</p> <p>また、最後に学んだこと等を考察してください。</p> <p>レポート提出前に担当教員にメールで連絡し、レポート内容についての指導を受けてください。</p> <p>フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教 員 メールアドレス	karinaga@kiui.ac.jp					

課題内容(1年次)		
第1回	レポート課題	脳損傷後の機能回復のメカニズム
	レポート作成のポイント	テキストの第3章を参考に、回復の基盤から影響を与える因子まで含め考察してください。
	参考文献	・『高次脳機能障害の作業療法』鎌倉矩子・本多留美著 三輪書店 2010年 ・『よくわかる失語症セラピーと認知リハビリテーション』鹿島晴雄・大東祥孝・種村純編集 永井書店 2008年
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第2回	レポート課題	高次脳機能障害 各論
	レポート作成のポイント	テキストの第4章～第13章のうち興味のあるものを一つ選択し、症状の特性、評価、治療について考察してください。
	参考文献	・『高次脳機能障害の作業療法』鎌倉矩子・本多留美著 三輪書店 2010年
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第3回	レポート課題	高次脳機能障害の作業療法
	レポート作成のポイント	テキストの第14章～第17章を参考に、高次脳機能障害の作業療法の特徴、作業療法士の役割について考察してください。
	参考文献	・『高次脳機能障害の作業療法』鎌倉矩子・本多留美著 三輪書店 2010年
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	心身機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	狩 長 弘 親	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	脳損傷者における生活障害の理解と実践への適応					
使 用 す る テ キ ス ト	・『事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版』日本作業療法士協会監修 医歯薬出版 2021年					
講義概要・ 一般目標	<p>高次脳機能障害は「見えない障害」として知られ、運動麻痺や感覚障害等の神経症状をきたさなければ、病院での保護的な環境においては問題がみられず、在宅での生活や職場・学校等で気づかれることが多い。高次脳機能障害のリハビリテーションの歴史はまだ浅く、確固たる方法論が十分とはいえない。本邦で平成13年度からの高次脳機能障害機能障害支援モデル事業（平成18年度より高次脳機能障害支援普及事業）の実施により、「高次脳機能障害」という用語が医療関係者のみならず一般の人々へも知られることとなった。このような変換の中、社会では高次脳機能障害者への支援に多くの職種、人々が関わるシステムが構築され、その中で専門職として作業療法士が位置づけられ、ますます高次脳機能障害の知識と実践が求められている。</p> <p>本特論（2年次）では、1年次に学んだ内容を基盤に、脳損傷者における生活障害の捉え方や支援法について理解を深め、かつ自身の研究テーマとの関係について検討することを目的とする。</p>					
到 達 目 標	脳損傷者における生活障害の捉え方や支援法についてその動向や問題を理解でき、自身の実践と研究の関連性を説明できる。					
評 価 方 法	レポート課題および科目修了試験により評価。					
オ フィ ス ア ワ ー	Eメールを使用して実施する。					
学 修 の 進 め 方	<p>指定の文献を読み、レポート作成のポイントをもとに内容をまとめてください。</p> <p>また、最後に学んだこと等を考察してください。</p> <p>レポート提出前に担当教員にメールで連絡し、レポート内容についての指導を受けてください。</p> <p>フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教 員 メ ー ル ア ド レ ス	karinaga@kiui.ac.jp					

## 課題内容(2年次)

第 4 回	レポート課題	生活障害とその捉え方について
	レポート作成のポイント	脳損傷者における生活障害について問題を焦点化し、それを捉えるためのツール、理論的基盤についてまとめてください。
	参考文献	・『事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版』日本作業療法士協会監修 医歯薬出版 2021年
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第 5 回	レポート課題	生活障害への支援法について
	レポート作成のポイント	脳損傷者に対する生活障害への支援の方略について、環境的な側面など、自らの研究の観点からまとめてください。
	参考文献	・『事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 第2版』日本作業療法士協会監修 医歯薬出版 2021年
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第 6 回	レポート課題	生活障害への支援の実践事例
	レポート作成のポイント	前回までに学修した生活障害への支援の理解を深めるため、事例検討を実施します。レポートの様式は特に指定しませんが、日本作業療法士協会の事例報告登録制度の形式を参考にしても良いです。
	参考文献	特に指定しない
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	心身機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	山本 倫子	開講年次	1～2	授業形態	T科目	単位数	8単位						
	テーマ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとの心がどのようにしてつくられるか、という問いについて知覚、記憶、思考、情動、想像、意思に着目し学習する。</li> <li>・精神機能障害の支援について作業機能障害との関連について考察を深め、支援方法を探求していく。</li> </ul>	使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『作業療法の理論』監訳：山田孝，医学書院</li> <li>・第2版「作業」って何だろう 吉川ひろみ 医歯薬出版</li> <li>・子どもの心はつくられる ヴィゴツキーの心理学講座 普及版 ヴィゴツキー著 / 菅田洋一郎 監訳 / 広瀬信雄 訳 新読書社</li> <li>・個人で探してください。</li> </ul>	講義概要・一般目標	<p>この科目を学修するみなさんには、心身機能障害に対する支援を理解するために、心身の機能について探求していく姿勢が求められています。この科目では、人の心がどのようにつくられるのかという問いに対して知覚、記憶、思考、情動、想像、意思に着目し、学習します。また、学習を通して作業機能障害と精神機能の障害支援の方法について探求していきます。</p> <p>一般目標：人の心がどのようにつくられるのかについて探求、学習し、作業機能障害と精神機能の障害支援について考察を深め探求していくことを目標とします。</p>	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神機能の知覚、記憶、思考、情動、想像、意思の発達について理解することができる。</li> <li>・作業機能障害と精神機能障害の支援について探求することができる。</li> </ul>	評価方法	科目修了試験により評価。	オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。	学修の進め方	各課題において教務課へ提出前に1回以上レポート指導を仰ぐようにしてください。フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。

課題内容(1年次)		
第1回	レポート課題	人の心がどのようにつくられるのかについて
	レポート作成のポイント	人の心がどのようにつくられるのかについて調べてください。 あなたのテーマを実証するために必要な研究方法を調べてください。
	参考文献	『作業療法の理論』監訳：山田孝，医学書院 子どもの心はつくられる ヴィゴツキーの心理学講座 普及版 ヴィゴツキー著 / 菅田洋一郎 監訳 / 広瀬信雄 訳 新読書社
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第2回	レポート課題	対象者の状況を評価するための手法について
	レポート作成のポイント	作業療法士の多くは、アンケート調査、インタビュー調査を実施すると思います。アンケート調査をする場合、特に妥当性と信頼性が問われます。作業機能障害について述べ、どのような評価尺度があるか調べてください。その中で最近作成された CAOD について詳しく述べてください。さらにあなたの研究テーマで用いようとしている尺度を調べ、信頼性や妥当性がどのように検討されてきたのか、述べてください。
	参考文献	寺岡睦 他：予防的作業療法のための作業機能障害の種類と評価の予備尺度の開発(2013) など文献を調べてください
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第3回	レポート課題	心身機能障害を有する人に対して作業機能障害との関連を検討しながら、作業療法士として取り組むべき課題についての文献レビュー
	レポート作成のポイント	心身機能障害と作業機能障害との関連に着目し、最新の知見をレビューしてください。作業療法士として取り組むべき課題を整理してください。
	参考文献	第2版「作業」って何だろう 吉川ひろみ 医歯薬出版 Mustumi Teraoka et al: Causal relationship between occupational dysfunction and depression in healthcare workers: A study using structural equation model
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web 学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	心身機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	山本倫子	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テーマ	研究に関する知識と技術をさらに深める					
使用するテキスト	・『アクセプトされる英語医学論文を書こう』 ネル・L・ケネディ 著 MEDICAL VIEW 2008 ・『これから論文を書く若者のために』 酒井聡樹著 共立出版					
講義概要・一般目標	<p><b>【講義概要】</b>          心身機能障害を有する人の支援において、作業機能障害に対する支援との関連は無視できない。心身機能障害を有する人の作業機能障害に対する支援では、作業に根ざした実践について関心が寄せられていることから、心身機能障害と作業機能障害との関連について学習し、心身機能障害を有する人への支援について探索していく。</p> <p>作業に根ざした実践（OBP）とは、クライアントの人生の中で作業機能障害を評価し、介入する方法の総称である。作業機能障害とは、生活行為（仕事、遊び、日課、休息）を適切にやり遂げられない問題と考えられている。近年において作業機能障害は、作業剥奪、作業疎外、作業不均衡、作業周縁化の4つがあると報告された（2013年）。作業機能障害を有する者を対象とする作業療法において、適切な理論や研究方法の選択とその利用、科学的視座に立った介入方法が求められている。そのために、研究方法論について学ぶ必要があると考える（1年次）。そして、2年次では臨床現場からの疑問を鮮明にし、研究疑問にしていく。そして研究目的を明確にすることから、その研究方法を選択し、さらに必要とされる対象者の選択等を行っていく。また、必要な文献の収集、その読み込みを重ね、論文作成に取りかかる。目次を作成し、全体の流れを作り、修士論文を執筆する。</p> <p><b>【目標】</b>          修士論文を作成するために、目的、意義、方法などの書き方を習得することを目標とする。</p>					
到達目標	1) データ収集の方法と分析について説明できる 2) 先行研究をまとめることができる 3) 修士論文を完成させる					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施する。					
学修の進め方	各課題において教務課へ提出前に1回以上のレポート指導を仰ぐようにしてください。フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。					
教員メールアドレス	tmomoko@kiui.ac.jp					

課題内容(2年次)		
第4回	レポート課題	データ収集の方法と分析について
	レポート作成のポイント	自身の研究テーマは、どのような方法でデータ収集・分析を行えばよいか考えてまとめてください。もし、データ収集を終えている場合は、どのように集めたのか、結果はどのように書けば良いのかについて参考文献をもとにまとめてください。
	参考文献	『これから論文を書く若者のために』酒井聡樹著 共立出版 など探してください
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第5回	レポート課題	先行研究の整理をする
	レポート作成のポイント	国内外の文献の整理をし、あなたの研究の独自性や重要性を考えてください
	参考文献	『アクセプトされる英語医学論文を書こう』ネル・L・ケネディ 著 MEDICAL VIEW 2008 『これから論文を書く若者のために』酒井聡樹著 共立出版 など探してください
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第6回	レポート課題	論文を構成する
	レポート作成のポイント	序論は最も大切なところであり、科学の広い世界から課題を受け取り自身のテーマへと絞り込んでいく必要があります。そして、対象・方法・結果・考察・結論と続きます。
	参考文献	『アクセプトされる英語医学論文を書こう』ネル・L・ケネディ 著 MEDICAL VIEW 2008 『これから論文を書く若者のために』酒井聡樹著 共立出版 など探してください
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。



科 目 名	心身機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：1年次)	担当教員	小 林 隆 司	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1～2	T科目	8単位
テ ー マ	医療系ドラマの探求					
使用する テキスト	適宜紹介					
講義概要・ 一般目標	<p>良質な医療系ドラマには、人間の生と死、愛と憎悪、希望と絶望、友情と裏切り、正義と陰謀等が丁寧に描かれています。</p> <p>ビデオを楽しみながら、医療の抱える様々な問題について考え、自分なりの意見を持ち、文章にそれを表せることを目標にします。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脳死と臓器移植について説明できる</li> <li>2. ステイグマについて説明できる</li> <li>3. 医療系ドラマをみて、自分で調べ、考察したことを、説明できる</li> </ol>					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. レポート作成のポイントを確認後、指定のビデオを見てください</li> <li>2. わからなかったこと。興味を持ったことについて調べてください</li> <li>3. レポートを作成してください</li> </ol>					
教 員 メールアドレス	ryukoba@tmu.ac.jp					

課題内容(1年次)		
第1回	レポート課題	ビデオを見て、下記のポイントに答えた上で、脳死と臓器移植に関するあなたの考えを書きなさい (命より大事なものや後輩育成などについて考察してもいいです)
	レポート作成のポイント	1. 緋山はなぜ、脳死の書類を丁寧に書いていたのか？ 2. 名取はどうして髪の毛を洗わせてもらいたと言ったのか？ 3. 匠くんからの移植で何人の命が救われることになったか？
	参考文献	「コードブルー」シーズン3第6話「落胆の向こう側」
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第2回	レポート課題	ビデオを見て、下記のポイントに答えた上で、スティグマに関するあなたの考えを書きなさい
	レポート作成のポイント	1. なぜ、ホジュンはサンファの皮膚に口を付けたのでしょうか？ 2. 大師はサンファになぜ「殻を打ち破れ」と言ったのでしょうか？ 3. 大師はなぜ、危険な薬を自分に試したのでしょうか？
	参考文献	「ホジュン」第35話「大師の手紙、その心」
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第3回	レポート課題	ビデオを見て、興味を持った点について調べ、あなたの考えを書きなさい
	レポート作成のポイント	ビデオのタイトルを記載してください。心に残ったシーンなどを記載してください。興味を持って調べ考察したことを書いてください。
	参考文献	自分で適宜視聴すること
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	心身機能障害支援学特論 (1～2年次通年科目：2年次)	担当教員	小林 隆 司	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	T科目	8単位
テーマ	エピソード記述を書こう					
使用するテキスト	適宜紹介					
講義概要・一般目標	<p>鯨岡峻は、「養育であれ、保育であれ、教育であれ、看護であれ、介護であれ、あるいは臨床であれ、すべての対人実践は『接面』で営まれています。その接面で起こっていることは、その当事者には掴めても第三者には近づくことができません。つまり、対人実践の最も重要な部分は客観科学のパラダイムでは接近できない内容を抱えています。そこに入り込むには接面パラダイムに立つしかありません。そこに入り込むための手順の一つがエピソード記述であり、そこから生まれる研究が『接面の人間学』です」と著書の中で述べている。</p> <p>ここでは、エピソード記述が書けることを目標とする。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 接面について説明できる</li> <li>2. エピソード記述の書き方について説明できる</li> <li>3. 実際にエピソード記述が書ける</li> </ol>					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	Eメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>参考文献等を読んで、レポートをまとめてください。最終的には、目の前のクライアント等とのエピソード記述が書けることが目標なので、日ごろから心が通い合った瞬間の出来事について気に留めておくようにするといと思います。</p>					
教員メールアドレス	ryukoba@tmu.ac.jp					

課題内容(2年次)

第4回	レポート課題	接面とは何か
	レポート作成のポイント	接面とはどのようなもので、そこで何が起きているのかについて説明できるようにしてください
	参考文献	鯨岡峻「関係の中で人は生きる」ミネルヴァ書房 等
	レポート提出期限	令和3年6月30日(水)
第5回	レポート課題	エピソード記述の書き方について
	レポート作成のポイント	エピソード記述の構造と書き方について、例を挙げて説明できるようにしてください
	参考文献	鯨岡峻「エピソード記述入門」東京大学出版会 等
	レポート提出期限	令和3年9月30日(木)
第6回	レポート課題	自分のクライアントとのエピソード記述
	レポート作成のポイント	日々の臨床等の中で体験したことをもとにエピソード記述を書いてください
	参考文献	
	レポート提出期限	令和3年12月10日(金)
レポート提出方法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	心身機能障害支援学特論演習 (1～2年次通年科目)	担当教員	中角 祐治	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テーマ	この講義では, 手の外科における研究疑問の整理, 研究計画の立案が出来ることを目標とする。					
使用するテキスト	手の外科の要点と盲点					
講義概要・一般目標	手の外科に関する基本的な研究方法論について理解を深めるために, 対象者の運動・動作・活動を具体的かつ定量的に捉える解析手法を学修する。あわせて, 個々の大学院生が得たデータの結果についての統合・解釈を学修していく。					
到達目標	個々の大学院生の研究テーマに沿って研究で得られた結果の統計学的検討を踏まえた解釈, 先行研究をもとにした考察が出来ることを目標とする。					
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言, 受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	講義終了後, またはEメールを使用して実施します。					
学修の進め方	研究の考え方や論文の読み方は講義の中で学びますが, それを踏まえて自身の研究に関連した先行研究をしっかりレビューすることが何よりも大事になります。スクーリングで一から学ぶという姿勢ではなく, 計画書の作成や研究結果に対する考察にあたって先行研究をきちんと調べ, 自分なりに考えを持った上で講義に臨んでください。また, 講義後は学んだことを速やかに反映させて, 教員に連絡を取るようになしてください。スクーリング最終時限で講義(授業)全体に対するフィードバックを行なう。					
教員メールアドレス	nakazumi@kiui.ac.jp					

## スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理, 先行研究の紹介, 批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 統計学的解析の種類と方法(1年冬期スクーリング)
6. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年冬期スクーリング)
7. 研究の中間結果の整理(1年冬期スクーリング)
8. これまでに得られている研究結果の考察(1年冬期スクーリング)
9. 修士論文作成に向けての研究結果の報告, 整理(2年秋期スクーリング)
10. 研究結果の統計学的検討(2年秋期スクーリング)
11. 研究結果の考察1(2年秋期スクーリング)
12. 研究結果の考察2(2年秋期スクーリング)
13. 修士論文作成の方法1(2年秋期スクーリング)
14. 修士論文作成の方法2(2年秋期スクーリング)
15. 第一次発表会の資料作成(2年秋期スクーリング)

科目名	心身機能障害支援学特論演習 (1～2年次通年科目)	担当教員	狩長弘親	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テーマ	高次脳機能障害作業療法分野を主体とした各自の関心テーマに関する国内外の先行研究のレビューを行い、研究仮説を証明する具体的な方法を習得する。					
使用するテキスト	作業で創るエビデンスー作業療法士のための研究法の学びかたー 友利幸之助 京極真 竹林 崇 医学書院					
講義概要・一般目標	本演習では高次脳機能障害作業療法分野を主体とした研究についてテーマの具体化を行い、実施するうえで必要な実験・調査や解析方法を学習する。また、各自の修士論文テーマをふまえた発表を通して演習内容の理解を深めるものとする。					
到達目標	研究実施やデータ分析のための方法について理解し、文献レビュー結果をふまえ、当該領域で修士論文を作成する上での科学的思考を身につける事を目標とする。					
評価方法	課題（40%）、科目修了試験（40%）、受講態度（20%） なお、実施した課題等は講義でフィードバックする。					
オフィスアワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施します。					
学修の進め方	定期的に文献レビューの結果や研究の進捗状況について報告すること。スクーリングまでに指定のテキストを読み込むこと。スクーリング最終時限で講義（授業）全体に対するフィードバックを行なう。					
教員メールアドレス	karinaga@kiui.ac.jp					

## スクーリング学修計画

1. オリエンテーション(1年秋期スクーリング)
2. 研究テーマの策定(1年秋期スクーリング)
3. 研究課題の整理(1年秋期スクーリング)
4. 研究課題の発表(1年秋期スクーリング)
5. 統計解析の方法(1年冬期スクーリング)
6. 統計解析の実際1(1年冬期スクーリング)
7. 統計解析の実際2(1年冬期スクーリング)
8. 研究デザインの総括(1年冬期スクーリング)
9. 実験・調査結果の整理1(2年秋期スクーリング)
10. 実験・調査結果の整理2(2年秋期スクーリング)
11. 実験・調査結果の分析1(2年秋期スクーリング)
12. 実験・調査結果の分析2(2年秋期スクーリング)
13. 分析結果の解釈1(2年秋期スクーリング)
14. 分析結果の解釈2(2年秋期スクーリング)
15. まとめ(2年秋期スクーリング)



科 目 名	心身機能障害支援学特論演習 (1～2年次通年科目)	担当教員	山 本 倫 子	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1～2	S科目	2単位
テ ー マ	心身機能障害とその支援に関連する研究課題を設定し、研究計画を理解できる。					
使用 する テキ スト	作業療法研究法 第二版 山田孝・編 (医学書院)					
講義概要・ 一般目標	修士学位論文の作成に必要な研究の技術の習得を行う。大学院生には自身の心身機能障害とその支援に関する研究テーマの明確化を行い、その意義と独創を明瞭にしてもらう。また大学院生の研究テーマにそった研究法を中心に理解を促し、精緻な研究計画の立案を行っていく。					
到 達 目 標	院生が先行研究のレビューが行えること、量的・質的な研究法を理解できること、研究計画を立案できること。					
評 価 方 法	課題(50%)と発表(50%)で総合評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。					
オフィ スア ワー	講義終了後、またはEメールを使用して実施する。					
学 修 の 進 め 方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクーリングまでに自身の研究テーマを明確にし、テキストを通読しておくこと。</li> <li>・スクーリング修了後は必ず復習すること。</li> <li>・スクーリング最終時限で講義(授業)全体に対するフィードバックを行なう。</li> </ul>					
教 員 メー ルア ドレ ス	tmomoko@kiui.ac.jp					

## スクーリング学修計画

1. オリエンテーション(1年秋期スクーリング)
2. 心身機能障害者について文献の精読(1年秋期スクーリング)
3. 院生の研究課題の整理(1年秋期スクーリング)
4. 院生の研究課題の発表(1年秋期スクーリング)
5. 院生の研究課題と心身機能障害の関係(1年冬期スクーリング)
6. 院生の研究課題と心身機能障害支援の関係(1年冬期スクーリング)
7. 心身機能障害支援に対する自身の研究課題の意義(1年冬期スクーリング)
8. 量的研究と心身機能障害支援の研究計画立案1(1年冬期スクーリング)
9. 量的研究と心身機能障害支援の研究計画立案2(2年秋期スクーリング)
10. 量的研究の研究計画とデータ収集1(2年秋期スクーリング)
11. 量的研究の研究計画とデータ収集2(2年秋期スクーリング)
12. 量的研究の研究計画とデータ分析1(2年秋期スクーリング)
13. 2量的研究の研究計画とデータ分析(2年秋期スクーリング)
14. 研究成果と作業療法実践の関連(2年秋期スクーリング)
15. まとめ(2年秋期スクーリング)

科目名	心身機能障害支援学特論演習 (1～2年次通年科目)	担当教員	小林 隆 司	開講年次	授業形態	単位数
				1～2	S科目	2単位
テーマ	発達障害領域の作業療法					
使用するテキスト	適宜紹介					
講義概要・一般目標	発達障害領域の作業療法に関する理論や具体的評価方法及び実践内容について学ぶとともに、国内外の研究動向に着目し、自立した研究者になるために必要な知見を得ることを目標とします。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達障害領域の作業療法について概説できる</li> <li>2. 国内外の論文から現状と課題を把握し、自身の研究に生かすことができる</li> <li>3. 子どもの地域支援の在り方について自分の意見を述べるができる</li> </ol>					
評価方法	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言，受講態度(30%)によって評価する。					
オフィスアワー	講義終了後，またはEメールを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>以下の学びのサイクルにそって進めます</p> <pre> graph LR     A[興味をもつ] --&gt; B[調べる]     B --&gt; C[考える]     C --&gt; D[表明する]     D --&gt; E[意見をもらう]     E -- 更に --&gt; C     C -- 更に --&gt; B </pre>					
教員メールアドレス	ryukoba@tmu.ac.jp					

## スクーリング学修計画

1. リサーチマインドアンドメソッドとは(1年秋期スクーリング)
2. 研究疑問の整理, 先行研究の紹介, 批判的吟味(1年秋期スクーリング)
3. 研究デザインの明確化(1年秋期スクーリング)
4. 研究計画書の作成(1年秋期スクーリング)
5. 統計学的解析の種類と方法(1年冬期スクーリング)
6. 研究デザインに応じた統計学的解析の適応(1年冬期スクーリング)
7. 研究の中間結果の整理(1年冬期スクーリング)
8. これまでに得られている研究結果の考察(1年冬期スクーリング)
9. 修士論文作成に向けての研究結果の報告, 整理(2年秋期スクーリング)
10. 研究結果の統計学的検討(2年秋期スクーリング)
11. 研究結果の考察1(2年秋期スクーリング)
12. 研究結果の考察2(2年秋期スクーリング)
13. 修士論文作成の方法1(2年秋期スクーリング)
14. 修士論文作成の方法2(2年秋期スクーリング)
15. 第一次発表会の資料作成(2年秋期スクーリング)

科目名	特別研究	開講年次	授業形態	単位数
		1～2	TS科目	10単位
担当教員	京極 真・竹崎和子・柘野浩子・寺崎智行・中角祐治・中瀬克己・服部俊夫・岩田美幸・狩長弘親・寺岡 睦・三宅優紀・山本倫子			
テーマ	理論に基づいた作業療法実践 (Theory Based Occupational Therapy) を可能とする, 臨床現場で抱える諸問題を解決するための修士論文を作成する。			
使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健科学研究法, 作業療法学研究法において使用するテキスト</li> <li>研究のテーマや進捗状況に応じて, 指導教員が適宜指示</li> </ul>			
講義概要・一般目標	<p>講義概要:</p> <p>各々が設定した臨床疑問から, 研究疑問の構造化, 先行・関連研究の批判的吟味, 量的・質的な研究デザインの検討を通して研究計画の立案を行う。研究計画立案後は, 倫理審査委員会への申請, 実際のデータ収集, 得られたデータの分析, 解釈, 考察を通じて中間発表, 修士論文の執筆, 最終発表を行う。スクーリングでは, 個別・グループでの対面指導を実施し, 研究発表会でのプレゼンテーションやディスカッションによって, 研究の進展を多角的に支援する。</p> <p>一般目標:</p> <p>修士論文を作成するための基本技術 (研究テーマの設定, 文献検索, 研究方法の理解, 研究倫理の遵守, 論文の章立て・構成, 引用文献の記載方法, 図表の作成方法, 論文・要旨の書き方など) を修得する。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自が選定した作業療法における研究疑問について, 先行研究の批判的吟味, 研究デザインの検討を通して, 具体的な研究計画の立案を行い, 研究計画書を作成できる。</li> <li>研究計画書に基づき, 研究を実施し, 得られたデータの分析, 解釈を通して修士論文を作成できる。</li> <li>修士論文の完成を通じて得られた研究成果を用いて, 質の高い作業療法実践が行える。</li> </ul>			
評価方法	研究遂行, 修士論文執筆に対する態度・姿勢, 修士論文の完成度, 最終発表会でのプレゼンテーションと質疑応答の内容から総合的に評価する。			
オフィスアワー	講義終了後, またはEメールを使用して実施します。			
学修の進め方	Microsoft Teams等により, 定期的に進捗状況の報告を行ったうえで研究を進めてください。			
教員メールアドレス	kyougoku@kiui.ac.jp (京極), takesaki@kiui.ac.jp (竹崎), tsuge-h@kiui.ac.jp (柘野), terasaki@kiui.ac.jp (寺崎), nakazumi@kiui.ac.jp (中角), knakase@kiui.ac.jp (中瀬), hattorit@kiui.ac.jp (服部), m_oda@kiui.ac.jp (岩田), karinaga@kiui.ac.jp (狩長), teraokam@kiui.ac.jp (寺岡), miyake-y@kiui.ac.jp (三宅), tmomoko@kiui.ac.jp (山本)			

## スクーリング学修計画

- |                     |
|---------------------|
| 1. 研究計画内容の検討        |
| 2. 研究科講演会（外部講師）     |
| 3. 研究科講演会（外部講師）     |
| 4. 修士論文事前審査会参加      |
| 5. 修士論文事前審査会参加      |
| 6. 研究テーマ周辺知識の整理と検討  |
| 7. 文献・資料の検討         |
| 8. 研究計画発表会準備        |
| 9. 研究計画発表会          |
| 10. 研究計画発表会         |
| 11. 研究計画内容、仮説の再検討   |
| 12. 研究会講演会（外部講師）    |
| 13. 研究科講演会（外部講師）    |
| 14. 修士論文最終発表会参加     |
| 15. 修士論文最終発表会参加     |
| 16. データの全体的特徴の把握    |
| 17. 解析結果の解釈         |
| 18. 修士論文中間発表会準備     |
| 19. 修士論文中間発表会       |
| 20. 修士論文中間発表会       |
| 21. 研究科講演会（外部講師）    |
| 22. 研究科講演会（外部講師）    |
| 23. 修士論文事前審査会       |
| 24. 修士論文事前審査会       |
| 25. 研究計画発表会参加       |
| 26. 研究計画発表会参加       |
| 27. 全体の構成           |
| 28. プレゼンテーションの実施の仕方 |
| 29. 修士論文最終発表会       |
| 30. 修士論文最終発表会       |

2021年度 シラバス（大学院（通信制））  
知的財産学研究科 知的財産学専攻

（通信制）知的財産学研究科 知的財産学専攻

科目名	商標法要論	担当教員	加藤 ちあき	開講年次	授業形態	単位数
				1年	S科目	2単位
テーマ	商標法の基礎的理解					
使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的財産法の法文集（最新のもの。出版社は不問）</li> <li>・『工業所有権法（産業財産権法）逐条解説』発明協会（最新のもの）</li> <li>・『商標法 第2版』茶園成樹 編 有斐閣 2018年</li> <li>・『商標・意匠・不正競争判例百選 - 別冊ジュリスト No. 188 2007/11』有斐閣</li> <li>・その他、担当教員が事前に配布するテキスト</li> </ul>					
講義概要・一般目標	<p>この講義は初学者を対象とし、商標法、不正競争防止法等の標識法の枠組みを理解し、商標の基本的概念がわかるようになることを目標としています。この目標を実現するために、下記事項を学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 商標保護制度</li> <li>2. 商標と商標の使用</li> <li>3. 商標の登録要件</li> <li>4. 商標及び商品・役務の類似</li> <li>5. 商標の出願と審査</li> <li>6. 商標登録異議申立と審判</li> <li>7. 審決取消訴訟</li> <li>8. 商標権の効力</li> <li>9. 商標権侵害</li> <li>10. 商標権の経済的利用</li> <li>11. 特殊の商標</li> <li>12. マドリッド協定議定書（マドリッドプロトコル）に基づく特例</li> </ol> <p>講義では、判例や審決例を含む具体例を数多く示します。理解を深めるため、クイズ等も出します。ディスカッションも歓迎します。</p>					
到達目標	<p>初学者が本講座を終えた頃には、例えば、企業知財部の商標担当として、一通りの知識を得、独り立ちできる（一人前になれる）程度にまで講義をしたいと思っています。</p>					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	講義終了後、または知的財産学研究科掲示板システムを使用して実施します。					
学修の進め方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. スクーリングまでの事前学修事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・最低でも1回はテキストを通読すること、</li> <li>・テキストに載っているケーススタディについて、自分なりの答え（考え）を思い巡らせてくること、を望みます。</li> </ul> </li> <li>2. スクーリング終了後の学修事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の内容を復習すること（テキストをもう一度読むこと）、</li> <li>・脚注に記された関連する判例・審決等を調べて読んでみることを望みます。</li> <li>・最終スクーリングで講義全体に対するフィードバックを行います。</li> </ul> </li> </ol>					
教員メールアドレス	知的財産学研究科掲示板システムを利用すること。					

## スクーリング学修計画

1. 商標法独自の面, 特有な特徴について
2. 商標法における「商標の概念と商標の使用」について
3. 商標権の権利生成過程における「登録要件」について
4. 「商標及び商品・役務の類似」について
5. 商標登録出願と審査について(1)
6. 商標登録出願と審査について(2)
7. 現行商標法上の異議申立制度, 審判制度について(1)
8. 現行商標法上の異議申立制度, 審判制度について(2)
9. 審決取消訴訟について
10. 商標権の効力について
11. 商標権侵害について(1)
12. 商標権侵害について(2)
13. 商標権の経済的利用について
14. 特殊の商標について
15. マドリッド協定議定書(マドリッドプロトコル)に基づく国際商標出願の概要
16. 科目単位認定試験



科目名	民法要論	担当教員	加賀山 茂	開講年次	授業形態	単位数
				1年	T科目	2単位
テーマ	知的財産法を学ぶための基礎となる民法について学修します。					
使用するテキスト	<p>加賀山茂『民法条文100選－100カ条で学ぶ民法（ひゃくみん）』信山社（2017年2月）を使用します。</p> <p>当該テキストを選択したのは、民法全体のうち裁判所によって適用された頻度が最も高い100カ条を厳選して体系的に説明されており、その条文に関連する重要判例の要旨も紹介されているため、無駄なく民法全体を短期間で学習できるからです。</p>					
講義概要・一般目標	<p>民法は知的財産法の一般法であるため、知的財産に携わる専門家として、民法の基礎知識は必要不可欠です。したがって、民法の全領域における基礎的事項・基本的な考え方を学修します。</p> <p>条文から始めて、第1に、その意味と体系上の位置を知り、第2に、その条文に関連する判例を読むことを通じて、第3に、その条文がどのような事実と結びついているのか、すなわち、条文と事実との結びつきを理解することが、この講義の一般目標です。</p>					
到達目標	<p>レポートに取り組むことにより、民法の基礎的事項・基本的な考え方を学びます。これを基礎として、具体的な事例を検討できる能力を修得します。</p> <p>このことを通じて、上記の一般目標の学習順序を逆にして、第1に、生の実事をよく読んで、第2に、その事実に適用されるべき条文を発見し、第3に、その条文に関連する判例を参照しながら、その事実の合理的な解決案を提言できるようになることが、この講義の学修目標です。</p>					
評価方法	科目修了試験により、学修到達目標がどの程度達成されたかを評価します。					
オフィスアワー	知的財産学研究所掲示板システムを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>レポートは、記述式問題に対する訓練にもなります。箇条書きではなく、項目の立て方、文章の流れなどを意識して記述しましょう。記述の順序は、アイラック(IRAC)、すなわち、①I (Issue：争点、問題の争点はなにか)、②R (Rule：ルール。その問題に適用されるルールは何か)、③A (Argument：議論。原告に有利なルールを適用した結論と被告に有利なルールを適用した結果を比較し、両方の考え方について丁寧に検討し、どちらが妥当かを議論する)、④C (Conclusion：結論。上記の議論を踏まえて、具体的に妥当な結論を導く) という順序で書くと、どんな問題についても、合格答案が書けるようになります。</p> <p>フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	知的財産学研究所掲示板システムを積極的に利用しましょう。					

## 課題内容

第1回	レポート課題	<p>【設例1】Y社は、硫酸製造・肥料製造・鋼の製錬などを行なう工場である。工場の約200mあまり離れた耕地の地主および小作人Xらは、同工場が噴出する亜硫酸ガスおよび硫酸ガスの大気汚染により農作物が被害を蒙ったとして、米麦の収穫の有害ガスによる減収分の賠償を請求した。</p> <p>【課題1】XらのYに対する請求は認められるか。</p> <p>上記の設例について、アイラック(IRAC)の順序、すなわち、①I:問題の所在、②R:適用可能性のある条文、または、法原理の候補、③A:適用可能性のある条文を適用した結果とそれぞれの妥当性の検討、④C:結論の順で答えなさい。</p>
	レポート作成のポイント	民法709条の過失の意味について、大阪控判大正4年7月29新聞1047号25頁(控訴審判決)、大判大正5年12月22日民録22輯2474頁(大審院判決)、大阪控判大正8年12月27日新聞1659号11頁(差戻後の控訴院判決)を参照すること。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川井健『民法判例と時代思潮』(日本評論社、1981年)</li> <li>・我妻栄=有泉亨=清水誠『我妻・有泉コンメンタール民法 総則・物権・債権』[第4版]日本評論社(2016/9/21)</li> </ul>
	レポート提出期限	2021年6月30日(水) 【事前受付締切:5月30日(日)迄】
第2回	レポート課題	<p>【設例2】Xは、耐震強度(時計を落下させても壊れない強度)が高い腕時計をY商店から購入して使用していたところ、購入から6か月後に、Xの不注意で腕時計を道に落としてしまった。時計を拾ったところ、ガラスが割れ、時計が止まって故障していることが分かった(改正民法が施行後の事件であるとする)。</p> <p>【課題2】(1)Xは、Yに対して、修理又は代金減額のどちらかをしてほしい旨を請求したところ、Yは、改正民法562条2項及び563条3項を理由に、いずれの請求も拒絶した。</p> <p>(2)そこで、Xは、売買契約を解除して代金の返還を請求したところ、Yは、改正民法564条で準用される改正民法541条、542条に関する改正民法543条を援用して、代金返還の請求を拒絶した。</p> <p>(3)Xは、上記の請求が認められない場合に備えて、改正民法564条に基づいて、売買代金相当額の損害賠償を請求したところ、Yは、Yに過失がないことを理由にこの請求を拒絶した。</p> <p>上記の(1)、(2)、(3)のそれぞれの問題について、Xの請求が認められるかどうかについて、アイラック(IRAC)の順序、すなわち、①I:問題の所在、②R:適用可能性のある条文、または、法原理の候補、③A:適用可能性のある条文を適用した結果とそれぞれの妥当性の検討、④C:結論の順で答えなさい。</p>
	レポート作成のポイント	現行民法570条の瑕疵担保責任が、債務不履行責任として再構成された改正民法562条～567条について、上記のような具体例によって、従来の売主の瑕疵担保責任と契約不適合に関する売主責任とを比較検討を行うことが重要である。
	参考文献	潮見佳男『民法(債権関係)改正法の概要』きんざい(2017)
	レポート提出期限	2021年9月30日(木) 【事前受付締切:8月30日(月)迄】
第3回	レポート課題	<p>【設例3】妻Yと夫Aとは、共働きの夫婦であり、二人の収入を合わせて、居住用の宅地建物を購入したが、登記名義は夫Aにしておいた。</p> <p>妻Yと夫Aとの間には、子Bがいたが、夫Aは、Zと浮気をしてZとの間に子Xをもうけた。その後、夫Aは、その名義の宅地建物だけを残して死亡した。</p> <p>【課題3】AとZの子であるXは、Yとその子Bとに対して、A名義の宅地建物の4分の1の共有持分に基づいて遺産分割を主張している。Xの請求は認められるか。</p> <p>上記の課題について、Xの請求が認められるかどうかについて、アイラック(IRAC)の順序、すなわち、①I:問題の所在、②R:適用可能性のある条文、または、法原理の候補、③A:適用可能性のある条文を適用した結果とそれぞれの妥当性の検討、④C:結論の順で答えなさい。</p>
	レポート作成のポイント	相続財産の前提となる、(法定)夫婦財産制に関する民法762条と旧条文である第807条「①妻又は入夫が婚姻前より有せる財産及び婚姻中自己の名に於て得たる財産は、其特有財産とす。②夫婦の孰れに属するか分明ならざる財産は、夫又は女戸主の財産と推定す。」とを比較することによって、現行民法の問題点を考察すること。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我妻栄編『旧法令集』有斐閣(1968)208頁</li> <li>・我妻栄『改訂親族・相続法解説』日本評論社(1949/1/15)</li> </ul>
	レポート提出期限	2021年12月10日(金) 【事前受付締切:11月10日(水)迄】
提出方法	Web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出すること。	

科目名	特許法特論	担当教員	谷口 由記 田上 洋平 中村 知公	開講年次	授業形態	単位数
				1年	S科目	2単位
テーマ	知財制度を理解すること					
使用するテキスト	『標準 特許法（第7版）』有斐閣 高林龍著 2020年					
講義概要・一般目標	<p>【講義概要】 技術を生命線とする日本企業にとって、研究開発のインセンティブを高めるための中核制度として、特許法が担う役割が一段と高まっており、本講座ではスクーリング（面接授業）により、特許・実用新案法要論における基礎的知識の習得を前提に、判例を通じて実践を詳細に学ぶものである。また、先端技術を保護する観点から法制度の改正動向を検討し、権利保護の変化・条件についても具体的に学ぶ。</p> <p>【一般目標】 学修者は、特許法に基づく特許出願、審査、登録を経て特許権を取得するという手続を習得し、特許判例百選に掲載されている判決を分析研究し、具体的事案をとおして特許権侵害に対する差止・損害賠償請求の実務を習得できる。</p>					
到達目標	<p>（谷口 由記） 特許法の要論で紹介されている典型判例について、その具体的内容をより深く研究することができ、教科書では触れられていない特許法の理解と知識を更に深めることができる。</p> <p>（田上 洋平） 立法事実（法律の目的と手段を基礎づける社会的事実）を理解し、法律の改正動向及び改正の根拠について説明できるようにする。</p> <p>（中村 知公） 特許法の論点について、重要判例の内容を把握し判例の考え方を説明することができる。</p>					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	講義終了後、または知的財産学研究科掲示板システムを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>（谷口 由記） ・特許行政訴訟の中の審決取消訴訟について、主張立証責任を中心に学修を指導します。最終スクーリングで講義全体に対するフィードバックを行ないます。</p> <p>（田上 洋平） ・テキストに基づいて、講義及び質疑応答を基本として、特許法についての理解の促進を図るとともに、争点についての理解の深化を進める。</p> <p>（中村 知公） ・特許発明の技術的範囲の考え方について、「文言解釈」と「均等解釈（均等論）」の相違を理解します。そのために、「均等論」が容認される「五大要件」を基本書及び該当する最高裁判所判例を参照の上理解し、自らの言葉で解説できるようにしてください。 ・「直接侵害」と「間接侵害」の相違と制度趣旨を理解します。また、これら侵害に基づく主張は、どのような法的効果を有するのか、基本書及び工業所有権法逐条解説並びに裁判例を参照し理解してください。 ・特許庁審判の審決と審決取消訴訟の関係を理解します。該当する重要判例を中心に学修してください。</p>					
教員メールアドレス	知的財産学研究科掲示板システムを利用すること。					

## スクーリング学修計画

1. 特許法における「発明」の概念（田上 洋平）
2. 特許法における特許要件「産業上の利用可能性」「新規性」「進歩性」の概念（田上 洋平）
3. 特許法における「職務発明」の概念，発明の帰属，対価の評価について（田上 洋平）
4. 特許権の効力と消滅事由（田上 洋平）
5. 発明の要旨と技術的範囲について（田上 洋平）
6. 特許法における「均等論」導入の経緯背景及び内容（中村 知公）
7. 特許法における「間接侵害」の趣旨及び要件（中村 知公）
8. 特許法における審決取消訴訟の歴史と趣旨（中村 知公）
9. 訂正審判と審決取消訴訟の関係（中村 知公）
10. 訂正審判と審決取消訴訟の関係（中村 知公）
11. 審決取消訴訟の主張・立証責任について（1）（谷口 由記）
12. 審決取消訴訟の主張・立証責任について（2）（谷口 由記）
13. 審決取消訴訟の主張・立証責任について（3）（谷口 由記）
14. 特許法第104条の3と訂正審決について（谷口 由記）
15. 特許法の法体系および保護対象の変化・条件について（谷口 由記）
16. 科目単位認定試験

科目名	実用新案法特論	担当教員	谷口由記	開講年次	授業形態	単位数
				2年	S科目	2単位
テーマ	この講義では、実用新案法要論で理解した実用新案法の知識を前提に、実際の係争事件の判決例を通じて研究し、検討分析ができることを目標とする。					
使用するテキスト	『標準 特許法（第7版）』有斐閣 高林龍著 2020年 『特許・実用新案の法律相談ⅠⅡ』小松陽一郎・伊原友己編 青林書院 2019年発行 『特許判例百選（第5版）』中山信弘・相澤英孝・大淵哲也編 有斐閣 2020年発行					
講義概要・一般目標	<p><b>【講義概要】</b>  早期に権利化でき、早期に権利保護がはかれる考案のニーズに対応するための制度として実用新案制度がある。本講座では、主新案法要論における実用新案法の基礎的知識の習得を前提に、実用新案権に特有の判例を研究する。実用新案法の特許法との相違点を理解し、保護対象の相違や実用新案権特有の制度についても具体的に学ぶ。</p> <p><b>【一般目標】</b>  実用新案法を特許法と対応させながら学習する。実用新案法の学習は特許法の講義の中で補足的に行われる傾向があるが、本講座では十分な時間をかけて実用新案法を研究し、要論では十分理解できない箇所や実用新案法特有の問題に関する判例にまで掘り下げて学習し、習得する。</p>					
到達目標	特許判例百選で紹介されている実用新案法に関する判例については、特許法との相違点を踏まえ、全て網羅的にマスターし、説明することができる。					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	講義終了後、または知的財産学研究科掲示板システムを使用して実施します。					
学修の進め方	第1段階 実用新案制度の基本をマスターする。 第2段階 実用新案と特許との要件や手続の相違点をマスターする。 第3段階 実用新案に固有の制度についてマスターする。 第4段階 実用新案に関する判例を研究する。 最終スクーリングで講義全体に対するフィードバックを行う。					
教員メールアドレス	知的財産学研究科掲示板システムを利用すること。					

## スクーリング学修計画

1. 実用新案制度（小発明保護制度）
2. 実用新案法の歴史とH5年の無審査主義移行後の出願数の激減
3. 特許権と実用新案権との相違点
4. 実用新案の登録要件（方法の考案は保護対象外，特許との進歩性の相違）
5. 実用新案登録の基礎的要件
6. 実用新案の出願から登録までの手続
7. 実用新案の技術的範囲の解釈
8. 長押事件最高裁昭和56年判決とPBPクレーム平成27年最高裁判決の研究
9. 実用新案技術評価書制度（評価1～6の意味）
10. 実用新案権侵害に対する権利行使
11. 実用新案権が無効審判で無効になった場合の無過失賠償責任
12. 技術評価書の提示・警告なく侵害訴訟を提起した場合の判決
13. 優良評価書提示による警告以前の実施行為に対し賠償請求できるか
14. 実用新案権侵害に対する権利行使に瑕疵がある場合の法的効果について
15. その他の実用新案に関する重要判例の研究
16. 科目単位認定試験

科目名	意匠法特論	担当教員	中村 知 公	開講年次	授業形態	単位数
				1年	M科目	2単位
テ ー マ	意匠法要論で学んだ意匠法の理論を，特許庁審判例及び裁判例等実際の紛争事例を通じ，意匠法理論の理解を深める。					
使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『知的財産権法文集』（最新のもの。出版社は不問）</li> <li>・『工業所有権法（産業財産権法）逐条解説』発明協会（最新のもの）</li> <li>・『意匠法』茶園成樹 編，有斐閣 2012年3月31日 初版</li> <li>・『商標・意匠・不正競争判例百選-別冊ジュリスト No.188 2007/11』有斐閣</li> </ul>					
講義概要・一般目標	<p>意匠の成立要件，登録要件，意匠類似判断，意匠の利用関係などについて，<b>具体的な特許庁審判部の審決例及び裁判所の裁判例を取り上げながら</b>，事例を通じ意匠法理論の理解を深める。</p> <p>特に，特許庁審決例及び裁判例の争点はなにか，審判部と裁判所の判断はなぜ異なるのか，審判部と裁判所は何を理由にそのような審決若しくは判決を下したのか論点を明確にし，平易に解説する。</p> <p>本講義はインターネット等の通信回線を通じて受講する「メディアを利用して行う授業」であるが，毎回の授業に設問と回答の章を設定し，受講生の理解の確認を随時行う。<b>なお，本科目の履修に際しては，本科目と同時に若しくは先行して，意匠法「要論」（スクーリング授業）を受講すること。</b>フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントし返却します。</p>					
到達目標	<p>「意匠法要論」にて学ぶ意匠法の重要論点に関し，具体的な事件である審決・判例の学習を通じ特許庁審判部及び裁判所の考え方を理解し，重要論点ごとに特許庁審判部及び裁判所の考え方を解説し批判することができる。</p>					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	講義終了後，または知的財産学研究科掲示板システムを使用して実施します。					
学修の進め方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メディアの配信後，まずはその回のメディア授業を，通しで閲覧ください。</li> <li>2. 1.の学修後，二回目のメディア閲覧に際し，メディア講義が取り上げた裁判例の論点を，適宜該当する条文及び逐条解説並び裁判所の意見を精読し理解を深めてください。特に，裁判所の意見をしっかりと理解するよう努め下さい。なお，判例百選の解説者の意見は，必ずしも読む必要はありません。</li> <li>3. 上記1及び2の修了後，課題に取り組んでください。課題回答に際しては，出題の意図(題意)をしっかりと把握してください。</li> </ol>					
教員メールアドレス	知的財産学研究科掲示板システムを利用すること。					

## メディア学修計画

1.	意匠の構成要件としての文字と色彩
2.	意匠法上の一物品，物品の形状のみの意匠との類否判断
3.	意匠的工夫に限度がある意匠の新規性，意匠法第3条第1項第3号と意匠法第3条第2項の関係
4.	意匠の類否判断，特に意匠法第24条第2項の制定趣旨と形態の類否判断
5.	意匠の利用関係（意匠法26条）
6.	意匠に係る物品の類似
7.	完成品に対する物品の意匠権の効力
8.	部分意匠と全体意匠の類否判断
9.	間接侵害（38条）
10.	不法行為法（民法709条）と意匠権侵害における損害賠償請求の規定の関係，部分意匠権侵害における損害額の算定方法
11.	意匠出願における補正，意匠出願の分割，意匠出願の変更
12.	新規性（意匠法3条1項1号）と新規性喪失の例外規定（意匠法4条）
13.	拒絶理由に引用した先行意匠が不明確な場合の構成の認定，及び，創作非容易性（意匠法3条2項）
14.	審理手続違反と審決の取消
15.	意匠登録を受ける権利の侵害，意匠公報未発行と過失の推定（意匠法40条）及び先使用权（意匠法29条）
16.	科目単位認定試験

※：メディア授業の再収録に伴い，上記計画の内容が変更され，若しくは，配信順序が前後することがあります。ご了承ください。



科目名	商標法特論	担当教員	森 寿 夫	開講年次	授業形態	単位数
				1年	M科目	2単位
テ ー マ	重要判例を通して見る商標法の諸問題					
使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『別冊ジュリスト188号 商標・意匠・不正競争判例百選』有斐閣 中山信弘著 2007年</li> <li>・『知的財産権法文集』（最新のもの。出版社は不問）</li> <li>・『工業所有権法（産業財産権法）逐条解説』発明協会（最新のもの）</li> </ul>					
講義概要・一般目標	<p>本講義では、とくに商標登録要件、商標及び商品・役務の類似、出願・審査等に関連する商標法における重要判例を学ぶ。判例研究を行う前提として、関連する商標法の規定内容や趣旨等の詳細を確認し、商標法の理解をさらに深める。判例研究の中では、問題の所在を明らかにし、判例、学説の内容を正確に把握する。</p> <p>本講義はインターネット等の通信回線を通じて受講する「メディアを利用して行う授業」であり、毎回の講義の実施に当たって設問解答や質疑応答を設定している。受講方法の詳細は別途通知する。</p>					
到達目標	<p>主要な商標登録要件の趣旨と内容、各規定相互間の関係、商標及び商品・役務の類似概念について、法目的との関係において説明できる。</p>					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	講義終了後、または知的財産学研究科掲示板システムを使用して実施。					
学 修 の 進 め 方	<p>各回の講義中において説明した関係条文には必ず逐次目を通すこと。</p> <p>毎回のレポート課題は講義テーマの応用的問題や関係する問題を設定しているので、提出回答に対するコメントも必ず検討するようにしてください。</p> <p>判決理由中の具体的表現を良く理解していただきたいので、時間的に可能であれば、検討する判決例の原文（裁判所HPより検索可）や審決例（J-PlatPat 特許情報プラットフォームより検索可）に当たってもらいたい。</p> <p>フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを付し返却する。</p>					
教 員 メールアドレス	知的財産学研究科掲示板システムを利用すること。					

## メディア学修計画

1. ノベルティと商標法上の商品
2. 普通名称
3. 産地表示
4. 立体商標
5. 使用による識別力の取得
6. 公序良俗を害するおそれがある商標
7. 他人の氏名・名称を含む商標
8. 他人の氏名・名称等を含む商標／需要者の間に広く認識されている商標
9. 混同を生じるおそれがある商標
10. 不正の目的をもって使用する商標
11. 商標の類否判断
12. 結合商標の類否判断
13. 著名なフランチャイズチェーンの略称との類否
14. 商品の類否判断基準／役務の類似
15. 出願人名義変更届に関する救済手段／拒絶審決取消訴訟中の出願分割と原出願の補正
16. 科目単位認定試験

科目名	特許法専門特論	担当教員	田上 洋平	開講年次	授業形態	単位数
				1年	S科目	2単位
テーマ	この講義では、要論で理解した特許法の体系が、実際の事案でどのように発現しているかを研究し、未知の事例に対して自分なりの分析ができることを目標とする。					
使用するテキスト	『特許判例百選（第5版）』 有斐閣 小泉直樹・田村善之編 2019年 『標準 特許法（第7版）』 有斐閣 高林龍著 2020年					
講義概要・一般目標	特許法専門特論では、特許・実用新案法要論Ⅰ，Ⅱで理解した特許法の法体系や制度趣旨を、具体的な裁判例を通じてより深く研究する。具体的には、裁判例を取り上げて、当該事案において、当事者によって争われた争点、裁判所の判断、関連する学説を研究し、当該事件において、かかる判断がどのような価値判断・制度趣旨の理解から導かれたかを学び、特許法の本質を理解し、頻繁に起こる諸問題の解決能力を学ぶ。					
到達目標	具体的事案を分析し、争点抽出能力・法的思考力を身につけ、自らの考え方に基いて法的解釈を展開できるようにする。					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	講義終了後、または知的財産学研究科掲示板システムを使用して実施します。					
学修の進め方	スクーリング実施前に、スクーリング学修計画に記載している教科書の関連部分を参照し、授業内容の概要を把握した上で受講する。講義では、講義の内容や関連事項について説明を求めたり、既に学習済みの関連事項に関する質問や制度等に関する自己の見解を公表してもらう。院生が理解していない部分については、他の院生に補足説明を求めたり、補足事項の講義をすることにより、理解を深めていく。 最終スクーリングで講義全体に対するフィードバックを行う。					
教員メールアドレス	知的財産学研究科掲示板システムを利用すること。					

## スクーリング学修計画

1.	裁判例の読み方と、判決の構成及び請求の趣旨・文言侵害について（特許判例百選第5版1～4事件）
2.	文言侵害，均等侵害（同5～9事件）
3.	均等侵害・間接侵害（同10～15事件）
4.	間接侵害・無効論（同16～19事件）
5.	無効論，試験研究の抗弁，消尽の抗弁（同20～22事件）
6.	消尽の抗弁（同23～25事件）
7.	並行輸入，先使用の抗弁（同26～29事件）
8.	権利濫用の抗弁，延長登録（同30～32事件）
9.	差止請求，特許法102条1項（同33～37事件）
10.	特許法102条2項（同38～40事件）
11.	特許法102条3項，侵害者複数（同41～44事件）
12.	文書提出命令，秘密保持命令、国境を越えた特許権侵害（同45～48事件）
13.	自然法則の利用，発明の完成（同49～52事件）
14.	反復可能性，ソフトウェア・ビジネス関連発明（同53～55事件）
15.	産業上の利用可能性，新規性・進歩性（同56～65事件）
16.	科目単位認定試験

科目名	意匠法専門特論	担当教員	生駒正文	開講年次	授業形態	単位数
				2年	M科目	2単位
テーマ	意匠法及び周辺部分の特殊課題の研究					
使用するテキスト	『意匠・デザインの法律相談』 青林書院 小松陽一郎・小谷悦司編 2006年 『意匠権侵害－理論と実際－』 経済産業調査会 牛木理一著 2003年 『知的財産法実務シリーズ3新版 意匠法』 中央経済社 末吉互著 2008年 『意匠法』 有斐閣 茶園成樹編 2014年 『牛木理一先生古稀記念論文集刊行会編・意匠法及び周辺法の現代的課題』 発明協会 2005年					
講義概要・一般目標	<p>意匠・デザインの保護法制，意匠権の効力が及ぶ範囲，実施権，意匠権の消尽，意匠権の侵害とその救済などのテーマについて，判例を取り上げながら意匠法及びその周辺法に関する諸問題の理解を深め，ライセンス契約，企業における意匠の保護及び管理等の実務対応能力をさらに高める。</p> <p>また，本授業はインターネット等の通信回線を通じて受講する「メディアを利用して行う授業」であり，毎回の授業の実施に当たって設問回答や質疑応答を設定している。</p>					
到達目標	我が国の意匠法によって保護を受けることができる意匠とは，改正法2条1項による物品，又は不動産等に表されたデザインとされている。したがって，その周辺法に関する諸問題の理解の関係を深め，ライセンス契約，企業の意匠管理（判例を含む）等の応用力を高め，裁判例等から，解決の根拠となる一定のルールを抽出し，妥当な解決を見出しうる能力，かつ事前に紛争が起こらないようにする予防措置を主導出来る能力を目標とする。					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	知的財産学研究科掲示板システムを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>意匠法は基本的にはデザインの創作保護であっても，デザインのブランド化現象により需要を喚起する機能も果たすことから，いろいろな知的財産権法と関係している。ということは，意匠法は知的財産法のすべてに影響しあっている法分野である。そのため，意匠法の特殊な研究をすることはすべての知的財産法に通ずることになる。メディア授業の1回から15回までは基本的な特殊内容を取り上げているが，わからないところがあれば，必ず質問すること。</p> <p>フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返します。</p>					
教員メールアドレス	知的財産学研究科専用掲示板システムを利用すること。					

## メディア学修計画

1. 意匠・デザインの保護法制
2. 企業等における意匠・デザインの保護及び管理, 職務意匠の取り扱い
3. デザインの保護
4. 意匠権の効力が及ぶ範囲 (新規性を欠如した登録意匠の範囲)
5. 意匠権の効力の制限
6. 先使用权
7. 独占的通常実施権
8. 意匠権侵害に対する救済
9. 意匠権侵害訴訟の審理の特徴と 注意点について
10. 意匠権侵害訴訟における意匠権の権利範囲の及ぶ範囲
11. 意匠権侵害の判断基準—各国における比較法
12. 応用美術の保護における著作権法と意匠法の限界領域
13. 意匠権の消尽・意匠権と並行輸入
14. デザイン・意匠のライセンス契約
15. 欧州, 米国, 中国におけるデザイン・意匠の保護法制
16. 科目単位認定試験

科目名	商標法専門特論	担当教員	森 寿 夫	開講年次	授業形態	単位数
				2年	M科目	2単位
テ ー マ	重要判例を通して見る商標法の諸問題					
使用するテキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『別冊ジュリスト188号 商標・意匠・不正競争判例百選』有斐閣 中山信弘著 2007年</li> <li>・『知的財産権法文集』（最新のもの。出版社は不問）</li> <li>・『工業所有権法（産業財産権法）逐条解説』発明協会（最新のもの）</li> </ul>					
講義概要・一般目標	<p>本講義では、とくに「商標権の侵害」、「商標権の侵害に対する救済」、「審判」に関する重要判例を学ぶ。侵害成否や権利者の民事的救済、侵害とされた者側の抗弁主張などを通して商標法上の諸問題に対する理解を深める。</p> <p>本講義はインターネット等の通信回線を通じて受講する「メディアを利用して行う授業」であり、毎回の講義の実施に当たって設問回答や質疑応答を設定している。受講方法の詳細は別途通知する。</p>					
到達目標	<p>商標権の侵害とは、どのような場合に成立するのかを正しく理解し、商標権者側と、侵害とされた者側、それぞれの立場からどのような主張できるか説明できる。</p>					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	知的財産学研究科掲示板システムを使用して実施。					
学修の進め方	<p>各回の講義中において説明した関係条文には必ず逐次目を通すこと。</p> <p>毎回のレポート課題は講義テーマの応用的問題や関係する問題を設定しているので、提出回答に対するコメントも必ず検討するようにしてください。</p> <p>判決理由中の具体的表現を良く理解していただきたいので、時間的に可能であれば、検討する判決例の原文（裁判所HPより検索可）や審決例（J-PlatPat 特許情報プラットフォームより検索可）に当たってもらいたい。</p> <p>フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを付し返却する。</p>					
教 員 メールアドレス	知的財産学研究科専用掲示板システムを利用すること。					

## メディア学修計画

1. 商標権の侵害 一般論と商標的使用（1）
2. 商標的使用（2）
3. 商標的使用（3）
4. 商標的使用（4）
5. 商標的使用（5）
6. 商標権侵害に対する抗弁（商標法26条）
7. 商標権侵害に対する抗弁（権利行使の制限）
8. 商標権侵害に対する抗弁（権利濫用）
9. 商標権侵害に対する抗弁（並行輸入）
10. 商標権侵害に対する救済（損害賠償請求権）
11. 商標権侵害に対する救済（使用権者の救済）
12. 無効審判
13. 不使用取消審判（1）
14. 不使用取消審判（2）
15. 本講義の総まとめ（論点整理）
16. 科目単位認定試験



科目名	国際条約Ⅱ	担当教員	神野直美	開講年次	授業形態	単位数
				2年	M科目	2単位
テーマ	特許協力条約（PCT）及びマドリッド協定議定書（マドプロ）					
使用するテキスト	『国際特許出願マニュアル』＜第2版＞活用の実務 中央経済社 奥田百合著 2013年 『図解特許協力条約』第5版 発明協会 荒木好文著 2014年 『図解マドリッドプロトコル』改定版 発明協会 荒木好文著 2009年					
講義概要・一般目標	<p>本科目は、工業所有権に関する条約に関する科目に該当する科目として必要単位に含めている科目であり、知的財産権に関する条約、具体的には特許協力条約（PCT）・マドリッド協定議定書（マドプロ）について、条約の趣旨・成立の経緯、条文の解釈およびわが国の知財法との対応を習得させることを目的としている。</p> <p>毎回の授業の実施に当たって設問を設定し回答を求めている。なお、受講方法の詳細は別途通知する。</p> <p>学修者は、特許権に関する重要な国際条約である特許協力条約（PCT）及び商標権に関する重要な国際条約であるマドリッド協定議定書（マドプロ）について、条約の趣旨・条文の解釈、主要な制度の内容、及び権利取得のために必要な手続の内容を学び、理解することを目標とする。</p> <p>本授業は通信回線を通じて受講する「メディアを利用して行う授業」であり、毎回の授業の実施に当たって設定している設問に、回答することにより、上記の内容についての理解を深めるとともに理解の程度を確認する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 特許協力条約（PCT）及びマドリッド協定議定書（マドプロ）の趣旨を理解する。</li> <li>2) 特許協力条約（PCT）及びマドリッド協定議定書（マドプロ）に基づき多数国での権利の取得に必要な手続の流れ、及び利点、問題点を理解する。</li> <li>3) 特許協力条約（PCT）及びマドリッド協定議定書（マドプロ）に基づき多数国での権利の取得の手続を、効率よく実行するために必要な基礎知識を習得する。</li> </ol>					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	知的財産学研究科掲示板システムを使用して実施する。 適宜、神野及び受講者のメールアドレス間の送受信により質問、その回答、連絡等を行う。					
学修の進め方	<p>（メディア学修計画に記載されている）15回の講義は順次配信されるが、各回の講義毎に、eラーニングにて受講後、設定している設問に回答する。回答に対してはコメントが送信されるが、コメントで指摘された事項がある場合は、テキスト等で確認し、不明点等があれば質問等をする。又、不十分な回答については、再提出が求められるので、コメント、テキスト等を参考に再度回答を作成し提出すること。</p> <p>フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを付し返却する。科目修了試験（単位認定試験）では、特許協力条約（PCT）及びマドリッド協定議定書（マドプロ）のそれぞれについて、講義で述べられた基本的な事項を習得しているか確認する。</p>					
教員メールアドレス	神野のメールアドレス：njino@dojimapat.jp					

メディア学修計画

1. 特許協力条約の概要
2. 国際出願 (1)
3. 国際出願 (2)
4. 国際出願 (3)
5. 国際調査, 国際予備審査 (1)
6. 国際予備審査 (2)・国際公開
7. PCT 概要
8. マドリッド協定議定書 マドリッド協定議定書の沿革
9. マドリッド協定議定書 国際出願 (1)
10. マドリッド協定議定書 国際出願 (2)
11. マドリッド協定議定書 国際出願 (3), 国際登録の効果, 事後指定
12. マドリッド協定議定書 国際登録の従属性, 移転, 更新
13. マドリッド協定議定書 国内登録の代替, 管理関連規定等
14. マドリッド協定議定書 マドリッド協定議定書についての復習
15. 総復習
16. 科目単位認定試験

科目名	国際条約Ⅲ	担当教員	生駒正文	開講年次	授業形態	単位数
				2年	M科目	2単位
テーマ	産業財産権関係条約が抱える課題やその未来像を検討					
使用するテキスト	メディア授業の中で、パワーポイントで掲載					
講義概要・一般目標	<p>本科目は、『国際条約Ⅰ』および『国際条約Ⅱ』で学修した内容を前提に、主要な各条約の原則、改正、紛争事例を詳細に学び、それらの制度が抱える課題を検討し、現代の国際社会が要求する産業財産権関係条約の未来像を考える講義である。</p> <p>本授業はインターネット等の通信回線を通じて受講する「メディアを利用して行う授業」であり、毎回の授業の実施に当たって設問回答や質疑応答を設定している。なお、受講方法の詳細は別途通知する。</p>					
到達目標	国際条約Ⅰと国際条約Ⅱで学修した内容を前提に産業財産権関係条約が抱える課題やその未来像を検証できる能力の人材養成を目標とする。					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	講義終了後、または知的財産学研究科掲示板システムを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>各条約制度が抱える課題、規定問題を検討し、現代の国際社会が要求する産業財産権関係条約の未来像を考える講義であるため、メディア授業の1回から15回の各内容に書かれている基本を理解することが必要である。質問があれば掲示板システムで行うこと。</p> <p>フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを付し返却する。</p>					
教員メールアドレス	知的財産学研究科掲示板システムを利用すること。					

## メディア学修計画

1. 南北問題・途上国における知的財産保護
2. パリ条約6条や6条の5に規定する外国登録商標の独立性に関する問題
3. 権利独立の原則と属地主義の相違について
4. 地理的表示を保護する国際的な条約と国内法制の保護・わが国の最近判例
5. パリ条約の実体規定の解釈に関し、国家間の争いがあった場合の紛争処理
6. TRIPS協定の基本原則とその背景とインパクト
7. TRIPS協定とパリ条約との関係
8. わが国はTRIPS協定とWTO体制をどう生かすか等
9. TRIPS協定改定議定書について
10. 国際出願における優先権の主張とわが国の特許法の取扱いについて
11. 我国国民がPCTによる国際出願を利用するとどのような利点があるか
12. PCTのもたらす効果
13. マドリッド協定議定書の全体概要と利用における課題
14. 国際登録の取消後の再出願について
15. 各条約の原則，改正，紛争事例についての総括
16. 科目単位認定試験

科目名	特許・商標侵害訴訟論	担当教員	田上洋平	開講年次	授業形態	単位数
				1年	T科目	2単位
テーマ	この講義では、特許侵害訴訟及び商標権侵害訴訟における訴状及び答弁書等の記載方法、法律上の争点の発現について、具体的な事例を通して理解することを目的とする。					
使用するテキスト	『改訂4版 シミュレーション特許侵害訴訟』 経済産業調査会 伊原 友己・岩坪 哲・久世 勝之・井上 裕史著 2015年 『特許判例百選（第5版）』 有斐閣小泉直樹・田村善之編 2019年 『標準 特許法（第7版）』 有斐閣 高林龍著 2020年					
講義概要・一般目標	現実の民事訴訟手続に従い、特許及び商標権侵害訴訟の実際について説明するとともに、訴状、答弁書等における記載事項、要件事実等についての説明を行い、訴訟手続に関与する上で最低限必要な知識の習得を目標とする。					
到達目標	特許及び商標権侵害訴訟において、訴状等の書面の作成が可能となることを目的とする。					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	知的財産学研究科掲示板システムを使用して実施します。					
学修の進め方	テキストを熟読の上、特許法、商標法が侵害訴訟においてどのように反映されているのか、また、法的三段論法を意識しながら、現実の訴訟の流れ、仕組みを理解しながら、この点を意識して学修を進めていくことが要求される。 侵害訴訟の地裁の判決を、一件は参考までに通読しておくことが望ましい。 フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを付し返却する。					
教員メールアドレス	知的財産学研究科掲示板システムを利用すること。					

課 題 内 容

第 1 回	レポ ー ト 課 題	特許権侵害差止請求及び商標権侵害差止請求の要件事実について論ぜよ。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	条文に沿って丁寧に論述することが要求される。
	参 考 文 献	指定テキスト
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年6月30日（水） 【事前受付締切：5月30日（日）迄】
第 2 回	レポ ー ト 課 題	損害賠償請求の要件事実について，民法による不法行為，特許法102条1～3項及び同法103条，商標法38条1～3項及び同法39条において準用する特許法103条に基づく場合についてそれぞれ論ぜよ。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	条文に沿って丁寧に論述することが要求される。
	参 考 文 献	指定テキスト
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年9月30日（木） 【事前受付締切：8月30日（月）迄】
第 3 回	レポ ー ト 課 題	無効の抗弁（特許法104条の3第1項）の要件事実について，特許法123条1項2号、同法29条2項に基づく無効の主張と，同法123条1項4号、同法36条6項1号に基づく無効の主張の場合それぞれについて論ぜよ。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	進歩性の主張立証責任に関する裁判例、サポート要件違反の主張立証責任に関する裁判例を参考に、それぞれの主張についての主張立証責任を意識すること。
	参 考 文 献	指定テキスト
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年12月10日（金） 【事前受付締切：11月10日（水）迄】
提 出 方 法		web学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。

科 目 名	企業活動と著作権（インターネット法）	担当教員	生 駒 正 文	開 講 年 次	授 業 形 態	単 位 数
				1 年	T 科 目	2 単 位
テ ー マ	企業活動における職務著作と著作物利用					
使 用 す る テ キ ス ト	半田正夫『著作権法概説』一粒社 中山信弘『著作権法第2版』有斐閣（補助教材）					
講義概要・ 一 般 目 標	<p>著作権法は、著作者の利益保護を第一義としながらも、著作者・著作物利用者・一般公衆三者間の利害の調整を公正に処理されている。著作権法は、著作権、著作者人格権、出版権、著作隣接権をはじめ、著作権から派生する複製権、上演権、公衆送信権等々、多くの権利が介在し、それらの権利が複数にからみあっている領域である。これらの権利相互の関係を明らかにすることが、著作権法の全面的理解につながる。一つの著作物について、著作者の権利、出版者の権利、実演家の権利が重複して存在することになり、このことが著作権法の理解を複雑にしている。さらに著作者の権利についても、著作者人格権（譲渡不可）と著作財産権（譲渡可能）という異なる権利が重複して有するという、産業財産権と異なる点も存在する。</p>					
到 達 目 標	<p>業種を問わず各企業で日常に生じる内部資料等が作成された場合には、著作権法上、誰が権利を有するのか処理できるようにする。また企業活動のための著作物利用について、どのような利用が著作権法上許され、あるいは許されないのかを理解できるようにする。</p>					
評 価 方 法	科目修了試験により評価。					
オフィスマワー	知的財産学研究科掲示板システムを使用して実施します。					
学 修 の 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 著作権の意義</li> <li>2. 著作物の概念</li> <li>3. 著作物の種類</li> <li>4. 著作者</li> <li>5. 著作者の権利</li> <li>6. 著作権の保護期間</li> <li>7. 著作隣接権</li> <li>8. 著作物の利用と制限</li> <li>9. 登録制度</li> <li>10. 権利侵害と救済</li> </ol> <p>フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを付し返却する。</p>					
教 員 メーアドレ	知的財産学研究科掲示板システムを利用すること。					

## 課 題 内 容

第 1 回	レポ ー ト 課 題	岡山市内にあるH会社は、ある調査資料を作ることを決め、社員Iにその著作を命じた。当然その資料は会社の内部資料であるから、H会社は公表しない場合の権利関係はどうなるか。また派遣労働者Jにその著作を命じた場合はどうなるか。前提としては、①ある調査資料が著作物であること、②著作時の契約等には別段の定めがないことで、論じる。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	1. 著作者の定義，職務著作の意義・4要件・効果 2. 公表しない調査資料である内部資料の場合 3. 派遣労働者が著作する場合
	参 考 文 献	中山信弘『著作権法第2版』有斐閣，半田正夫『著作権法概説』一粒社 生駒・久々湊『著作権法要論』マスターリンク，島並・上野・横山『著作権法入門』有斐閣
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年6月30日（水） 【事前受付締切：5月30日（日）迄】
第 2 回	レポ ー ト 課 題	岡山市内にあるH会社は、3Dプリンターの最新技術を使ってある立体物を製作した場合に、著作権法上などでの注意点はどのようであるか、説明せよ。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	1. 権利者の許諾なく立体物を再現する場合，知的財産権侵害の可能性を検討 2. 立体物が単純な形体の場合 3. 例外－著作権法35条を検討 4. 立体物が意匠権・商標権の場合も，上記1. 2. 3. を簡単に説明
	参 考 文 献	中山信弘『著作権法第2版』有斐閣，半田正夫『著作権法概説』一粒社 生駒・久々湊『著作権法要論』マスターリンク，島並・上野・横山『著作権法入門』有斐閣
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年9月30日（木） 【事前受付締切：8月30日（月）迄】
第 3 回	レポ ー ト 課 題	岡山市内に本社がある外食産業のH会社は、自社のウェブサイトを開設し、その中に他人が創作した絵画，イラスト，写真があり，各著作権者から承諾を得た上で掲載している。開設後，2年経ったため，ウェブサイトを更新するに際して，前記承諾を得ていた絵画，イラスト，写真を一部改変（パロディ化）してウェブサイトに掲載しようと思っているが，著作者から再度承諾が必要か，また承諾なき場合はどのようにすればよいのかのべよ。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	1. 著作者の権利 2. 著作者の同一性保持権 3. 許される範囲の改変行為とパロディ事件（最判55.3.28判例時報967号45頁）
	参 考 文 献	中山信弘『著作権法第2版』有斐閣，半田正夫『著作権法概説』一粒社 生駒・久々湊『著作権法要論』マスターリンク，島並・上野・横山『著作権法入門』有斐閣，青山紘一『著作権法（事例・判例）』経済産業調査会
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年12月10日（金） 【事前受付締切：11月10日（水）迄】
提 出 方 法		web学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。



科目名	ライセンス契約	担当教員	土肥 一史 生駒 正文	開講年次	授業形態	単位数
				2年	T科目	2単位
テーマ	近年様々な分野で行われている「ライセンスビジネス」には、多様な態様があるが、この講義では、特許ライセンス、商標ライセンス及び著作権ライセンスの基礎と応用を学修する。					
使用するテキスト	吉川達夫・森下賢樹・飯田幸司「ライセンス契約のすべて [基礎編] 改訂版 (改正民法対応)」 第一法規 参考図書：金井高志「民法でみる知的財産法[第2版]」日本評論社 その他、他の講義で使用されている特許法、商標法、著作権法等の教科書					
講義概要・一般目標	ライセンス契約は知的財産法と民法・契約法とが交錯し、その重畳する法律問題を扱うのがこの講義である。ライセンス契約の対象となるのは、主として特許、デザイン、商標あるいはソフトウェア等の著作物が考えられるが、これらは特別法によって排他的独占権が与えられている可能性があり、その独占権の効力としてこれらの対象物を利用できる場合と、契約の効力によりこれらを利用できる場合を正確に理解することが本講義の目標である。					
到達目標	<p>専用実施権、独占的通常実施権及び通常実施権の発生、効力そして消滅における特則を理解し、特許ライセンス契約と商標ライセンス契約における「設定行為で定めた範囲内」とはどのようなものが考えられるのかを説明できる。</p> <p>種々の秘密保持義務契約の実務上のポイントとこの契約の有効性とその限界を理解している。キャラクターライセンスにおける著作権法上の留意点を説明することができる。</p>					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	知的財産学研究科掲示板システムを使用して実施します。					
学修の進め方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 特許権、商標権の効力について学修する。</li> <li>2 特許権、商標権の効力と民法の定める契約の効力の異同を学修する。</li> <li>3 特許ライセンス契約と商標ライセンス契約のひながたを参照し、どのような事項が定められているのか学修する。</li> <li>4 共同研究契約における主たる法律関係、従たる法律関係を学修する。</li> <li>5 秘密保持義務契約における主たる法律関係、従たる法律関係を学修する。</li> <li>6 キャラクター開発における留意点を検討する。</li> <li>7 キャラクターをライセンスする際の留意点を検討する。</li> <li>8 フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを付し返却する。</li> </ol>					
教員メールアドレス	<p>第1回、第2回担当：土肥 一史 知的財産学研究科専用掲示板システムを利用すること。</p> <p>第3回担当：生駒 正文 &lt;masafumi-ikoma@zeus.eonet.ne.jp&gt;</p> <p>知的財産学研究科専用掲示板システムを利用すること。</p>					

## 課 題 内 容

第 1 回	レポ ー ト 課 題	特許の利用許諾と商標の使用許諾を内容とするライセンス契約において実務上留意すべき点をあげなさい。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	通常実施（使用）権，独占的通常実施（使用）権及び専用実施（使用）権のそれぞれについて発生と効力に留意し，どのような事項が「設定行為で定めた範囲内」に属するのか，そうでないかを説明すること。
	参 考 文 献	本講義のテキスト 特許法及び商標法の講義で指定されているテキスト
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年6月30日（水） 【事前受付締切：5月30日（日）迄】
第 2 回	レポ ー ト 課 題	A社とB社がP部品の共同研究開発を計画している。その際，A・B両社はそれぞれの有する重要な技術情報の開示が必要となると考えている。A社の知財部員であるあなたは，この共同研究開発契約において，そして上記技術情報に関するB社との秘密保持義務契約の締結において，A社の利益を確保するために留意すべき点をあげなさい。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	AB両社がP部品の共同研究開発に有益などのような情報を持ち出すことになるのか，そしてP部品の開発が可能となった場合，P部品の権利関係をどのようにしておくべきかを想定する。そして，P部品に関する営業秘密について秘密保持義務契約を締結する際，最低限度おさえておくべきことを考える。
	参 考 文 献	本講義のテキスト 経済産業省「秘密情報ハンドブック－企業価値向上に向けて－」平成28年2月 ( <a href="https://www.meti.go.jp/policy/economy/chizai/chiteki/shiryohai fu.html">https://www.meti.go.jp/policy/economy/chizai/chiteki/shiryohai fu.html</a> ) で入手できます（送料自己負担）。
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年9月30日（木） 【事前受付締切：8月30日（月）迄】
第 3 回	レポ ー ト 課 題	キャラクター等のライセンス契約で明確にしておきたい事項にはどのようなものがあるか説明せよ。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	1. 対象となるキャラクターや肖像の特定，2. ライセンサーの許諾権限とその範囲の確認，3. ライセンシーの使用権限の確認，4. 利用条件，5. ライセンサーがライセンシーに要求できる事項，6. ライセンシーがライセンサーに要求できる事項，7. 国際契約に多く見られる条項，8. その他等，
	参 考 文 献	大阪弁護士会知的財産法実務法研究会『知的財産契約の理論と実務』（商事法務）著作権法の専門書等
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年12月10日（金） 【事前受付締切：11月10日（水）迄】
提 出 方 法	web学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。	

科目名	営業秘密管理・活用策	担当教員	土 肥 一 史	開講年次	授業形態	単位数
				2年	T科目	2単位
テ ー マ	営業秘密の秘密管理性の要件を理解し、営業秘密に関する民事上及び刑事上の責任を踏まえた上で、営業秘密の保護と利活用を図るための実務上の要点を学修する。					
使用するテキスト	五十嵐・波多野・佐藤・海野編著「Q & A 営業秘密をめぐる実務論点」中央経済社					
講義概要・一般目標	<p>1. 学修のねらい 不正競争防止法における営業秘密に関する法制定及びその改正は、平成2年以降数次にわたり行われてきたが、これらの改正の背景と改正内容を理解し、その上で営業秘密の秘密管理性についての裁判上の考え方を踏まえ、事業者の有する営業秘密を適切に管理し、活用するための実務に有用な諸方策を学修する。</p> <p>2. 履修者への連絡 テキストを持っていない者は、4月末までに、私まで連絡してください。送料（レターパック料金：520円）のみでお渡します。</p> <p>3. 参考図書 経済産業省知的財産政策室「逐条解説不正競争防止法[第2版]」商事法務参考図書 土肥一史「知的財産法入門[第16版]」中央経済社 経済産業省知的財産政策室「秘密情報の保護ハンドブックの手引き」 <a href="http://www.meti.go.jp/press/2016/12/20161205001/20161205001.html">http://www.meti.go.jp/press/2016/12/20161205001/20161205001.html</a>で取得可能</p>					
到達目標	<p>企業等においてその保有する営業秘密を適切に管理することができること。</p> <p>取引先あるいは研究機関等との間で行われる営業秘密が関連する取引契約あるいは研究開発契約において遺漏なく推進できること。</p> <p>退職従業員との間で秘密保持義務契約及び競業避止義務契約を適切に締結できること。</p>					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	知的財産学研究科掲示板システムを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>① まず、不正競争防止法の営業秘密関係規定を精読する。</p> <p>② 差止請求の主体に関する要件と、損害賠償請求の救済規定を理解する。</p> <p>③ その際、テキストや参考書の関係説明部分を参照する。</p> <p>④ 関係する裁判事例は最高裁HP等でできるだけ調査確認しておく。</p> <p>⑤ レポート作成に当たっては、設題が求めているところを的確に把握する。</p> <p>⑥ 執筆の際、テキストや参考書の関係部分を機械的に引用するのではなく、設題に対する自身の考えるところを表現するように努める。</p> <p>⑦ 最後に、誤字脱字などないように、作成後内容を精査してください。</p> <p>⑧ フィードバックとして、提出された課題レポートにコメントを付し返却する。</p>					
教員メールアドレス	知的財産学研究科掲示板システムを利用すること。					

## 課 題 内 容

第 1 回	レポ ー ト 課 題	営業秘密の帰属と秘密管理性
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	秘密管理性についての裁判上の理解と、不正競争防止法2条1項7号の「事業者から示された場合において」と本源的保有者の関係を、顧客情報の場合と技術情報の場合を分けて検討する。
	参 考 文 献	テキストと参考文献
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年6月30日（水） 【事前受付締切：5月30日（日）迄】
第 2 回	レポ ー ト 課 題	秘密保持義務契約の留意点
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	秘密保持義務契約が締結されるいくつかのステージ（入社時、在職中、退社時、委託研究時、共同開発時などのステージ）において、留意しておくべき事項を検討する。
	参 考 文 献	テキストと参考文献
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年9月30日（木） 【事前受付締切：8月30日（月）迄】
第 3 回	レポ ー ト 課 題	営業秘密と裁判制度
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	営業秘密の価値の根源である秘密性と、わが国の裁判制度が予定している裁判の公開との関係を、民事裁判と刑事裁判に分けて、営業秘密の保有者の利益と相手方（含む、被告人）の利益のバランスに留意しつつ検討する。
	参 考 文 献	テキストと参考文献
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年12月10日（金） 【事前受付締切：11月10日（水）迄】
提 出 方 法		web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。

科目名	特許等出願（明細書見方）・管理実務論	担当教員	森 寿 夫	開講年次	授業形態	単位数
				2年	T科目	2単位
テ ー マ	特許出願に要する各書類の役割と出願内容・権利範囲の解釈についての理解，さらに企業における知的財産の管理の概要を学ぶ。					
使用するテキスト	(1)『新版 特許出願実務のエッセンス』清文社 黒田泰著 (2)『知的財産 管理&戦略ハンドブック 第2版』発明協会 杉光一成・加藤浩一郎編著					
講義概要・一般目標	<p>特許出願は，発明（技術的アイデア）を権利化するための法的手続であるが，現実には「まったくの新発明」というものは滅多にない。換言すれば，特許出願とは，関連する先行発明（先行技術）を意識しながら，発明の本質を掘り下げて把握し，先行発明との違いを明確化し，それを審査官に対してアピールする，という「プレゼンテーション」である。</p> <p>本講義では，とくに企業活動に有効な権利取得のためのクレーム作成，又は，競業他社の特許権を回避するためのクレーム解釈についてのポイントを学ぶ。</p>					
到達目標	<p>完成した発明につき特許権を取得するか否かを判断する際のポイントを説明できる。</p> <p>特許要件における産業上の利用性，新規性，進歩性の概念を説明できる。</p> <p>特許権の権利範囲がどのように定められるか，また出願書類の記載如何によって権利範囲に広狭が生じることを説明できる。</p> <p>企業活動における自他の特許出願手続や特許権の権利範囲解釈に関する注意点を概略説明できる。</p>					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	知的財産学研究科掲示板システムを使用して実施。					
学修の進め方	<p>テキスト(1)については，とくに明細書・特許請求の範囲及び図面の各役割と，特許請求の範囲の考え方，拒絶理由の種類を意識したうえで，明細書及び特許請求の範囲を作成する場合の具体的注意事項を理解すること。審査基準については概要を理解する程度でよい。</p> <p>テキスト(2)については，技術分野を問わず，企業一般に求められる特許管理に関する知識を，出願前，出願後，権利化後，事業段階等のステージごとに理解すること。</p> <p>フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを付し返却する。</p>					
教員メールアドレス	知的財産学研究科掲示板システムを利用すること。					

課題内容		
第1回	レポート課題	企業内において発明が完成した場合、これを特許出願すべきか否かを決定するために検討すべき事項を列挙して、それぞれ可能な限り具体的に説明して下さい。
	レポート作成のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発明の把握と分析</li> <li>・特許性の判断</li> <li>・出願の必要性（知的財産戦略）</li> </ul>
	参考文献	特許行政年次報告書2020年版 第1部「知的財産権をめぐる動向」 ( <a href="https://www.jpo.go.jp/resources/report/nenji/2020/index.html">https://www.jpo.go.jp/resources/report/nenji/2020/index.html</a> )
	レポート提出期限	2021年6月30日（水） 【事前受付締切：5月30日（日）迄】
第2回	レポート課題	「広くて強い特許権」とは何か？ また、「広くて強い特許権」を取得するためのクレーム及び明細書作成の留意点について、可能な限り具体的に説明して下さい。
	レポート作成のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上位概念化，実施との関係</li> <li>・請求項の立て方</li> <li>・特許法36条</li> </ul>
	参考文献	指定テキスト（とくに(1)）
	レポート提出期限	2021年9月30日（木） 【事前受付締切：8月30日（月）迄】
第3回	レポート課題	企業の知的財産管理に関し，事業段階における事業管理として重要と考えられる事項を列挙し説明しなさい。
	レポート作成のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査</li> <li>・他社近似技術への対応</li> </ul>
	参考文献	指定テキスト（とくに(2)）
	レポート提出期限	2021年12月10日（金） 【事前受付締切：11月10日（水）迄】
提出方法		web学修支援システムを利用し，教務部 通信教育事務課へ提出する。 なお、文字数については厳密に指定しないが、4000文字が一応の目安である。 これより多くても少なくてもよい。

科目名	知的財産評価論	担当教員	谷口 由記	開講年次	授業形態	単位数
				2年	T科目	2単位
テーマ	知的財産権の評価					
使用するテキスト	『入門 知的資産の価値評価』東洋経済新報社 『知的資産の会計』古賀智敏著, 千倉書房					
講義概要・一般目標	<p><b>【講義概要】</b> 知的財産権は無体物であって、その価値評価について絶対的な手法は存在しない。特許について言えば、技術開発、特許出願、特許権の譲渡、ライセンス、M&amp;A等の場面で、それを資産として適正に評価する必要がある、企業等が知財戦略を展開するうえで知的財産権の評価は重要なファクターとなっている。本講座では、知的財産（特許権、技術、ブランド等）の価値評価について、その評価方法等を学修する。</p> <p><b>【一般目標】</b> 知的財産権の各種権利及び各種評価手法の優劣を研究することにより、その評価を必要とする場面に応じた有効な評価手法を学習し、習得することができる。</p>					
到達目標	知的財産権の評価を求められた場合に、その知的財産権の種類と評価を必要とする場面に応じた最も有効な手法を活用して、適正な評価を行うことができる。					
評価方法	科目修了試験により評価。					
オフィスアワー	知的財産学研究科掲示板システムを使用して実施します。					
学修の進め方	<p>第1段階 知的財産評価手法の代表的な3手法をマスターする。</p> <p>第2段階 上記手法の長所と短所をマスターする。</p> <p>第3段階 特許と商標（ブランド）の評価の特徴をマスターする。</p> <p>第4段階 企業において知的財産評価が問題となる各場面での評価をマスターする。</p>					
教員メールアドレス	ytani@yacht.ocn.ne.jp 知的財産学研究科専用掲示板システムを利用すること。					

課 題 内 容

第 1 回	レポ ー ト 課 題	知的財産の評価手法について論ぜよ。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	3種の評価手法（アプローチ）を対比検討して論じること。 3000字程度でまとめること。
	参 考 文 献	テキスト
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年6月30日（水） 【事前受付締切：5月30日（日）迄】
第 2 回	レポ ー ト 課 題	特許権の評価手法について論ぜよ。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	3000字程度でまとめること。
	参 考 文 献	テキスト
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年9月30日（木） 【事前受付締切：8月30日（月）迄】
第 3 回	レポ ー ト 課 題	ブランド価値の評価について論ぜよ。
	レポ ー ト 作 成 の ポ イ ン ト	3000字程度でまとめること。
	参 考 文 献	テキスト
	レポ ー ト 提 出 期 限	2021年12月10日（金） 【事前受付締切：11月10日（水）迄】
提 出 方 法	web学修支援システムを利用し、教務部 通信教育事務課へ提出する。	



科目名	特別研究	担当教員	知的財産学研究科 専任教員	開講年次	授業形態	単位数
				1～2年	TS科目	6単位
テーマ	「民法を含めた知的財産関連法域」に関する自主的な研究テーマから、知的財産の創造・保護の領域、経営・経済的な活用の領域についての提案のできる考察					
使用するテキスト	各研究指導教員が指示					
講義概要・一般目標	<p>前年度指導を受けた研究活動及び論文作成方針などに係る指導・助言をもとに自ら研究計画に修正を加え、その問題点・論点についての学説・判例の概要及び争点（学説の対立）を明らかにしなければならない。</p> <p>夏期スクーリング時（特別研究）には中間発表，冬期スクーリング時（特別研究）には最終的な研究成果を発表し，総合的な評価を行う。</p>					
到達目標	<p>「民法を含めた知的財産関連法域」に関する自主的な研究テーマを中心に、「①序論—論文のねらい，又そのテーマを選択した動機，さらに論文の概要を予め示すことなど，②本論—個々の具体的問題・論点を構成，③結論—問題提供の事項について，自分の見解を要約」にいたる論理的な修士論文の作成能力と主査，副査はじめ各教員の「中間発表」での指導・助言をもとに，修士論文評価基準にかなう研究論文の作成を目指す。2年間の研究活動などを通し，知的財産法，民法などの法の全体像を把握し，個々の活きた法的理論を整理し，把握することができる能力，②裁判例など事例から，解決の根拠となる一定のルールを抽出し，妥当な解決を見出しうる能力，かつ事前に紛争が起こらないようにする予防措置を主導できる能力，③先行技術調査を的確に行う能力，市場調査における技術動向・水準を把握できる能力，研究開発テーマを提供できる能力，④知的財産の観点から，経営分析・経営戦略ができる能力などを育成し，知財立国のニーズに対応しうる人材の養成を果たす。</p>					
評価方法	研究へ取り組む姿勢および発表会の内容で評価する。					
オフィスアワー	講義終了後，または知的財産学研究科掲示板システムを使用して実施します。					
学修の進め方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 修士論文計画書の提出</li> <li>2. 修士論文第1回仮提出—修士論文の中間発表会（2年次の9月頃）の出席にあたって，所定の期限までに，発表会資料用のレジюмеとともに，修士論文の全文を通信教育事務課に仮提出する必要がある。</li> <li>3. 第2回仮提出—中間発表会終了後，第1回仮提出に係る修士論文を修正したものを，通信教育事務課に再度，仮提出する。中間発表会で受けたコメント等を踏まえた上で修正されているかを評価する。</li> <li>4. 修士論文の最終提出—所定の12月頃に通信教育事務課に提出する。</li> <li>5. 修士論文の発表・評価—発表会に先だって主査及び副査が査読を行う。その結果に基づいて主査が発表会での発表の許否を決定する。そして発表会における発表・口頭試問により評価し，研究科専任教員の合議を経て最終の合否判定が行われる。</li> </ol>					
教員メールアドレス	知的財産学研究科掲示板システムを利用すること。					

# スクーリング学修計画

2年次

1.

2.

3.

(夏期スクーリング)

4.

前年度指導を受けた研究活動及び論文作成方針などに係る指導・助言

5.

・教員との面談（修士論文指導）

6.

・修士論文中間発表

7.

8.

9.

10.

11.

(冬期スクーリング)

12.

研究成果の発表

13.

・教員との面談（修士論文指導）

14.

・修士論文発表・口頭試問

15.

16.